

アホナ



総大会特集号



十二使徒定員会

(前列左から)ボイド・K・パッカー 会長代理, L・トム・ペリー 長老, ラッセル・M・ネルソン 長老, ダリン・H・オークス 長老, M・ラッセル・バラード 長老, ジョセフ・B・ワースリン 長老。
(後列左から)リチャード・G・スコット 長老, ロバート・D・ヘイルズ 長老, ジェフリー・R・ホランド 長老, デイター・F・ウーグトドルフ 長老, デビッド・A・ペドナー 長老, クエンティン・L・クック 長老

リアホナ

●土曜午前の部会

- 4 教会役員の支持
ゴードン・B・ヒンクレー大管長
- 6 教会の弱い者や純朴な者
十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・バックー会長
- 9 ともに堪え忍ぶ
管理ビショップリック第一顧問
リチャード・C・エッジリービショップ
- 11 家庭と家族を強める
中央若い女性会会長第二顧問
メアリー・N・クック
- 14 なぜ、唯一まことの教会の会員なのでしょう
七十人 エンリケ・R・アラバラ長老
- 16 尊く、大いなる約束を求める
七十人 スペンサー・J・コンディー長老
- 18 喜んでよい理由はないだろうか
十二使徒定員会
ディーター・F・ワークトドルフ長老
- 21 パットン夫人——その物語の続き
大管長第一顧問 トーマス・S・モンソン管長

●土曜午後の部会

- 25 信仰、家族、概要、実
十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老
- 28 いちばん大切な戒め
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン長老
- 31 打ち砕かれた心と悔いる霊
七十人 ブルース・D・ポーター長老
- 33 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』——
会員と宣教師をつなぐ道具
七十人 エリック・W・コピシュカ長老
- 35 小さなことから
七十人 マイケル・J・テー長老
- 37 内なる人を生かす御霊を消してはいけない
七十人 キース・K・ヒルビグ長老
- 40 唯一のまことの神と、その神がつかわされた
イエス・キリスト
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド長老
- 43 聖文の証
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老

●神権部会

- 46 バーを上げる
十二使徒定員会 L・トム・ベリー長老
- 49 今、実行しなさい
七十人 ドナルド・L・ホールストロム長老
- 51 心の清い人々は皆、幸いである
七十人 L・ホイットニー・クレイトン長老
- 53 今がその時です
七十人 ウォルター・F・ゴンサレス長老

- 55 神は忠実な神権者を助けてくださる
大管長第二顧問
ヘンリー・B・アイリング管長
- 59 王国の神権者
大管長第一顧問 トーマス・S・モンソン管長
- 62 怒りをおそくする
ゴードン・B・ヒンクレー大管長

●日曜午前の部会

- 66 記憶にとどめ、覚えておきなさい
大管長第二顧問
ヘンリー・B・アイリング管長
- 70 恐れではなく、信仰によって生きる
十二使徒定員会 クエンティン・L・クック長老
- 73 今日できることを明日に延ばさない
七十人 会長
クラウディオ・R・M・コスタ長老
- 76 真理を知る母親
中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック
- 78 小さな、簡単なこと
七十人
クリストフェル・ゴールデン・ジュニア長老
- 80 手が清く、心のいさぎよい者
十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー長老
- 83 山から切り出された石
ゴードン・B・ヒンクレー大管長

●日曜午後の部会

- 86 個人の啓示——預言者たちの教えと模範
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老
- 90 真理——正しい決断の基
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老
- 93 神の善い言葉で養う
中央日曜学校会会長第一顧問
ダニエル・K・ジャッド

- 95 神の神殿に神性の力が現れる
七十人 オクタビア・テノリオ長老
- 98 わたしたちが最善を尽くした後
七十人 クラウディオ・D・シビック長老
- 100 わたしたちが知っている事柄を認識する
七十人 ダグラス・L・カリスター長老
- 102 奉仕
七十人 会長 スティーブン・E・スノー長老
- 104 良いこと、より良いこと、最も良いこと
十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老
- 108 閉会に当たり
ゴードン・B・ヒンクレー大管長

●中央扶助協会集会

- 109 末日聖徒の女性が秀でている事柄——
力強く確固として立つ
中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック
- 113 「わたしの羊を養いなさい」
中央扶助協会会長第一顧問
シルビア・H・オールレッド
- 115 わたしはあなたを強くし、あなたを助ける
中央扶助協会会長第二顧問
バーバラ・トンブソン
- 118 あなたを導く3つの目標
大管長第一顧問 トーマス・S・モンソン管長

- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部
- 122 変わる力
ジェームズ・E・ファウスト管長
(1920-2007年)
- 125 チャーチ・ニュース
- 128 中央補助組織会会長





大会の音楽

土曜午前の部会

“Press Forward, Saints.” *Hymns*, 81番; 「いにしへの聖徒の」『賛美歌』42番, ロングハースト編曲, ソノス刊; “Come unto Him,” *Hymns*, 114番; 「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番; “Where Can I Turn for Peace?” *Hymns*, 129番, ウィルバーク編曲, 未刊; 「救い主, われ信ず」『賛美歌』72番, ウィルバーク編曲, 未刊

土曜午後の部会

「来たれ, 喜べや」『賛美歌』8番, アンスワース編曲, 未刊; 「麗しき朝よ」『賛美歌』18番, ケーセン編曲, ジャックマン刊; 「恐れず来たれ, 聖徒」『賛美歌』17番; “Oh, May My Soul Commune with Thee.” *Hymns*, 123番, ダルトン編曲, プラム刊

神権部会

「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番; “Sweet Is the Peace the Gospel Brings,” *Hymns*, 14番, スターリー編曲, 未刊; 「山の上に」『賛美歌』2番; “We Ever Pray for Thee,” *Hymns*, 23番, ケーセン編曲, 未刊

日曜午前の部会

「導きたまえよ」『賛美歌』41番; “O Thou Kind and Gracious Father,” *Hymns*, 150番; 「子供のいのり」『子供の歌集』6, ベリー編曲, ジャックマン刊; 「神の子です」『賛美歌』189番; “God So Loved the World,” *The Choirbook*, 28, IRI刊; 「主のみ言葉は」『賛美歌』46番, ウィルバーク編曲, 未刊

日曜午後の部会

「み空に麗し」『賛美歌』27番, ウィルバーク編曲, 未刊; “Our Prayer to Thee,” パリー作曲, ラッセル・M・ネルソン作詞, ウィルバーク編曲, 未刊(ソリスト: スコット・ミラー); 「感謝を神に捧

げん」『賛美歌』11番; 「わかれにまた」『賛美歌』88番, ウィルバーク編曲, 未刊

中央扶助協会集会

「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番; 「天よりの声聞け」『賛美歌』166番, ウェッブ編曲, 未刊; 「山の上に」『賛美歌』2番, ウェッブ編曲(ソプラノ部分), 未刊; 「主は光」『賛美歌』47番, ケーセン編曲, ジャックマン刊

総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したものは, <http://www.lds.org> にアクセスすれば, 多くの言語で聞くことができます。CDとDVDは, 通常, 教会管理本部配送センターから大会後2か月以内に入手できるようになっています。

インターネット上での大会説教

インターネットにより, 多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。——<http://www.lds.org> にアクセスし, “Gospel Library”; “General Conference”の順にクリックし, 言語を選択してください。(訳注——日本語版の総大会号を閲覧するには, <http://www.ldschurch.jp> にアクセスし, 「教会員の方へ」[ライブラリー][リアホナ]の順にクリックしてください。)

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては, 訪問する会員の必要に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

表紙——

写真/クレグ・ダイヤモンド

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。クレグ・ダイヤモンド, ウェルデ

ン・C・アンダーセン, ジョン・ルーカ, マシュー・ライアー, クリステイーナ・スミス, レス・ニルソン, スコット・デービス, ロッド・ボーム, エミリー・リーシュマン, ジェフリー・マカリスター, マーク・ワインバーク, コーディー・ベル, カミラ・コムズ。インド——メリンダ・カトラー。カナダ——ローラン・ルクイス。デンマーク——リサ・アルス・クレイン, アン・マリ・アルス・リンドバーク。西インド諸島——デビッド・フーソン。ブラジル——ラウレニ・フォシェット。ペルー——ライアン・ブラウン。南アフリカ——ロブ・ミルン。メキシコ——レイナルド・マルティネス。

総大会での教えと, それに基づく学習

今大会の「わたしたちの時代のための教え」に関する指示, 「アロン神権者および若い女性用リソースガイド」[大会で話された実話や物語の索引]は, <http://www.lds.org> にアクセスすれば, インターネット上で閲覧することができます。<http://www.lds.org> にアクセスし, “Gospel Library”, “General Conference”の順にクリックし, 言語を選択してください。次に, 最新の大会をクリックしてください。(訳注——日本語版の総大会号を閲覧するには, <http://www.ldschurch.jp> にアクセスし, 「教会員の方へ」[ライブラリー][リアホナ]の順にクリックしてください。)

「わたしたちの時代のための教え」の予定

第4日曜日のレッスン教材

2007年11月-2008年4月——『リアホナ』2007年11月号掲載の説教*

2008年5月-2008年10月——『リアホナ』2008年5月号掲載の説教*

*ステーク会長および地方部会長は, レッスンに用いる説教を指定することができます。または, この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。

索引

実話や物語

メアリー・N・クック姉妹の兄から
家族に向けて書かれた手紙、
……11
ステーキ大会で何を話すべきか
お父さんに教えた6歳の息子、
……14
教会員ではないある女性に向
けて語られた、復活に関する
総大会の説教、……21
病弱な妻のつめにマニキュアを
塗る男性、……28
お酒をやめ、福音を受け入れた
「フレッドおじさん」、……35
L・トム・ベリー長老は、高飛びの
選手だった息子に、バーを上
げるよう励ました、……46
家族の人気レシビを紹介する宿
題を後回しにした少年、……49
カリブ海で見た、魚を獲るわな、
……51
ヘンリー・B・アイリング管長が
合衆国の様々な教会の指導者
や聖職者に話した、……55
オリンピック出場を決めるレース
の途中で片方の靴が脱げた
走者、……59
海中にある新鮮な水を見つける
トンガの人々、……70
スタンの家を訪問し、活発化を
助けたホームティーチャー、……78
新聞記者がハロルド・B・リー大管
長に、いちばん最近啓示を受
けたのはいつか訪ねた、……86
穀物の入ったかごを振って、馬
を捕まえる、……93
おじいちゃんに教会に来るよう
にと頼む孫たち、……95
オクタビオ・テノリオ長老は、最
初の子供を亡くした、……95
ヒーバー・J・グラント大管長は若い
ころ、自分に強い証があること
に気づいていなかった、……100
「証に気づく瞬間」を経験した宣
教師、……100
死の床で、もっと奉仕したかった
と語った母親、……102
一粒の飴玉を友人と分かち合っ
た少年、……102
この夏いちばんの思い出は、お
父さんと一緒に星を眺めたこ
とだと語った息子、……104
家庭訪問を通して友人を得た
姉妹、……113
トーマス・S・モンソン管長に娘の
祝福を求めた女性、……118
隣の家に住む子供の世話をし
てあげた女性、……118

テーマ別索引

あ 愛 ……9, 28, 70, 73
証 ……14, 78, 83, 98, 100
贖い ……40, 80
哀れみ ……28, 35, 102
イエス・キリスト ……21, 40, 115
怒り ……62
祈り ……55, 59, 86, 118
教える ……73, 76, 93, 104
か 会員であること ……18
改宗・改心 ……78, 100
回復 ……40, 83
確信 ……55
家族 ……11, 25, 33, 73, 76, 95,
104, 109, 115
家庭の夕べ ……108
家庭訪問 ……113
感謝 ……31, 66
義 ……53
犠牲 ……31
教育 ……118
教会機関誌 ……108
教会の発展 ……83
教義 ……25
清さ ……51, 80
聖め ……78
悔い改め ……31, 49, 80, 98
啓示 ……86, 90
決意 ……37
結婚 ……62
子供たち ……76, 115
さ 死 ……21
慈愛 ……28
実行する ……55
指導する責任 ……6, 55
自由 ……98
従順 ……16
祝福 ……66
証人 ……43, 100
試練 ……9, 53
神会 ……40
人格 ……90
神権 ……14, 55, 59
信仰 ……16, 25, 59, 70, 109
神殿 ……11, 14, 37, 95
信頼 ……93
真理 ……90
聖書 ……43
聖文 ……43, 118
聖約 ……16
聖霊 ……37, 55, 66, 93
総大会 ……108
備え ……46, 49, 53, 86
た 堪え忍ぶ ……9, 18, 98
伝道活動 ……33, 35, 46, 70
な 慰め ……95
日記 ……66
は 母親の務め ……76, 109, 115
引き延ばし ……49

標準 ……46
福音 ……18
ふさわしさ ……46
扶助協会 ……109
復活 ……21
平等 ……6
奉仕 ……6, 9, 35, 53, 102, 109,
113, 118
ボルノグラフィ ……51
ま 模範 ……11, 25
モルモン書 ……43, 78
や 約束 ……16
友情 ……113
優先順位 ……104
誘惑 ……51
喜び ……18
5 離婚 ……62
わ 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』33
話者リスト(50音順)
アイリング、ヘンリー・B、…55, 66
ウークトドルフ、データー・F、…18
エッジリー、リチャード・C、…9
オークス、ダリン・H、…104
オールレッド、シルビア・H、…113
カリスター、ダグラス・L、…100
クック、クエンティン・L、…70
クック、メアリー・N、…11
クレートン、L・ホイットニー、…51
ゴールデン、クリストフェル、
ジュニア、…78
コスタ、クラウディオ・R・M、…73
コビシュカ、エリック・W、…33
ゴンサレス、ウォルター・F、…53
コンディー、スペンサー・J、…16
シビック、クラウディオ・D、…98
ジャッド、ダニエル・K、…93
スコット、リチャード・G、…90
スノー、ステイブン・E、…102
テー、マイケル・J、…35
テノリオ、オクタビオ、…95
トンプソン、バーバラ、…115
ネルソン、ラッセル・M、…43
バック、ボイド・K、…6
バラード、M・ラッセル、…25
ヒルビッグ、キース・K、…37
ヒンクレイ、ゴードン・B、
…4, 62, 83, 108
ファラベラ、エンリケ・R、…14
ヘイルズ、ロバート・D、…86
ベック、ジュリー・B、…76, 109
ベドナー、デビッド・A、…80
ベリー、L・トム、…46
ポーター、ブルース・D、…31
ホルストロム、ドナルド・L、…49
ホランド、ジェフリー・R、…40
モンソン、トーマス・S、
…21, 59, 118
ワースリン、ジョセフ・B、…28

リアホナ 2007年11月号

第9巻第11号(00791 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長:ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、
ヘンリー・B・アイリング
十二使徒定員会:ボイド・K・バック、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、
ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・
D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、データー・F・ウークト
ドルフ、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック
編集長:ジェイ・E・ジョンソン
顧問:ゲアリー・J・コールマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダ
グラス・シャムウェー
実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニコト
編集ディレクター:ピクター・D・ケープ
主任編集者:ラリー・ヒラー
グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク
編集主幹:R・バル・ジョンソン
編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド
副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン
編集補佐:スザン・ハレルト
編集スタッフ:クリスティー・パンス、リンド・ステル・クーパー、デビッ
ド・A・エドワーズ、ラリー・ポーター、ガント、キャリー・カステン、
ジェニファー・マディー、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・
J・オデカー、ジュディス・M・パーラー、ビビアン・ポールセン、ジョ
シュア・J・パーキー、キンプリ・リード、リチャード・M・ロムニー、ド
ン・L・サール、ジャネット・トーマス、ポール・バナンデンバーグ、ジュリー・
ワール
主任秘書:ローレル・トイスチャー
マーケティング部長:ラリー・ヒラー
実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ
アートディレクター:スコット・バン・カンペン
制作主幹:ジェン・アン・ピーターズ
デザイン/制作スタッフ:カリ・R・アロヨ、コレット・ネベカー・オーヌ、ハ
ワード・G・ブラウン、ジュリー・バーデット、トーマス・S・チャイルド、レジ
ナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョンセ
ン、デニス・カービー、キニー・J・ニルソン、ランドール・J・ビクストン
印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック
配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン
日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●[リアホナ]のお申し込み/配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キ
リスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール:liahona@ldschurch.org

[リアホナ] (モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、
以下の言語で出版されています。
アイスランド語 アルバニア語 アルメニア語 イタリア語 インドネシア語 ウク
ライナ語 ウルドゥー語 英語 エストニア語 オランダ語 韓国語 カンボジア
語 ギリシャ語 キリバス語 クロアチア語 サモア語 シンハラ語 スウェー
デン語 スペイン語 スロベニア語 セブア語 タイ語 タガログ語 タヒチ語
タミル語 中国語 チェコ語 テルグ語 デンマーク語 ドイツ語 トンガ語 日本
語 ノルウェー語 ハイチ語 ハンガリー語 ビスマラ語 ヒンディー語 フィー
ジー語 フィンランド語 フランス語 フルガリア語 ベトナム語 ポーランド語
ポルトガル語 マラヤラム語 マダガスカル語 モンゴル語 ラトビア語 リトア
ニア語 ルーマニア語 ロシア語。(発行頻度は言語により異なります)
©2007 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本
[リアホナ]に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい
て臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。
視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている
場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。
[リアホナ]は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で
掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をク
リックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:
November 2007 no. 11 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-
4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day
Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription
price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals
Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of
address. Include address label from a recent issue; old and new address must
be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution
Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit
card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.
(Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)
POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

教会役員の支持

ゴードン・B・ヒンクレー大管長



これから教会の中央幹部、地域七十人、ならびに中央補助組織会長会の名前を提議しますので、賛意の表明をお願いします。その前に、大管長会の第二顧問を務めたジェームズ・E・ファウスト管長の最近の訃報について触れておきます。ファウスト管長は、実に有能な兄弟であり、偉大な信仰と力量を備え、教会の集会のために大いに貢献しました。ファウスト管長がいないことを寂しく思います。最愛の伴侶であるルース姉妹をはじめ、遺族の方々に哀悼の意を表します。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持して下さるよう、また、大管長会第一顧問としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを支持して下さるよう提議します。賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ディーター・F・ウークトドルフ、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クックを支持して下さるよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

大管長会顧問、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議します。

賛成の方は皆、その意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

わたしたちは、チャールズ・ディディエ、メリル・J・ベイトマン、ロバート・C・オークス、クエンティン・L・クックの各長老を七十人会長会から解任します。また、メリル・J・ベイトマン、モンティ・J・ブラフ、ジーン・R・クック、ロバート・K・デレンバック、W・ロルフ・カーの各長老を七十人第一定員会から解任し、名誉中央幹部に任命します。

賛成して下さる方は、その意を表してください。

カー長老は教会教育システムの教育委員長として引き続き奉仕します。

また、わたしたちは、D・レックス・ジェ



レット、ロバート・F・オートン、ウェイン・S・ピーターソン、R・コンラッド・シュルツ、H・ロス・ワークマンの各長老を七十人第二定員会から解任します。

この兄弟たちに感謝の意を示して下さる方は、手を挙げてください。



大会の部会前のひととき、楽しみに言葉を交わす指導者たち。(奥から手前に)クエンティン・L・クック長老、デビッド・A・ベドナー長老、
ディーター・F・ウークトドルフ長老、ジェフリー・R・ホランド長老、トーマス・S・モンソン管長、
ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ヘンリー・B・アイリング管長。

わたしたちは、クラウディオ・R・M・コスタ、スティーブン・E・スノー、ウォルター・F・ゴンサレスの各長老を、七十人会長会の会員として支持するよう提議いたします。賛成の方は皆、その意を表してください。反対の方。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現状のまま支持してくださるよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。
反対の方がいれば、その意を表してください。

提議は、全員一致で賛成の表明が得られたようです。兄弟姉妹、皆さんの変わらぬ信仰と祈りに感謝します。では、アイリング管長と、クック長老、ゴンサレス長老は、それぞれの席にお座りください。

教会の 弱い者や純朴な者

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー会長

主が、ある会員をほかの会員より尊ばれることはありません。



ジェームズ・E・ファウスト管長に敬意を表します。ファウスト管長がこの場にいないことをさびしく思います。今朝この部会に参加している、愛する夫人のルース姉妹にわたしたちの愛をお伝えします。また、ヒンクレー大管長から発表された責任に新しく召された方々を歓迎します。

今日皆さんから支持を受けたすべての人を代表して、わたしたちに寄せられた信頼にこたえられるよう最善を尽くすことを心から約束します。

わたしたちは、厳粛で神聖な手順に基づいて、教会の中央役員を支持しました。これは、指導者や教師がその職に召され、または解任される時、あるいはステークやワード、定員会や補助組織が再組織さ

れるときに必ず用いる手順です(教義と聖約124:123, 144参照。教義と聖約20:65-67; 26:2も参照)。これは末日聖徒イエス・キリスト教会に特有のものです。

わたしたちはいつも、指導し、教える業にだれが召されるかを知らされ、その人を支持するか、あるいは反対するかを表明する機会を与えられます。この方法は、人によって考え出されたのではなく、啓示によって示されました。「だれか権能を持つ者によって聖任され、そして権能を持っていること、教会の長たちによって正式に聖任されたことが教会員に知られないかぎり、だれもわたしの福音を宣べ伝えるために出て行くこと、あるいはわたしの教会を築き上げることは許されない。」(教義と聖約42:11, 強調付加) これによって、教会は、定員会やワード、ステーク、あるいは教会全体を支配しようとする偽り者から守られているのです。

主の教会に特有の原則がもう一つあります。教え、導くあらゆる責任を果たしているのが、教会の会員だということです。これについても聖文の中に示されています。教義と聖約の中のある節によって、現在も今後も有効な、教会の指導者に関する秩序が確立されました。これは過去の歴史で例のないことです。ほかのキリスト教の教会には、過去にも現在にもこのような慣行は存在しません。

「主なるわたしは、地に住む者に下る災いを知っているのです、わたしの僕ジョセ

フ・スミス・ジュニアを訪れ、彼に天から語り、戒めを与えた。……

世の弱い者たちが出て来て、力ある強い者たちを打ち破る。……

すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語るため、

信仰もまた地に増すため、

わたしの永遠の聖約が確立されるため、

わたしの完全な福音が弱い者や純朴な者によって世界の果てまで、また王や統治者の前に宣べられるためである。

見よ、わたしは神であり、わたしがこれを語った。これらの戒めはわたしから出ており、わたしの僕たちに、彼らの弱さのあるままに、彼らの言葉に倣って与えられた。それは、彼らが理解できるようにするためである。」(教義と聖約1:17, 19-24)

わたしは、主が「世の弱い者たち」を使われるというこの聖句に深く感謝しています。

教会員はそれぞれ、奉仕の召しを受け入れる責任があります。

J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は言いました。「主に仕えるに当たって大切なのは、どこで奉仕するかではなくどのように奉仕するかです。末日聖徒イエス・キリスト教会において、人は正当に召されるべき職を受けます。いかなる人もその職を求めるべきではなく、また断るべきではありません。」(「み旨のまま行かん」『リアホナ』2002年11月号, 68で引用) この教会に職業聖職者はいません。世界のどこにおいても、指導する責任に召される人は会員の中から選ばれます。職業としての指導者を訓練する神学校もありません。

教会で行われるすべての業、すなわち導くこと、教えること、召すこと、聖任すること、祈ること、歌うこと、聖餐を準備すること、助言をすること、そのほかあらゆる事柄が、「世の弱い者」である普通の会員によって行われています。

ほかのキリスト教会は、聖職者を探すのに苦労しているようです。しかし、わたしたちにそのような問題はありません。ひとたび福音が宣べ伝えられ、教会が組織されたなら、証を持ち、奉仕の召しに喜んでこたえる忠実な兄弟姉妹は尽きることがないのです。彼らは主の業に自らをささ



げ、求められる標準に従って生活します。

会員はバプテスマを受けた後、聖霊が授けられます(教義と聖約33:15;35:6参照)。聖霊は会員たちを教え、慰めをお与えになります。すると彼らは、責任や必要とされることが何であれ、導きと指導を受ける備え、また過ちを正される備えができるのです(ヨハネ14:26;教義と聖約50:14;52:9;75:10参照)。

この原則において、わたしたちの教会は世界のすべてのキリスト教の教会と一線を画しています。この教会は、世界中のあらゆる国民、部族、国語の民、民族の中から数限りない教師や指導者を召すことができるという、非常にまれな状況にあります。会員は平等であり、それはこの教会独特のもので、だれも、自分はほかの人よりも価値があると考えてはなりません(教義と聖約38:24-25参照)。「神は人をかたよりみないかたで、神を敬い義を行う者はどの国民でも受け入れて下さる……。」(使徒10:34-35。ローマ2:11;教義と聖約1:35;38:16も参照)

若いころ、ある大変高齢の姉妹のホームティーチャーだったことがあります。彼女は自身の経験から大切なことを教えて

くれました。

彼女が幼かったとき、ブリガム・ヤング大管長がブリガム・シティを訪れました。彼の名前を取って名付けられたこの町にとっては一大行事となりました。大管長に敬意を表すために、初等協会の子供たちは全員白い服を身に着け、町に入る道路に沿って並び、大管長の馬車が進むのに合わせて花を投げるため、花かごを持って待っていました。

ところが、何か気が障った彼女は「大管長だってわたしのラブランドおじいちゃんより少しも立派なわけじゃないわ」と言って、花を投げずに馬車の前に石をかけたそうです。その言葉がだれかの耳に入り、彼女はひどくしかられました。

この幼いジェニー・ステードの言葉を聞いて真っ先にうなずくのは、ブリガム・ヤング大管長に違いないとわたしは確信しています。大管長は、自分がラブランドおじいさんやほかの忠実な教会員よりも偉いと思うことは決してなかったでしょう。

主御自身は、とても簡潔にこう言われました。「あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。」(マタイ20:27)「神から聖任され、遣わさ

れる者は、最も小さい者であってすべての者の僕であるにもかかわらず、最も大なる者となるように任命されているのである。」(教義と聖約50:26)

何年も前に、ある責任を受け、初めてわたしの写真が新聞に載ったときに、高校時代の先生が非常に驚いてこのように言っていたことを人から聞きました。「外見だけじゃ、カエルはどれほど高く跳ぶかは分からないということだね。」

跳び上がらずに泥の中でじっとしているカエルの姿は、与えられた責任を前にして、自分の力不足を痛感していたわたしと重なるものがあります。

そのような気持ちになった経験があれば、自分がほかの人より勝っているなどと考えることはありません。そのようには決して思わないのです。

それからもう一つ、長い時間をかけて理解したことがあります。46年前、37歳だったわたしはセミナーのスーパーバイザーをしていました。所属していたリンドンワードでは、教師補佐の召しを受けていました。

そんなわたしが、デビッド・O・マッケイ大管長に会うようにと言われたときにはほ



部会の開会を待ちながら談笑するクエンティン・L・クック長老(左)、デビッド・A・ベドナー長老(中央)、ディーター・F・ウークトルフ長老。

んと驚いてしまいました。大管長はわたしの両手を取り、わたしを十二使徒定員会補助として中央幹部に召しました。

数日後、教会の中央幹部として大管長会から任命を受けるため、ソルトレーク・シティーに行きました。当時、デビッド・O・マッケイ大管長の二人の顧問はヒュー・B・ブラウン管長とヘンリー・D・モイル管長でしたが、大管長会全員と会うのは初めてのことでした。

マッケイ大管長はわたしに、十二使徒定員会とともに特別な証人となり、イエスがキリストであられることを証することが十二使徒補助の責任の一つだと説明してくれました。わたしは次の言葉に圧倒されてしまいました。「任命する前に、あなたの証を聞かせてください。あなたにそのような証があるかどうかを知りたいのです。」

わたしは精いっぱい証をしました。それは自分のワードの断食証会であるような証と変わりませんでした。すると驚いたことに、大管長会の兄弟たちは満足そうな様子で、そのままわたしをその職に聖任しました。

わたしは考え込んでしまいました。このような職に召される人は、特別な、普通の会員とは違った、驚くほど強い証と霊的な力を持っていなければならないと考えていたからです。

それから長い時間がたち、ようやくこのなぞが解けました。わたしは、その職に召されるための必要条件をあの時点で満たしていたのです。求められていたのは、預言者ジョセフ・スミスを通して完全な福

音が回復されたこと、また天の御父が生きておられ、イエス・キリストがわたしたちの贖いの主であられるということに対する変わる事のない証でした。完全に理解していたわけではありませんでしたが、あのとき確かにわたしには証があり、喜んで学ぼうとしていました。

そのときのわたしは恐らく、モルモン書に登場する次の人々と何ら違っていません。「打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来る者に、わたしはレーマン人に授けたように、火と聖霊によってバプテスマを授けよう。レーマン人は改心したときにわたしを信じたので、火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった。」(3ニーファイ9:20, 強調付加)

これまでの長い年月をかけて、わたしは飾りけのない純朴な証がいかに大切かが分かるようになってきました。また天の御父がわたしたちの霊の御父であられることが理解できるようになりました。(民数16:22;ヘブル:12:9;教義と聖約93:29参照) 御父は、父親としての優しい愛のすべてを持っておられます。イエスは言われました。「父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それは、あなたがたがわたしを愛したため、また、わたしが神のみもとからきたことを信じたためである。」(ヨハネ16:27)

以前、わたしはマリオン・G・ロムニー管長とともに、スイスのジュネーブで開かれた伝道部会長夫妻との集会に出席しました。ロムニー管長は、そのときから50年前

に若い宣教師としてオーストラリアで伝道していたときの経験を話しました。ある日の夕方近く、勉強するために図書館に行きました。外に出るともう暗くなっていました。夜空の星を見上げたとき、それは起こりました。御霊が心に触れ、管長の中に確かな証が生まれたのです。

それからロムニー管長は伝道部会長たちに向かい、50年前にオーストラリアで伝道していたときに知っていたこと、つまり、父なる神が生きておられ、イエスがキリストであり、神の御子であり、父なる神の独り子であられること、そして完全な福音が回復されたことに関する知識は、その後大管長会の一員として持っている知識と何ら変わりがないと話しました。証の中で変わったことといえば、主から答えを受けることがはるかに容易になったということだったそうです。50年前より主をさらに身近に感じ、また主をよりよく知ることができるようになったと話していました。

わたしたちは生来、管理する責任に支持される人々を見ると、彼らは教会の中で、あるいはその家族にとって、普通の会員よりも高い地位にあり、より価値のある存在だと考える傾向があります。不思議なことに、彼らのほうが自分よりも主にとって価値があると感じてしまうのです。しかし、決してそうではありません。

もし我が家の子供のうちの一人でも「父と母は、家庭でも教会でも、自分のことをわたしたち子供よりも上だと思っている」もしくは「あの責任は、ほかの責任よりも尊重されている」「この責任は大して重要ではない」などと思っているなら、それはわたしたち夫婦にとって非常に残念なことです。

最近、息子の一人がワード伝道主任に召されました。召しを受けてどんなに喜んでいるかを義理の娘が話してくれました。それくらいの意気込みがあれば伝道主任という多忙な責任を果たすことができるでしょう。息子には伝道の精神があります。伝道中から磨き続けてきたスペイン語を大いに使うこともできるでしょう。わたしたち夫婦も息子の召しを心から喜びました。

息子夫婦にとって教会やこの世で行う

ともに堪え忍ぶ

管理ビショップリック第一顧問

リチャード・C・エッジリービショップ

ワードはきわめて大きな試練や悲しい出来事に直面している人々の必要を満たすために組織されています。

どんなことよりも貴い業は、彼らの幼い子供たちのためにしていることです。息子夫婦が行う主への奉仕の中で、互いに自らをささげ、また幼い子供たちに尽くすことよりも重要なものはありません。教会で行う事柄の究極の目的は、家庭と家族を強めることなのです。

教会の中央幹部であるわたしたちは皆さんとまったく同じであり、皆さんもわたしたちとまったく同じです。皆さんは、家族や仕事、受けている召しに関して、わたしたちと同じように啓示の力を受けることができます。

また、教会に関する事柄には秩序があるのも事実です。皆さんがある責任に召されるとき、その責任に関する啓示を受けるのは皆さんであり、ほかの人ではありません。

主が、ある会員をほかの会員より尊ばれることはありません。決してそのようなことはないのです。主は御父、すなわちわたしたちの御父であられることを覚えてください。主は「人をかたよりみないかた」なのです。

わたしは世界中を旅する中で、トンガのスクアロファのトゥオタイ・パレトゥア兄弟と奥さん、チリのサンティアゴのカルロス・C・シフエンテス兄弟と奥さん、オランダのピーター・ダレバウト兄弟と奥さん、日本の佐藤龍猪兄弟と奥さん、そのほか数多くの人たちに会いました。発展する主の業において、わたしはこの人たちよりも偉いわけではありません。決してそのようなことはないのです。

教会は成長を続けます。ごく普通の家族の中で、普通の生活を送る立派な会員が、聖霊と、内に宿るキリストの光に導かれながらこの教会を発展させているのです。

福音が真実であることを証します。人の価値、すなわちすべての人の価値が神の目に大いなるものであること、またこの教会の会員であるという祝福をわたしたちが受けていることを証します。わたしには自分が受けている召しにふさわしい証があります。わたしはこの証を、何年も前に大管長会に会ったあときから持つようになりました。このことをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。



何年前、地元誌で、ユーモアに富んだ記事を書くことで知られるコラムニストが、深く考えさせられるまじめなテーマを採り上げていました。その記事を紹介したいと思います。「ユタに住んでいて毎週教会に行くモルモンは、ワードの会員同士が非常に親しく生活しています。5分前の町の出来事を知らない人がワードにいないほどです。」

そしてこう続けています。「このように顔を突き合わせて生活することによって、ついつい他人の生活に干渉したりすることもあります。……大きな力ともなっています。」

筆者は続いてこのように記しています。「火曜日に、わたしは職場で正午のニュースを見ていました。交通事故で大破した1台のバンが映し出されていました。若い母親と二人の小さな子供がヘリコプターと救急車で病院の集中治療室に向けて搬送さ

れていました。……数時間後、そのバンはヘリマンにある我が家の向かいに住む若夫婦エリック・キグリーとジーナのものであることを知りました。

キグリー家族とは教会でいつも会っているだけでなく、……事故のあった前日の晩に近所の人たちと集まってディナーパーティーを開いたばかりでした。わたしの孫たちはキグリー家の娘ビアンカとミランダの遊び友達でした。……

1歳2か月のミランダは頭部に受けた重傷により、3日後に初等協会小児病院で亡くなりました。

こんなときに、親しく生活をしていることが功を奏します。家から数マイルも離れた場所で事故が起きたにもかかわらず、通りがかったワードの会員は、急いで車を止めると、大破した車の中を捜索し始めました。そして、警察や救急隊が到着する前に、ワードの会員たちに事故の一報が行き渡っていました。

会員たちは搬送先の3つの病院に向かい、職場にいたエリックに連絡し、作業班を組織しました。すぐに駆けつけられなかった人たちは、何か手伝えることはないか懸命に探しました。

48時間以内にキグリー家では芝刈りと掃除、洗濯が終わり、冷蔵庫に食べ物が蓄えられ、見舞いに訪れた親戚に食事が用意され、地元の銀行に支援金の口座が設けられました。もしキグリー家が犬を飼っていたら、シャンプーまでしていたことでしょう。」

筆者は味わいのある言葉で結んでいます。「一人一人の生活をつぶさに知ってい



るわたしたちのワードには良い面があります。……一人に起きたことは全員に起きたことなのです。」(“Well-Being of Others Is Our Business,” Salt Lake Tribune, 2005年7月30日付, C1)

この悲惨な事故に際してワードの会員たちが示した哀れみと奉仕は、この出来事だけに限った特別なものではありません。モルモン書の預言者アルマはキリストに従おうとしていた人々にこう説明しました。「あなたがたは神の羊の群れに入っ、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを……望んでいる。」アルマが説明しているように、彼らはバプテスマを受ける準備ができていました(モーサヤ18:8-9参照)。この聖文は、最も哀れみに満ちた方法で教え

導き、世話をするうえでよりどころとなっています。

ワードはきわめて大きな試練や悲しい出来事に直面している人々の必要を満たすために組織されています。ビショップは、しばしばワードの「父」と見なされ、助言と援助を与えてくれます。さらに、メルキゼデク神権とアロン神権の指導者、扶助協会会長会、ホームティーチャー、訪問教師、ワードの会員たちが待機しています。ワードの会員たちはいつでも身近にいます。必要なときに慰めを与え、哀れみを示すために全員がそこにいるのです。

わたしの身近にもこれまでに幾つもの痛ましい悲劇が起きました。1998年10月に、我が家から東に3軒目の家に住む19歳のザック・ニュートンが交通事故で亡くなりました。

それから2年もたたない2000年7月に

ニュートン家の真向かいに住む19歳のアンドレア・リチャーズが交通事故で亡くなりました。

2006年7月のある土曜日の午後に、我が家から通りを隔てて北に2軒目の家に住む、帰還宣教師で28歳のトラビス・バースティアンと15歳の妹デジリーが、自動車事故で亡くなりました。

1か月後の2006年8月、我が家の隣に住んでいた32歳のエリック・ゴールドが若くして世を去りました。この近隣にはほかにも、自身と神以外にだれも知らないつらい目に遭って、ひっそりと堪え忍んでいる人たちがいます。

狭い地域の中で5人もの若い人たちが亡くなったことについて、試練の数が多すぎると思う人がいるかもしれません。火急の必要があるときにすべきことを知っている会員が集う、気心の知れた面倒見のいいワードだからこそ、試練の数が多いうように感じるのではないかと、わたしは考えます。それは、アルマや救い主の訓戒に従っている会員たちのいるワードです。彼らは、愛と関心を持ち、互いの重荷を負い、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰め、ともに堪え忍ぶことを望んでいます。

これらの出来事の度に、わたしたちは愛と奉仕と哀れみが注がれる様子を見てきました。皆にとって心を鼓舞される経験でした。ビショップが到着し、ホームティーチャーと訪問教師が行動を起こし、メルキゼデク神権とアロン神権定員会、扶助協会が物心両面の必要を満たすために編成されました。冷蔵庫に食品を補充し、家を掃除し、芝を刈り、庭木を剪定し、フェンスにペンキを塗り、祝福が施され、傷ついた心に慰めが与えられました。あらゆるところに会員たちがいました。

いずれの場合も、愛する人を失った家族は、信仰を強め、救い主への愛を深め、^{あがな}贖いにいっそう感謝し、精神的、霊的に大きな助けを必要とする自分たちにこたえてくれた組織に対して心からの感謝を表しました。これらの家族は逆境を通して主を知ったと語ります。つらい経験から得たすばらしい経験について語り、悲

家庭と家族を強める

中央若い女性会長会第二顧問
メアリー・N・クック

皆さんの永遠の家族の昇栄を実現するために、主は皆さんの助けを頼りにしておられます。

痛からもたらされ得る祝福について証するのは。彼らは主をたたえ、口をそろえてヨブの言葉を語ります。「主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな。」(ヨブ1:21)

ワードの会員として互いに重荷を負った経験から、わたしたちは幾つかの教訓を学んできました。

1. 精神面や霊性面で緊急の支援を必要としている人々を知り、助けるうえで、主の組織は十分に対応できます。
2. 逆境によって、祈りと贖いについての理解を深め、さらに神に近づくことができます。贖いは、苦痛と苦悩を、それに伴う様々な霊的な顕れを通して、癒してくれます。
3. 悲劇に直接さいなまれた会員たちは、愛と哀れみ、思いやりが増し加えられるのを経験します。ほかの人々を慰め、哀れみを示すうえで、かつて悲劇を経験した人たちは、まっ先に駆けつける人、最後まで気をかけてあげられる人となります。そして往々にして最も効果的な働きかけができる人となれるのです。
4. ともに堪え忍ぶときに、家族と同様、ワードも一つになります。一人に起きたことは全員に起きたことなのです。
5. 恐らく最も大切なことは、わたしたちがいっそうの哀れみと思いやりを持てるようになることでしょう。なぜなら、わたしたちが各自の試練と経験を通して成長する機会を得るからです。このようにして、わたしたちは、ともに堪え忍ぶことができるのです。

わたしはそのような愛と思いやりにあふれた組織にいることを喜びとしています。互いの重荷を負い、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰める方法をこれほどよく知っている人たちはほかにいません。わたしはこれが「ともに堪え忍ぶこと」だと考えています。一人に起きたことは全員に起きたことなのです。

わたしたちがほかの人の重荷を軽くする助けとなれますよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。



毎週日曜日、モンゴルからマンチェスター、そしてミシシッピまで、教会の若い女性は靈感された次の言葉を繰り返します。「わたしたちは……家庭と家族を強め、神聖な聖約を交わして守り、神殿の儀式を受け、昇栄の祝福にあずかる備え[をします。]」(「若い女性のテーマ」『成長するわたし』5)

これは若い女性のテーマですが、教会のすべての青少年にも当てはまります。わたしの若い兄弟姉妹である皆さん、この言葉から、たとえどのような状況にあっても、皆さん一人一人の行動には、家庭と家族を強める力があるということを理解してほしいと思います。たとえば、皆さんの中には、家族の中で自分だけが教会員という人もたくさんいるでしょう。

『若人の強さのために』にはこうあります。「家族がいるというのは、とても大きな祝福です。……家族全員が同じ性格で

はないかもしれませんが、天の御父の計画では一人一人皆大切です。」(10ページ)

理想的な家族でも、問題を抱えている家族でも、すべての家族を強める必要があります。皆さんはそれに貢献できます。事実、家族の中で霊的に強いのは皆さんだけという場合もあります。福音の祝福を家族にもたすうえで、主は皆さんを頼りにしておられます。

皆さん自身の生活を義にかなって整えることが大切です。そうすれば、家族がどのような状況にあっても、良い模範を示すことができます。

義にかなった生活の模範を示せば、家族を強めることができます。ヒンクレイ大管長は、今年の春、中央若い女性の集会で、若い女性に「必ず幸せになれる……簡単な4つのポイント」を紹介しましたが、これは皆さんだけでなく、皆さんの家族をも祝福します。大管長はわたしたち一人一人に(1) 祈り、(2) 勉強し、(3) 什分の一を納め、(4) 集会に出席するように勧告しました(ゴードン・B・ヒンクレイ「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい」『リアホナ』2007年5月号、115)。

祈りを通して毎日主の助けを求めらるなら、家族は大いに祝福されます。こう自問してください。「わたしは自分の祈りを通して、家族の中のだれを祝福できるだろう。」「家族で祈れるように、わたしには何ができるだろう。」

個人で聖文の勉強をするにつれ、救い主と主の教えが理解できるようになります。主の模範から、家族を愛し、奉仕し、救す方法が分かるようになります。聖文か



ら学んだことを家族に分ち合う方法を考えてみてください。

ヒンクレー大管長はわたしたちに「できるだけの教育を受ける」ようにと何度も勧告しています(『リアホナ』2007年5月号, 116)。教育は現在の家族だけでなく、将来の家族をも必ず祝福します。良い教育を受ける計画と準備のために、今何ができるでしょうか。

ヒンクレー大管長はこう教えています。「什分の一はお金で納めますが、もっと大切なことは、信仰をもって納めることです。」(『リアホナ』2007年5月号, 117) 皆さんは信仰をもって什分の一を納めることから祝福を得ていますか。この戒めに従うとき、主は「天の窓を開いて」皆さんと皆さんの家族を祝福してください(マラキ3:10)。

集会、特に聖餐会せいさんに出席することによって、皆さんと家族はどのように祝福されるでしょうか。定期的に聖餐を受ければ、バプテスマの聖約を守りやすくなります。ふさわしく生活し、毎週聖約を新たにまたするなら、御霊みたまの導きを受けることができます。聖霊は皆さんを導き、家族を祝福するためにな

すべきことを教えてください。

このように義にかなって生活することを決心するなら、皆さんは生涯祝福され、模範によって家族を強めるための霊的な基盤を築くことができます。テモテへの第一の手紙の中でパウロは模範についてわたしたちに教えています。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」(1テモテ4:12)

『若人の強さのために』の家族の項目には、家庭の中で「信者の模範」になるためのすばらしい方法が書かれています。

「明るく、いつでも相手を助け、思いやりを示してください。……家族の必要に心を配ってください。

親には愛と尊敬を示し、従うことによって導んでください。……家族の活動や伝統、例えば家族の祈り、家庭の夕べ、家族である聖典の輪読などに加わってください。こうした習慣は家族を強め、一致を促します。

弟や妹、兄や姉との関係を強めましょう。彼らはあなたのいちばん身近な友達にな

るはずです。」(10-11ページ)

模範はしばしば最高の教師となります。皆さんの模範からだれが祝福を受けるでしょうか。弟、妹、お母さん、それともお父さんですか。

わたし自身の経験をお話ししましょう。わたしの兄の義にかなった生活と模範が家族に永遠の祝福をもたらしたのです。

兄もわたしも、「善い両親」から生まれました(1ニーファイ1:1)。両親は兄とわたしを愛し、わたしたちのために大きな犠牲を払ってくれましたが、わたしの家族は聖なる神殿の儀式を受けていませんでした。

何年も前の12月の暮れのことでした。カリフォルニア州北伝道部で伝道していた兄から手紙が届きました。封筒の表にはこう書いてありました。

「家族全員がそろうまで、封を切らないでください!」

父と母とわたしがそろったところで封を切り、7枚の便せんあかしにタイプされた、祈りについての兄の証を読みました。聖句を交えて永遠の家族の教義が説明されていました。求道者がバプテスマの儀式を受ける準備をするのに、断食と祈りが役立ったという経験も書かれていました。わたしたち家族も、断食と祈りによってきっと祝福されるとあり、次のような提案で結ばれていました。「数か月前、スタンフォードワードのビショップからとても感動的な話を聞きました。……その話を聞いて、人生で達成したい目標について改めて考えました。わたしが家族と一緒に達成したいいちばん大切な目標は、……それはもちろん、お父さんお母さんと、主の宮で永遠に結び固められることです。家族を心から愛しています。家族が永遠に結ばれるよう望んでいます。」

そして、最後にこう書かれていました。「この大切な決断をするに当たり、みんなが主の導きを受けて、一緒に祈れますように。それがわたしの願いです。」

10代だったわたしも、家族でその祝福が受けられるように祈りました。兄の手紙のおかげで、わたしの義にかなった望みについて希望が持てるようになりました。

新年は家族が生活を変える機会となり

ました。それから何か月もたった後、わたしたちは義になつた生活習慣を築き上げました。一緒に祈り、家族で神殿の儀式について勉強し、什分の一を納め、定期的に集会に出席しました。兄が伝道から帰って来てから間もなく、わたしたちは神殿の儀式を受ける準備が整いました。神殿で聖壇を囲み、永遠の家族として結び固められたとき、主がわたしたちの祈りを聞き、こたえてくださったことが分かりました。

皆さんにも家族を変える力があるでしょうか？ あります。兄があの手紙を書かなかつたら、わたしの家族の永遠の進歩はどうなつていただろうと、よく考えます。兄の義になつた生活習慣と模範がわたしたちの人生を変えたのです。

ロバート・D・ヘイルズ長老はこう述べています。「両親から良い模範を受けられなかつたとすれば、その悪循環を断つのは自分の責任です。……だれでもさらに良い道を学び、その過程で現在の自分の家族を祝福し、幾世代にもわたつて正しい伝統を伝えることができます。」（『どのように子供の心に残る親か』『聖徒の道』1994年1月号、10）

忘れないでください。「家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもの」です（『家族——世界への宣言』『リアホナ』2004年10月号、49）。永遠の家族を構成するのは一人一人の家族なのです。「幸せな家庭を築くために、あなたは自分の役割を果たしてください。」（『若人の強さのために』10）義になつた生活習慣を身に付けてください。そして、信者の模範になってください。皆さんの永遠の家族の昇栄を実現するために、主は皆さんの助けを頼りにしておられます。

わたしはイエス・キリストが生きておられることを知っています。主は皆さんを御存じで、愛しておられます。主はわたしとわたしの家族を祝福されたように、皆さんと皆さんの家族も祝福してください。イエス・キリストの御名により、へりくだり証します。アーメン。



なぜ、 唯一まことの教会の 会員なののでしょうか

七十人

エンリケ・R・ファラベラ長老

わたしたちが持つことのできる最も価値ある力とは、主イエス・キリストに対する個人の証という宝物です。



なぜ、わたしたちは唯一まことの教会の会員なののでしょうか。わたしには1,300万人の全会員を代表してこの質問に答えることはできませんが、心を込めて幾つか答えを挙げてみましょう。多分、皆さんの答えとも一致することでしょう。

永遠の富

「見よ、永遠の命を持つ者は豊かである。」(教義と聖約6:7)

子供のころは、豊かではありませんでした。父ときょうだい4人の5人家族で、母はわたしが5歳のときに亡くなりました。父のわずかな収入は家族の食べ物を買う

のに使われ、服を買うことは最後まで後回しにされました。

ある日、少し困った事態になり、父に言いました。「お父さん、靴を買ってくれない？ ほら見てよ、ぼろぼろで穴から親指が見えてるんだよ。」

「じゃ、直そう。」そう言うと父は黒の靴墨で靴を磨き始めました。しばらくして父は言いました。「直ったぞ。」

わたしは答えました。「だめだよ。まだ指が見えてるもの。」

「それも直せるぞ。」父は、また靴墨を手にとると、わたしの足の指に塗ったのです。程なく、足の指も靴のようにぴかぴかになりました。こうしてわたしは幼いときに、幸せはお金に左右されないことを学びました。

時が過ぎ、わたしたちは1組の宣教師から、回復された福音という富、救いの計画の教義や永遠の家族という富について教わり、バプテスマを受けました。父が地方部会長の召しを果たすことになったとき、父の最初の目標は、神殿に行って、犠牲のゆえにもたらされる祝福を受けることでした。それは、往復で15日かかる4,800マイル(約7,725キロ)の旅でした。満身に整備されていない高速道路に、乗り心地の悪いバスという、つらくてうんざりすることの連続でした。わたしたちは行き方さえ知らなかったのです。しかしわたしたち

は、これから受ける儀式への期待でいっぱいでした。

アリゾナ州メサに着くと、通りの先に見える、麗しく輝く主の宮を目指して歩きました。そのときの心に満ちた喜びを今も思い出します。全員が神をたたえて歌いだしました。多くの聖徒たちの頬を涙が伝いました。

その後神殿の中で、わたしたち家族はひざまずき、永遠の家族に関する美しい約束を聞きました。その場にはいなかった母が、今や確かに、永遠にわたしたちの母親になったのです。永遠の家族になれたという確信から来る平安を感じました。

こうして、永遠の命の約束は、わたしたちに永遠の富を与えてくれました。

「見よ、永遠の命を持つ者は豊かである。」(教義と聖約6:7)

回復された神殿

イエス・キリストの教会は、神権が存在し、「王国の神権者、聖なる民」(欽定訳1ペテロ2:9から和訳)がいる教会です。

回復された教会は、祝福を受ける神の力を備えた神権者を家庭に与えてくれます。これまで何度、家で、「お父さん、祝福してくれる？」とささやく、幼い子供のかわいい声を聞いたことでしょうか。その度に、苦しく、つらい思いをしている子供の頭に手を置き、慰めと癒しの祝福を宣言し、神権の力がその影響力を発揮するのを見てきました。そして翌日、幼い声が「お父さん、ありがとう。夕べはよく眠れたよ」と言ってくれるのです。その力を持っている「特別な人」を外に探しに行く必要はありません。その力がわたしたちの中にあるからです。子供たちにこの原則を教えることができるのはすばらしい祝福です。このような祝福を家族に与えてくれるのは、地上でこの教会だけなのです。

この力を通してわたしは、息子たち全員を神権に聖任し、神の儀式を行う神の力を与えることができました。

ですから、これもわたしがこの教会の会員である理由です。つまり、神権の力が再び地上に存在し、わたしたちの家庭に影響を及ぼしているからです。



個人の証

わたしたちが持つことのできる最も価値ある力とは、主イエス・キリストと主の贖いの力に対する個人の証という宝物です。

ふさわしい生活を送り、祈り求めるとき、証はもたらされます。主は預言者ジョセフ・スミスにこう勧告しておられます。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。」(教義と聖約42:14)

わたしはかつて、ステーキ大会に出席しなければならぬのに、聖徒たちに何を教えたらいかが分からなくて悩んでいたことがありました。そのことを知った6歳の息子ダニエルは、そばに来て言いました。「お父さん、そんなの簡単だよ。」子供には何でも簡単に思えるものです。

「そうか、簡単って言うんなら、何について話したらいいか教えてくれるかい。」

「お祈りについて話せばいいよ。」彼は言いました。

「それはいいテーマだね。でも、皆はお祈りについて、もういっぱい聞いているよ。どんな新しいことが話せるだろうね。」

「それも簡単だよ。最初にこう言えばいいよ。『天のお父様に話しかける前に、何を話したいか、考えてください』って。」

「それはすばらしい考えだね。それから?」

「『話すことを考えたら、お父様に話してください。それが終わったら、お父様が言いたいことがあるかどうか、様子を見てください』って言うんだよ。」

このように、御霊は祈りを通してわたしたちの霊に語りかけ、救い主の存在について証してくれます。

救い主イエス・キリストが示してくださった愛に、わたしはただ驚くばかりです。主は天の家から降って、ほとんどの人が主の教えを拒む世に來られました。人々には主の命を取る力はありませんでしたが、主を死に定めました。キリストは、わたしの罪、病気、苦難、悲しみの代価を支払ってくださいました。主の苦しみは言葉で表すことはできません。ルカはただ次のように言っています。「……その汗が血のしたたりのように地に落ちた。……」(ルカ22:44)

わたしが教会の会員でいる何よりの大きな理由は、聖霊がわたしの心を貫き、次のことを知らせてくださったからです。すなわち、キリストが生きておられること、主が救い主であられること、主がわたしの罪の代価を支払ってくださったこと、そして主が、その教えに従って生活するなら約束されたすべての祝福を享受できるように道を備えてくださった、ということです。

数週間前、父は亡くなりました。そして今、神が豊かで美しい教えを下されたことを、これまで以上に感謝しています。

家族生活は、死を超えて続き得ます。王国の神権は地上に回復されました。御霊がわたしの霊に語りかけ、救い主イエス・キリストが生きておられるという証を下さいました。また、主の執り成しを通し、わたしの忠実さによって主とともに住めるようになるという証を下さいました。これらをはじめ、様々な理由により、わたしは地上で唯一まことの教会の会員なのです。そして、そのことに永遠に感謝します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

たつと 尊く、大いなる約束を 求める

七十人
スペンサー・J・コンディー長老

主は惜しめない約束を与え、それらの約束を果たすと保証しておられます。



南 太平洋に住む忠実な聖徒たちから、皆さんへの愛とあいさつを送ります。

福音の第一の原則は、主イエス・キリストを信じる信仰です。この信仰には、主の神聖な降誕と天からの受け継ぎを信じる信仰、また御父の指示の下に主が地球とそこに住まうすべてのものを創造されたこと(ヨハネ1:10;モーサヤ3:8参照)を信じる信仰が含まれます。キリストを信じる信仰の中核を成すのは、主の贖いの犠牲により、わたしたちの罪がたとい……緋のようであっても、雪のように白くなるという確信です(イザヤ1:18参照)。

キリストを信じる信仰にはまた、主が十字架におかかりになった後に墓から出られ、そして復活されたおかげで全人類が再び生きることができるようになったとい

う知識が含まれます(1コリント15:21-23参照)。キリストを信じる信仰とは、御子と御父がジョセフ・スミスという若者に御姿を現し、時満ちる神権時代にすべてのものを回復する道を備えられたという確信です。イエス・キリストはその聖なる名を受けている教会の頭です。

主イエス・キリストを信じる信仰は、わたしたちが主の教えを信じ、「尊く、大いなる約束」を求め、「神の性質にあずかる者」(2ペテロ1:4)となる時に表れます。数え切れない約束が主の預言者により宣言されました。そして主は「わたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する。わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである」と約束されています(教義と聖約1:38)。

この末日において、主は「神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによる」ことを明らかにされました(教義と聖約130:21)。主は惜しめない約束を与え、それらの約束を果たすと保証しておられます。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない」と言われたからです(教義と聖約82:10)。

尊く、大いなる約束

主が与えてくださる、尊く、大いなる約束は数え切れませんが、その一つは、わたしたちの罪が「告白し、そしてそれを捨

てる」ときに赦されることです(教義と聖約58:43参照。教義と聖約1:32も参照)。忠実に什分の一を払う人には、天の窓が開かれるという約束が与えられます(マラキ3:10参照)。また、知恵の言葉を守る人には「知識の大いなる宝」を見いだすという約束が成就します(教義と聖約89:19)。

安息日を聖く保つ人には、世の汚れに染まらないという祝福が約束されています(教義と聖約59:9;出エジプト31:13参照)。「キリストの言葉をよく味わう」人(2ニーファイ32:3)、そして「聖文を自分たちに当てはめる人(1ニーファイ19:23)は、神からの導きと靈感という約束を受けます。

主は「与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、何でもあなたがたに与えられる」とも約束されました(3ニーファイ18:20)。わたしたちはまた、「絶えず徳で[わたしたちの]思いを飾る」とき、常に聖霊を伴侶とすることができるという約束を受けています(教義と聖約121:45-46参照)。また、断食を通して霊的に解放されるという約束もあります。断食が「悪のなわを」ほどこき、「くびきのひもを」解き、「すべてのくびきを折る」のです(イザヤ58:6)。

聖なる神殿で結び固めを受け、忠実に聖約を守る人は神の栄光を受けます。その栄光とは「とこしえにいつまでも子孫が満ちて続くこと」です(教義と聖約132:19)。

この世に生きるわたしたちは時として忍耐ができず、主の尊い約束を見失うことがあります。そして約束が果たされるよう従順であり続けることができなくなってしまいます。主はこのように宣言されました。

「主は言う。わたしが約束をして、果たさなかったことがあるであろうか。

わたしが命じて、人々が従わないと、わたしは命じたことを取り消し、彼らは祝福を受けない。

すると、彼らは心の中で、『これは主の業ではない。約束が果たされていないから』と言う。しかし、このような者は災いである。彼らの報いは下に潜み、上からは来ないからである。』(教義と聖約58:31-33)

約束をはるかに望み見て

信仰には、忍耐、寛容、そして最後まで堪え忍ぶという大切な要素が含まれています。使徒パウロはアベル、エノク、ノア、アブラハム、サラの信仰について詳しく語ったとき、最後にこのように締めくくりました。「これらの人はみな、信仰をい দিয়ে死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。」(ヘブル11:4-13参照) これらの忠実な聖徒は、地上の人生は旅の途中であり、終点ではないことを知っていました。

アブラムが75歳だったとき、主はこのように約束されました。「わたしはあなたを大いなる国民と〔する〕。しかしこのとき、アブラムとサライには子供がいませんでした。(創世12:2) サライのつかえめだったハガルが「イシマエルをアブラムに産んだ」とき、アブラムは86歳でした(創世16:16)。

そして主はアブラムの名前をアブラハムに、サライの名前をサラに変えられました。アブラハムが100歳くらい、そしてサラが90歳のとき、二人はサラが男の子を産み、その子をイサクと名付けるだろうという約束を受けました(創世17:17, 19)。この約束を信じられなかった二人に、主はこう尋ねられました。「主にとって不可能なことがありますか。」(創世18:14) そして、「サラはみごもり……年老いたアブラハムに男の子を産」みました(創世21:2)。そして主は約束を与えてこう言われました。「わたしは……大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。」(創世22:17)

若いイサクは大人になり、40歳のときにリベカを妻にめとりました。「イサクは妻が子を産まなかったので、妻のために主に祈り願った。主はその願いを聞かれ、妻リベカはみごもった。」そしてリベカは双子を産み、エサウとヤコブと名付けました。イサクが60歳のときでした(創世25:20-26参照)。

成長し大人になったヤコブを、イサクとリベカはラバンの家に行かせました。そこでヤコブは、ラバンの二人の娘であるレ



大会を視聴するため、徒歩で集会所に向かうブラジル、サンパウロの会員たち。

アとラケルに会います。ヤコブはラバンに言いました。「わたしは、あなたの妹ラケルのために七年あなたに仕えましょう。……こうして、ヤコブは七年の間ラケルのために働いたが、彼女を愛したので、ただ数

日のように思われた。」(創世29:18, 20)

皆さんも覚えているように、ラバンは若いヤコブを欺き、ヤコブが最初にレアと、その後にラケルと結婚するようにさせました。「主はレアがきらわれるのを見て、そ

の胎を開かれたが、ラケルは、みごもらなかった。」(創世29:31)そしてレアはルベン、シメオン、レビ、ユダを産みましたが、ラケルには子供がいませんでした(創世29:32-35参照)。

ねたみの気持ちますます高まり、自暴自棄に陥ったラケルは、ある日ヤコブに向かって「わたしに子どもをください。さもないと、わたしは死にます。」と猛烈な勢いで迫ります(創世30:1)。レアはその後、さらに二人の息子と一人の娘を産みました。

主は約束の実行を遅くしておられるのではない

使徒ペテロは「ある人々がおそいと思つているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ〔わたしたちに〕忍耐しておられるのである」と証しました(2ペテロ3:9)。1時間で仕上がるドライクリーニング店や1分で食事が出てくるファーストフード店のあるこの時代にあつて、時折、愛ある主から与えられた尊い約束が忘れられたり、保留にされたり、または誤ってほかの人のところに行ってしまったように思えたりするときがあるかもしれません。ラケルもそのように感じていました。

しかし、時は過ぎ行き、聖文の中にこの上なく美しい次の言葉が現れます。「神はラケルを心にとめられ〔た。〕」(創世30:22)ラケルはヨセフ、そして後にベニヤミンという二人の息子を授かりました。今日、地上にはヨセフの子孫が大勢います。彼らは、自分自身の努力により「地のすべての氏族は、……救いの祝福すなわち永遠の命の祝福である福音の祝福を授けられるであろう」というアブラハムの聖約を受けています(アブラハム2:11)。

天の約束が時折はるかかなたに思えるとき、皆さん一人一人がこれらの尊く、大いなる約束を抱き、決して手放さないようにと祈ります。ラケルを心に留めておられたように、神は皆さんを心に留められるでしょう。このことをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

喜んでよい理由はないだろうか

十二使徒定員会

ディーター・F・ウークトドルフ長老

この教会は喜びに満ちた宗教であつて、そこには希望と力と解放感があります。



今朝皆さんと一緒に次の賛美歌を歌いましたが、わたしは、今なお、「楽しまん」というすばらしい気持ちに浸っています。

「いざ救いの日を楽しまん
もはや迷うことはなし
よきおとずれは世に響き」
(「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番)

ウィリアム・W・フェルプス兄弟の書いたこの歌詞は、悪い知らせにばかり焦点を当てる世界の趨勢とはまったく正反対の内容です。もちろん、わたしたちの生きるこの時代は、聖文に預言されているとおり、「様々な地における戦争と戦争のうわさと地震」の時代であり(モルモン8:30)、「全地が混乱し、人々は気落ちするである

う」と言われている時代でもあります(教義と聖約45:26)。

しかし、そのことは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちにどのような影響があるでしょうか。わたしたちは、不安と恐怖と心配の中で生活しているでしょうか。山積する問題のただ中にあつて、喜んでよい理由はないのでしょうか。

わたしたちは皆、人生でそれぞれ異なった経験を積みます。喜びに包まれる経験もしますし、悲しみと不安に包まれる経験もします。

わたしは、家族が苦しい状況の中で生活していた幼年時代のことをよく覚えています。1944年の冬のことでした。第二次世界大戦中で最も寒い冬だったかもしれません。戦線はわたしたちの町に迫って来ていました。母は、家財をすべて残したまま、わたしたち4人の子供を連れて、数百万という避難民の中に加わりました。生き残るための場所を求めての悲惨な逃避行でした。父はまだ軍務に就いていました。しかし、父と母は、もし戦争中に家族が離れ離れになるようなことがあったら、祖父母の故郷の町で再会しようと事前に話し合っていました。その場所なら避難と安全のための最高の希望を与えてくれるはずだと感じていたのです。

夜は爆弾が落とされ、昼は戦闘機の攻撃がある中で、何日もかかってようやく祖父母の家までたどり着きました。わたしの当時の記憶は、暗闇と寒さだけです。

父は負傷することなく、帰還しました。しかし、わたしたちの将来には一筋の光さえ見えませんでした。戦後のドイツのがれきの中で、将来に対する希望もなく、暗黒の中を、寒々とした思いで生活していたのです。

この絶望のさなか、わたしの家族は、末日聖徒イエス・キリスト教会とイエス・キリストの回復された福音にある癒しのメッセージについて学びました。そして、このメッセージがあらゆる変化をもたらしたのです。日々の悲惨な思いからわたしたちを高めてくれました。生活はまだいばらの道で、取り巻く状況も惨めなものでしたが、福音はわたしたちの生活に光と希望と喜びを運んでくれたのです。福音の分かりやすく簡潔な真理は、わたしたちの心を温め、思いに光を注ぎました。自分自身や周囲の世界を、異なった見方で、はるかに高い視点から見る方法を教えてくれたのです。

愛する兄弟姉妹の皆さん、イエス・キリストの回復された福音とキリストの教会の会員であるということに、喜んでよい大きな理由はないでしょうか。

皆さんがこの地上のどこに住んでいようと、どんな生活をしていようと、わたしは皆さんに次のことを証します。イエス・キリストの福音には神聖な力があり、時には耐えられないような重荷や弱さと思われるような地点から、はるかな高みに皆さんを引き上げてくれます。主は、皆さんの状況や問題についてよく御存じです。主はパウロに、そしてわたしたちすべてに向けてこう言われました。「わたしの恵みはあなたに対して十分である。」これに対して、パウロと同じようにわたしたちは答えます。「『わたしの力は弱いところに完全にあらわれる。』それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ喜んで自分の弱さを誇ろう。」(2コリント12:9)

イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちは、イエス・キリストの福音を受け入れたときに聖約や儀式を交わしました。わたしたちには、その中で約束されている祝福を受ける権利があるのです。



イエス・キリストの福音とは何でしょうか

イエス・キリストの福音とは、よい知らせであり、喜ばしいおとずれであり、それ以上のものです。また、イエス・キリストおよびその使徒や預言者たちが繰り返し宣言しているように、救いのメッセージでもあります。わたしは、神から発せられるあらゆる真理や光が、イエス・キリストの福音の中に含まれていることを確信しています。

愛に満ちた天の御父である神は、御自身の業と栄光は「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」であると言われました(モーセ1:39)。父なる神は福音を定められた御方であり、福音は、神の救いの計画、すなわち贖いの計画の中心を成すものです。福音が「イエス・キリストの福音」とも呼ばれるのは、贖罪と救いを可能にするのがイエス・キリストの贖いだからです。キリストの贖いにより、人は老若男女を問わず、無条件で肉体の死から贖われています。そして、イエス・キリストの福音を受け入れ従うという条件で、すべての人は自分自身の罪から贖われるのです(教義と聖約20:17-25;76:40-42, 50-53;モーセ6:62参照)。

キリストの福音は唯一まことの福音です。「キリストの御名のほか、またその御名を通じてでなければ、どのような名も道

も方法も、人の子らに救いをもたらすことはでき[ません]。](モーサヤ3:17。使徒4:12も参照)

福音の教えの核となる要素は、あらゆる聖文で述べられていますが、モルモン書と預言者ジョセフ・スミスへの啓示の中で、それが最も明確に述べられています。そこでは、イエス御自身がその教義と福音について分かりやすく宣言されています。神の子供たちは、「永遠の命を得る」ためにそれに従う必要があります。(教義と聖約14:7。3ニーファイ11:31-39;27:13-21;教義と聖約33:11-12も参照)。

福音は明確で分かりやすい教えです。人生の最も複雑な疑問にも答え、幼い子供たちでも理解し、応用することができます。ニーファイもこう言っています。「わたしは、分かりやすいことを喜びとする。主なる神は分かりやすい方法で、人の子らの中で業を行われるからである。主なる神は理解力に光をお与えになる。主なる神は、人々が理解できるように彼らの言葉に倣って語られる。」(2ニーファイ31:3)

預言者ジョセフ・スミスは、世界に向かって「福音の第一の原則と儀式」について説明するとき(信仰簡条1:4)、同じように明確に分かりやすく語りました。わたしたちも、福音の永遠の祝福を受けるため

には、「福音の第一の原則と儀式」に従う必要があります。

最初は、主イエス・キリストを信じる信仰です。つまり神の御子である贖い主を信じ、「確固とした信仰をもって……人を救う力を備えておられるこの御方の功德にひたすら頼」り、さらに、「キリストを確固として信じ、……力強く進まなければなりません」。……キリストの言葉をよく味わいながら力強く進むのです(2ニーファイ31:19-20)。

2番目は悔い改めです。これには、心に変化を起こし、「打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲として」ささげ、罪を捨て、「幼子」のように柔和で謙遜な者となることが含まれます(3ニーファイ9:20, 22)。

3番目は、罪の赦しを受けるために、神の戒めを守りキリストの御名を引き受けるという聖約のしるしとして行われるバプテスマです。

4番目は、聖霊の賜物を授かるための按手です。これは火のバプテスマとして知られています。この儀式は、わたしたちを清め、神から生まれた「新たな者」としてくれます(モーサヤ27:26;1ペテロ1:23も参照)。

聖霊の賜物は、権能を持つ人の執り行う儀式を通じて、天の御父から授けられるものですが、これには隣れみに満ちた以下の約束が伴います。「あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。」(2ニーファイ32:5) 絶えず聖霊を伴侶とすることによって、教会員はだれでも、いつでもどこにあって、直接「キリストの言葉」を受けすることができます(2ニーファイ32:3)。神からこのように個人的な導きを受けることによって、わたしたちはイエス・キリストの証に雄々しくいることができ、生涯の終わりまで堪え忍ぶことができるのです。何とすばらしいことでしょうか。

喜んでよい理由はないでしょうか。

最後まで堪え忍ぶとはどういうことでしょうか

聖文の教えによれば、バプテスマと確



認の儀式を受けた人には、「最後まで堪え忍ぶ」という務めが伴います(2ニーファイ31:20)。

子供のころのわたしにとって、「最後まで堪え忍ぶ」というのは、おもに、教会の集会の最後まで目を覚まして話を聞かないといけないうことでした。その後10代になっても、この聖句の意味があまり理解できず、「最後まで堪え忍ぶ」とは、愛する年配の兄弟姉妹が生涯の最後まで、なんとかしてがんばり続けることだろうと、若者らしい思いやりの気持ちを込めて、考えていました。

最後まで堪え忍ぶ、つまり、生涯を通じてイエス・キリストの福音の律法と儀式に対して忠実であることは、神の王国で救いにあずかるために最も重要な要件です。この信仰こそ、末日聖徒とはかの数多くのキリスト教会との顕著な違いです。ほかの教会では、救いとはイエスがキリストであられると信じ、告白する人にはだれにでも与えられるものであると教えているのです。しかし、主は次のように明言されました。「わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。この賜物は、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである。」

(教義と聖約14:7)

ですから、最後まで堪え忍ぶとは、人生の困難な状況にあつて消極的に耐えているだけとか、しがみついているだけというものではありません。わたしたちの教会は積極性を旨とする宗教です。細くて狭い道を歩む神の子供たちがこの世の生涯を通じて、持てる能力を最大限に発揮し、いつの日か神のみもとに帰れるように助けてくれる宗教です。この観点から見れば、最後まで堪え忍ぶというのは、実に前向きで、栄光に満ちた教えであつて、暗く悲観的な教えではないのです。この教会は喜びに満ちた宗教であつて、そこには希望と力と解放感があります。「アダムが墮落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るため」なのです(2ニーファイ2:25)。

最後まで堪え忍ぶとは、人生のどんな瞬間であつても、時々刻々、日の出から日の出まで、実践していかなければならないプロセスのことを指しています。その達成のためには、神の戒めに従うことによって、自分を律していくことが必要です。

イエス・キリストの回復された福音とは、人の生き方そのものです。日曜日だけのものではありません。習慣や伝統として行うだけでは、約束された祝福をことごとく得ることは望まれません。「まちがってはいけない。神は侮られるようなかたではない。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。」(ガラテヤ6:7)

終わりまで堪え忍ぶとは、神の戒めを守る努力を続けつつ(2ニーファイ31:10参照)「耐え忍んで善を行」うということであり(ローマ2:7)、「義の業を行う」ということでもあります(教義と聖約59:23参照)。そのためには犠牲と勤勉が必要です。最後まで堪え忍ぶよう、わたしたちは天の御父に信頼を置き、賢明な選択をする必要があります。それは、自分の一やその他の献金を納めることであり、神殿の聖約を尊び、教会の召しや責任を通じて率先して忠実に主と同胞に仕えることでもあります。それは人格の高さであり、無私の心であり、謙遜さでもあります。また、主と同胞に対する高潔さと誠実さでもあ

ります。さらに、わたしたちの家庭を強固なことで、世の悪に対する避け所とすることでもあります。また、伴侶や子供たちを愛し、敬うということでもあるのです。

最善を尽くして最後まで堪え忍ぶと、わたしたちの人生に精錬による麗しい変化が訪れます。「敵を愛し、悪意をもって〔わたしたちを〕利用しようとする者のために祈れ」ようになります(欽定訳マタイ5:44から和訳)。この世で最後まで堪え忍ぶことによってもたらされる祝福は、現実のものとなり、非常に意義深いものとなります。そして、その祝福は、次の世ではわたしたちの理解を超えたものとなるのです。

イエス・キリストは皆さんの成功を望んでおられます

愛する兄弟姉妹の皆さん、これからも、皆さんが苦しみを感じ、心が重くなり、頭を垂れてしまう日はあるでしょう。そのようなときこそ、贖い主イエス・キリストがこの教会の頭であられることを思い出してください。これは、主の福音です。主は皆さんの成功を望んでおられます。この目的のために主は命をささげられたのです。主は生ける神の御子であり、このように約束しておられます。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ11:28)

「山々が去り、丘が動いても、わたしの慈しみはあなたがたから去ること……がない。」(3ニーファイ22:10)「『わたしは……あなたを憐れもう』と、あなたの贖い主である主は言われる。」(3ニーファイ22:8)

わたしの友である皆さん、救い主は打ち砕かれた心を癒し、その傷を包まれます(詩篇147:3参照)。皆さんがどのような問題を抱えていようと、この地上のどこに住んでいようと、末日聖徒イエス・キリスト教会にあって忠実な会員であり続けるかぎり、イエス・キリストの福音の神聖な力により、皆さんは祝福され、喜んで最後まで堪え忍ぶことができます。

このことについて、わたしは全身全霊を込めて、イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。

パットン夫人—— その物語の続き

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン管長

天の御父は彼女の必要を心にかけ、慰めとなる福音の真理を聞いてほしいと思われたのだと、わたしは確信しています。



わたしの同僚であったジェームズ・E・ファウスト管長が今日ここにいないことを寂しく思います。そして、ファウスト管長の愛する奥さんとご家族にわたしの愛をお伝えします。ファウスト管長はきっと今、霊界にあって主に仕えていることでしょう。また、新たに支持された中央幹部の兄弟たち、アイリング管長とクック長老、ゴンサレス長老を歓迎するとともに、今後わたしが3人を全面的に支援することを約束します。

38年前、テンプルスクウェアのタバナクルで開かれた総大会において、わたしは、若くして亡くなった幼友達、アーサー・パットンについて話しました。「パットン夫人、アーサーは生きています」¹ という題名で、アーサーの母親であるパットン夫人に向

けて話しました。彼女は教会員ではなかったのですが、実際にパットン夫人がわたしの話を耳にする望みはほとんどありませんでしたが、希望と愛をもたらず栄えある福音のメッセージを、わたしの声が届かきり多くの人と分かち合いたいと思ったのです。最近わたしは、再びアーサーについて話して、わたしの最初のメッセージの後にあった出来事を皆さんに伝えなければならない、という気持ちを強く感じました。

まず、アーサーについて話しましょう。金髪の巻き毛をした彼は、いつも満面に笑みをたたえていました。1940年当時、第二次世界大戦を引き起こした大きな争いがヨーロッパのほぼ全域を襲っていました。クラスでいちばん背が高かった彼は、徴兵官に年を偽って、15歳の若さで海軍に入りました。アーサーをはじめ、ほとんどの少年にとって戦争は大冒険でした。海軍の制服に身を包んだアーサーがどんなに格好良かったかを、今もよく覚えています。わたしたちはもう少し年が上だったら、せめてもう少し背が高かったら入隊できたのに、と思ったものでした。

青年期は、人生でとても特別な時期です。ロングフェローはこう書いています。

美しき若者、その輝き
その幻想と願いと夢
人生という書物の中で、
青年期は序章であり、
終わりなどないかのようである。



この書物の中では、
すべてのおとめはヒロインで、
すべての男は友である。²

アーサーの母親は、リビングの窓に飾った青い星をとて誇りにしていました。通りかかる人すべてに、息子が祖国の制服を身に着け、祖国のために熱心に働いていることを示していたからです。パットン夫人は、わたしが通る度にドアを開けて招き入れ、アーサーから届いたばかりの手紙を読んで聞かせてくれました。涙で読めなくなると、わたしに読むようにと頼むのでした。夫のいない彼女にとって、アーサーがすべてでした。

わたしは今でも、手紙を丁寧に封筒にしまうパットン夫人のささくれだった手を鮮明に覚えています。働き者の手でした。パットン夫人は、町のオフィスビルの清掃をして生計を立てていました。日曜日以外は毎日、バケツとブラシを手に歩道を歩く彼女の姿が見えました。白い髪を後ろで一つにまとめた彼女の肩には、重労働の疲れが漂い、年齢のせいで腰は曲がっていました。

1944年3月、戦争が激しさを増す中、アーサーは駆逐艦U.S.S.ドロシーから、空

母U.S.S.ホワイトブレーンズに移されました。南太平洋のサイパンで彼の空母が攻撃され、アーサーは多くの戦友とともに海で戦死しました。

パットン家の通りに面した窓に飾られていた青い星は、その神聖な場所から姿を消しました。そして、青い星が表していた人が戦死したことを伝える、金の星がそれに取って代わりました。パットン夫人の人生を照らしていた光が消え、彼女は完全な暗闇と深い絶望の中をさまよいました。

一介の少年がどんな慰めの言葉をかけられるだろうという思いと祈りを胸に、わたしは通い慣れた道をパットン家に向かいました。

ドアが開き、パットン夫人は自分の息子にするように、わたしを抱き締めました。家は礼拝堂となり、悲しみに打ちひしがれた母親と、頼りない少年がともにひざまずいて祈りをささげました。

パットン夫人は立ち上がると、わたしの目をじっと見詰めてこう言いました。「トミー、わたしはどこの教会の会員でもないけれど、あなたは違う。教えて。アーサーは生き返るかしら。」わたしは力のかぎり、アーサーは確かに生き返ることを彼女に証あかししました。

何十年も前の総大会でこの話をしたとき、「パットン夫人との連絡は途絶えてしまいましたが、『アーサーは生き返るかしら』という彼女の問いかけに再び答えたいのです」と話しました。

わたしは世の救い主について話しました。主は、現在わたしたちが厳粛な思いで聖地と呼ぶ村々の、ほこりっぽい道を歩まれ、盲目の人の目を開き、耳の聞こえない人の耳を開き、足の不自由な人を歩けるようにし、死者をよみがえらせられました。そして優しい愛に満ちた言葉でこう言われました。「わたしは道であり、真理であり、命である。」³

わたしは人生の計画について説明し、その永遠の道が天地の主であるイエスキリストによってわたしたちに開かれていることを話しました。死の意味を理解するには、人生の目的を十分に理解しなければなりません。

この神権時代に、主が次のように告げられたことを話しました。「さて、まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしは初めに父とともにいた。わたしは長子である。」⁴「人もまた初めに神とともにいた。」⁵ 預言者エレミヤはこう記録しています。「主の言葉がわたしに臨んで言う、

『わたしはあなたを……つぐないさきに、あなたを知り、あなたがまだ生れないさきに、あなたを聖別し、あなたを立てて万国の預言者とした。』⁶

荘厳な霊の世界から来たわたしたちは、神から命じられたすべてのことに従順であることを証明するために、この人生という壮大な舞台に立っています。現世において、何もできない赤ん坊から、知りたがりやの子供となり、やがて思慮深い大人へと成長します。喜びや悲しみ、達成感や失意、成功や失敗を経験し、人生の甘さと苦さの両方を味わいます。これが、現世です。

そしてだれにも、死という経験が訪れます。免れる人はいません。すべての人が死の門をくぐらなければならないのです。

ほとんどの人にとっては、死と呼ばれる招かれざる客は、不吉なぞめいています。恐らく、未知なるものへの恐れから、多くの人は死の訪れにおびえるのでしょう。

アーサー・パットンとは若くして世を去りましたが、長く生き長らえる人もいます。神が啓示された御言葉を通して、わたしたちは「すべての人の霊は、この死すべき体を離れるやいなや、……彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される」ことを知っています。⁷

わたしはパットン夫人とすべての聴衆に、神は決してわたしたちをお見捨てにはならないこと、そして神はその独り子を世に遣わされたこと、また御子はわたしたちがいかに生きるべきかを模範によって教えてくださったことを伝えました。御子は全人類を贖うために十字架上で亡くなりました。嘆き悲しむマルタと弟子たちにかけてられた主の御言葉は、今日のわたしたちにも慰めを与えてくれます。

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。』⁸

「わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言うておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。



……またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなかがたもおらせるためである。』⁹

わたしは啓示者ヨハネと使徒パウロの証を告げました。ヨハネは書いています。「死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。

……海はその中にいる死人を出し……た。』¹⁰

パウロはこう宣言しました。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。』¹¹

わたしたちは復活の朝までは信仰によって歩むことを、パットン夫人に話しました。「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔を合わせて、見るであろう。』¹²

わたしはパットン夫人に、イエスが彼女とすべての人を招いておられることを確信をもって伝えました。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者で

あるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。』¹³

わたしは、メッセージの中でパットン夫人に向けて、このようなことを知っていれば、心痛に耐えることができ、信仰を持たない悲劇の人に決してならず済む、と説明しました。そのような人たちは、息子のなきがらを入れたひつぎが母なる大地に埋められるのを見詰めるながら「さようなら、わたしの坊や。永遠にさようなら」と、口にするでしょう。しかし、頭を高く上げ、勇気と揺るぎない信仰を持てば、穏やかに波打つ青い太平洋のかなたを見上げ、「さようなら、愛しい息子、アーサー。さようなら、また会う日まで」とささやくことができる、と話しました。

わたしは、あたかも息子が彼女に語りかけるかのように、テニソンの詩を引用しました。

「夕陽が沈み、空には宵の明星が輝き、私を呼ぶ澄みきった声が聞こえる！ 私が船出をする時、この砂州からは、悲しみの声が漂ってこないことを、私は切に願う。

黄昏の色濃く、夕べの鐘が鳴り響いている、まもなく、漆黒の夜がやってこよう！ 私が遠い船出の旅に出る時、誰もその別れを悲しまないでほしいのだ。

なぜなら、——たとえ、人間の時間と空間の境界からさらに遠いところへ、この潮路が私を運んでゆくにしても、私がこの砂州を無事に渡り終えた時、神と相見えることを、私は望んでいるからだ。』¹⁴

何十年も前、そのメッセージを終えるに当たり、わたしは特別な証人として、自らの証をパットン夫人に伝えました。父なる神が彼女を心にかけておられ、心からの祈りを通して神と交わることができること、神もまた、主イエス・キリストという御

子を亡くされたこと、イエスが御父に対するわたしたちの弁護者、平和の君、救い主、聖なる贖い主であられること、そしてわたしたちはいつの日か、顔と顔を合わせて主にまみえることを証しました。

わたしは、パットン夫人へのこのメッセージが、愛する人を失った人たちのものにも届き、その心に触れるように、と願いました。

兄弟姉妹の皆さん、これから話すのは、この物語の続きです。1969年4月6日に総大会で話したとき、先ほども話したように、パットン夫人が実際その話を耳にする可能性はほとんどありませんでした。教会員でない彼女が総大会の説教を聞くなど、考えられないことでした。しかしその後、奇跡とも言えるような出来事があったことを知ったのです。テレシー・パットンの引越先であるカリフォルニアで、隣人の末日聖徒が、彼女に総大会の一つの部会の放送を一緒に聞かないか、と誘ったのです。その隣人は、だれがどんなテーマで話すかをまったく知りませんでした。彼女は誘いに応じました。こうして彼女は、わたしが彼女に向けて個人的にした、まさにあの部会での話を聞いてくれたのです。

1969年5月の最初の週に届いた手紙を読み、わたしは驚嘆と喜びの声を上げました。それは1969年4月29日のカリフォルニア州パモナの消印が入った、テレシー・パットンからの手紙でした。その一部を読みます。

「親愛なるトミー

トミーと呼ぶことを許してください。わたしの心の中では、あなたはいつもトミーなのです。あなたが語ってくれた、慰めに満ちたお話に対して、どのように感謝を伝えたらよいか分かりません。

アーサーは海軍に入隊したとき15歳でした。そして、19歳の誕生日を迎える1か月前の1944年7月5日に亡くなりました。

あなたがわたしたちのことを思い出してくれたことは、わたしにとって特別なことでした。アーサーが亡くなったときと今回のお話の中で、あなたがわたしにかけてくれた慰めの言葉に、どう感謝してい



か分かりません。長年多くの疑問を抱いてきましたが、あなたが答えをくれました。アーサーについて考えるとき、今は平安を感じています。……神の祝福と守りが、いつもあなたとともにありますように。

愛を込めて、
テレシー・パットン」¹⁵

兄弟姉妹、わたしが1969年4月の総大会で、特にそのメッセージを伝えようという思いを感じたのは偶然ではなかった、とわたしは信じています。また、パットン夫人が近所の人から総大会の特にあの部会を聞くように誘われたのも、偶然ではなかったと信じています。天の御父は彼女の必要を心にかけ、慰めとなる福音の真理を聞いてほしいと思われたのだと、わたしは確信しています。

パットン夫人が亡くなって久しいですが、天の御父がどのように、夫と息子に先立

たれた彼女の必要を満たし、祝福して下さったかを皆さんに伝えるべきだという強い思いを感じました。天の御父がわたしたち一人一人を愛しておられることを、わたしは全身全霊を込めて証します。パットン夫人に対してされたように、天の御父は謙遜な人々の祈りや、助けを求める叫びを聞いてくださいます。救い主であり贖い主である神の御子は、今日もわたしたち一人一人に呼びかけておられます。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはい[るであろう]。』¹⁶

わたしたちは戸をたたく音に耳を傾けるでしょうか。その御声を聞こうとするでしょうか。その扉を開けて主に近づき、主がすぐにも与えてくださる助けを受けようとするでしょうか。わたしたちがそうできるように、イエス・キリストの聖なる御名によって祈ります、アーメン。

注

1. Conference Report, 1969年4月, 126-129
2. "Morituri Salutamus,"
The Complete Poetical Works of
Henry Wadsworth Longfellow
(1883年), 259
3. ヨハネ14:6
4. 教義と聖約93:21
5. 教義と聖約93:29
6. エレミヤ1:4, 5
7. アルマ40:11
8. ヨハネ11:25, 26
9. ヨハネ14:2, 3
10. 黙示20:12, 13
11. 1コリント15:22
12. 1コリント13:12
13. マタイ11:28, 29
14. アルフレッド・ロード・テニソン「砂州をこえて」『イギリス名詩選』平井正徳訳、岩波書店、104
15. トーマス・S・モンソン管長所有の個人的書簡
16. 黙示3:20

信仰, 家族, 概要, 実

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老

教会の評判が高まり、教会に関する問い合わせが増えている今こそ、皆さんが架け橋となり、人と親しくなり、正確な情報を提供するのにとてもよい機会です。



兄 弟姉妹の皆さん、1997年の教会設立150周年以来、世界中で教会についての問い合わせが劇的に増えています。このように関心が高まっている理由として、教会の急速な発展や、ここソルトレーク・シティーで開催された冬季オリンピックやそのほかのイベント、また、多くの教会員が職業で成功を収めていることが挙げられます。

このような問い合わせは教会だけでなく、皆さん一人一人にも寄せられていることでしょうか。わたしたちのことをほとんど、あるいはまったく知らない人たちに、教会という大きなテーマについて、あるいは、回復されたすばらしい福音について説明するのは簡単なことではありません。一つの質問から関連する別の質問が出てきてしまい、答えるのが難しくなることもあるでしょう。問い合わせの中でいちばんよく聞くのは、「あなたがたの教会について少し

教えてください」という実に簡単なものです。ここで重要なのは「少し」という言葉です。つまり、「知っていることを全部教えてください。それから、ほかのことをみんな教えてくれる人を遣わしてください」と言っているのではないのです。

もちろん、関心を持ってくれる方々は大歓迎ですし、わたしたちの教義と信仰についてもっと教えてほしいと思う方は増えてくることでしょう。そのような理由で、教会には、自費で奉仕する専任宣教師が世界中に5万3,000人以上いるのです。

しかし、関心と単なる好奇心には違いがあることを覚えておく必要があります。単にどんな教会なのか知りたいというだけの人もいます。このように漠然とした好奇心しかない人たちにも、教会員であるわたしたちが直接、正しい情報を明確に提供する必要があります。そうしなければ、メディアや外部の人による不十分な答えや事実の一部しか含んでいない話、あるいは誤った情報に頼らざるを得なくなります。教会に関して多くの誤解や誤った情報があるのは、ある面で、わたしたち自身が、どんな人間で何を信じているかを、はっきり説明していないせいでもあるのです。

わたしが奉仕する教会の広報委員会には、教会の現状について基本的なことを知りたいという人たちに、簡単明瞭に説明することが非常に必要であると認識しています。わたしたちが見つけた効果的な方法を紹介します。宗教の異なる友人や知人に、わたしたちの信仰について説明するために、自分で簡単なテーマを

リストアップしておく助けになります。わたしも実行しているのですが、現在の教会に関する情報を1枚の紙にまとめ、信仰簡条のコピーと一緒に渡すのも役に立つことでしょう。

これから話す4つのテーマは、教会の基本的なことについて説明する際に役立ちます。それぞれのテーマについて、簡単な説明が付け加えてあります。これは教会についてほとんど知らない人が読んだり聞いたりすることを想定して書きました。その4つとは、教会の「概要」「信仰」「家族」そして回復された福音の「実」です。

●概要

教会の「概要」には、以下が含まれるでしょう。

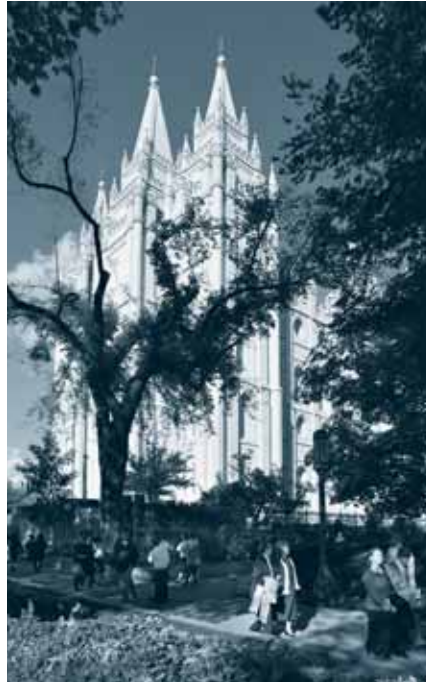
1. 「モルモン」という名は、末日聖徒イエス・キリスト教会の通称です。会員はよく「モルモン」「末日聖徒」あるいは「LDS」と呼ばれています。「聖徒」というのは「会員」という意味です。
2. 教会は、ジョセフ・スミスを最初の預言者および大管長として、1830年、ニューヨーク州北部で回復されました。今日の預言者はゴードン・B・シンクレー大管長であり、教会本部はソルトレーク・シティーにあります。
3. 現在、176の国と地方に1,300万人以上の教会員がいます。そのうち600万人がアメリカに住み、キリスト教としてはアメリカで4番目に大きい宗派です。世界で最も成長しているキリスト教の教会の一つであり、休日を除いて1日1つのペースで新しい教会堂が完成しています。会員は、収入の10パーセントを什分の一献金として納め、そのお金は、教会堂の建設やその他の活動に使われています。
4. 各地の教会は、会員の無給の奉仕によって運営されています。男性も女性も、割り当てを受けて、指導的な立場で奉仕します。
5. モルモンは政治の舞台でも活躍しています。(例えばアメリカの連邦議会では、二つの党から合計16人の議員が活動し

ています。)教会員は、世界中で、ビジネス、医学、法律、教育、スポーツ、芸能などの分野で高い地位に就き、信頼を得ています。

●信仰

次に知ってもらうとよいテーマは、わたしたちの「信仰」についてです。わたしたちは伝統的な価値観を重んじる敬虔なクリスチャンです。信仰簡条とともに、次の点も説明しましょう。

- わたしたちは、魂が永遠であって、神がわたしたちの霊の御父であられ、わたしたちは死後再び神のみもとへ戻れることを信じています。
- わたしたちは、イエス・キリストをわたしたち一人一人の救い主であると信じ、イエスとその教えに従って生きようと努力しています。日曜日の礼拝では、ほかの教会の聖体拝領に似た方法で、キリストの贖いの犠牲を記念します。わたしたちは、イエス・キリストを神の御子および全人類の救い主と信じるすべての人を、同じクリスチャンとして受け入れます。クリスチャンの中には、わたしたちとの間に共通点がたくさんあることを知らない人が大勢います。ジョセフ・スミスは、イエス・キリストがわたしたちの信仰の中心であり、それ以外のことは二次的なものにすぎないと教えました。(Elders Journal, 1838年7月号, 44参照) 教会の名称は「末日聖徒イエス・キリスト教会」です。
- わたしたちは、イエスが最初に設立された教会が一度失われ、それが現代に回復されたと信じています。神権、すなわち神の御名によって行動する権能が回復され、わたしたちを導く使徒や預言者、ならびに救いに必要なすべての儀式が回復されました。
- わたしたちは旧約聖書と新約聖書の両方を信じ、使用しています。
- また、モルモン書その他の書物も聖文として信じています。それらは聖書を支持し、その正しさを立証し、キリストの務めとキリストの神性、そして神が現



在も人に啓示を与えられることを証しています。確かにモルモン書は「イエス・キリストについてのもう一つの証」なのです。

●家族

次に知ってもらうとよいテーマは、わたしたちの教義と生活が「家族」を中心としているということについてです。繰り返しますが、教会についてはあまり知らないけれど、教会員が家族を大切にしていることには興味があるという人には、簡潔な説明が効果的です。

- モルモンは、家族を教会と社会の基本的な単位として特に強調しています。わたしたちは、(一人の男性と一人の女性の結びつきという意味での)結婚を非常に重視しています。一夫多妻は教会初期の開拓時代にごく限られた規模で行われていましたが、今からおよそ117年前の1890年に廃止されました。
- 教会員も、そうでない方も、礼拝堂で行われる日曜日の礼拝に家族で、あるいは個人で参加することができます。教会ではともに礼拝し、互いに聖文から教え合います。
- 末日聖徒の家族では、毎週1度、通常は月曜の夜に、家庭の夕べを行うように奨励されています。家庭の夕べは、親

が子供たちに価値観を教え、一緒に楽しむための時間です。教会員でない方々にも、家庭生活にぜひこの活動を取り入れてくださるようお勧めします。

- 教会には、家族を支援するために、女性、青少年、子供のための組織があります。これらの組織は、宗教教育、クリスチャンらしい奉仕、スポーツ、演劇、音楽、ボーイスカウトなどを行う機会を提供しています。
- 教会はまた、親族関係、系図、家族歴史にも重点を置いていて、そのため、年配の人も若者も、先祖や家族への強い帰属意識を持っています。教会で最も神聖な儀式は、生きている家族にも、亡くなった家族にもかかわるもので、そのような儀式の幾つかは神殿で行われます。

●実

このように、「教会の概要」や、教会員の「信仰」や「家族」の大切さについてより正確な知識を得てもらうことは非常に大切です。しかし、救い主は「あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである」と言われました(マタイ7:20, 強調付加)。どの教会も、そのほかの生き方も、その「実」、つまり、それがもたらす結果によって判断されるべきです。アメリカの統計から例を挙げてみましょう。しかし、(定期的に教会に出席し、神殿に参入している)敬虔なモルモンなら、世界中どこでも同じようなことが言えるでしょう。

- 教会員の享受している実の一つは 寿命が長いことです。様々な研究から、敬虔なモルモンは全国平均よりも健康で、長生きすることが分かっています。1833年、主はジョセフ・スミスに、知恵の言葉という、健康で長生きする生き方を示されました。
- 第2の実は、神殿で結婚していて定期的に神殿に参入している夫婦の離婚率が全国平均および世界平均に比べてずっと低いということです。
- 第3の実は、教育レベルが全国平均より高いということです。

- 第4の実は、7万人以上の会員が自発的に、自費で1年半あるいは2年間、人道支援や、教会の奉仕の割り当て、専任の伝道活動のため世界中で奉仕していることです。
- 第5の実は、自立と仕事に対する高い倫理観を非常に重視していることです。教会員は、地域社会の活動に積極的に参加して、奉仕するよう勧めています。教会として世界的人道的救済のために多くの資金や物資、サービスを提供しています。それだけではなく、会員は災害の後片付けや救援活動に、膨大な時間を提供しています。

兄弟姉妹の皆さん、わたしは、忙しい現代社会では、一度に2つか3つ以上の情報を読んだり、注意を向けたりする人はほとんどいないということに気づきました。友人や知人に教会の何について紹介するか決め、それを書き出し、内容が正しいことを確認してください。簡略に短くすることが大切です。

教会の評判が高まり、教会に関する問い合わせが増えている今こそ、皆さんが架け橋となり、人と親しくなり、正確な情報を提供するのにとってもよい機会です。しかし、同時に、わたしたち自身とわたしたちの信仰に関する情報を自分たちが伝えず、外部の人が伝えるままにするなら、誤解や、時には偏見さえ生んでしまう大きな危険もはらんでいるのです。

一般的に言って、教会員を直接知っている人たちは大丈夫です。しかし、教会員をだれも知らない人たちが何百万人もいるのです。わたしは教会についてほとんど何も知らないそのような人たちが、教会についてもっと知りたいという気持ちになるように願っています。そのような人たちが教会員と知り合いになるように、また、無知な人たちや、場合によっては故意に欺き中傷する人が流す、誤った情報に基づいてわたしたちを判断しないように願っています。

皆さんは教会員として、それを実現させることができます。そのために、人々と交わり、信仰箇条にある基本的な情報を伝



え、さらに、教会の概要、信仰、家族、福音の実を紹介してください。

また、わたしたちがどう生きているか、そして福音の喜びでどれほど輝いているか、人とどのように接しているか、またキリストの教えにどれほど誠実に従っているかが、人々の質問に答える最善の方法になり得ることも覚えておくべきです。

この教会のことについて、ここで話した基本的なことよりもさらに深く知りたい人については、宣教師に連絡して、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の第3章にある教義を教えてください。宣教師はそのような人の質問により詳しく答える方法を知っていて、そのような人を改宗とバプテスマに導くことができます。

今こそ、わたしたち一人一人が、人々と交

わり、自分について話すべき時です。今日話したような簡単な情報を書き出して、教会について少し知りたいと思っている人たちの質問に答え、福音の回復についてもっと知りたくなるように導いてください。

兄弟姉妹の皆さん、躊躇することなく、愛をもって誠実に証を述べてください。証はだれにも否定できません。証を聞いて、もっと知りたいと思うようになった人が大勢います。わたしはそれが真実であることを知っています。また、末日聖徒イエス・キリスト教会が真実の教会であることをわたしが知っているという確かな証を皆さんに残し、イエス・キリストの御名によってこのことを皆さんに証言します。アーメン。

いちばん大切な戒め

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン長老

天の御父の子供である最も小さい者を助けるために努力するとき、それは主にしていることとなります。



兄 弟姉妹の皆さんに、とても大切な質問の一つします。「末日使徒イエス・キリスト教会の会員はどのような人々ですか」という問いに対する最も正確な答えは何でしょうか。

今日はこの問いの答えについて話します。

紀元1世紀、発展著しいコリントの教会の会員は、福音にとっても熱心でした。会員のほとんどが最近の改宗者で、その多くが使徒パウロやそのほかの伝道者を通して福音に引きつけられた人々でした。

しかし、コリントの聖徒は議論好きでもあり、論争が絶えませんでした。人を見下したり、互いを裁判に訴えたりすることもありました。

パウロはこれ聞いて失望し、もっと一致するようにと嘆願する手紙を書きました。パウロはコリントの教会員の間で論議の的となっている多くの質問に答えました。そして、その手紙の最後の方で、「最もすぐ

れた道」を示したいと語りました。¹

それに続けてパウロが書いた言葉を皆さんは覚えていますか。

彼はこう語っています。「たとえわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じである。」²

パウロから当時の新しい聖徒へのメッセージは、慈愛がなければ何をして同じであるという、簡潔で直接的なものでした。異言を語り、預言の賜物を持ち、あらゆる奥義を理解し、すべての知識を得たとしても、また、たとえ山を動かす信仰があったとしても、慈愛がなければ、何の益にもならないのです。³

「この慈愛はキリストの純粋な愛である[る]。」⁴ 救い主は、御自身をさげすみ憎む人々から迫害されたときですら、この愛を実践し、教えられました。

あるとき、パリサイ人がイエスをわなにかけようと、答えられそうにない質問をしました。「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。」⁵

パリサイ人はこの質問について議論を重ね、600以上の戒めを数え上げていました。⁶ 学者ですら、それらに優先順位を付けるのは大変でした。それで、ガリラヤ出の大工の息子が答えるなど不可能に決まっていたと考えたのです。

ですから、主の答えを聞き、弱点を指摘されたパリサイ人は、当惑したはずで、主は言われました。

「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいまし

めである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者が、かかっている。』⁷

その日以来、この靈感あふれる宣言は何世代にもわたって繰り返されてきました。現在、わたしたちにとって、愛の大きさは、魂の偉大さを測る尺度です。

聖文にはこうあります。「人が神を愛するなら、その人は神に知られているのである。」⁸ 何とすばらしい約束でしょう。神に知られるのです。自分が天地の創造主に知られ、純粋にまた永遠に愛していただけと考えると、胸が高鳴ります。

1840年、預言者ジョセフは十二使徒への手紙の中で次のように教えました。「愛は神の大いなる特質の一つであり、神の息子となることを望む人々が示さなければならぬものです。神の愛に満たされた人は、自分の家族に祝福を与えるだけでは満足せず、全人類に祝福を与えたいと望み、全世界を巡ります。」⁹

周囲の人を愛するとき、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という、偉大な戒めの後半部分を果たしているのです。¹⁰

この二つの戒めは両方とも必要です。なぜなら、わたしたちが互いの重荷を負い合うときに、キリストの律法が成就するからです。¹¹

弟子の道は愛に始まり、愛に終わります。愛は慰め、助言、癒し、安らぎを与えます。死の陰の谷を通り、死のとばりを越えるときにも、わたしたちは愛によって導かれ、最終的に、栄光と威厳に満ちた永遠の命へと導かれるのです。

わたしにとって、預言者ジョセフ・スミスはキリストの純粋な愛を常に身をもって示す模範でした。非常に多くの人々がジョセフに従い、離れて行かないのはなぜだろうと、ジョセフはたくさんの人から尋ねられました。彼の答えはこうでした。「わたしに愛の原則があるからです。」¹²

ある14歳の少年の話です。彼はノーブーの近くに住む兄を捜しにやって来ました。少年が到着したのは冬で、お金も



なく、友人もいませんでした。だれかに兄のことを尋ねると、ホテルのような大きな家に連れて行かれました。そこで一人の男性に会い、次のように言われます。「入りなさい。わたしたちが君の面倒を見てあげよう。」

少年はその言葉に甘えて中に入り、食事をし、体を温め、ベッドで休ませてもらいました。

翌日は身を切るような寒さでしたが、少年は兄が滞在している町まで13キロの道を歩くために準備をしました。

家の主人はその様子を見ると、もうしばらくとどまるように言いました。もうすぐ幌馬車ほろばこが来るから、その幌馬車が帰るときに乗せてもらえばいいと言うのです。

少年は「お金がないですから」と言って辞退しましたが、主人は「心配ない、わたしたちが面倒を見るから」と言いました。

後に少年は、この家の主人こそほかならぬモルモンの預言者、ジョセフ・スミスであったということを知りました。少年は残りの生涯この慈愛に満ちた行為を忘れませんでした。¹³

モルモンタバナクル合唱団の「ミュージック・アンド・スポークンワード」の最近のメッセージで、結婚して何十年にもなる老夫婦の話が語られました。妻は少しずつ

視力が衰え、これまで長年してきたように、自分の身の回りのことができなくなりました。夫は妻から頼まれたわけでもないのに、妻のつめにマニキュアを塗ってあげるようになりました。

「目の前で指先をかざすと妻にはつめが見えること、そしてマニキュアが塗ってある自分のつめを見ながらほほえむことを夫は知っていました。夫は喜ぶ妻を見るのが好きでした。そこで、妻が亡くなるまで5年以上の間、マニキュアを塗り続けました。」¹⁴

これはキリストの純粋な愛の一例です。最も偉大な愛は、詩人や作家が描く劇的な場面には見いだせないことがあります。最も偉大な愛は、わたしたちが人生という旅路で出会う人々に示す素朴な親切と思いやりの中に見られることが多いのです。

真の愛は永遠に続きます。それは永遠の忍耐ひるみと救済であり、すべてを信じ、望み、堪え忍びます。それは天の御父がわたしたちに対して抱いておられる愛です。

人は皆、そのような愛を切望しています。過ちを犯したとき、自分に欠点があって、愛されるに値しないときにこそ、愛されたいと望むのです。

欠陥だらけの自分でも、天の御父が愛してくださっていると知っているわたした

ちは、何と祝福されていることでしょう。御父の愛は深く、わたしたちが自分自身を見捨てたとしても、御父は決してお見捨てになりません。

わたしたちは自分自身の過去と現在の姿を見ます。天の御父は永遠という観点から御覧になります。わたしたちは低い次元で満足するかもしれませんが、天の御父は違います。御父はわたしたちの輝かしい可能性を御覧になっているのです。

イエス・キリストの福音は変化の福音です。この福音は、地上の存在であるわたしたち人間を精錬し、永遠の存在へと変化させます。

人はキリストのような愛を示すことによって精錬されます。この愛に、和らげることのできない痛み、取り除くことのできない苦しみ、消すことのできない憎しみはありません。ギリシアの劇作家ソフォクレスはこう書いています。「人生のあらゆる重荷と苦痛から解放する一つの言葉がある。その言葉とは愛である。」¹⁵

人生で最も大切で神聖な瞬間は、愛の精神にあふれた瞬間です。わたしたちの愛が大きければ大きいほど、喜びもそれだけ大きくなります。結局のところ、そのような愛をはぐくむことが、人生の善しあし悪しを測る真の尺度なのです。



大会で指導者の言葉を聴くことを心待ちにしている、インド、ニューデリーの姉妹たち。

皆さんは主を愛していますか。

主とともに時間を過ごしてください。主の御言葉について深く考えてください。主のくびきを負ってください。理解と従順を求めてください。「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ること」¹⁶ だからです。主を愛するなら、従順は重荷ではなく、喜びになります。主を愛するなら、自分の利益を求めなくなります。人々を祝福し、高める事柄に心を向けるようになります。

主への愛が深まるにつれて、思いと心が清められます。「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、……わたしたちの心の中に大きな変化」¹⁷ が生じます。

兄弟姉妹の皆さん、調和と霊性を増し、神の王国を築くために何ができるか祈りの気持ちで考えるときに、主と隣人を愛するよう人々に教えるという神聖な義務について考えてください。これこそわたしたちが存在する最大の理由なのです。慈愛、すなわちキリストの純粋な愛がなければ、どのようなことを成し遂げたとしても、無に等しいのです。慈愛があれば、すべてのものが活気づき、いきいきしてきます。

心を愛で満たすように人々に勧め、教えると、自己犠牲や奉仕という形で、内から外へ従順の精神が流れ出します。そう

です。例えば、責任感でホームティーチングに行く人は、義務を果たすかもしれません。でも、主と同胞に対する本物の愛からホームティーチングを行う人は、非常に異なる態度で取り組むことでしょう。

最初の質問に戻しましょう。「『末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はどのような人々ですか』という問いに対する最も正確な答えは何でしょうか。』わたしならこう答えます。わたしたちは心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして主を愛し、自分を愛するように隣人を愛する民です。

これがこの民の際立った特徴です。わたしたちがだれの弟子であるかを世に示すかがり火のようなものです。¹⁸

終わりの日に、救い主はわたしたちがどのような召しを受けたかについてはお尋ねになりません。この世での財産や名声についてもお尋ねになりません。主がお尋ねになるのは、わたしたちが病人を癒したか、飢えた人々に食物や飲み物を与えたか、獄にいる人々を訪れたか、疲れている人々を助けたかについてです。¹⁹ 天の御父の子供である最も小さい者を助けるために努力するとき、それは主に行っていることになります。²⁰ それがイエス・キリストの福音の真髄なのです。

もしほんとうの愛し方を知りたいければ、

救い主の生涯について深く考えさせればよいのです。聖餐の象徴にあずかるときに、わたしたちは世界の歴史を通じて最も偉大な愛の模範を思い起こします。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。」²¹

救い主はわたしたちを深く愛するがゆえに、「神であって、しかもすべての中で最も大なる者であ[りながら]、苦痛のためにおのき、あらゆる毛穴から血を流」されたのです。²²

救い主がわたしたちのために命を捨てられたので、²³ わたしたちには、現世の生涯を終えた後で再び救い主とともに住めるという、輝かしい希望と、確信と安心感があります。イエス・キリストの贖いを通して、罪から清められ、全能の父なる神の賜物にあずかる者となれます。そのとき、神が「ご自分を愛する者たちのために備えられた」²⁴ 栄光を知ることができるのです。

これが人を変える慈愛の力です。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」²⁵ という新しい戒めをイエスが弟子たちに与えたとき、現世の幸福と来世の栄光を得るための重要な鍵をお与えになったのです。

愛はすべての中でいちばん大切な戒めです。ほかのすべてが、それに懸かっています。それは生けるイエス・キリストに従う者が焦点を合わせるべき戒めなのです。愛という特質を極めるなら、人生は非常に改善されることでしょう。

わたしは証します。神は生きておられます。神の愛は無限であり、永遠です。その愛は神のすべての子供たちに注がれています。神は人を愛するがゆえに、今の時代の人を導く預言者と使徒を与えてくださいました。神はわたしたちを教え、慰め、鼓舞するために、聖霊を与えてくださいました。

神は人に聖文を下さいました。キリストの純粋な愛を理解する心を一人一人に与えてくださったことに、わたしは語り尽くせないほど感謝しています。

わたしたちの心はその愛で満たされますように。天の御父と人々に、新たな目と新たな信仰をもって近づくことができます

ように。そうするなら、これまで以上に人生が豊かになるのを目の当りにすることができることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 1コリント12:31
2. 1コリント13:1
3. 1コリント13:1, 2参照
4. モロナイ7:47
5. マタイ22:36
6. See フレデリック・W・ファーラー, *The Life of Christ*(ソルトレーク・シティ: Bookcraft(1994年), 528-529参照
7. マタイ22:37-40
8. 1コリント8:3
9. *History of the Church*, 第4巻, 227
10. ガラテヤ5:14
11. ガラテヤ6:2参照
12. *History of the Church*, 第5巻, 498
13. マーク・L・マッコスキー, *Remembering Joseph: Personal Recollections of Those Who Knew the Prophet Joseph Smith*(2003年), 57
14. "Selflessness," 2007年9月23日放送のミュージック・アンド・スポークンワード。http://www.musicandthespokenword.com/messagesで入手可能
15. *Oedipus at Colonus, The Oedipus Cycle* に収録, ダドリー・フィッツ, ロバート・フィッツジェラルド共訳, (ニューヨーク: Harcourt, Brace & Company, 1949年), 161-162
16. 1ヨハネ5:3
17. モーサヤ5:2
18. ヨハネ13:35参照
19. マタイ25:31-40参照
20. マタイ25:40参照
21. ヨハネ3:16
22. 教義と聖約19:18
23. ヨハネ15:13参照
24. 1コリント2:9. イザヤ64:4も参照
25. ヨハネ13:34

打ち砕かれた心と悔いる霊

七十人

ブルース・D・ポーター長老

打ち砕かれた心と悔いる霊を持った人は、神のおっしゃることであれば何であれ、抵抗せず、怒ることなく、喜んで行きます。



どれほどジョセフ・B・ワースリン長老のことを愛していることでしょうか。1899年、詩人のラドヤード・キップリングは、大英帝国に向けて高慢に対する警告の言葉を記しました。

喧騒と叫び声がやみ、
司令官や王は世を去っても、
いにしへの主の犠牲と、
へりくだり悔いる心は残る。
(God of Our Fathers, Known of Old, *Hymns*, 80番)

キップリングが「いにしへの犠牲」としての悔いる心について話したとき、詩篇第51篇にあるダビデ王の次の言葉が心にあったのかもしれませんが。「神の受けられ

るいけにえは砕けた魂です。……砕けた悔いた心[です]。(詩篇51:17)ダビデのこの言葉から分かるように、主の民は、ささげるべきは心であり、燔祭だけでは十分でないことを、旧約聖書の時代にすでに理解していました。

罪ある人類を神と和解させることができになったのは救い主だけであり、モーセの神権時代に命じられていた犠牲は、このメシヤの贖いの犠牲を象徴しています。アミュレクは次のように教えています。「見よ、これが律法の目的そのものであり、すべての部分がこの大いなる最後の犠牲を指し示している。……[それが]神の御子である……。」(アルマ34:14)

復活したイエス・キリストは新世界の人々にこう宣言されました。

「あなたがたの犠牲と燔祭は取りやめなさい。わたしはこれから、[それらを]受け入れないからである。

あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲としてわたしにささげなさい。打ち砕かれた心……をもってわたしのものに来る者に、わたしは……火と聖霊によってバプテスマを授けよう。」(3ニーファイ9:19-20)

打ち砕かれた心と悔いる霊とは何でしょうか。なぜそれが犠牲と見なされるのでしょうか。

すべてについて言えることですが、救い主の生涯は、わたしたちにとって完全な模範となっています。ナザレのイエスに



はまったく罪がありませんでしたが、御父の御心みこころに従った生涯に示されるとおり、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって生活されました。「わたしが天から下ってきたのは、自分のこころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。」(ヨハネ6:38)主は弟子に言われました。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、……わたしに学びなさい。」(マタイ11:29)贖いに不可欠な究極の犠牲を払う時が来たとき、キリストは身を引くことなく苦い杯を飲み、完全に御父の御心に従われました。

救い主は完全に永遠の御父に従順でした。それこそが、打ち砕かれた心と悔いる霊の完全な模範です。キリストの模範は、わたしたちに、打ち砕かれた心が神の永遠の属性の一つであることを教えています。心が打ち砕かれているとき、人は神の御霊をこごとく受け入れ、自分があらゆる点で神に依存していることを認識します。そのために求められる犠牲は、いかなる形であれ高慢を捨て去ることで、熟練した陶器職人の手にあって、容

易に形を変えられる粘土のように、打ち砕かれた心を持つ者は、主の手の中で形作られ、磨かれるのです。

打ち砕かれた心と悔いる霊は、悔い改めの必須条件でもあります。リーハイはこう教えました。

「したがって、贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる。……

見よ、メシヤは律法の目的を達するため、打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために、罪に対する犠牲として御自身をささげられる。このような人々のためにしか、律法の目的は達せられないのである。」(2ニーファイ2:6-7)

罪を犯して赦しを願うとき、打ち砕かれた心と悔いる霊とは、「悔改くいあらために導く」[「神のみこころに添うた悲しみ」]を体験することを意味します(2コリント7:10)。それは、罪から清められたいという思いが非常に強いために、心が悲しみで痛み、天の御父による平安を感じたいと切望するときにもたらされます。打ち砕かれた心と悔いる霊を持った人は、神のおっしゃることであれば何であれ、抵抗せず、怒

ことなく、喜んで行きます。自分の方法で行うのをやめ、神の方法で行うようになります。このように従順であるとき、贖いは効力を発揮し、真の悔い改めができます。すると悔い改めた人は、聖霊の聖めの力を受けて、良心の平安と、神と和解できた喜びで満たされるのです。神聖な属性が見事に調和している神は、打ち砕かれた心をもって歩むようにと教えると同時に、喜び、元気を出しなさい、とも言っておられます。

罪の赦しを受けると、打ち砕かれた心は誘惑に対する神の盾として働きます。ニーファイはこう祈りました。「わたしの心は打ち砕かれており、わたしの霊は悔いていますので、地獄の門がいつもわたしの前に閉じていますように。」(2ニーファイ4:32)またベニヤミン王は、心底謙遜けんそんにへりくだって歩むなら、喜びを感じ、「神の愛で満たされ、またいつも罪の赦しを保てるであろう」と民に教えました(モーサヤ4:12)。わたしたちが心を主にゆだねるとき、世の魅力はたちまちにしてその輝きを失います。

打ち砕かれた心には、キリストがわたしたちのために受けてくださった苦しみに対する深い感謝の念を持つというもう一つの特徴があります。ゲツセマネで救い主は「万物の下に身を落とす」し(教義と聖約88:6)、全人類の罪の重荷を負われました。ゴルゴタで、主は神の子供たちへの完全な愛のゆえに、「死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし」、その偉大な心臓は文字どおり砕かれました(イザヤ53:12)。救い主とその苦しみを思い出すとき、わたしたちの心も、油注がれた者への感謝で打ち砕かれるのです。

自分が持っているものすべて、そして、今の自分自身のすべてを主に犠牲としてささげるとき、主はわたしたちの心を平安で満たしてください。「心のいためる者をいやし」てください(イザヤ61:1)、「どんな甘いものよりも甘く……どんな清いものよりも清い」神の愛をもってわたしたちを祝福してください(アルマ32:42)。これらのことをイエス・キリストの御名なによって証あかしします。アーメン。

『わたしの福音を の 宣べ伝えなさい』—— 会員と宣教師をつなぐ道具

七十人

エリック・W・コピシュカ長老

宣教師と会員は、……一つとなって福音を宣べ伝える業に携わらなければなりません。



先日、二人の姉妹宣教師を我が家の昼食に招きました。食事の後で、霊的なメッセージを伝えてくれるように頼みました。よく準備のできていた彼女たちは、聖文を読んで印を付ける方法を紹介してくれました。二人は新しいモルモン書を1冊と色鉛筆を1箱持って来ていました。わたしたちは宣教師が勧めてくれたとおりに行うことにしました。以来、毎日家族でモルモン書を読む方法が変わりました。すべての章で、イエス・キリストに関する箇所を見つけては様々な色で印を付けるようになったのです。この方法で聖文を読む度に、あの宣教師たちを思い出します。

宣教師たちがこの活動を紹介してくれたとき、すぐにそれが『わたしの福音を宣べ伝えなさい』に提案されている聖文研究の方法であると気づきました。わたしたち家族は、このすばらしく、力強い伝道ツールに感謝しています。

これまでの3年間、世界中の宣教師が『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を活用してきました。これにより、伝道活動が飛躍的に変わりました。ヒンクレイ大管長の偉大な展望が成就しつつあります。それは、宣教師が「レッスンの概念を完璧にマスター」することであり、「聖なる御霊の導きの下に自分自身の言葉で概念を教える」ということです（「伝道活動」『世界指導者訓練集会』2003年1月11日、19参照）。

宣教師は、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を深く研究することにより、伝道という重要な務めをさらによく果たすうえで役立つ、大切な教義や原則を学び応用できるようになります。とはいえ、宣教師には会員からの様々な助けと支えが必要です。宣教師と会員の力を合わせて初めて、わたしたちは「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」という古代と現代の使徒に与えられた偉大な命令を果たすことができるのです（マルコ16:15）。

これらの努力が実を結ぶためには、会員と宣教師が一つになり、互いに理解し

合う必要があります。皆さんは宣教師を常に理解しているでしょうか。わたしが言いたいのは言語のことではありません。彼らがどのように伝道しているかを理解しているかということです。宣教師が福音を聞くよう人々に勧める姿は、わたしたちにとって見慣れた光景です。彼らのする事をわたしたちは注意深く見ています。宣教師は福音の原則を教え、興味を抱いた人には、生活を変えてバプテスマを受け、教会の会員として確認の儀式を受けるように勧めています。

彼らを理解して助けたいと望むなら、わたしたち会員も宣教師が信仰を抱くように信仰を抱き、宣教師が考えるように考え、宣教師が感じるように感じなければなりません。どのようにすればよいでしょうか。

宣教師のそばで彼らのすることを見ることも、もちろん有効な方法です。しかし、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』をよく学び、伝道活動について知識を深めるという方法もあります。マッケイ大管長が「すべての会員は宣教師である」と述べて以来（Conference Report, 1959年4月号, 122）、会員はより積極的に福音を人に伝えるように努めてきました。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は、この勧めを実践するうえでさらにより助けとなるすばらしいガイドです。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を自ら進んで研究するなら、宣教師への理解と感謝を深められるだけでなく、自身の生活でも助けを受けられるでしょう。

我が家では、家族の全員が『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を持っています。この書物を研究することは、わたしたちが強い証をはぐくむのに大いに役立っています。根本的な福音の原則と、主に仕えたいという熱意を理解できるようになります。ここで、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』(iii)に載っている見出しを幾つか紹介しましょう。

このような見出しがあります。

御霊を認識し、理解するにはどうしたらよいでしょうか。

効果的に研究し、教える準備をするに



カナダで大会に参加する宣教師たち。

はどうしたらよいでしょうか。

何を研究し、教えたらいでしょうか。

モルモン書の役割は何でしょうか。

キリストのような特質を伸ばすにはどうしたらよいでしょうか。

これは皆、だれもが学びたい事柄ではないでしょうか。より良い会員宣教師となり、宣教師を手助けする方法を学びたい人にとって、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』には力強いアイデアや考え方が満載です。宣教師が教える人々を見つけるために会員には何ができるのか、また、どのように宣教師と力を合わせれば教会について学んでいる人々を助けることができるのかを知ることができます。そのほか、行動を起こすように力強く勧めることがイエス・キリストを信じる信仰を増すのに役立つのはなぜか、教会について学びながら、改心という、生活を変える偉大な過程を経験している友人を助けるにはどうすればよいのか、といったことが分かるようになります。

宣教師は毎日、聖文研究に加えて『わたしの福音を宣べ伝えなさい』も勉強して

います。原則や技術を学び、日々の伝道で応用しています。また特に、伝道活動において御霊の導きを取り入れる方法を学んでいます。宣教師が学んでいるように学びたいければ、わたしたち会員も『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を注意深く研究し、宣教師の日々の働きを観察しなければなりません。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の「はじめに」にはこのようにあります。——「『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は、教会の専任宣教師のために作成されています。しかしながら、ここで教えられている原則と教義は、主の王国を築くために働くワード宣教師と指導者にも当てはまるものです。本書をしばしば研究することにより、彼らも会員宣教師としての責任を果たし、専任宣教師との一致を深めることができるようになります。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』xi)

リチャード・G・スコット長老は、すべての会員が『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を注意深く研究すべきだと教え、このように述べています。「『わたしの福音を

宣べ伝えなさい』が導入されてから……非常に多くの事柄が成し遂げられてきました。しかしこの実にすばらしい伝道のツールにすべての人がさらに熟達するとき、このガイドによって収められる成功は、最高潮に達することでしょう。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の持つ力)『リアホナ』2005年5月号, 31)

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の研究に割ける時間は限られているように思えるかもしれませんが。そこで、役に立ちそうな事柄を提案します。

伝道に出る準備をしている青少年は聖文研究をする際に、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』も注意深く研究すべきです。

宣教師を家に招待してください。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の中から一つの原則か教義を教えるよう彼らに頼んでください。

時々、家庭の夕べで『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を活用してください。10代の子供がいれば、宣教師になったつもりで教えてもらいましょう。我が家では、子供たちが目を見張るほどすばらしいレ

ッソンをしてくれたことが何度かありました。子供たちが簡潔な原則を非常に上手に教えたことに驚きました。また、わたしたち家族は時々、そうしたレッスンに友人を招くこともあります。

福音の教義クラスなどで教える教師は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』にまとめられている、福音を教えるための原則を活用することができます。これらは、福音を分かりやすくかつ効果的に教えるうえで役に立つ原則であり、所定の学習コースの補助資料として用いることができます。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は教会員が話すほぼすべての言語に翻訳され出版されています。教会の歴史が浅く規模も小さい国々では、福音を学んだり教えたりするあらゆる場面で、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を聖典とあわせた情報源および基礎資料として用いることができます。

スコット長老は地元の教会指導者に、「……会長会や神権役員会、ワード評議会です……」これらの資料を活用するよう勧告しています(『リアホナ』2005年5月号, 31)。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を訓練、話、霊的なメッセージ、レッスン、ファイヤサイド、個人の研究の資料として活用してください。

伝道に関するこのガイドが神からの靈感によって作られていることを証します。わたしたちは、宣教師とその務めについてよりよく理解できるようにこのガイドをさらに注意深く研究しなければなりません。宣教師と会員は一つの言葉で話さなければなりません。一つとなって福音を宣べ伝える業に携わらなければなりません。そうすることにより、わたしたちはさらによく主の御手に使われる道具となることができます。主はこのように言われました。「同じように、わたしは地の四方からわたしの選民を、すなわち、わたしを信じてわたしの声に聞き従うすべての者を集めよう。」(教義と聖約33:6)

主の教会の会員として、わたしたちは栄光あるこの集合の過程に携わるよう期待されています。イエス・キリストの御名によってこの真理を証します。アーメン。

小さなことから

七千人

マイケル・J・テー長老

主イエス・キリストの弟子として、わたしたちは兄弟姉妹に関心を持ち、奉仕する責任があります。



フィリピン人のすばらしい民から「マブハイ」(こんにちは)。

歴史上最も古く、深遠な質問の一つは、非常に興味深いことですが、カインが弟アベルを殺して間もなく、神から発せられた質問に問い返した言葉です。「わたしが弟の番人でしょうか。」¹ これは主の御心を実践しようと努めている人であれば、当然、真剣に検討すべき質問です。この質問に対する一つの答えはアルマの教えの中にあります。

「あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望……んでいる。」²

主イエス・キリストの弟子として、わたしたちは兄弟姉妹に関心を持ち、奉仕する責任があります。良いサマリア人のたとえ

を話すことで、イエス・キリストは敵を言い伏せただけでなく、御自身に従おうとするすべての人々に偉大な教訓をお与えになりました。わたしたちは自分が影響を及ぼす範囲を広げる必要があります。ほかの人々への奉仕は、人種、皮膚の色、社会的地位、あるいは様々な人間関係とは関係なく行うべきものです。なぜなら、「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい」³ という戒めに、条件はいいさいついていないからです。

有意義な奉仕を行うためには、入念に計画を立て、委員会を組織しなければならないと考えている人が大勢います。もちろん、そのような価値あるプロジェクトの多くが奉仕の機会を提供してくれています⁴が、今日の世界で必要とされている奉仕のほとんどは、日常的な人間相互のつながりと関連しているのです。そのような機会には、通常、家庭や地域社会、そしてワードの中で見いだすことができます。

C・S・ルイスの『悪魔の手紙』で、欺瞞に満ちた大悪魔スクルータイプがおいの見習い悪魔ワームウッドに次のような助言を与えますが、そこに現在のわたしたちの多くを苦しめる共通の問題が描かれています。「君がどうしようと、患者の魂には悪意と同時に慈悲心も幾分生まれるであろう。大切なことは、その悪意を毎日顔を合わせるすぐ近所の人たちに向け、その慈悲心を遠い周辺、すなわち彼の知らない人たちに向けることである。こうして悪意はすっかり本物となり、慈悲心は多分に架空のものとなる。」⁴

だれもが知っている賛美歌の歌詞に完



全な治療法が処方されています。

人の重荷軽くして
わが手貸したるか
病みて疲れし者助け
そこにわれおりしか
天の夢より覚め
善きこと行え
計り知れざる喜びあり
愛と義務の恵み⁵

わたしは恵まれてこれから紹介する出

来事を目の当たりにしました。これらの出来事を通して、わたしは簡単な奉仕によって、わたしたちと、わたしたちから影響を受ける人々が、どのように助けられるかについて学びました。天の御父は、わたしたちが一人取り残され、暗闇くらやみを手探りするところのないように、大切な決断のときに、愛にあふれた助け手を送ってくださいませ。これらの人々は模範と忍耐、愛によってわたしたちを助けてくれます。そのことをわたしは経験から知っています。

わたしはとりわけ大切な決断をしたこと

を覚えています。専任宣教師として伝道に出るという決断です。この決断を下すのにかなり長い時間がかかりました。どちらの道を選ぶべきか悩み苦しんでいたときに、家族、友人、神権指導者が助けの手を差し伸べてくれました。わたしを激励し、鼓舞し、わたしのために数え切れないほど多くの祈りをささげてくれました。専任宣教師として奉仕していた姉は定期的に手紙をくれました。その手紙が滞ることはありませんでした。

今でも、わたしは善良な人々から支えられています。だれもが同じような経験をしているのではないかと思います。わたしたちは皆、天の家に戻ることができるように、ある程度まで、互いに依存し合っているのです。

福音のメッセージを分かち合うことは、わたしたちと信仰を異にする人々に奉仕する最も報いのある方法の一つです。子供のころに知り合った人の話をしましょう。ここでは彼をフレッドおじさんと呼びます。

わたしが6歳のころ、フレッドおじさんはわたしにとって最悪の悪夢でした。おじさんは近所に住んでいて、いつも酔っ払っていました。フレッドおじさんの大好きな趣味の一つは、わたしの家に石を投げ込むことでした。

母は料理がとても上手だったので、わたしたちの小さな支部の独身会員たちをよく家に招きました。ある日のこと、フレッドおじさんが酒に酔っていないときに、独身会員たちはおじさんと仲良くなり、わたしの家に招待しました。わたしはぞっとしました。家の外ではなく、中に入ってくるのです。そのようなことが何度もあり、独身会員たちはフレッドおじさんを説得して宣教師の話聞くように導いたのです。おじさんは福音を受け入れ、バプテスマを受けました。フレッドおじさんは専任宣教師として奉仕し、名誉の帰還を遂げ、教育を受け、神殿で結婚しました。今では、義にかなった夫、父親、そして神権指導者となっています。今のフレッドおじさんの姿からは、かつて彼が6歳の男の子に悪夢をもたらしていたなんて、想

像できないでしょう。わたしたちが、福音を分かち合う機会にいつも敏感でいられるように願っています。

わたしの母は、必要な物を与えて人を助けるという点で偉大な模範でした。母から大切なことをたくさん教わりました。生涯にわたって最も影響を与えてくれた一つの教訓は、我が家を訪れる貧しい人はだれでも助けたいという母の心からの願いです。多くの人がわたしたちの食べ物、衣類、そしてお金すら持って立ち去るのを見るのは嫌でした。わたしはまだ幼く、家も貧しかったので、そのような光景は見たくありませんでした。自分の家族の分さえ十分なのに、どうして他人に与えるのだろうか。自分たちの必要を先に満たすことは間違っているのだろうか。わたしたちはもっと快適な生活を送ってもいいのではないだろうか。

何年もの間、わたしはそのような疑問を抱いていました。母の教えが理解できたのはずっと後のことでした。母は重い病気に苦しんでいたときですら、困っている人々に与えることをやめませんでした。

「それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大いなる業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大いなることが生じるのである。」⁶ ほかの人々に奉仕するのには、華々しい出来事に携わる必要はありません。周囲の人々を慰め、鼓舞し、励まし、笑顔を送るといった、日々の何げない行為こそが奉仕なのです。

わたしたちが人に奉仕する機会をいつも見いだせますように、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

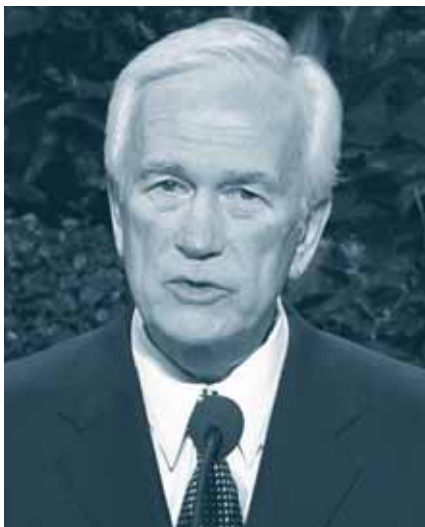
1. 創世4:9; モーセ5:34
2. モーサヤ18:8-9
3. 教義と聖約81:5
4. 『悪魔の手紙』森安 綾・蜂谷昭雄訳, 新教出版社, 55
5. 「今日われ善きことせしか」『賛美歌』137番
6. 教義と聖約64:33

内なる人を生かす 御霊を消してはいけない

七十人

キース・K・ヒルビッグ長老

聖霊を招き入れ、思いが光と知識で満たされると、聖霊はわたしたちを「生かしてください。」すなわち、わたしたちの内なる人に光を注ぎ、活気づけてくださるのです。



テ サロニケ人への第一の手紙第5章で、パウロは聖徒となるにふさわしく行動するよう会員に勧告しました。また、会員が身に付けるべき属性や振る舞いを挙げ、19節では、次のような簡潔な助言を与えています。「御霊を消してはいけない。」

興味深いことに、パウロが書簡を送る約500年前、モルモン書に登場するヤコブという名の預言者が、ある反抗的な民にイエス・キリストの福音を教えようとしていました。ヤコブはこの民に向かって、大胆にも次のような質問を投げかけています。「預言者たちの言葉を拒むのだろうか。……キリストの善い言葉と……聖霊の賜物を否定し、聖なる御霊を退け……るのだろうか。」¹

パウロとヤコブの時代から数えて何世紀も後に当たる今日、わたしたちも同じように日々の生活で御霊を妨げたり、無視したり、消したりしないように気をつけなければなりません。

強い力を持つこの世の誘惑は、細くて狭い道からわたしたちの注意をそらそうとします。敵対する者は、10代の若者であれ、ヤングアダルトであれ、成熟した男女であれ、御霊のささやきに対するわたしたちの感受性を鈍くしようと躍起になっています。人生のどの時期にあっても、御霊、つまり聖霊の果たされる役割はきわめて重要です。

世の初めから、御父は御自身の霊の息子娘一人一人に約束をされました。それは、わたしたち全員が、御自身の愛する御子の贖いと復活を通して神のみもとに帰り、日の栄えの最高の階級において永遠の命の祝福を受け継ぐ可能性を持つという約束です。

わたしたちは皆、昇栄に至るこの旅が長く、困難で、また時には孤独を伴うものとなることを理解していました。しかしわたしたちは、これが独りきりの旅ではないことも知っていました。天の御父は、信仰、悔い改め、バプテスマという条件を満たすすべての人のために、聖霊という伴侶、また導き手を用意してくださいました。

永遠の命に至る道は平坦ではありません。それどころか、前進するには坂を登り続けなければなりません。したがって、



目的地に到達するには、霊的な理解力と活力を常に増し加えることが求められます。サタンによる邪悪な妨害は絶え間なく続くため、光を注いでくださる聖霊の導きを常に受けることがきわめて大切です。わたしたちは、自分から進んで聖なる御霊の導きを妨げたり、無視したり、消そうとしたりはしないでしょ。しかし、聖霊のささやきや、聖霊からもたらされる祝福を日々の生活に取り入れることに関しては、「その特権をほとんど生かしきれていない」² 場合がよくあるのです。

高価な真珠の中でモーセは、バプテスマと聖霊を受けたアダムが「内なる人において生かされた者となった」³ と記録しています。

聖霊を招き入れ、思いが光と知識で満

たされると、聖霊はわたしたちを「生かしてください。」すなわち、わたしたちの内なる人に光を注ぎ、活気づけてくださるのです。⁴ その結果として、わたしたちは自分の魂に計り知れないほどの違いが生じたことに気づきます。強められ、平安と喜びに満たされる思いがします。霊的な力と熱意を持ち、それによって、生来備わっている能力が高められます。自分の力だけではできないことを達成できるようになります。さらに⁵聖い人間になることを切望します。

聖霊を受けた後に与えられる特権を得るために、どのくらいの代価を支えればよいか知りたいですか。その値段は事前に決められても、固定されてもいません。その額は、わたしたち一人一人が自分で決

めるのです。

自分の代価、つまり努力の度合いが少ししかなければ、御霊から与えられる助けのすべてを自分のものとするにはできないかもしれません。また、御霊を消すようなことにもなりかねません！しかし、たくさんの代価を払うなら、あなたは御霊によって豊かな収穫を刈り取るでしょう。わたしの言う代価とはお金のことではありません。それは、個人の霊的な努力や行動に対するさらに強い決心と熱意です。

現時点でどのくらいの代価を支払っているかは、次の質問に対してどのように選択し、優先順位をつけているかで判断できます。

1. 教会への出席や、召しを果たすことよりも、スポーツに多くの時間を割いていないだろうか。
2. 予定のない休日に、神殿に参入することを選ぶだろうか、それともショッピングに行くだろうか。
3. 家族や近隣の人々の役に立つような奉仕をすることよりも、ゲームやインターネットをして時間を過ごしていないだろうか。
4. 新聞は欠かさずに読んでいるのに、聖文を毎日読むのは難しいということはないだろうか。

自分がどのくらいふさわしい選択をし、優先順位をつけているかを明らかにしてくれる質問は、ほかに考え出すこともできるでしょう。

現時点での霊的成長の度合いにかかわらず、手の届くところにさらに高いレベルが存在します。時間はきわめて貴重な財産です。常に聖霊を伴侶とし、聖霊の影響という恩恵をさらに十分に受けるために、もっとたくさんの時間を永遠にかかわる事柄に割くことを考えてみてください。

この勧めに対する答えがはいであるならば、まずはより霊性を高めるために、もっと靈感を強く受け、もっと聖くなりたいたいという強い願望を持つようになります。この望みが心に満ちるときに、わたしたちは天からの助けを受けるために支払う代価を



増やすことを熱望するでしょう。

次に必要なのは、キリストと預言者の言葉に没頭するという努力を絶えず払うことです。さらに熱心に研究するならば、日々の生活にもたらされる聖霊の影響はより強いものとなるでしょう。ペンを手に持ち、聖文を探求し、新たに気づいたこと、感じたことをノートに書き、霊的な促しを記録しましょう。そして、学んだことを個々の生活に**応用**するように努めましょう。御霊が内なる人を生かすようになります。そして、戒めに戒めを加えるように、新たな理解を得ることができるでしょう。

御霊を消さず、むしろ招くために、もう一つできることがあります。頻繁に、そして熱烈に祈ってください。教義と聖約には、救い主の優しく、包括的な約束が記されています。

- 「わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。」
- 「熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。」
- 「求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。」
- 「たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。」
- 「あなたがたがわたしの名によって父

に求めるもので、あなたがたにとって必要なものは何でも、与えられるであろう。」⁵

兄弟姉妹、記されている順序に注目してください。わたしたちは厳密に戒めを守るときに、救い主に近づきます。キリストの御名によって御父に心から嘆願します。そうすることにより、聖霊の促しを通して天からの指示を受け、理解の目が開かれるのです。

断食を行い、**聖餐式**を通して聖約を新たにし、神殿に参入するなら、さらに御霊を受けることができます。このような状況に身を置くときに、聖霊はその力強い影響力を示してくださるのです。

神殿は、個人的な啓示を得ることのできるすばらしい場所です。永遠に関する栄光ある約束と期待に思いを巡らしつつ、可能なかぎり頻繁に参入し、注意深く耳を傾けるならば、わたしたちのために立てられた天の御父の計画について、より深い理解をもって家路に就くことができます。聖霊はわたしたちの視野を広げ、その結果得られる永遠の観点は、わたしたちの日々の決断に影響を及ぼします。

このような努力を払い、御霊を消さないようにするならば、わたしたちの内なる人は生かされます。粘り強く努力するならば、

永遠の命が待っています。だからこそ、わたしたちは不従順や怠慢によって自ら御霊を消すようなことはしないのです。そうではなく、個々の生活において聖霊がその神聖で非常に重要な役割をさらに果たしてくださるようにしながら、「御霊によって生き」ましょう⁶。真心から御霊を求めるときに、静かでありながらもきわめて大切な聖霊の働きを通して、わたしたちがより豊かな恵みを受けられることを証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. モルモン書ヤコブ6:8
2. ブリガム・ヤング, *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィッツツォー選(1954年)32
3. モーセ6:65
4. パーリー・P・プラット, *Key to the Science of Theology*, 第9版(1965年)101参照。「聖霊の賜物は……知的能力をすべて活気づけ、さらには人間の本性である熱情と愛を増し、広げ、清くし、知恵の賜物によって律法にかなった用い方ができるように変えていくのである。」
5. 教義と聖約88:63-64
6. ガラテヤ5:25

唯一のまことの神と、 その神がつかわされた イエス・キリスト

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老

聖文から分かるように、父と子と聖霊が別個の御方であり、御三方が神であられることは明白な事実であると宣言します。



この部会で先ほどバラード長老が述べたように、様々な衝突や争いなどが見られるこの世の中で、末日聖徒イエス・キリスト教会への関心はますます高まっています。主は、この末日の業が「不思議な驚くべきわざ」¹となると昔の人々に言われました。まさにそのとおりです。すべての人に、この業がいかに驚くべきものかをよく知ってもらいたいと願っています。しかし残念なことに、この業について調べながら、わたしたちが「クリスチャン」だということを不思議に思う人がいます。

一般に、わたしたちがクリスチャンかどうかという議論の根本にあるのは、二つ

の教義上の事柄、つまり、わたしたちが持っている神会についての概念と、啓示は今も続いているという信念です。これが正しければ、聖文は完結したものではありませんということになります。この点について、わたしたちは弁解するかのように信仰を擁護する必要はありません。しかし、誤解を受けることは避ける必要があります。そこで、今日は理解を深めていただくため、また、わたしたちがクリスチャンであると世界にはっきりと宣言するために、この二つの教義上の事柄のうちの一つ目について話します。

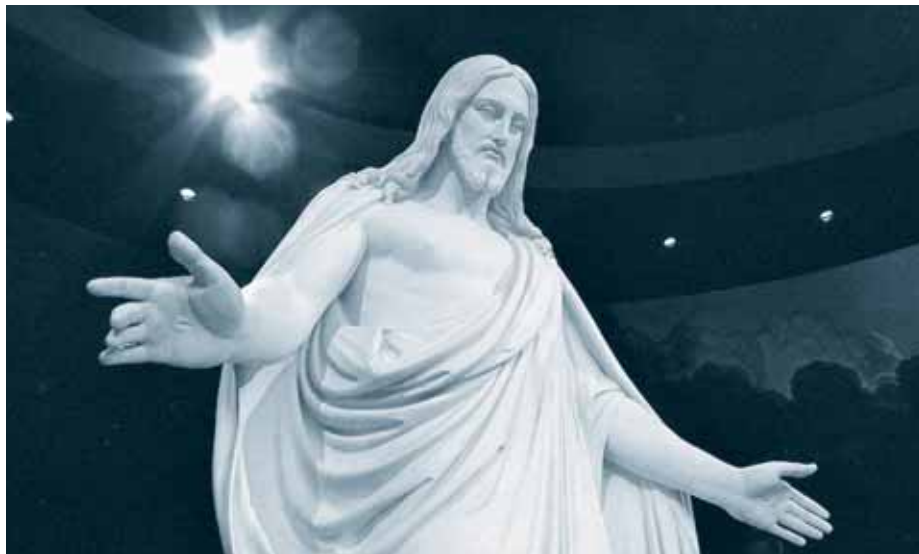
末日聖徒イエス・キリスト教会の信仰簡条は、最初に次の信条を伝えています。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」² わたしたちは、一つの神会を構成するこの3人の聖なる御方が目的や手段、証、使命において一つであられると信じています。この御三方は人類家族を救うための方法、手段、献身の深さにおいても一つであり、神として憐れみと愛、正義と恵み、忍耐、赦し、そして贖いについて同じ思いをお持ちであると信じています。わたしたちの信仰によれば、この御三方が永遠にかかわる重要な事柄において、考え得る限りのすべての点について一致していらっしゃると言って間違いありません。ただし、わたしたちはこの御三方が結合し

て一体となっておられるとは信じていません。三位一体の概念は聖文のどこにも載っていません。なぜなら、それは正しくないからです。

事実、信頼性の高さで定評のある『ハーバー聖書注解』(Harper's Bible Dictionary)には、次のように記録されています。「4世紀から5世紀に教会の大会議で正式に定義された三位一体の教義は、〔新約聖書〕の中には見いだすことができない。』³

ですから、神、キリスト、聖霊に対する末日聖徒イエス・キリスト教会の概念が現代のキリスト教のそれとは異なるとする批判があったとしても、それは末日聖徒が持つキリストに対する概念や信仰についての議論にはなりません。むしろそれは、神会に対するわたしたちの概念が新約聖書以降のキリスト教史に登場するものではなく、イエス御自身の教えに基づくものと認めていることになるのです(的確に認めている、と言ってもいいでしょう)。ここで、新約聖書以降の歴史について説明すると理解しやすいかもしれません。

紀元325年、ローマ皇帝コンスタンティヌスはニカイア(ニケーア)公会議を招集しました。神が「三位一体であられる」とする、当時関心の高まっていた説の真偽などを討議するためでした。牧師や哲学者、高位聖職者たちの間で熱を帯びた議論が繰り返され、その結果生み出されたものが後にニカイア(ニケーア)信条として知られるようになります(この信条は、さらに125年の歳月と3回の公会議の後に完成します)⁴。また、後には「アタナシウス信条」などに形を変えていきました。こうして様々な形を変え、改訂を重ねていったこの信条と、その後数世紀にわたって作られた別の信条が宣言したのは次のようなものでした。「父と子と聖霊は抽象的、絶対的な存在で超越した能力を備えておられる。いかなる場所、いかなる時にも存在し、同じ存在者の異なる表れであり、互いに永遠の存在であり、不可知であり、体も手足も感情もなく、時空を超越しておられる。」これらの信条によると、御三方は別個であるにもかかわらず、一個の存在な



のです。これが、よく言われる「三位一体の謎」というものです。異なる御三方であられるにもかかわらず、3人の神ではなく1人の神なのです。そして御三方は皆、理解不可能な存在であり、かつ理解不可能な御一方の神であられるというのです。

わたしたちは、少なくとも神に対するこのような概念が理解不可能であるという点については、わたしたちを批判する人たちとまったく同感です。このように神の存在について混乱を招くような定義が教会に押しつけられていたのですから、4世紀の修道士が次のように嘆いたのも驚きに当たりません。「悲しいかな。わたしの神が奪われてしまった。……これではだれを礼拝し、だれに祈ればいいのかも分からない。」⁵ 理解不可能なうえに不可知の御方をどのようにして頼り、愛し、礼拝すればよいのでしょうか。その御方ようになるために努力するといっても、どのようにすればよいのでしょうか。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたかわされたイエス・キリストとを知ることであります」⁶ というイエスが天の御父にささげられた祈りはどのように解釈したらよいのでしょうか。

わたしは、いかなる人の信条やいかなる宗教の教義も軽んじるつもりはありません。わたしたちが自分の信条を尊重してほしいと願っているように、わたしたちもほかの人が持つ宗教の教義を尊重しています(これは、この教会の信仰箇条にも書かれています)。しかし、紀元4世紀から5世紀の時代の神会に対する概念を受

け入れていないからという理由で、わたしたちのことをクリスチャンではないと言う人がいるのであれば、生けるキリストをその目で見た初期のキリスト教の聖徒たちについて、どのように理解すればよいのでしょうか。彼らもそのような概念は持っていませんでした。⁷

聖文から分かるように、わたしたちは、父と子と聖霊が別個の御方であり、御三方が神であられることが明白な事実であると宣言します。先ほど述べた救い主による執り成しの祈り、救い主がヨハネの手からお受けになったバプテスマ、⁸ 変貌の山でのご経験、ステパノの殉教。これらの4つの例を挙げるだけでも、これが紛れもない真実であることが分かります。

これらの新約聖書の例や、ほかに知られている例⁸ について読めば、イエスの次の言葉が何を意味するかは問うまでもないかもしれません。「子は父のなされることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。」⁹ 別の場面ではこうもおっしゃっています。「わたしが天から下ってきたのは、自分のこころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。」¹⁰ 御自分に敵対する者についてはこう言われました。「〔彼らは〕わたしとわたしの父とを見て、憎んだのである。」¹¹ そして当然ながら、イエスは常に御父を敬い、その御心に従っておられたので、「なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいかたはただひとりだけである。」¹² 「父がわたしより大きいからであるからである」¹³ とも言わ

れました。

「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。」¹⁴ 「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」¹⁵ など、苦しみの中で語られた言葉を含めて、イエスが地上におられた間、熱烈に祈り求められた相手は一体どなただったのでしょうか。神会の御三方が完全に一致していながらも別個の個性をお持ちだと認めたからといって、多神教の罪を犯していることにはなりません。むしろそれは、イエスが来られ、神の存在の本質について明らかにされた偉大な啓示の一部です。このことを最もよく表現したのは、恐らく使徒パウロの次の言葉ででしょう。「……キリスト・イエス……は、……神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わ[なかつた]。』¹⁶

これと関連して、末日聖徒イエス・キリスト教会をキリスト教の枠の中に入れようとしない人がいるもう一つの理由は、神が栄光に満ちた肉体を持っておられるというわたしたちの信仰です。これは、古代の預言者や使徒も信じてきたことです。¹⁷ 聖文に基づいたこの信条を批判する人に対して、わたしは少なくとも次のような理論的な方法で尋ねます。肉体をお持ちの神という概念が受け入れ難いのであれば、なぜ、主イエス・キリストが肉体をまっとうお生まれになり、贖罪を行い、¹⁸ 肉体の復活をなさったことが、キリスト教のすべての教派が持つ教義の中核であり際立った特徴となっているのですか。神にとって肉体を持つことが不必要なだけでなく望ましくないのであれば、なぜ人類の贖い主が御自身の肉体を死と墓から贖われたのですか。この贖いによって、主の肉体と霊はこの世でも永遠の世でも決して離れることのないものとなったのです。¹⁸ 肉体を持っていらっしゃる神という概念を拒絶するということは、死すべき体をお持ちになったキリストと復活されたキリストの両方を否定するということです。真のクリスチャンを自負する人にこれができるのでしょうか。

わたしの話を聞いている皆さんの中

で、末日聖徒がキリスト教徒かどうかを疑問に感じてきた人がいれば、わたしはここで次のことを証します。イエス・キリストは、文字どおり生ける神の、生ける御子です。このイエスと呼ばれる御方は、わたしたちの救い主であり贖い主であり、御父の指示の下に天地とそこにある万物を形造られました。わたしは証します。この御方はおとめである母から生まれ、その生涯に力ある奇跡を行われました。この奇跡は大勢の弟子たちのみならず、敵対する者たちも目の当たりにしています。わたしは証します。この御方は神であるために死を制する力をお持ちだったにもかかわらず、ある期間にわたって死すべき肉体を持つことにより、わたしたちのために進んで死に従われました。わたしは宣言します。進んで死に従われたことにより、救い主は世の罪を負い、アダムから世の終わりに至るまですべての人の悲しみや病気、心痛、不幸に対して無限の代価を払ってくださいました。これによって、肉においては墓に打ち勝ち、霊においては地獄に打ち勝って人類を解放されたのです。わたしは証します。イエスは文字どおり墓からよみがえりました。そして復活のすべての過程を終えるため御父のみもとに昇られた後、旧大陸と新大陸にいる何百という弟子たちに、イエスは繰り返し御姿を現されました。わたしは知っています。イエスはイスラエルの聖者であり、最後の日に栄光をまとうて再び来られ、主の主、王の王となって地球を統治するメシヤであります。わたしは知っています。この御方の功德と憐れみと永遠の恵みにひたすら頼ることによってのみ、¹⁹ わたしたちは永遠の命を得ることができるのです。わたしは、このほかには人を神の王国に救う道も名も天下に与えられていないことを知っています。

最後に、この輝かしい教義について、もう一つの証を付け加えます。末の日に迎える福千年での統治に備えるために、イエスは荘厳な栄光ある肉体をまとうてすでに何度も地上に来られています。1820年の春、14歳の少年が森に入り祈りをささげました。ほとんどのキリスト教徒がい



自宅前に立ち、日曜午前の部会の放送に徒歩で向かおうとしているペルー、ワンカーヨの少女たち。

まだに理解できずにいる、まさにこれらの教義の多くに関して疑問を抱いたからです。この少年がささげた心からの祈りはこたえられ、後に預言者となるジョセフ・スミスの前に、御父と御子が肉体を持つ栄光ある存在として御姿を現されました。この日が、新約聖書に記されている主イエス・キリストの真の福音の回復と、アダムから今日まで続く預言者が教えてきた真理の回復の始まりを告げたのです。

これまで述べた事柄が真実であることを証します。そして、これと同じ確信を求める者に天が開かれることを証します。真理の御霊を通して、「唯一のまことの神と、[その神がつかわされた]イエス・キリスト」²⁰ をすべての人が知ることができすように。また、聖霊によってこの知識を得たならば、言葉だけでなく、実践によって神とイエス・キリストの教えに従い、真のクリスチャンとなることができますよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. イザヤ29:14
2. 信仰箇条1:1

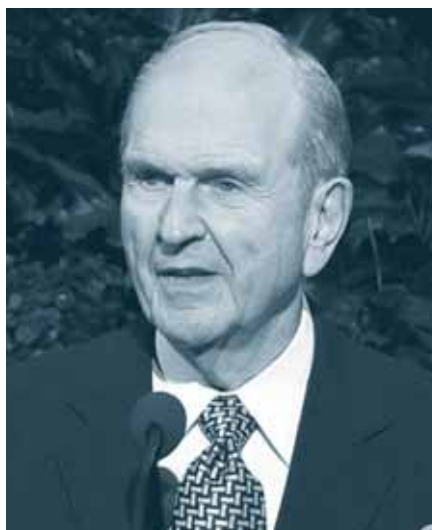
3. ポール・アクテマイヤー編(1985年)1099, 強調付加
4. コンスタンティノポリス公会議, 紀元381年;エフェソス公会議, 紀元431年;カルケドン公会議, 紀元451年
5. オーウェン・チャドウィック, *Western Asceticism* (1958年) 235で引用
6. ヨハネ17:3, 強調付加
7. この件に関する討論の全文は、スティープン・E・ロビンソン, *Are Mormons Christian?*, 71-89を参照。ロバート・ミレ, *Getting at the Truth*, (2004年) 106-122も参照
8. 例として, ヨハネ12:27-30;ヨハネ14:26;ローマ8:34;ヘブル1:1-3参照
9. ヨハネ5:19. ヨハネ14:10も参照
10. ヨハネ6:38
11. ヨハネ15:24
12. マタイ19:17
13. ヨハネ14:28
14. マタイ26:39
15. マタイ27:46
16. ピリピ2:5-6
17. デビッド・L・ポールセン, "Early Christian Belief in a Corporeal Deity: Origen and Augustine as Reluctant Witnesses," *Harvard Theological Review*, 第83巻, no.2 (1990年) 105-116. デビッド・L・ポールセン, "The Doctrine of Divine Embodiment: Restoration, Judeo-Christian, and Philosophical Perspectives", *BYU Studies*, 第35巻, no.4 (1996年) 7-94. ジェームズ・L・クーゲル, *The God of Old: Inside the Lost World of the Bible*, (2003年) xi-xii, 5-6, 104-106, 134-135. クラーク・ピノック, *Most Moved Mover: A Theology of God's Openness*, (2001年) 33-34参照
18. ローマ6:9;アルマ11:45 参照
19. 1ニーファイ10:6;2ニーファイ2:8;31:19;モロナイ6:4;ジョセフ・スミス訳ローマ3:24参照
20. ヨハネ17:3

聖文の証^{あかし}

十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン長老

回復の聖文は聖書と対立するものではありません。むしろ聖書を補完するものです。



／
ンリー・B・アイリング管長とクエンティン・L・クック長老、ウォルター・F・ゴンサレス長老にわたしたちの愛と賞賛をお伝えするとともに、新しい召しを果たす3人のうえに主の祝福が注がれるよう祈っています。

兄弟姉妹の皆さん一人一人に、わたしたちは心から感謝をお伝えします。皆さんの奉仕と哀れみの模範は、世界中で大いに注目を浴びています。その一方で、多くの人がこの教会の歴史や教義に疑問を抱いています。そうした疑問を抱く人の中に、モルモン書¹を中傷する人がいます。

モルモン書やそのほかの神聖な聖典を軽視する人がいることを、わたしはひどく憂慮しています。その憂慮について、今日は「聖文の証」と題して話します。

定義

わたしはこの「聖文」という言葉を、聖書

と回復の聖文を指すものと定義しておきます。² 教会員は、「正確に翻訳されているかぎり、『聖書』は神の言葉であると信じる。また、『モルモン書』も神の言葉であると信じ³」ています。回復の聖文と言う場合には、教義と聖約と高価な真珠も指しています。

辞書によれば、名詞の「証」は「ある事実や出来事の証明、証言⁴」と定義されています。神の御言葉について当てはめた場合、「証」という言葉には特別な意味が生じます。聖書には次のような重要な宣言があります。「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。」⁵ この聖句は、神の教義が二つ以上の聖文の証によって確認されることを、神の子供たちにはっきりと示しています。

聖文はイエス・キリストについて証する

聖書もモルモン書も、ともにイエス・キリストについての証です。この二つの書は、イエス・キリストが神の御子であられること、人が模範とすべき生活を送られたこと、全人類の罪を贖^{あがな}われたこと、十字架の上で亡くなり復活の主としてよみがえられたことを教えています。つまり、イエス・キリストが世の救い主であられる、と教えているのです。

聖文の証は互いの真实性を立証し合っています。この考え方ははるか昔に、モルモン書について書いた預言者の次のような言葉に説明されています。「この記録を書き記しているのは、〔聖書〕をあなたがたに信じさせるためである。また、あなたがたは〔聖書〕を信じるならば、〔モルモン書〕も信じるであろう。」⁶ それぞれの書が互いについて言及し合っています。そしてそれ

ぞれが、神が生きておられ、預言者への啓示を通じて神の子供たちに話しかけておられる証拠としての役割を果たしています。⁷

モルモン書を愛するならば、聖書も愛するようになります。逆もまた然りです。回復の聖文は聖書と対立するものではありません。むしろ聖書を補完するものです。わたしたちは、聖書を人の手にもたらすために命をささげてくれた殉教者たちに恩を受けています。聖書は、福音と幸福の計画が永続するものであることを世に示しています。そしてモルモン書は、十分の一、⁸ 神殿、⁹ 安息日、¹⁰ 神権¹¹ などの聖書の教義を回復し、強調しています。

一人の天使は、モルモン書¹²が聖書の真理を立証すると宣言しました。¹³ さらにまた、今日わたしたちが手にしている聖書の記述は、預言者や使徒たちが書いた元来のものと比べて欠けているところがあることを明らかにしました。¹⁴ また、モルモン書は聖書から取り去られた分かりやすくて貴い部分を回復する、とも宣言しました。¹⁵

モルモン書に記された預言は、聖書以外に聖文があるわけがないと主張する人々に、警告しています。「ほかに聖書は必要ない」¹⁶ と考える人々は、神の次の勧告についてよく考えてください。

「あなたがたは、国民は数多くあることを知らないのか。主であり、あなたがたの神であるわたしがすべての人を造ったこと、……またわたしが上は天で治め、下は地で治めていること、そしてわたしの言葉を人の子ら、すなわち地のすべての国民にもたらすことを知らないのか。

……二つの国民の証が、わたしが神であることと、一つの国民をもう一つの国民と同じように覚えていること、あなたがたへの証拠となることを知らないのか。わたしは一つの国民に語るのと同じ言葉を別の国民にも語る。そして、……二つの国民の証〔は〕合わせられるのである。』¹⁷

イエス・キリストの聖文の物語は、実際に東西両半球で起こった物語です。東半球にいたマリヤとヨセフがベツレヘムで聖なる幼子の誕生に備えていたちょうどそのとき、¹⁸ 西半球にいたニーファイは現世にお生まれになる前のメシヤから教えを受けてい

ました。主は二ファイにこう言われました。「元気を出しなさい。……明日、わたしは世に来る。そしてわたしは、聖なる預言者たちの口を通して語ってきたすべてのことを成就することを、世の人々に示す。」²⁰

その第2の証であるモルモン書を疑う人に対して、主はこう警告を寄せられました。「自分の受けたものを軽々しく扱ったために、……[あなたがた]が悔い改めて、……『モルモン書』と、わたしが……与えた以前の戒め[聖書]を思い起こし、……わたしが記してきたものに従って行動するまで、[あなたがたは]依然としてこの罪の宣告の下にある。」²¹

主はほかにも回復の聖文をお与えになり、²² その聖文の言葉も成就するであろうと宣言されました。²³ こうした聖文の証により、偽りの教義はやがて打ち負かされます。²⁴ こうした聖文の証により、聖書の教義は再確認されるだけでなく、いっそう明確になるのです。

回復の聖文は聖書の言葉をさらに明確にする

回復の聖文はどのように聖書の言葉をさらに明確にするのでしょうか。数多くの例が存在します。ほんの少しだけ紹介しましょう。まず、旧約聖書では、イザヤがこう書いています。「その時あなたは深い地の中から物言い、低いちりの中から言葉を出す。あなたの声は亡霊の声のように地から出、あなたの言葉はちりの中から、ささやくようである。」²⁵ これ以上にモルモン書をうまく描写している記述があるのでしょうか。「地の中から」出現し、現代の民に向かって「ちりの中から、ささやく」ものがほかにあるのでしょうか。²⁶

しかし、モルモン書について預言した旧約聖書の預言者は、イザヤだけではありません。エゼキエルはこう書いています。「あなたは一本の木を取り、その上に『ユダおよびその友であるイスラエルの子孫のために』と書き、また一本の木を取って、その上に『ヨセフおよびその友であるイスラエルの全家のために』と書け。これはエフライムの木である。

あなたはこれらを合わせて、一つの木と



なせ。これらはあなたの手で一つになる。」²⁷

現在では、地上の数多くの国々に住む聖徒たちが、彼らの手で一つに合わせられた聖書(ユダの木)とモルモン書(エフライムの木)を持って、感謝を抱いています。

では新約聖書はどうでしょうか。モルモン書は、新約の教えに対しても、「聖文の証」の役割を果たしています。その例を挙げてみましょう。ベツレヘムのみどりごの奇跡的な誕生、²⁸ 山上の垂訓、²⁹ 救い主の受けられた激しい苦しみ、³⁰ さらに、復活にかかわる教義は、聖書よりもモルモン書の方で頻繁に言及されています。³¹

聖霊の必要性を訴えたパウロは、次のように尋ねています。「彼らに『あなたがたは、……聖霊を受けたのか』と尋ねたところ、『いいえ、聖霊なるものがあることさえ、聞いたことはありません』と答えた。」³² この教義は、もう一つの聖文の証によって明確になっています。回復に携わった主の預言者が、わたしたちは「按手による聖霊の賜物が存在することを信じる」³³ と教えているからです。この大切で強力な賜物に、再び神の子供たちはあずかれるようになったのです。

パウロは、来世の栄光に3つの階級があることを述べて、こう教えました。「日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。」³⁴ 来世の栄光をかいま見たこの教えは、もう一つの聖文の証でいっそう明確になっています。主はこう啓示されました。「太陽の栄光が一つであるように、日の栄えの世界の栄光は一つである。

また、月の栄光が一つであるように、月の栄えの世界の栄光は一つである。

また、もろもろの星の栄光が一つであるように、星の栄えの世界の栄光は一つである。」³⁵

これらの王国のうちの最高のもの、すな

わち日の栄えは、その王国の律法を守る人々のために用意されています。「キリストの律法によって聖められない者は、別の王国、すなわち月の栄えの王国か、星の栄えの王国を受け継がなければならない。

日の栄えの王国の律法に従えない者は、日の栄えの栄光に堪えられないからである。」³⁶

この栄光の3つの階級は、来世のことを述べています。つまり、人が不死不滅であることを述べていることになります。この不死不滅という賜物は、イエス・キリストの贖いにより、現実のものとなりました。贖い(英語ではatonement)というこの重要な言葉は、新約聖書の欽定訳には1か所で使われているだけですが、³⁸ モルモン書には39回登場します。³⁹

ヨハネは、新約聖書の黙示録を書くに当たって、こう記しています。「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてき[た。]」⁴⁰ 一人の特別な御使いが、モルモン書に関する責任の鍵を持っていました。⁴¹ それが天使モロナイです。回復の聖文によって数多くの聖書の教義が明確にされましたが、こうした例は、そのような教義のほんの一部でしかありません。⁴²

モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証

わたしたちは世界中の人に喜んで回復の聖文を紹介します。モルモン書には、復活された主が古代アメリカの人々を自ら教え導かれたことが記録されています。主が宣言された永遠の真理について、深く考えてみてください。「見よ、わたしは神の子イエス・キリストである。わたしは天地とその中にある万物を創造した。わたしは初めから父とともにいた。……

……わたしの来臨に関する聖文は成就している。

わたしは世の光であり命である。」

救い主は続けてこう言われました。

「打ち砕かれた心と悔いる霊をもってわたしのもとに来る者に、わたしは……火と

聖霊によってバプテスマを授けよう。……

わたしは、世に贖いをもたらす、世の人々を罪から救うために世に来た。

それゆえ、悔い改めて幼子のようにわたしのもとに来る者を、わたしはだれでも受け入れよう。神の王国はこのような者の国である。……わたしは自分の命を捨て、再びそれを得た。それゆえ……悔い改めて、わたしのもとに来て救われなさい。」⁴³

主がなさったこの宣言の中には、御自分が実際どういう御方なのか、そして、わたしたちにどのような者となるよう望んでおられるのか、といったことが要約されています。主は、いつの日か、御自分のもとに戻って来たわたしたちを、栄光のうちに愛の腕で抱いてやりたいと願っておられるのです。

わたしは聖文の証に心から感謝しています。わたしはこれまで、主の教えを生活に取り入れる人々にもたらされる大きな変化をこの目で見てきました。そのような変化が、やがて、永遠の命の祝福へとつながっていくのです。⁴⁴

わたしは神が生きておられることを知っています。イエスはキリストです。主の福音はこの末日に回復されました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、現代の主の預言者です。以上のことをイエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. 正式な書名は「モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証」
2. 回復はペテロ(使徒3:19-21参照)、ヨハネ(黙示14:6-8参照)、パウロ(エペソ1:10参照)によって予見されていた。預言者ジョセフ・スミスは、この最後の神権時代に「世界が始まって以来、……すべての聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物の回復」があると教えられた(教義と聖約27:6)。
3. 信仰箇条1:8
4. *Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*, 第11版(2003年), "Witness" 1493
5. 2コリント13:1。同様の表現がマタイ18:16とエテル5:4にも見られる。



教会指導者からの勧告を聴き集った西インド諸島伝道部の16人の宣教師たち。彼らは、グアドルーベ島においてフランス語で伝道している。

6. モルモン7:9
7. この神権時代の預言者に対して、主は「この時代の人々は、あなたを通してわたしの言葉を受ける」と宣言された(教義と聖約5:10)。
8. アルマ13:15;3 ニーファイ24:8-10参照
9. 2ニーファイ5:16;モルモン書ヤコブ1:17;2:2;モーサヤ2:5-7参照
10. モーサヤ13:16-19;18:23参照
11. 2ニーファイ6:2;モーサヤ18:18;アルマ6:1;13:1-3, 6-11;3ニーファイ18:5;モロナイ3:1-4参照
12. モルモン書の目的は、「神の小羊が永遠の御父の御子であって、世の救い主であること、すべての人はこの救い主のみもとに来なければならず、そうしなければ救われないことを、すべての部族、国語の民、民族に知らせる」ことにある(1ニーファイ13:40)。
13. 1ニーファイ13:40参照
14. 1ニーファイ13:28-29参照
15. 1ニーファイ13:40参照
16. 2ニーファイ29:6
17. 2ニーファイ29:7-8
18. イエス・キリストは「無数の世界」の創造主であられるため(モーセ1:33)、ほかの地域からさらに聖文が出て来るのは、十分にあり得ることである。
19. ルカ2:4-6参照
20. 3ニーファイ1:13
21. 教義と聖約84:54, 57
22. 教義と聖約135:3参照
23. ジョセフ・スミス—マタイ1:31-35参照
24. 2ニーファイ3:12;エズラ・タフト・ベン

25. ソン「キリストに対する新しい証人」『聖徒の道』1985年1月号, 6参照
26. 欽定訳イザヤ29:4から和訳
27. イザヤは、末日に神が「不思議な驚くべきわざ」を行われることを先見していた(イザヤ29:14)。イザヤのこの言葉は、古代アメリカの住民にも伝えられていた。「主は御自分の民を、迷い墮落した状態から元の状態に戻す業を再び始められる。そのために、主は驚くべき業と不思議を人の子らの中で行われる。」(2ニーファイ25:17)その驚くべき業には、モルモン書の出現や福音の回復も含まれる。イザヤの言葉はモルモン書で度々引用されている。この引用部分の研究は手間ひまがかかるものの、決して退屈な作業ではない。モルモン書にある433節にわたるイザヤの言葉のうち、234節が聖書の該当箇所とは異なっている。
28. エゼキエル37:16-17
29. 1ニーファイ11:13-20;アルマ7:10参照
30. 3ニーファイ12-14章参照
31. モーサヤ3:7参照。キリストの苦しみに関する直接的な記録が、末日の預言者に与えられている(教義と聖約19:16-19参照)。
32. 「復活(resurrection)」という言葉は聖書の欽定訳では40の節で登場するが、モルモン書では50の節で登場している。ジェフリー・R・ホランド, *Christ and the New Covenant: The Messianic Message of the Book of Mormon* (1997年), 238-241も参照
33. 使徒19:2。使徒2:38も参照。ここには、聖霊の賜物が必要であることについて

バーを上げる

十二使徒定員会

L・トム・ペリー長老

宣教師の最低基準を楽にクリアし、常にバーを上げ続けると決意してください。



先月、わたしは恵まれて、北アメリカ西地域の伝道部会長セミナーに出席しました。そこに集っていた伝道部会長の中に、息子のリーがいました。彼がその召しを受けたのは、わたしがヨーロッパ中央地域会長会で1年の働きを終える前でした。わたしがほかの責任でほんの数回息子の伝道部内を通過するとき顔に合わせた以外は、息子と時間を過ごすのは実に3年ぶりのことでした。

伝道部会長夫妻全員と知り合うための夕食会の後、妻とわたしは息子夫婦とともに、ホテルのわたしの部屋で話をしました。当然のことながら、話題の中心は伝道でした。リーは、宣教師になるためのふさわしさの基準を高めるとヒンクレイ大管長が勧告して以来、宣教師たちにどのような変化があったかを話してくれました。彼のもとに送られて来る宣教師の事前の準備

が、以前に比べ、明らかに改善されているというのです。話していくうちに、リーが高校に通っていたころの経験を思い出しました。

高校時代、リーは陸上チームで、短距離と高跳びの選手でした。1968年にメキシコシティで開催された夏のオリンピックでは、世界は、無名の高跳び選手、ディック・フォスベリーに魅了されました。彼は新しい跳び方を試みたのです。それは、バーに向かって斜めに助走し、体をそらせて後ろ向きでバーを跳び越えるというものです。この跳び方は、やがてフォスベリー・フロップと呼ばれるようになりました。

ほかの多くの人と同じように、リーもこの新しい跳び方に好奇心をそそられました。しかし、新年度が始まるまでは練習場所がありません。ある晩仕事から帰ると、リーは地下室でフォスベリー・フロップを練習していました。いすを積み上げて即席の支柱を作り、その上に渡したほうきを跳び越えて、ソファの上に着地していたのです。ソファが壊れるのは火を見るより明らかだったので、家の中での高跳びはすぐにやめさせました。代わりに、二人でスポーツ用品店に行き、着地に使うマットと、高跳び用の支柱とバーを買い、外で練習できる用意を整えました。

リーはしばらくフォスベリー・フロップを試していましたが、結局それまでのウェスタン・ロールという跳び方に戻ることになりました。いずれにしても、夏の終わりから秋にかけて、裏庭で何時間も高跳びを練習し続けました。

て、ペテロの教えが記されている。

33. *History of the Church*, 第5巻, 499
34. 1コリント15:41
35. 教義と聖約76:96-98。教義と聖約131:1も参照
36. 教義と聖約88:21-22
37. モーサヤ16:10; アルマ42:23; モルモン6:21参照
38. ローマ5:11参照(訳注——この部分の日本聖書協会口語訳は「和解」となっている。)
39. 欽定訳では、Atonement(贖罪、贖い)が28回、atone(贖う)あるいはatoning(贖いの)が8回、atoneth(atoneの古語)が3回登場する。場所によっては、atoneという語が2回以上登場する節もある(2ニーファイ9:7; アルマ34:9; 42:23参照)。
40. 黙示14:6
41. 教義と聖約27:5; 128:20参照
42. 新約聖書にはこう記されている。「わたしにはまた、この囲いにはいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう。」(ヨハネ10:16) この教義はモルモン書でいっそう明確になっている。復活した主が古代アメリカの民に語りかけられる場面が記録されているからである。そこで主はこう述べておられる。「『わたしには、この囲いにはいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、一人の羊飼いとなるであろう』とわたしが言ったその羊とは、あなたがたのことである。」(3ニーファイ15:21) 死者のバプテスマについてパウロが知っていた事柄は、限られた範囲で新約聖書に記されている(1コリント15:29参照)。この神聖な教義は、回復の聖文によってのみ明確になっている(教義と聖約124:29-30, 41; 128:1, 11-12, 16-18; 138:47-48)。
43. 3ニーファイ9:15-16, 18, 20-22
44. 3ニーファイ9:14; 教義と聖約30:8参照

ある晩、仕事から帰ると、リーが高跳びの練習をしていたので「バーの高さは」と聞きました。

「175センチ」と答えが返ってきました。

「どうしてその高さなの。」

「州競技会の出場資格を得るための最低ラインだからね。」

「で、調子はどう。」

「毎回クリア。失敗ゼロだよ。」

「じゃあ、バーを上げて、どこまでやれるか試してみたら。」

「そしたら、失敗しちゃうよ。」

「バーを上げなければ、自分がどこまでやれるか、どうやって分かるんだい。」

それから、179センチ、183センチとバーを上げていき、さらに上を目指しました。最低ラインをクリアするだけで満足しなかったおかげで、リーはさらに上達していきました。たとえ失敗しても、バーを上げ続けたいと思いました。そうすることで、潜在能力を最大限に発揮できるようになることが分かったからです。

息子のこの経験を振り返りながら、わたしは、M・ラッセル・バラード長老が2002年の総大会の神権部会で話したメッセージを思い出しました。バラード長老は教会の若い男性に、教会史上最高の宣教師になるように励ましました。その中で、宣教師に求められる最低基準というバーが上げられたことが発表されました。アロン神権者は、高く設定された新しい基準をクリアできるよう、もっと熱心に準備をしなければならぬという指導を受けました。また、父親やビショップ、ステーク会長は、若い男性が専任宣教師になる備えができるように助けることについて、教えを受けました（「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」『リアホナ』2002年11月号、46-49参照）。

その神権部会の最後の話者だったヒンクレイ大管長は、バラード長老の説教に触れ、こう言いました。「バラード長老は皆さんに宣教師について話しました。わたしは彼の話をサポートしたいと思います。教会の若い男性や若い女性が、バラード長老の提示したチャレンジにこたえるように願っています。わたしたちは、主イエ



メキシコ、メリダの少年たち。彼らは、世界各地で発展を続ける教会の力の表れである。

ス・キリストの大使として全世界へ出て行く人々のふさわしさと資格について、基準を高くしなければなりません。」「(「神権を持つ男性たちへ」『リアホナ』2002年11月号、57)

その後すぐに、2002年12月11日付けの

手紙で、大管長会は教会の指導者に専任宣教師になるふさわしさに関する原則について指針を伝えました。そこにはこうあります。「宣教師として奉仕することは大管長の靈感に基づいて召された人々の特権である。ビショップとステーク会長には、

ふさわしい、資格を備えた会員で、この神聖な奉仕のために霊的、肉体的、情緒的に準備ができており、無条件で推薦できる人を見つける重大な責任がある。専任宣教師として働くうえで必要とされる肉体的、知的、情緒的な要求を満たすことのできない人は、免除されるべきであって、推薦してはならない。彼らにはほかのふさわしい召しを与える。」

教会指導者によってバーが上げられました。今や、道徳的に完全にふさわしくあること、健康で体力があること、また、知的にも社会的にも情緒的にも成熟していることが、伝道に出るための最低条件になりました。走り高跳びの試合では、競技を始める際に、最初の高さが定められています。それより低い高さから始めるように要求することはできません。それと同じように、伝道に出るための基準を下げてほしいと願うことはできません。宣教師になりたいなら、最低基準をクリアしなければならないのです。

しかし、最低基準に達しても、さらにバーを上げていく必要があるのではないのでしょうか。昔、息子にした同じ質問を皆さんにもします。「バーを上げなければ、自分がどこまでやれるか、どうやって分かるんだい。」皆さんに勧告します。宣教師になるためにクリアしなければならない最低基準がありますが、それで終わりではないということを知ってください。教会史上最高の宣教師も、バーを上げ続けなければ、真の可能性に到達することはできません。

宣教師になる備えをしている皆さん一人一人が、バーを上げるためにできることを幾つか提案しましょう。

宣教師として奉仕するための肉体面での最低基準は、健康と体力に関するものです。例えば、宣教師推薦書には次のような質問があります。「あなたは毎日、12時間から15時間働き、10キロから13キロ歩き、16キロから24キロ自転車に乗り、階段を上り下りすることができますか。」伝道活動は過酷です。専任宣教師として奉仕するためには、健康でなければなりません。肉体面でのバーを引き上げるに



は、健康状態をさらに良くすることが必要です。

また、身だしなみを改善することも大切です。宣教師の服装には一定の基準があり、こざっぱりとしていなければなりません。ふさわしい髪型で、きちんとひげをそり、清潔な白いワイシャツとネクタイ、よくアイロンをかけたスーツとズボン、そしてよく磨いた靴を身に着けます。専任宣教師の身だしなみに倣って、今から専任宣教師になる準備を始めてください。

知能面での準備についても、バーを上げましょう。学校で熱心に学んでください。知性をもって読み、話し、書く能力は大切です。良書を読んで、周囲の世界に関する知識を広げてください。勉強の仕方を身に付け、それを応用してさらに効果的にイエス・キリストの福音を学んでください。常に、たゆむことなくモルモン書を読んでください。

セミナーやインスティテュートをおろそかにしないでください。クラスに出席し、このすばらしい宗教教育の場で教えられる聖文から、できるかぎり学んでください。それによって、皆さんが出会う人々に、回

復された福音のメッセージを伝える備えができるでしょう。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』から、特に第3章の基本的な教義を学んでください。教会の話や家庭の夕べのレッスンをするときには、そこに記されている基本的な教義を中心にしてください。

教義と聖約第11章21節で、主は言われました。「わたしの言葉を告げようとしなさい。まずわたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。」宣教師になる前の時期は、イエス・キリストの福音の光と真理を得ることによって知的な備えをしつつバーを上げていくのに理想的な時期なのです。

伝道は、情緒的にも過酷であることを理解しなければなりません。故郷を離れて世の中に出て行くとき、それまで頼りにしてきた人たちと離れることになります。友達と遊んだり、独りになったり、コンピューターゲームをしたり、音楽を聴いたりといった、ストレス解消のために今皆さんが使っている方法の多くは、宣教師のルールでは許されていません。人から拒まれたり、落ち込んだりすることもあります。今から皆さんの感情の限界を知り、宣教師が必ず経験する状況において、感情をコントロールする方法を身に付けてください。そうすることによって、皆さんは自分のバーを上げ、伝道中の情緒面での試練に備えることができるのです。

ヒンクレイ大管長は触れませんでした。これから宣教師になる人は、伝道中必要とされる社交能力も備える必要があります。ますます多くの若人が、直接人と話す代わりに、コンピューターゲームに興じたり、ヘッドホンで耳をふさいだり、携帯電話や電子メールや携帯メールだけをして、孤立して過ごすようになっています。宣教師になると、ほとんどの時間を、人と直接顔を合わせて話すことになるので、社交能力を高めるという点でバーを上げなければ、将来準備不足を痛感することになるでしょう。簡単な提案をします。人とか

かわる仕事をしてください。目的意識を高めるために、アルバイトやフルタイムの仕事で十分な収入を得て、少なくとも伝道資金の大半を賄うという目標を立ててください。伝道資金の大半を自分で賄うすべての若い男性には、社会的、肉体的、精神的、情緒的、そして霊的に、大いなる祝福が与えられることを約束します。

個人のふさわしさは、宣教師になるための霊的な最低基準です。つまり、いかなる点でも、神殿の神聖な聖約を交わし、守るのにふさわしくあるということです。この特別な召しにおいて奉仕する人々に与えられる祝福を受ける資格を自ら失うようなことはしないでください。奉仕するのに不適格となるような背きを犯さないでください。

宣教師として説得力のある教え方ができても、人を改心させるのは御霊であることを理解してください。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の中には、伝道活動が的確に定義されています。「あなたはイエス・キリストの正式な代表者として、『贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる』こと、『聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御前に住める者がいないこと』を力と権能によって人々に教えることができます(2ニーファイ2:6, 8)。』(2ページ)

多く与えられる者からは、多く求められるということを思い出してください。霊的、肉体的、情緒的に必要な資格を備えたすべての若い男性に、イエス・キリストの教会の宣教師となるために備えて、出て来るよう再度呼びかけます。宣教師の最低基準を楽にクリアし、常にバーを上げ続けると決意してください。この偉大な召しをさらに効果的に果たせるように備えてください。

神の祝福があり、この総大会の神権部会から帰宅するときに、このことが皆さんの願望となりますように。そして、主イエス・キリストの宣教師という栄えある奉仕の業に、今から備えることができますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。

今、実行しなさい

七十人

ドナルド・L・ホールストロム長老

今こそ、……贖い主が与えてくださった「変わる」という憐れみ深いプロセスを通じて、神と和解する時です。



今夜、この聴衆の中に3児の父親であるわたしの長男がいます。長男が11歳のとき、学校からある宿題が出ました。それは家族の大好きな料理のレシピを提出するというものでした。長男たち6年生は、春のバザーのときに、レシピ集を作って近所に配布することになっていたのです。教師はその計画について発表し、レシピは翌週の金曜日提出するようと言いました。息子のブレットは、まだ時間がたっぷりあるから、宿題を後回しにしても大丈夫だと思い、すぐにそのことを忘れてしまいました。週が明けると、教師は金曜日の締め切りについて念を押しました。ブレットは、宿題は木曜の夜に簡単にできるから、それまではもっと楽しいことをして過ごそうと考えました。

金曜の朝、教師は宿題のレシピを後ろから前の人に渡して提出するように言いま

した。何度も引き延ばしてきたブレットは、宿題のことをすっかり忘れていました。慌てて近くの席の友達にそのことを言うと、そのクラスメートはブレットを助けるつもりで言いました。「ぼくは、もう一つ別のレシピを持って来ているから、それを使ってもいいよ。」ブレットはそのレシピをさっと受け取り、自分の名前を書いて提出しました。これで準備不足の報いは免れたと思ったのです。

数週間後のある夕方、わたしは教会の会合に行く前に少し休憩しようと思い、いったん家に帰りました。何年間かビショップを務めた後、数日前にステーキ会長に召されたばかりでした。近所の人は、わたしたち家族を、信仰深い教会員として見てくれていました。玄関に入るなり、妻のダイアンが言いました。「ちょっとこれを見て。」妻から渡された冊子には『1985年、ノエラニ小学校人気レシピ集』と表題がついていました。妻が印を付けたページにはこうありました。「ホールストロム家の人気レシピ——バカルディ・ラム酒を使ったケーキ」

わたしたちの多くは、イエス・キリストの福音に完全に改心するのを引き延ばしているために、単に恥をかくよりもはるかに深刻な状況に自分を追い込んでいます。正しいことをわきまえていながらも、怠惰や恐れ、正当化、信仰の欠如などの理由で、全身全霊で取り組むことを後回しにしているのです。「いつかやる」と自分に言い聞かせても、その「いつか」がいつまでたっても来ない人が多く、後から軌道修正をする人もいますが、取り返すことのできない損失や、著しい後退に直面することになります。



次のように自問して、自分の霊的な引き延ばし度を評価してみましょう。教会の集会に出席しているときの自分の態度について考えてください。「研究によって、また信仰によって」学び(教義と聖約88:118)、学んだことを実践していますか。それとも「それはもう前にも聞いた」と考えて、御霊が自分の思いや心に働きかけるのを妨げてしまい、引き延ばすことが当たり前のようになっていませんか。

教会が回復されて間もないころの著名な改宗者で、主の命令であれば何でもしますと聖約した人物についての次のような記述があります。「そして、彼は喜んで御言葉を受け入れたが、サタンはすぐに彼を誘惑した。そして、……世の思い煩いが、彼に御言葉を拒ませた。」(教義と聖約40:2) 主の次の明確な言葉と比較してみてください。「わたしの律法を受け入れて、それを行う者は、わたしの弟子である。」(教義と聖約41:5)

アルマは心の底から宣言しました。「さて、わたしの同胞よ、まことにわたしが心痛を感じるほどにひどく心配するとともに、心の底から願っていることがある。それは、あなたがたがわたしの言葉を聴き、罪を捨て、悔い改めの日を先に延ばすこ

とのないようにとということである。」(アルマ13:27)

アルマの友であり、ともに宣教したアミュレクは、そのメッセージをこのように強調しました。

「見よ、現世は人が神にお会いする用意をする時期である。まことに、現世の生涯は、人が各自の務めを果たす時期である。

さて、……あなたがたにはすでに非常に多くの証拠があるので、最後まで悔い改めの日を引き延ばすことのないように切に勧める。」(アルマ34:32-33)

アロン神権の教師のころ、数か月間、毎週土曜の朝は父がわたしの部屋の窓の外で庭仕事をする音で目覚めました。(なぜ父がいつもわたしの窓のすぐ下で作業を始めたのか、その理由はすぐには分かりませんでした。)わたしは、その音を無視しようとししばらく努力してから、起き上がり、庭の手入れを手伝うのです。庭の手入れはわたしの毎週の責任でした。

すぐに起きない週がしばらく続き、恐らく、ほかの責任も、父から何度か言われなければ取りかかれなかったことでしょう。ある日、父はわたしと一緒に座り、怠惰で有名なナマケモノという動物の大きな写真を見せてくれました。それから

教義と聖約を開き、次の言葉をわたしに読ませたのです。「見よ、わたしがすべてのことを命じるのは適切ではない。すべてのことを強いられて行う者は怠惰であって、賢い僕ではない。したがって、彼は報いを受けない。」(教義と聖約58:26、強調付加) あの日以来、あの写真と教訓は、人生の大切な宝となっています。

スペンサー・W・キンボール大管長は、「実行しなさい」という簡潔な言葉でわたしたちを奮い立たせました。後に大管長は、引き延ばさないことを強調するために「今、実行しなさい」という表現に変えました。

キンボール大管長はまた、次の深遠な原則を教えてください。「どの時代にあっても、人の持つ最大の欠点の一つは引き延ばすこと、すなわちその人自身の責任を今進んで受け入れようとしないことです。……多くの人にはわき道にそれて、……精神的、霊的に怠惰に陥り、この世的な喜びを追い求めるようになっていきます。」(『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』、5)

多くの人は安易な道、すなわち真剣な努力や犠牲が要らない道を探しています。実は、わたしはその道を見つけたことがあります。ホノルル市を見下ろす緑の

丘を車で走りながら、ふと見上げると「お気楽通り」という看板が目に入りました。人生が一変するような幸運に出会えることを期待しつつ、その瞬間を記念に残すためにカメラを取り出しました。でもファインダーの先の大きな黄色い標識に、文字どおりにも、^ひ比喩的にもピントが合ったとき、現実に引き戻されました。「お気楽通り」は行き止まりだったのです。

引き延ばしは、価値あることを達成するための努力から一時的に解放されるので、楽なことのように思えるかもしれませんが。しかし皮肉にも、引き延ばしは、じきに罪悪感という大きな重荷やむなしさを生じます。引き延ばしをしていると、この世に関する目標も、さらに深刻なことに、霊的な目標さえも、達成できなくなるのです。

今こそ、信仰を働かせる時です。今こそ、義に専心すべき時です。今こそ、望ましくない自分の状況を解決するために必要なことをすべて行う時です。今こそ、人類の贖い主が与えてくださった「変わる」という憐れみ深いプロセスを通じて、神と和解する時です。

以下の人々に心から申し上げます。

福音と末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であるという証^{あかし}を受けたにもかかわらず、バプテスマと確認をまだ受けていない人々。

アロン神権やメルキゼデク神権を保持しているけれども、背きのため、あるいは何もしていないために、神聖な誓詞と聖約に反した生活をしている人々(教義と聖約84:33-39参照)。

エンダウメントを受けたけれども、現在神殿推薦状を持つ資格のない人々。

人の言動で気分を害してしまい、どのような形にせよ、教会との関係を絶ってしまった人々。

不誠実な生活をしており、未解決の罪の重荷を背負っている人々。

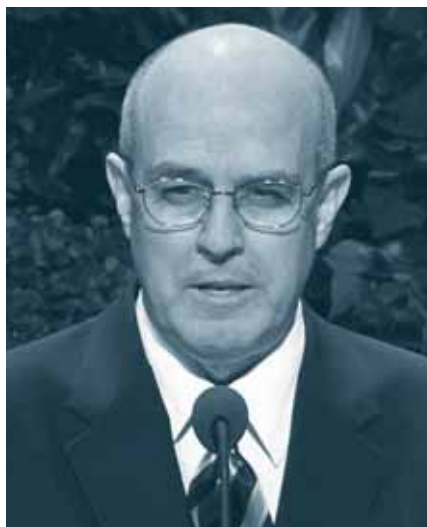
あなたも、そしてわたしたち全員も、今変われることを証します。簡単ではないかもしれませんが、わたしたちの苦難は「キリストの喜びにのまれ[る]」ことが可能なのです(アルマ31:38)。イエス・キリストの御名^{みな}によって証します。アーメン。

心の清い人々は皆、 幸いである

七十人

L・ホイットニー・クレートン長老

「絶えず徳で思いを飾る」ために、心と思いを清く保とうとするわたしたちの誠実な努力を、神が祝福してくださいように。



数年前のある晴れた朝、カリブの海岸を妻と歩いていると、浜に引き揚げられた数隻の小さな釣り船が見えました。二人で足を止めて船を見ていたとき、わたしは釣りに関連して決して忘れられない大切なことを学びました。土地の漁師は、網や釣り糸や釣り針の代わりに、金網でできた簡単なわなを使っていました。どのわなも箱のような形をしていました。両端とも縦に8インチ(約20センチ)ほど切り込みを入れ、内側に折り曲げてありました。そうしてできた細長い口から魚が入り込めるようになっていたのです。

このわなをどのように使うか、恐らく皆さんも想像できるでしょう。漁師はえさを入れたわなを海に運んで海底に沈めま

す。夕食に出てくるくらいの大きさの魚がそばに来てえさがあることを察知すると、端に入り口があるのを見つけ、金網の切り込み部分をかるうじてぐぐって中に入ります。ところが、すり抜けて中に入るのは簡単だったのに、切り込み部分の鋭い先端から外に出るのはきわめて難しいことに気づくのです。こうして魚は捕まります。漁師が戻って来てわなを水からたぐり上げれば、捕まった魚は程なく新鮮なシーフードディナーになるというわけです。

旧約聖書には、同じようなわなにかかった人についての記述があります。それは、無敵の王ダビデです。彼に起きたことは、聖文の中の最も悲しい話の一つです。

「王たちが戦いに出るに及んで、ダビデはヨアブおよび自分と共にいる家来たち、並びにイスラエルの全軍をつかわした。彼らはアンモンの人々[と戦った。]……しかしダビデはエルサレムにとどまっていた。

さて、ある日の夕暮、ダビデは床から起き出て、王の家の屋上を歩いていたが、屋上から、ひとりの女がからだを洗っているのを見た。その女は非常に美しかった。」(サムエル下11:1-2)

ダビデは女性の名前がバテシバであることを突き止めます。兵士である夫のウリヤはアンモン人たちと戦う軍とともに戦場にいました。彼らの王であるダビデは、本来ならその戦場にいるべきだったので、ダビデは人をやってバテシバを宮殿に呼び入れました。二人は姦淫^{かんいん}の罪を犯



し、バテシバは妊娠します。するとダビデは、姦淫したことが知れることを恐れ始めます。罪を隠そうとしたダビデは、ウリヤをエルサレムに呼び戻す命令を出しました。ウリヤは戻って来ましたが、自分の信念に従い、家に帰ってバテシバと会うことを拒みました。そこでダビデは、ウリヤが戦場で死ぬように画策しました。(サムエル下11:3-17参照) こうした一連の恐ろしい決断の結果、ウリヤは命を落とし、ダビデとバテシバはもちろん、最終的には王国全体に悲惨な結果を招くことになりました。「ダビデがしたこの事は主を不快にした」と、聖書には比較的控えめな表現で書かれています(欽定訳サムエル下11:27から和訳)。

ダビデがどのようにわなにかかったか分かるでしょうか。宮殿の屋上にいて、眼下にあった近隣の庭に、決して見てはいけないものを見てしまいました。それが敵対する者のわなでした。慎みと貞節、正しい判断力があれば、ダビデはすぐその場を離れて見ないようにしていたことでしょう。しかし彼はそうしませんでした。それどころか、禁じられた空想に思いを馳せ、それが行動となって、事態は急速に悪化し、破滅に向かっていったのです。

ダビデはわなにかかりました。彼にとつてその結果は永遠に続くものでした。

現代にもポルノグラフィーという霊的なわなが存在します。その挑発的なメッセージに誘惑された多くの人が、命取りとなるわなに入って行きます。どんなわなもそうですが、このわなも入るのは簡単で、出るのは困難です。害を受けない程度に時折ポルノグラフィーを見るくらいなら大丈夫だと正当化する人たちがいます。「そんなに悪くない」とか、「かまうもんか、大したことはないよ」とか、「どんなものかと思っ」と、最初は言います。でも、それは間違いです。主はこう警告されました。「情欲を抱いて女を見る者は、信仰を否定するのであり、御霊を受けることはない。もしも悔い改めなければ、彼は追い出されなければならない。」(教義と聖約42:23) これはまさにダビデの身に起きたことです。彼はバテシバを見て、情欲を抱き、御霊を失いました。目をそらしてさえたなら、ダビデのその後の人生はまったく違っていただろうでしょう。

ポルノグラフィーを見ている人は、御霊だけでなく、広い視野に立って物を見る力と判断力を失います。主には何も隠せないことを忘れて、ダビデ王のように罪を覆い

隠そうとします(2ニーファイ27:27参照)。自尊心を保てなくなり、大切な人との間にひびが入り、結婚生活に支障が出て、無実の犠牲者が増えるにつれて、結果が身に迫ってくるようになります。これまで見ていたものに満足できなくなると、さらに過激なものを試すようになります。やがて本人は気づかなくても、あるいはその現実を否定していても、ゆっくりとポルノグラフィーへの依存度は増していきます。そしてダビデ同様、道德の標準が崩れ去ると、行動はさらに悪化していくのです。

世界中の好ましい文化が腐れていくにつれて、低俗なものがメディア、娯楽、広告、インターネットにますますはびこってきます。ですから、世の中の流行に照らして人気があるかどうかを物差しにして、何が正しく、何が安全かを測るのは非常に危険です。何百万という視聴者によく知られ、好まれている映画やテレビ番組であっても、わいせつな映像や行為が描写されているかもしれません。映画の中で「悪すぎない」という意味なのです。ですから、周囲の人々が不適切な映画やウェブサイトを見ていたとしても、わたしたちはそれを言い訳にできません。神権者の生活は、世の標準ではなく、救い主とその教会の標準に倣ったものとするべきです。

救い主はこう教えられました。「心の清い人々は皆、幸いである。彼らは神を見るからである。」(3ニーファイ12:8) 福音の約束はわたしたちを高め、高貴にし、さらには昇栄に導きます。清く、道徳的に正しい生活を送るよう定めた聖約を交わすことにより、わたしたちはこれらの約束を受けます。正しい生活をし、心を清く保とうと求めるとき、神と御霊に近づきます。今のこの世の中で神の存在を示すものをどれだけ見ることができるか、また、清い者が「神を見る」という約束がいつか自分の身に実現するかどうかは、わたしたちの心の状態で決まります。わたしたちは清さを追い求めなければなりません。使徒ヨハネはこう記しています。

「愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがど

うなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが神に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。

彼についてこの望みをいただいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。」(1ヨハネ3:2-3)

すでにボルノグラフィーのわなに捕らえられている人がいるなら、今こそ、救い主の助けを受けて自由になる時です。抜け出る方法があります。しかし、逃れるには主の助けが必要です。完全に立ち直れるかどうかは、完全に悔い改めるかどうかにかかっています。すぐにビショップのところへ行ってください。靈感された導きを求めてください。ビショップは悔い改めの計画を正しく実行するのを助けてくれます。悔い改めによって自尊心を取り戻すことができ、生活の中に御霊が戻って来てください。主イエス・キリストの贖いによる癒しの力は、あらゆる苦難に及びます。ボルノグラフィー中毒にも及ぶのです。誠心誠意、救い主に心を向け、ビショップの勧告に従うなら、必要な癒しを得ることでしょう。救い主は誘惑に耐える強さと、中毒を克服する力を得られるよう助けてくださいます。モロナイもこう教えています。

「……キリストのもとにきて、あらゆる善い賜物を得るように、また悪い賜物や清くないものに触れないように……。

まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と意思と力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。」(モロナイ10:30, 32)

「絶えず徳で思いを飾る」(教義と聖約121:45)のために、心と思いを清く保とうとするわたしたちの誠実な努力を、神が祝福してくださいますように。救い主の贖いの愛と、贖いが持つ清めの方について証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

今がその時です

七十人

ウォルター・F・ゴンサレス長老

逆境のときに自分を支えてくれる福音の原則を心に刻むために、わたしたちは今何をしていますでしょうか。



ジュームズ・E・ファウスト管長から妻とわたしにペルー・リマへの赴任が告げられたとき、まさか到着してほんの数日後の2007年8月15日に壊滅的な地震を経験するとは夢にも思いませんでした。この地震のすさまじい力によって5万2,000棟以上の住宅が倒壊しました。さらに悲しいことに、500人以上の死者が出ました。そのうちの9人は教会員でした。イカステーク、ピスコステーク、カニエテ地方部、チンチャ地方部の教会員たちは震災で大打撃を受けました。

教会は直ちに、教会員であるかないかを問わず、人々に救援物資を送りました。教会は、地震があった翌朝には被災地の会員が食糧と衣類を受け取れるようにし、昼前にはペルーの民間救援組織に人道支援物資を寄付していました。住居を失った多くの会員は教会の集会所に非難しました。まったく予期していなかった大災害であっ

たにもかかわらず、被災者を支援するうえで、神権組織は非常によく機能しました。

ステーク会長や地方部会長はビショップとともに、地震が起きるとすぐに会員を助けに出て行きました。これらの神権指導者が出かけたときの悲惨な状況を説明しましょう。夜中でした。停電になっていて、至る所が破壊されており、余震は続いていました。これらのすばらしい神権指導者たちは自分の家族の安全を確保すると暗闇の中を歩き、倒壊した家屋に囲まれてすすり泣く人々のもとへ行きました。教会の指導者たちはその夜だけでなく、その後何日も、頻発する強い余震や津波警報が流れる中、出かけて行きました。彼らは自分たちの命を顧みることなく瓦礫や混乱の中を探索し、すべての会員のところへたどり着こうとしたのです。一人のビショップはこう語っています。「危険については考えませんでした。ひたすら教会の兄弟姉妹や指導者を探して駆け回りました。」彼は全員を見つけることができました。夜を徹して、捜索活動に当たったのです。

これらの指導者に、自分の命を危険にさらしてまで出て行って人々を助けるよう駆り立てたものは何だったのでしょか。救い主とその教会を信じる彼らの強い信仰が動機となっていたことは明らかです。神権指導者としての自分の召しを理解していたからでもあります。危機に直面したときではなく、地震が起きる前から生活に刻まれていた福音の原則のおかげです。それは墨によって書かれたものではなく、御霊の火によって「人の心の板」に刻み込



まれたものです(2コリント3:3参照)。

地震が起きる可能性はいつもありました。しかし、いつどのように起きるかはだれにも分かりませんでした。実際に地震が起きたとき、それは壊滅的なものでした。しかし神権者の指導の下で、皆その試練に立ち向かいました。多くの場合、会員にできないことがあれば、不足の部分の主が補ってくださいました。白い衣服の男性が救助活動を助けるのを見たと言う会員もいます。別の会員は安全な場所へ誘導する声を聞きました。教会で長年奉仕してきたことは、組織を整えて互いに助け合うための予備練習となりました。

人生についても同じことが言えます。人はいつどのように人生の地震に直撃されるか分かりません。この場合の地震とは、ペルーであったような大地の揺れでは

なく、失業や深刻な病気をはじめ、誘惑、罪、試練を伴う問題のことです。そのような問題に襲われたときのために備える時は、今です。備えをすべき時は、危機に迫られたときではなく、今なのです。逆境のときに自分を支えてくれる福音の原則を心に刻むために、わたしたちは今何をしているのでしょうか。

例えば、エジプトに売られたヨセフが純潔の律法を破るよにというポテパルの妻からの誘惑を退けて「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができましょう」と答えられたのは(創世39:9)、ヨセフが心にどのような種を植えていたからでしょうか。神から命令を受けたときに「わたしは行って、……行きます。……道が備えられて[いる]ことを承知しているからです」と答えられたのは

(1ニーファイ3:7)、ニーファイが前もってどのような種を植えていたからでしょうか。

これらの偉大な指導者は、御霊が福音の原則を自分の心に刻めるようにしました。福音の原則を心に刻むことは一夜にできることではありません。義の原則に心をよく開くことは、霊的な地震に備えるうえで大きな違いを生みます。深く考えたり、悪い影響力を遮断したりすることで、さらに大きく心を開くことができます。

預言者の教えや聖文を読むだけでなく、それらを祈りの精神で熟考する時間も取ると、永遠の原則が人の心に根付きます。例えば、ニーファイは座って深く考える時間を取りました。そうすることにより、彼は教義に含まれる貴重な真理を知りました(1ニーファイ11:1参照)。主が命じておられる次のことをする時間を取りましょう。「これらのことをあなたがたの心の中に大切に蓄えておきなさい。永遠の厳粛さを心にとどめなさい。」(教義と聖約43:34)人からいっそう多くの時間を奪っていく世の中であって、家庭で深く考える時間を取ることは、神聖な教義と原則を理解するうえで不可欠です。救い主もこうおっしゃいました。「……自分の家に帰り、わたしが述べたことを深く考えなさい。……理解できるように、また明日のために心が備えられるように[し]なさい。」(3ニーファイ17:3)

これに加えて、悪の影響力に関する主の勧告に耳を傾けるなら、人はさらに多くの教義と原則を受け続けるでしょう。不適切な行動や考え方をするように圧力をかけてくる人もいるでしょう。しかし、そのような行動や考え方をしていると、いつか地震に揺さぶられたとき、自分の準備が不十分であったことを思い知らされることになります。このことに関して、今後の人生の浮き沈みに今からよく備えていくうえで役立つ鍵を、救い主は与えてくださいました。主はこう言われたのです。「だから、もしあなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。すなわち、あなたの兄弟があなたに罪を犯させ、その罪を告白することも捨てることもしないならば、彼を切り捨てなければならない。」(ジョセフ・スミス訳マルコ9:40)

神は忠実な神権者を 助けてくださる

大管長会第二顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

そのメッセージは、具体的な言葉として皆さんの思いに、あるいは皆さんの感情に、あるいはその両方にもたらされるかもしれません。〔それは〕……なすべきことについて、確信と導きを与えてくれ……ます。



今晩、わたしは世界のどこかにいる少年に思いをはせています。自分のような者に、神権者の務めが果たせるだろうかと心配している少年です。わたしも13歳か14歳のころ、同じように心配しました。

わたしが育ったのは、伝道が大いに必要とされる地域でした。小さな支部が一つしかなく、集会は我が家で行われていました。やがてわたしの家族は、ステーキが幾つもあり、ワードはどれも大きく立派な礼拝堂のある地域に引っ越しました。定員会の少年たちは、神権者の務めについて、わたしよりはるかに知っているように見えました。聖餐をパスするのにも、複雑な方式が定められていました。聖餐のパスや準備をする順番が回ってきたら、

きっと失敗するだろうと思いました。

恐れと絶望から、独りになるために礼拝堂の外に出たのを覚えています。心配だったのです。神権を使って神に仕えるとき、失敗しないで済むように助けと確信を求めて祈りました。

歳月は流れ、わたしがメルキゼデク神権を受けてから50年以上たちました。しかし、この数日間、あのときと同じ助けと確信を求めて祈ってきました。大管長会で奉仕するという、頂いたばかりのこの召しを、失敗せずに果たせるように嘆願したのです。ほかの人たちの方がはるかに有能で、備えられているように思えます。しかし、今回祈っていると、昔あのエールクレストワードの建物の外で受けたのと同じ答えを感じる事ができました。皆さんも自分の力が及ばないように思える神権の召しを受けたとき、同じ答えを得る事ができます。

そのメッセージは、具体的な言葉として皆さんの思いに、あるいは皆さんの感情に、あるいはその両方にもたらされるかもしれません。いずれにせよ、そのメッセージには、皆さんが圧倒されるような召しを果たすうえでなすべきことについて、確信と導きを与えてくれる事柄が少なくとも3つ含まれています。

第1に、確信は、危険や困難のときにこれまでに何度も天の御父から助けられてきたという記憶からもたらされます。わたしはこの数日間、そのことを実感しています。

幸いなことに、片手を切り捨てることの意味を、救い主自らが教えてくださいました。「切り捨てる」とは肉体への自傷行為のことではなく、明日の地震に備えるのに妨げとなる影響力を今日生活から取り除くことです。わたしにとって悪い影響を及ぼす友人がいるとしたら、わたしへの主の勧めは明白です。「あなたとあなたの兄弟が地獄に……投げ入れられるよりは、兄弟抜きで命に入る方がよい。」(ジョセフ・スミス訳マルコ9:41) 主は、危険な影響を及ぼすようになった兄弟たちのところから出て行くようにニーファイに警告されたとき、この同じ原則を当てはめられたのです(2ニーファイ5:5参照)。

切り捨てることは、友人だけでなく、不適切なテレビ番組、インターネットのサイト、映画、印刷物、ゲーム、音楽など、悪い影響力を持つあらゆるものに当てはまります。この原則を心に刻み込むことにより、悪の影響力に屈するようという誘惑に対抗することができます。

より多くの教義に親しむことにより、わたしたち神権者は福音の価値観と原則を心に深く根付かせることができます。また、予告なしに訪れる試練に立ち向かうために、よりよく備えることができます。神権者としてわたしたちは、預言者エレミヤになされた約束を実感するでしょう。「見よ、わたしはきょう、この全国……の前に、あなたを堅き城、鉄の柱、青銅の城壁とする。」(エレミヤ1:18)

そのとき、わたしたちはイカステークのリンダ・クルサード姉妹のように感謝を示すことができるでしょう。風雨にさらされて夜を過ごした彼女はこのようにつぶっています。「次の日の夜明け、天の御父は早くから昇る暖かい太陽で御自身の愛を示し、その日の夜には満天の星でわたしを慰めてくださいました。」

わたしたちが雄々しく立ち、救い主の教えを真剣に熟慮することを決意すべき時は、今です。主が生きておられ、わたしたちが最善を尽くした後、足りない分を補ってくださることを、わたしは知っています。そのことを、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。



わたしがまだニュージャージーに住んでいた子供のころ、大勢の人が怒りをあらわにして我が家の前に詰めかけたことがありました。母は、独りで対応しました。わたしには彼らが非常に危険な人々に見えました。母の言葉は聞こえませんでした。数分後、彼らは穏やかに立ち去りました。このことは、一つの奇跡を見たという記憶として、今もわたしの心に残っています。

年を重ねてから経験した、もっと記憶に新しい出来事もあります。そのときわたしは、怒った人々に対処するという任務を大管長会から受けていましたが、不思議なことに、彼らは突然、心を落ち着かせる御霊を感じて、和解したのです。

また別のときに、合衆国内の教会間の競合問題を解決するためにミネアポリスに集まった諸教会の指導者と聖職者に向けて話す割り当てを受けました。

到着して初めて、自分が話す割り当てを

受けていることを知りました。話のテーマは、「なぜ真の教会がジョセフ・スミスを通して回復される必要があったか」というものでした。わたしは、集会の直前にニール・A・マックスウェル長老の代役を務めることになったのでした。

集会の前夜、ミネアポリスに着いてプログラムを見たわたしは、ピンクレー大管長に電話しました。この集会は3日間続くこと、多くの話者が同じ時間帯に別の会場で話すこと、聴衆はどれに出席するか選択できることを伝えました。そして、もし真実を話せば、2度目の講演にはだれも来ず、わたしは早々に帰ることになるかもしれないと言いました。どうすべきだと思うかと尋ねると、「最善の判断力を働かせてください」との答えでした。

わたしは夜を徹して祈りました。夜明け近くになって、回復について「これが、ジョセフ・スミスに起きたとわたしたちが

信じていることであり、そして、これが、そう信じている理由なのです」と言うのではなく、「これが、ジョセフ・スミスに起きたことであり、これが、主がそうされた理由なのです」と告げるべきだと確信しました。その夜、どのような結果になるのかについては、何の約束も受けませんでした。 「前に進みなさい」という明確な導きだけは受けました。

驚いたことに、わたしの演説の後、聖職者たちがわたしと話すために列を作ったのです。入れ替わり立ち替わりやって来る人が、皆、基本的に同じことを話しました。それぞれ人生のどこかで教会員に会い、感銘を受けていました。多くの人がこのように言いました。「あなたの教会のステーク会長は、わたしの住む地域で災害が起きたとき、教会員だけでなく、被災地全体を助けに来てくれました。」わたしにとって面識がないばかりか、今後也會うあてもない人々について、「心からの感謝を伝えてください」と頼まれたのです。

3日間の集会が終わるころには、ますます大勢の人が、回復された福音のメッセージとイエス・キリストのまことの教会について聞くためにわたしの講演に来てくれました。それは、彼らが福音のメッセージを信じたからではなく、この教会の会員の生活に現れている徳、すなわち回復された福音の実を目にしていたからでした。

この何日間か祈っていたときに、そのような記憶が次々とよみがえり、次のような確信を抱くことができたのです。「わたしは常にあなたを見守ってこなかっただろうか。わたしがあなたを憐れみのみぎわに伴ったときのことを思い出さない。あなたの敵の前で、宴を設けたときのことを思い出さない。わざわいを恐れてはならない。」(詩篇23篇参照)

ですから、新しい執事の皆さんにお伝えします。主は皆さんが子供のころから助け導いてくださいました。そのことを思い出してください。新しい定員会会長の皆さん、皆さんも思い出してください。子供に手を焼いている父親の皆さんも、思い起こしてください。恐れてはなりません。主の業に就くとき、皆さんにとって不可能な

ことも、神の助けがあれば可能なのです。皆さんが幼かったときからずっと、皆さんが主に仕えたとき、主は力と御霊によって、皆さんに先立って行き、皆さんの右または左におられました(教義と聖約84:88参照)。信仰を込めて祈り求めるなら、神が見守ってくださるという確信が得られます。わたしはそのことを知っています。

難しい割り当てに助けを祈り求めるときに、皆さんが受ける第2のメッセージは、わたしがこの金曜日の早朝に受けたものです。自分の力不足を痛感したわたしは、皆さんもそうするでしょうが、祈っていました。受けた答えは、とても明確で、直接的で、祈りについて反省を促すものでした。答えはこうでした。「自分を忘れなさい。あなたが仕える人々のために祈りなさい。」この答えに従えば素晴らしいことが起こります。聖霊が訪れられるのです。わたしはそのことを証することができます。

よく備え、時間を忘れて祈ってください。そうすれば、仕える人々をさらに愛するようになります。彼らやその家族の必要、望み、心の痛みをさらに感じるようになります。そして皆さんが祈るとき、きっとその輪は、想像をはるかに超えて広がり、定員会や家族だけでなく、彼らが愛する世界中の人々へと波及していくでしょう。自分を忘れて、自分の仕える人々のために祈るとき、皆さんのする奉仕は皆さんの心に影響し、奉仕の質が変わるだけでなく、皆さんの心さえも変わるでしょう。なぜなら、皆さんが召しを受け、仕えている御父と御子は、皆さんの奉仕が及ぶ非常に多くの人々(たとえ皆さん自身には、ほんの少数の人にしか思えなくても)のことをよく御存じであり、愛しておられるからです。

難しい神権の召しに助けを求めるときに、皆さんが待ち望むことのできる第3の、そして最後のメッセージは、わたしもこのメッセージを受けたのですが、行って、実行するということです。神権の力はほかの人を祝福するために与えられました。ですから、常に行って、実行しなければならぬのです。たいていは、何か困難な事柄です。ですから皆さんは、神の助けが得られるという確信と、自分自身を忘れな



さいという戒めと、さらに、行ってだれかの生活を祝福するような何かを実行しなさいという聖霊の明確な促しを期待してよいのです。それは、皆さんが仕えるように割り当てられた個人や家族、あるいは定員会の会員を、祈りを込めて訪問するというような分かりやすいことかもしれません。父親にとっては、子供の誤りを正すことかもしれません。

皆さんのすることが、誤りを正すことであれ、イエス・キリストの福音を教えることであれ、何が成功であるかに留意すれば、よりよく実行できるでしょう。皆さんがだれかに仕えるとき、皆さんは、その人に永遠の命を得させようとしておられる御父と御子の助けをしているのです。そのためには、皆さんの仕えている人々の心に、御霊による証が根付かなければなりません。その証に導かれることにより、どのような困難や誘惑に遭っても、戒めを守ることを選べるようになる必要があるのです。

そのことに留意していれば、皆さんは御霊に導かれて、神権の力で教え、誤りを正すことができるでしょう。自らを清く保ち、御霊によって教えられるようになることでしょう。いつ、どのように正し、いっそう愛を示すべきかが分かるよう、御霊を祈り求めるようになるでしょう(教義と聖約121:43-44参照)。何を行うにしても、皆

さんが神権によって行う奉仕を導く原則、そしてその成果を測る物差しは、人々の生活と心に真理の証がどれだけ深く根付いたか、またそれによって贖いの効力が十分に及び、その効力が持続しているかということです。

皆さんは自分の奉仕に確信を得ることができます。自分を忘れ、自分の仕える人々のために祈り愛することができます。そして、すべきことを選択し、仕える人々の心がどれだけ変わったかで成功を測ることができるのです。

とはいえ、皆さんや皆さんの仕える人々にとって、これは決してたやすいことではありません。贖いの力によって人の心が変わるためには、奉仕と悔い改めが欠かせませんが、それらを行うには苦勞がつきものです。それは、本質的に皆さんの召しに含まれているものなのです。皆さんは救い主の業に携わっていますが、その救い主について考えてみてください。主の生涯の中でたやすくできた事柄があったのでしょうか。主は弟子たちに容易なことをお求めになったのでしょうか。それなら、一体どうして、主の奉仕の業に携わることや、主の弟子となることがたやすいということがあるのでしょうか。

その理由は、「打ち砕かれた心」という言葉に示されています。皆さんは今日そのことについてよく教えられました。聖文は時々、人々が心を和らげたことについて述べていますが、この「打ち砕かれた心」という言葉は、たいてい、人が自分自身や自分の仕える人に求める心の状態を描写しているのです。このような心があれば、自分に与えられた奉仕の召しや、自分にとって必要で心から求めている悔い改めが、容易でないことを受け入れやすくなります。そして、証を人々の心に根付かせなければならない理由が、もっと理解できるようになります。キリストが自分の罪を贖ってくださったという信仰が、心、すなわち打ち砕かれた心の中に、根付かなければならないのです。

さて、わたしたちがこれからすることについて今晚ともに心に決めましょう。どのような召しであれ、人は皆、自分の力の及



ばない事柄に直面します。わたしにも皆さんにも当てはまることです。それは、「成功とは、人々に証を根付かせることである」という単純な事実を見ても明らかです。わたしたちは人にそれを強制することはできません。神でさえ、だれにも強制なさらないのです。

ですから成功するためには、わたしたちの仕える人々が、御霊の証を心の中に受け入れるという選択をする必要があります。御霊はいつも用意ができていますが、多くの人は御霊を招く用意ができていません。わたしたちに実行できる務めとは、御霊をわたしたち自身の生活に招くことです。そうすることにより、わたしたちの仕える人々が、わたしたちの生活の中にある御霊の実を見て、自分の生活の中にも同じ実が欲しいと思うのです。

そのことを踏まえて、わたしたちに選択できる、することと、しないことについて提案しましょう。わたしたちにできるある事柄は、御霊を招きます。一方、御霊を退かせる事柄もあります。皆さんは経験からそれを知っています。

成功を願っている神権者であれば、何に目を向けるかに注意を払わなければなりません。肉欲を駆り立てる画像に目を向けると、御霊が退きます。クレートン長老も警告したように、インターネットやメディアによってさらされる、ポルノグラフィの危険性については繰り返し警告を受けています。不謹慎な事柄が蔓延している時代において、御霊を寄せ付けな

い感情を生じるものには何であれ目を向けないという意識的な選択、つまり自制心が毎日求められています。

同じように、何を語るかについても注意しなければなりません。語る言葉に注意深くなければ、主の代弁者となることはできません。俗悪で、みだらな言葉は御霊を不快にさせます。不謹慎さと同じように、俗悪でみだらな言葉遣いも、今や当たり前ようになってきています。以前は、主の御名をみだりに唱えたり、俗悪な言葉や品のない冗談を口にしたりするのは、特定の場所に集まる特定のグループの人のみでした。しかし現在では、そのような言葉はどこにでもあふれ、以前と違って、多くの人がそれらを社会的に容認するようになってきました。

ほかの人の言うことはコントロールできませんが、自分が口にする言葉を変えると決意することはできますし、そうしなければなりません。どんな恐ろしい状況であっても、主の助けが得られるということを、わたしは自分自身の経験から知っています。昔、2年の間、空軍士官だったことがあります。同じ事務所には、海兵隊大佐、陸軍大佐、海軍中佐がいました。戦時か平時かを問わず、彼らの言葉遣いにわたしは不快な思いをしました。彼らの用いる言葉は、聖霊を退けるものでした。当時わたしは地方部宣教師で、夜の空いた時間を使って福音に興味を持つ人を見つけ、教えるために、御霊の影響を受けたいと思っていましたが、それは非常に難

しいことでした。わたしは中尉で、彼らよりずっと下の階級です。彼らの言葉遣いを変えさせる手立てはありませんでした。そこで、助けを求めて祈りました。神がどのようにしてそうされたのか分かりませんが、やがて彼らの言葉遣いが変わっていったのです。少しずつですが、汚い言葉が減り、次いで下品な言葉が聞かれなくなったのです。アルコールが入ると以前のような言葉遣いになりましたが、彼らがお酒を飲むのは夜だったので、わたしはその場を辞して伝道に出かければよかったのです。

人生で困難に直面したときは、このように神から助けを受けた経験を思い出し、信仰の支えとすることができます。この邪悪な世界にあって悪に目を向けず、悪い言葉を口にしないと決意している忠実な神権者を、神は助けてくださるでしょう。悪から遠ざかるのは決して容易ではありませんが、主の次の約束は、わたしにも皆さんにも成就します。「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。」(教義と聖約121:45)

皆さんとわたしに神の神権が与えられていること、そして、神が祈りにこたえてくださり、よりよく主に仕えられるよう確信と助けを与えてくださることを証します。そのことを皆さんに約束し、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

王国の神権者

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン管長

時は移り、状況は変わるかもしれませんが。しかし、神のまことの神権者の特質は不変です。



兄 弟の皆さん、この壮大な建物の端から端まで見渡して言えることは、ここから見る皆さんの姿は実に壮観だということに尽きます。世界中の何千という礼拝堂で、皆さんと同様に神の神権を持つ人々が、衛星放送を通じてこの大会に参加していることは驚くべきことです。その国籍は異なり、話す言葉は様々でも、わたしたちは共通の糸で結ばれています。わたしたちは信任を受けて神権を授かり、神の御名によって行動することができます。神の信頼を受け、大きな期待を寄せられているのです。

神の神権を持ち、それを尊ぶわたしたちは、歴史上特別なこの時期に生を受けるために取っておかれた霊です。使徒ペテロは、ペテロの第一の手紙の第2章9節でわたしたちについて次のように語っています。「しかし、あなたがたは、選ばれた世代、王国の神権者、聖なる国民、特

異な民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」

わたしたちはどうすれば「王国の神権者」という称号にふさわしくなれるのでしょうか。生ける神の真の息子の特質とは何でしょうか。今晚、わたしはその特質の幾つかを考えてみたいと思います。

時は移り、状況は変わるかもしれませんが。しかし、神のまことの神権者の特質は不変です。

まず、わたしたち全員が将来への展望という特質をはぐむように提案します。ある作家はこう言いました。「歴史の扉は小さなちょうつがいで動く。人生も、また、同様である。」この格言を自分の人生に当てはめるなら、わたしたち自身が幾つもの小さな決断の結果の集大成であると言えるでしょう。実際、わたしたちは自らの選択の産物なのです。わたしたちは過去を思い起こし、現在を評価し、未来を見通す能力を伸ばさなければなりません。それは主がわたしたちに望んでおられることを人生の中で達成するためです。アロン神権を持つ若い男性の皆さんは、メルキゼデク神権を受ける日を心に描く能力があるはずで、そして神の聖なるメルキゼデク神権を受けるために、執事、教師、祭司として自らを備える必要があります。皆さんは、メルキゼデク神権を受けるとき、宣教師として働く召しにこたえられるよう備えている責任があります。すなわち、宣教師の召しを受け、それを全うする備えができていなければならないので

す。すべての少年、すべての男性が将来への展望を持つようにと心から祈ります。

神のまことの神権者の特質として強調したい2番目の原則は、努力という特質です。努力をしたいと望んだり、努力をしようと口にしただけでは不十分です。実際に努力をしなければなりません。目標を達成するには、考えるだけでなく、行わなければなりません。目標をいつまでも先延ばしにするなら、それを達成することはありません。ある人はこう言いました。「明日を当てにしてばかりいる人の生涯は、昨日も今日も空っぽだ。」¹

1976年7月、陸上選手のギャリー・ビョークランドは、合衆国オリンピックチームの1万メートル走の出場資格を得ようと固く決心していました。モントリオールオリンピックの出場資格です。しかし、厳しい予選レースの途中で、彼の片一方の靴が脱げてしまいました。わたしたちが同じ経験をしたら、どのように対応するでしょうか。恐らく、彼は途中で断念して走るのをやめることもできたでしょう。不運のせいにして、人生の最も偉大な競争に参加する機会を失うこともできたでしょう。しかし、この一流スポーツ選手の取った行動は違いました。片方の靴だけで走り続けたのです。彼は、それまでの人生で走ったことがないくらい速く走らなければならないことを承知していました。競争が始まったときは違って、ライバルたちが今や有利な立場に置かれていることも知っていました。シンダートラック(訳注——細かい石炭殻を敷き詰めた競争用トラック)の上を、片方の靴が脱げ、片方の靴を履いた状態で走ったのです。ギャリーは3位でゴールし、金メダルをかけたレースに出場する機会を手に入れました。彼自身のタイムは自己ベストでした。彼は目標を達成するために必要な努力を払ったのです。

神権者として、つまずいたり、精根尽き果てたり、落胆や心痛に悩む日々もあるでしょう。そのようなときに、わたしたちが堪え忍び、目標に向かってさらに大きな努力を払えるよう望んでいます。

わたしたちは少なくとも生涯に1度、執事定員会会長や、教師定員会書記、神権



アドバイザー、レッスン教師、ビショップなど、教会で召しを果たす機会にあずかります。もっと多くの召しを挙げることはできませんが、それは言わなくてもお分かりでしょう。わたしは、まだ22歳のときにソルトレーク・シティ第6・第7ワードのビショップとして奉仕する召しを受けました。1,080人の会員を抱えるワードで、処理すべきすべての問題に対処し、ワードの会員一人一人が自分もワードの一員であり、見守られていると感じられるようにするには、たくさんの努力が求められました。きわめて困難な責任ではありましたが、その責任に押しつぶされることはありませんでした。わたしはその務めに着手し、ほかの人たちと同じように、自分の能力の限りを尽くして奉仕するために精いっぱい努力を払いました。わたしたちは、どのような召しや割り当てであっても、同様のことを行えます。

昨年、わたしは自分が1950年から1955年にビショップとして奉仕したその地域で、今でも残っている住宅が幾つあるのか確かめてみることにしました。かつてのワードに含まれていた区画を、一つ一つ

ゆっくりと運転して回りました。捜した結果、驚いたことに、1,080人の会員が住んでいたすべての家屋やアパートの中で、依然として残っているのはたったの3軒だけでした。その3軒のうち1軒は草が生い茂り、木の枝は刈り込まれていませんでした。また、だれもそこには住んでいませんでした。まだ残っていた2軒の家屋のうち1軒は、窓に板が打ち付けてあり、空き家でした。あと1軒には何かこぢんまりとした事務所が入っていました。

わたしは車を止め、エンジンを切り、しばらくそこに座っていました。かつての家屋やアパート、そこに住んでいた人たちが心に思い浮かびました。家や建物はなくなっていました。一つ一つの家に住んでいた家族に関する思い出は、依然として鮮やかに思い出すことができました。作家のジェームズ・バーリーが語った次の言葉が頭をよぎりました。「神が人に記憶を与えられたのは、人生の12月に6月のバラを思い出せるようにするためである。」² ビショップの責任を受けて奉仕する機会があったことに心の底から感謝しました。最善を尽くして自分の与えられた召しを果たすならば、だ

れも同じような祝福を受けられるのです。

努力という特質は、すべての神権者に求められるものです。

わたしが強調したい3番目の原則は、信仰という特質です。わたしたちは、自分自身に対して、また、わたしたちが様々な問題に取り組むときに祝福と導きを与えてくださる天の御父の力に対して信仰を持たなければなりません。詩篇の作者は、ずっと昔に次の美しい真理を書きました。こうあります。「主に寄り頼むは人にたよるよりも良い。主に寄り頼むはもろもろの君にたよるよりも良い。」³ 言い換えれば、わたしたちを導く主の力を信頼することです。御存じのように、人の友情は変わることがあります。しかし、主が変わられることはありません。

シェークスピアは、その劇「ヘンリー8世」の中で、ウルジー枢機卿を通してこの真理を教えました。ウルジー枢機卿は、国王との親しい関係のゆえに大きな威信と誇りを手にした男でした。しかし、その関係が終わりを告げるとき、ウルジー枢機卿は権威をはぎ取られ、名声も威信も失ってしまいます。すべてを得、すべてを失って

しまうのです。悲しみのうちに、枢機卿は僕しもべのクロムウェルに真相を語ります。こう言いました。

それにしても、なあ、クロムウェル
おれが陛下に仕えたせめて半分の熱意で
神に仕えていたら、こんな年になって、
素っ裸で敵の中に放り出されることは
なかっただろう。⁴

今晚、ここに集っている皆さんの心には
きっと信仰という特質があることでしょう。

わたしは自分のリストに美德という特質
を付け加えます。主は絶えず徳でわたした
ちの思いを飾るようにとおっしゃいました。⁵

わたしは自分がアロン神権者だったとき
にソルトレーク・シティーのタバナクルで開
かれた神権会を覚えています。教会の大
管長が神権者に話をし、決して忘れること
のできないことを言いました。手短かに言え
ば、大管長は、性的な罪、あるいはそのほ
かの罪を犯す人は、まばたきする間にそれ
を行うのではないと言ったのです。わたした
ちの行為には、それに先行する思いが
あることを強調し、罪を犯すのは、その特
定の罪を犯すことについて、頭の中で考
えているからであると言いました。それから
大管長は、罪を避ける唯一の方法は、頭
の中を清く保つことだと宣言しました。聖
文には、人はその心に思うそのままであ
る、⁶と書かれています。わたしたちは美德
という特質を持たなければなりません。

天の御父の王国で宣教師になりたいと
思うなら、神の聖なる御霊みたま はんりよを伴侶とするに
ふさわしくあらねばなりません。主の御霊
は汚れた宮、すなわち聖きよくない宮にはとど
まらないとはっきり言われています。

最後に、祈りという特質を付け加えさせ
てください。天の御父と交わりたいという
望みは、神のまことの神権者の特質です。

家族や個人の祈りを主にささげるとき
は、信仰をもってそれを行い、主を信頼し
ましょう。使徒パウロがヘブル人に与えた
戒めを忘れないようにしましょう。「なぜ
なら、神に来る者は、神のいますことと、
ご自身を求めめる者に報いて下さることと
を、必ず信じるはずだからである。」⁷もし



もわたしたちの中に、常に祈りなさいとい
う勧告に熱心に従ってこなかった人がい
るならば、今こそ従う時です。ウィリアム・
クーパーはこう言明しました。「最も弱い
聖徒がひざまずいて祈るとき、サタンは、
震えおののく。」⁸ 祈りは人間的な弱さを
示すと感じている人は、ひざまずいて祈
っているときほど人が固く立つことはない
ということ覚えてください。

次の歌を常に記憶にとどめましょう。

祈りたましいは魂の
見えぬ望み
述べても述べても
胸もに燃ゆる

いのち
生命、真理、道の主よ
われらに
教えさとしたまえ
祈りの道⁹

祈りという特質をはぐくむならば、わた
したちは天の御父が準備しておられる祝
福にあずかるでしょう。

最後に、将来への展望を持ちましょう。

努力をしましょう。信仰と美德を行いに表
し、祈りを絶えず生活の一部としましょう。
そうすれば、わたしたちは文字どおり王
国の神権者となるのです。これこそわた
しの祈りです。イエス・キリストの御名によ
り、アーメン。

注

1. メラディス・ウィルソン、フランクリン・レーシー、*The Music Man* (1957年) 参照
2. ローレンス・J・ピーター編、*Peter's Quotations: Ideas for Our Time* (1977年)、335参照
3. 詩篇118:8-9
4. 「ヘンリー8世」第3幕第2場、454-458行。筑摩書房『シェクスピア全集5 史劇II』中野里皓史訳、338
5. 教義と聖約121:45参照
6. 欽定訳箴言23:7参照
7. ヘブル11:6
8. ウィリアム・ニール編、*Concise Dictionary of Religious Quotations* (1974年)、144
9. 「祈りは魂の」『賛美歌』83

怒りをおそくする

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

主が皆さんを祝福し、靈感を与えてくださり、皆さんが怒ることがありませんように。



こカンファレンスセンターや、遠く海の向こうの教会、そのほか様々な場所にいる、愛する兄弟の皆さん。わたしたちがカンファレンスセンターで話す言葉を、南アフリカのケープタウンのように遠く離れた場所にも届けることができるとは、何とすばらしいことでしょう。

今夜は、怒りというテーマについて話すことにしました。少々珍しいテーマですが、時宜にかなっていると感じています。

旧約聖書の箴言にはこうあります。「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。」(箴言16:32)

問題が起こるのは、決まって怒っているときです。幹線道路に影響を及ぼす運転中のいらいらは、怒りの表れです。あえて言わせてもらいますが、刑務所おこなにいる大半の人は、怒りに任せて行ったことのために、そこにいるのです。腹立ち紛れに、悪態をつき、自制心を失い、そして何か恐ろ

しいことを、殺人ですら、犯してしまったのです。罪を犯すのは一瞬でも、後悔は何年も続きます。

チャールズ・W・ペンローズという人に関する話です。彼は教会に改宗し、その後、イングランドでおよそ11年間伝道しました。宣教師を解任されてから、持ち物の一部を売って、シオンに行く旅費にしました。それを見た聖徒の何人かが、彼は教会のものを盗んでいると言いました。

チャールズはとても腹を立てましたが、家の2階へ上がり、腰を下ろして、皆さんもよく知っている、次の詩を書きました(カレン・リン・デビッドソン、*Our Latter-day Hymns: The Stories and the Messages* [1988年], 323参照)。

心を抑えよ、兄弟たちよ
知恵の声をもて、これを導け
力は静けき思いに宿り
怒りは理性も眼も暗くする

心を抑えよ、敵をも愛せ
責めたる言葉を多く聞かとも
弁明を聞けよ、隠されてある
醜きもの見え、光は皆さん
心を抑えよ、兄弟たちよ
知恵をもて、これを導け
(「心を抑えよ」『賛美歌』198番)

その昔、わたしは鉄道会社に勤めていました。ある日、ホームをぶらぶら歩いている操車係を見かけたので、別の線路に移動してほしい貨車があると言うと、彼は火がついたように怒りだしました。帽子をアスファルトの上に投げ捨て、酔っ払っ

た水兵のように、悪態をつきながら、何度も飛び跳ねて帽子を踏みつけました。わたしはそこに立って彼の幼稚な振る舞いを笑っていました。わたしが笑っているのに気づくと、彼も自分のばかげた行動を笑い始めました。そして、貨車移動機に黙って乗り込むと、空の貨車をつないで空の線路に移動させました。

わたしは伝道の書にある聖句を思い出しました。「気をせきたてて怒るな。怒りは愚かな者の胸に宿るからである。」(伝道7:9)

怒りから実に多くの悪い行いが生まれます。

朝刊からある記事を切り抜いておきました。次のような書き出しです。

「西暦2000年から今までの間に、25回目の結婚記念日を迎えるはずだったアメリカ人の半数以上が、その大切な節目が来る前に、離婚あるいは別居したり、死別したりしている。」(サム・ロバーツ、"Most U.S. Marriages Don't Get to Silver," *Deseret Morning News*, 2007年9月20日付, A1)

死別については、もちろん当事者にはどうすることもできませんが、離婚と別居はどうかすることができます。

あまりに多くの離婚が、怒りに端を発しています。男女がいわゆる恋に落ちて、お互いをすばらしいと思い、その人以外に恋をすることなどできないと感じます。儉約してダイヤの指輪を買い、結婚します。これ以上の幸せはありません。しばらくの間はそうです。しかし、やがてささいなことから批判が始まります。小さな欠点は何倍にも大きく見えて、あら捜しの応酬となり、きずなが切れ、別居し、ついには恨みと憎しみを募らせて離婚するのです。

このパターンが、何千組もの夫婦の間で繰り返されています。実に痛ましいことです。そして、先ほど述べたように、その大半が、怒りに端を発しているのです。

わたし自身の結婚を振り返ってみます。わたしの永遠の伴侶ほんりよは3年半前に他界しましたが、わたしたちは67年間連れ添いました。妻と口論した記憶は一度もありません。彼女はわたしと一緒に旅をして、

すべての大陸で話し、自制心や思いやり、愛を実践するように熱心に勧めました。

何年か前に手にした冊子にこのような記事がありました。

「新聞で中傷された男が、エドワード・エベレット・ヘールのもとを訪ね、どうしたらよいだろうと相談しました。ヘールの答えはこうでした。『何もする必要はありません！新聞を買った人の半数はその記事自体を見ていませんし、記事を見た人の半数は読んでいませんよ。それに、実際に読んだ人の半数は意味を理解していませんし、理解した人の半数はそんな記事を信じていません。そして、信じた人の半数はいずれにせよ取るに足りない人たちです。』」(Sunny Side of the Street, 1989年11月号。ズィグ・ズィグラウ, *Staying Up, Up, Up in a Down, Down World* [2000年], 174も参照)

非常に多くの人が、小さなことで大騒ぎします。人はあまりにも簡単に気分を害するのです。人の不快な言葉を気にも留めないでわが道を行ける人は何と幸せでしょうか。

恨みをためたままにすると、深刻な問題になることがあります。それは慢性の痛みのように、神経が片時も休まりません。ギ・ド・モーパッサンの作品の中に、この問題を描いた興味深い物語があります。

主人公のオーシュコルヌが、ある日、市場にやって来ます。リウマチを患っていた主人公は道につまずいたときに、目の前にあったひもに気づきました。そしてそれを拾い、ポケットに入れます。その様子を、主人公と仲の悪い馬具師が見ていました。

同じ日に、町長はだれかの財布が盗まれたという報告を受けました。人々はオーシュコルヌが拾ったものがその財布であると決めつけ、彼を訴えました。オーシュコルヌは懸命に否定しました。衣服を調べても、拾ったひもしか出てきませんでしたが、中傷されたオーシュコルヌはいつまでもその件が頭から離れませんでした。彼は行く先々でその話をしました。あまりにしつこい彼は、逆に人々から非難され、それが原因で病気になってしまいました。

彼の精神はどんどん衰弱し、12月の末



メキシコ、メリダで大会の様態を視聴しに来た親子

末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会

2007年10月現在



第一顧問
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二顧問
ヘンリー・B・アイリング



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ディーター・F・ウクトドルフ



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック

十二使徒定員会

七十人会長会



アール・C・テインナー



D・トッド・クリストファーソン



ニール・L・アンダーソン



ロナルド・A・ラスバンド



クラグ・A・クリステンセン



スティーブン・E・スノー



ウォルター・F・コンガレス

七十人第一定員会



カロス・H・アマード
ジョン・B・ディクソン



デビッド・S・ハバスター
チャールズ・ティチエ



ジェームズ・M・ホーン
デビッド・F・エバンズ



シェルドン・F・チャイルド
エンリケ・R・フララバ



L・ホルツナー
クリストファー・コルチン・ジュニア



ゲラルド・J・コールマン
C・スコット・クロウ



スティーヴン・J・コンナー
ブルース・C・ヘーフェン



ベナミン・T・オニス
ドナルド・L・ポルストロム



マーティン・B・アーノルド
ドン・R・クラーク



ダヴィッド・L・ガスター
ジェームズ・M・タン



クレイグ・A・ゴードン
キース・R・エドワーズ



ウィリアム・C・クリステンセン
スタンレー・G・エリス



ウィリアム・D・クリステンセン
ダリル・H・カーン



キース・K・ヒルビグ
リチャード・G・ヒンクレー



ジョン・E・ジェンセン
ジョージ・W・コビユカ



ジョン・W・マトソン
リチャード・J・メイツ



マーティン・K・ジェンセン
リン・A・ミラルモン



菊地 謙彦
クリフ・L・ペイス



ロバート・V・ジョンソン
デニス・B・アイオンズ



マーク・B・ナチュ
エリク・O・サミュエルソン・ジュニア



マイケル・J・テター
クリス・ソアラ



ラリー・W・キップス
ロバート・C・オース



スペンサー・V・ジョンソン
ウィリアム・W・バームリー



ジョセフ・W・マストロマルコ
ウォルフガング・H・ポル



ジェラルド・N・ランド
W・ダグラス・シャムウエー



ローウェル・M・スノー
ロバート・S・ワッド

七十人第二定員会



マーティン・B・アーノルド
ドン・R・クラーク



ダヴィッド・L・ガスター
ジェームズ・M・タン



クレイグ・A・ゴードン
キース・R・エドワーズ



ウィリアム・C・クリステンセン
スタンレー・G・エリス



ウィリアム・D・クリステンセン
ダリル・H・カーン



ラリー・W・キップス
ロバート・C・オース



スペンサー・V・ジョンソン
ウィリアム・W・バームリー



ジョセフ・W・マストロマルコ
ウォルフガング・H・ポル



ジェラルド・N・ランド
W・ダグラス・シャムウエー



ローウェル・M・スノー
ロバート・S・ワッド



リチャード・C・リッチャード
エッジリー



ウィリアム・B・キース
マグマリン



ウィリアム・B・キース
マグマリン



ウィリアム・B・キース
マグマリン



ウィリアム・B・キース
マグマリン



ウィリアム・B・キース
マグマリン



ウィリアム・B・キース
マグマリン

管理ビジネスブリック



第一顧問
リチャード・C・エッジリー



第二顧問
キース・B・マグマリン



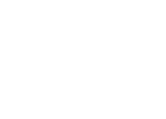
管理ビジネスブリック
H・デビッド・バートン



管理ビジネスブリック
H・デビッド・バートン



管理ビジネスブリック
H・デビッド・バートン



管理ビジネスブリック
H・デビッド・バートン



管理ビジネスブリック
H・デビッド・バートン

記憶にとどめ、 覚えておきなさい

大管長会第二顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

「記憶にとどめ、覚えておきなさい」と、モルモン書の預言者はしばしば懇願しました。¹ 皆さんに切にお願いしたいことは、神の優しさに気づき、覚えておく方法を見つけることです。



今 朝、合唱団が「ミュージック・アンド・スポークンワード」の全国放送の中で、救い主について歌ってくれたことを感謝しています。その中の1曲である、「キリスト、神の御子」がジェームズ・E・ファウスト管長の作詞であるのを見てうれしく思いました。ニューエル兄弟の隣に座ったとき、わたしは兄弟の方に身を傾けて「お父さんは元気ですか」と尋ねました。ニューエル兄弟はこう答えました。「ファウスト管長がそこに座っておられたとき、いつもそう尋ねられました。」それは驚くことではありませんでした。なぜなら、ファウスト管長は常に、今日「ミュージック・アンド・スポークンワード」で語られたような、キリストの弟子の完全な模範であったからです。子供のころからいつもそ

ごろ、寝たきりになってしまいました。

彼は1月の初めに死にました。最後まで身の潔白を訴えて、次の言葉をうわごとのように繰り返しました。『ただのひも切れなんです、ひも切れなんです、町長、これを見てください。』(“The Piece of String,” <http://www.onlineliterature.com/Maupassant/270/>参照)

ある人が誕生日にインタビューを受けました。その人はかなりの高齢に達していました。記者たちは長生きの秘訣を尋ねました。

彼はこう答えました。「結婚したとき、夫婦げんかになったらどちらかが家の外へ出て頭を冷やそうと二人で決めました。わたしが長生きできたのは、結婚生活を通じて、外のさわやかな空気を何度も吸ってきたからです。」

時には、怒りが正当化されることもあります。聖典にはイエスが両替人を神殿から追い払ったときにこうおっしゃったと書いてあります。『わたしの家は、祈の家となえられるべきである』……それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている。(マタイ21:13)しかし、これは叱責の言葉であって、制し切れなかった怒りではないのです。

さて、愛する兄弟の皆さん、結びに当たり、わたしは心からお祈いします。怒りを制し、ほほえみをたたえてください。ほほえみは怒りを和らげます。愛と平和、感謝と敬意の言葉を語ってください。そうすれば、皆さんの人生は悔いのないものとなり、夫婦関係や家族関係が守られるでしょう。もっと幸福になり、もっと多くの善を行うことができ、すばらしい平安を味わえることでしょう。

主が皆さんを祝福し、靈感を与えてくださり、皆さんが怒ることがありませんように。いかなる形の憎悪も抱かず、友情、感謝、愛をもって人に手を差し伸べて人生を歩めますように。イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

う感じてきました。わたしはファウスト管長のような人になりたいと思ってきました。まだその時間はあるかもしれません。

子供がとても小さかったころに、わたしは毎日の出来事を少しだけ書き留めるようになりました。そのきっかけを話しましょう。ある晩、教会の責任で夜遅くに帰宅しました。辺りは暗く、玄関に向かって歩いていると、近所に住む義理の父が突然現れたので驚きました。義父は作業着姿で水道管を肩に担ぎ、足早に歩いていました。義父が坂の下にある小川から、わたしたちの土地まで水をくみ上げる配管工事をしていることは知っていました。

義父はほほえみ、優しく声をかけると、作業を続けるため足早に通り返り、闇の中に消えて行きました。義父がわたしたちのためにしてくれていることについて考えながら、わたしは家に向かいました。玄関に着いた途端、次の言葉がわたしの頭に聞こえました。それは自分の声ではありませんでした。「わたしはこうした経験をあなた自身のために与えているのではない。書き留めなさい。」

わたしは家に入りました。疲れていましたが、床には就きませんでした。紙を何枚か取り出し、ペンを走らせました。書いていると、頭の中に聞こえた言葉の意味が分かってきました。将来いつの日か、神の御手がわたしたち家族をどのように祝福して下さったかを子供たちが読めるように、わたしは自分が見てきたことを記

録しなければならなかったのです。義父は、その作業をする必要はありませんでした。だれかに頼むこともできましたし、まったく何もしなくてもよかったです。しかし義父は、家族であるわたしたちに奉仕してくれました。主の弟子たちが常にそうするように奉仕したのです。わたしはそれが真実だと知っていました。そして子供たちがいつか必要なときに思い出せるよう、そのことを書き留めました。

わたしはそれから何年も、毎日少しずつ書き留めました。どんなに疲れていても、翌朝どんなに早起しなくてはならないとしても、一日も休みませんでした。書く前には、次の質問を考えるようにしました。「今日、神がわたしたち、子供たち、家族に御手を差し伸べられ、触れられるのを見ただろうか。」続けていくうちに、何かが起き始めました。一日の出来事に思いをはせると、神が家族の中のだれかのためにされたことで、日中の雑多の中では気づけなかったことがよく分かるようになったのです。そうすると、それは何度も起きたのですが、覚えておこうと努力することで、神は御自身がなされたことを示してくださることが分かるようになりました。

言い尽くせないほどの感謝の念が心に芽生え始めました。証が育ったのです。天の御父が祈りを聞き、こたえてくださるという確信が今までになく強まりました。救い主イエス・キリストの贖いによって人の心が和らげられ、清められることに対して、さらに感謝するようになりました。また、そのとき気づかなかったり、関心を向けていなかったりしたことも、聖霊はことごとく思い起こさせることがおできになるということにも、今まで以上に確信が持てるようになりました。

月日がたち、息子たちは大人になりました。時折、息子の一人がこう言ってわたしを驚かせます。「お父さん、あのときの日記を読んでいたんだけど……。」そして、昔の出来事を読むことで、神がその当時して下さったことに気づくことができたこと話してくれるのです。

皆さんに切にお願いしたいことは、神の優しさに気づき、覚えておく方法を見つ



けることです。それは皆さんの証を築きます。皆さんは日記をつけていないかもしれませんが、自分の記録を、愛し、仕えている人たちに見せていないかもしれません。しかし、主がなされたことを覚えることで、皆さんも皆さんが日記を見せる人たちも祝福を受けます。時々歌うこの歌を覚えているでしょう。「かつて受けし主の恵み数えてみなば驚かん。」²

覚えておくことは簡単ではありません。前世の記憶なしで生きているわたしたちは、天の御父とその愛子イエス・キリストと前世でともにいたときのことを思い起こすことができません。また肉の目や理性だけでは、神の御手を生活の中に見いだすことはできません。このようなものを見るには、聖霊が必要なのです。そしてこの邪悪な世にあって、聖霊を伴侶とするためのふさわしさを身に付けることは容易ではありません。

世の始まりから、神の子供たちの中で神を忘れるということが常に問題となっているのはそのためです。モーセの時代について考えてみてください。神はマナを与え、奇跡や目に見える方法で御自身の民を導き、守られました。しかし預言者は、これまでも、またこれからも常にそうするように、これほどまでに祝福された民に警告しました。「ただあなたはみずから慎み、またあなた自身をよく守りなさい。そして目に見たことを忘れず、生きながらえている間、それらの事をあなたの心から離してはならない。またそれらのことを、あなたの子孫に知らせなければならない。」³

「覚えている」という課題は、豊かに祝福されている人々にとって、常に最も難しいものです。神に忠実な人は守られ、栄えます。それは神に仕え、戒めを守っていることの結果として生じます。しかし、それらの祝福と同時に、その祝福がどなた



から与えられたのかを忘れるという誘惑もやって来ます。与えられている祝福を、よりどころである愛ある神からではなく、自分自身の力によって得たものだと感じるのは容易なことです。預言者はこの悲しみについて繰り返し語っています。

「このことからわたしたちは、人の子らの心がどれほど不誠実で不安定であるかを知ることができる。まことに、主を信頼する者たちを、主が大いなる限りない慈しみをもって祝福し、栄えさせられるということも、わたしたちは知ることができる。

また、主が御自分の民を栄えさせられるまさにそのとき、まことに、民の畑と家畜の群れを増し、金銀と、あらゆる自然の貴重な品々と人工の貴重な品々を与え、民の命を助け、敵の手から民を救い出し、また宣戦することのないように敵の心を和らげ、要するに御自分の民の繁栄と幸いのためにあらゆることを行われるそのときに、彼らは心をかたくなにし、主なる神を忘れ、聖者を足の下に踏みつけるということが、わたしたちに分かるのである。これは、彼らが安楽で、非常に豊かに繁栄したためである。」

預言者は続けてこう述べています。

「まことに、何と高慢になるのが早いことか。何と誇るのが早く、あらゆる罪悪を行うのが早いことか。人の子らは何と主なる神を思い起こすのが遅く、主の勧告に耳を傾けるのが遅いことか。何と知恵の道を歩むのが遅いことか。」⁴

悲しいことに、人が神を忘れるのは、繁栄だけが理由ではありません。わたしたちの多くがそうであるように、人生がうまくいかないときにも主を覚えるのが難しくなります。貧困に苦しむとき、または敵が向かって来るとき、あるいは病気が治らないときに、わたしたちの魂の敵は、「神は存在しない、いてもわたしたちのことは気にかけておられない」という邪悪なメッセージを送ることができるのです。そうなると、わたしたちが子供のころから受けてきた祝福や、困難のただ中であっても受けてきた生涯に及ぶ主の祝福を、聖霊が思い起こさせてくださるのは難しくなってしまう。

神とその祝福、そしてわたしたちへのメッセージを忘れるというひどい病には、簡単な治療法があります。イエス・キリストは、

十字架にかけられ、復活し、弟子たちのもとを去って御父の栄光に昇って行こうとしておられたときに、弟子たちにそのことを約束されました。弟子たちは、主がともにおられない中で、どうやって堪え忍ぶことができるのだろうかかと心配していました。

これはその約束です。当時、その約束は弟子たちの間で果たされました。現代のわたしたちの間でも実現することができます。

「これらのことは、あなたがたと一緒にいた時、すでに語ったことである。しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわれる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」⁵

証を得て、その証を保てるように物事を覚えておくには、聖霊を伴侶として受けることが鍵となります。神がわたしたちにしてくださいましたことを理解できるようにしてください。わたしたちの仕える人たちが、神がしてくださいましたことを理解できるように助けることがおできになるのも聖霊なのです。

天の御父は、聖霊を一度だけでなく、日々の混沌の中で絶えず受けるための簡単な規範を与えてくださいました。その規範は、聖餐の祈りの中で繰り返されています。わたしたちはいつも救い主を覚えると約束します。御子の御名を受けると約束します。戒めを守ると約束します。そして、その約束を守るなら、御子の御霊を受けると約束を受けます。⁶ わたしたちが分を尽くすことで、これらの約束は一体となり、素晴らしい方法で証を強め、やがては贖いによってわたしたちの性質を変えていくのです。

イエス・キリストが天の御父の愛子であられることを証されるのは聖霊です。御父はわたしたちを愛し、わたしたちが御父とともに、家族として永遠の命を受けることを望んでおられます。たとえその証を得たばかりであっても、御父に仕えたい、そして戒めを守りたいという望みを抱くようになります。その望みを抱き続けることで、奉仕をするうえで力を与えてくれる聖

霊の賜物を受けます。神の御手をさらにはっきりと見るようになり、実にはっきり見えるようになるので、やがてわたしたちは主を覚えるだけでなく、主を愛するようになり、贖いの力によって、主のようになっていくのです。

こう尋ねる人もいます。「でも、神をまったく知らず、霊的な経験をした記憶がまったくないと言う人にとって、このような変化はどうやって起きるのでしょうか。」気づいていないだけで、だれにでも霊的な経験はあるはず。この世に生まれてくるに際して、すべての人にはキリストの御霊が与えられています。その御霊の働きについては、モロナイ書に説明されています。

「見よ、善悪をわかまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわかまえることができる。

しかし、悪を行うように、キリストを信じないように、キリストを否定するように、神に仕えないようにと人に説き勧めるものは何であろうと、それは悪魔から出ていることをあなたがたは完全に理解してわかまえることができる。悪魔はこうに働くからである。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。また悪魔の使いも、悪魔に従う者も、そのように説き勧めない。

そこでわたしは、同胞であるあなたがたに、善悪をわかまえることができるように、キリストの光の中で熱心に求めることを切に勧める。もしあなたがたが善いものをことごとく手にして、それを非難しなければ、あなたがたは必ずキリストの子となる。』⁷

ですから、たとえ教会の会員として確認され、聖霊の賜物を受ける権利を得る前であっても、またバプテスマを受ける前で、まだ聖霊を通して真理を確信していなくても、人は霊的な経験をしているのです。



子供のときから、キリストの御霊はすでに善いことを行うように勧め、悪に対して警告しているのです。たとえその経験がどこから来ているのか気づいていなくても、だれしもそのような経験を覚えているものです。そして宣教師やわたしたちが神の御言葉を伝え、彼らがそれに耳を傾けることにより、その記憶がよみがえってきます。福音の真理を教わると、喜びや悲しみの感覚を思い起こすのです。そのキリストの御霊による記憶は心を和らげ、聖霊が証することがおできになるようにします。そのことによって戒めを守るように導かれ、救い主の御名を受けたいと望むようになります。そしてバプテスマの水の中で主と約束を交わし、神の権能を受けた僕から確認を受け、「聖霊を受けなさい」と言われるときに、神を常に覚える力は増すのです。

この大会で真理に耳を傾けているときに感じる温かい気持ちは、聖霊から来るものであると証します。聖霊が与えられると約束された救い主は、天の御父の愛される、栄光をお受けになった御子です。

今晚と明日の晩、皆さんは祈り、深く考

えながら、次の質問を自分に問いかけるかもしれません。「神はわたし個人に向けてメッセージを送られたのだろうか。自分自身や子供たちの生活に神の御手を見たのだろうか。」わたしはそうします。そして、わたしとわたしの愛する人たちが、神がどれほど愛してくださり、わたしたちがどれほど神を必要としているかを思い起こす必要があるときのために、その記憶を残す方法を探します。大半の人が気づいている以上に主がわたしたちを愛し、祝福してくださっていることを証します。これは真実であり、主を覚えることで喜びを得られるとわたしは知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. モーサヤ2:41;アルマ37:13;ヒラマン5:9
2. 「み恵み数えあげ」『賛美歌』153番
3. 申命4:9
4. ヒラマン12:1-2, 5
5. ヨハネ14:25-26
6. 教義と聖約20:77, 79参照
7. モロナイ7:16-17, 19

恐れではなく、 信仰によって生きる

十二使徒定員会会員
クエンティン・L・クック長老

恐れからほかの道を選ぶことなく、信仰をもってキリストに従うという道を選ぶとき、わたしたちは自らの選択に見合った結果をもって祝福されるでしょう。



愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしも皆さんとともにアイリング管長とご家族への愛と支持を表明します。木曜の夕方近くに、ヒンクレー大管長から十二使徒定員会で奉仕するよう召しを受けました。それ以来万華鏡のように複雑に変わる気持ちを的確に表現することはできません。眠れぬ夜を過ごし、多くの祈りをささげてきました。しかし、ヒンクレー大管長が預言者であるという知識と、教会の会員がわたしと家族のために祈ってくれることを思うと、わたしの霊は鼓舞されました。

自分の無力さを痛感している、と言うだけでは今の気持ちを表せません。1996年4月に中央幹部に召されたときも、とても自分には務まらないと感じました。ニール・

A・マックスウェル長老から、王国で奉仕するすべての人にとって最も大切な資質は、救い主の神性を喜んで証^{あかし}できることであると教わりました。わたしはその言葉を聞いて平安を感じ、それ以来、その平安がとどまっています。救い主を愛して、主を証できるような霊的な経験をこれまでしてきたからです。たとえ力不足ではあっても、世界中でイエス・キリストを証する機会があることをうれしく思います(教義と聖約107:23参照)。

教義と聖約第68章の5節と6節にはこうあります。

「見よ、おお、わたしの僕^{しもべ}たちよ、これはあなたがたへの主の約束である。

元気を出さない。恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともにおり、あなたがたの傍らに立つからである。あなたがたは、わたし、すなわちイエス・キリストについて、わたしが生ける神の子であること、わたしがかつており、今おり、やがて来ることを証しなければならない。」

この安息日の朝に話すに当たり、聖霊がともにいてくださるよう祈っています。

この召しを受けるに際して、ある感情が波のように押し寄せています。それは、わたしたちは恐れではなく、信仰によって生きなければならないということです。使徒パウロはテモテへの第二の手紙の中で、テモテの祖母であるロイスと母ユニケの信仰について語っています。こう記しています。

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆^{おそ}する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」(2テモテ1:7)

わたし自身も、今は暮のかなたにいる先祖たちに敬意と感謝を表します。彼らは求められたものをすべて差し出し、地上に神の王国を建設したのです。

わたしは生涯にわたって、救い主を愛する人たちに囲まれてきたことを感謝しています。心は家族への感謝でいっぱいです。妻のメアリーは、わたしの人生の喜びです。妻の霊的な強さ、義にかなった模範、ユーモアのセンス、そして愛ある支えは、生涯を通じてわたしを祝福してくれました。3人の息子とその伴侶^{ほんり}はわたしたちに充足感をもたらし、9人の孫とともに大きな祝福となっています。子供たちの信仰と祈り、生き方に表れる善良さは、妻とわたしを元気づけてくれます。

ユタ州ローガン(ペリー長老がいつも語るキャッシュバレーですが)で暮らした子供のころを振り返ると、善良な家庭で育ったことがどれほど祝福だったかを思い知らされます。信仰に満ち、義にかなった母親と、愛ある父親、並外れた模範であり、相談相手であり、友であった兄、いつも愛し、支えてくれた妹。また、才能豊かで献身的な教会指導者、教師、スポーツコーチ、友人たちもすばらしい模範でした。

若いころ、イギリス伝道部で働く機会にあずかりました。人生の転機となる経験でした。優れた伝道部会長の影響力も、回復された福音の偉大な奇跡の一つです。数週間前、わたしは教会本部で誕生日カードを受け取りました。かつてイギリスのグロスターで福音を学ぶ手助けをした女性からです。彼女とはずっと音信不通でした。カードを読んでみると、ご主人共々とても活発に教会に集っており、6人の子供と20人の孫がいて、皆、聖約の子供だ、とのことでした。これまで受け取った中で最高の誕生日カードかもしれません。

メアリーとわたしは、カリフォルニア州パロアルトにある法科大学院に入るためにユタ州を出ました。卒業したらユタに戻る予定でしたが、御霊^{みたま}はカリフォルニアにとどまるようにと指示しました。結局カリ



フォルニアで33年間暮らし、子供を育てました。妻もわたしも多くの奉仕の機会を得ました。キリストの福音に献身的に働く多様な会員たちが大好きでした。人生にすばらしい影響を与えてくれたカリフォルニアの聖徒たちに永遠に感謝し続けるでしょう。

七十人として奉仕したこの11年半は、実に実り多いものでした。定員会を去るに当たり、同僚の兄弟たちに愛と感謝を伝えます。彼らは地上の神の王国のために献身と忠誠を尽くし、忠実に卓越した働きをしています。ともに奉仕できたことは、わたしにとって喜びでした。

わたしたちが預言者、聖見者、啓示者として支持する兄弟たちを、わたしは心から愛しています。これまでよく奉仕することで、彼らの重責をできるかぎり軽くしようと努めてきました。大管長会と十二使徒定員会の善良さと模範に満ちた生活、忍耐と教え、親切に感謝します。また、天の御父と御子イエス・キリスト、そして回復

された主の福音に対する彼らの愛に感謝します。神がジョセフ・スミスを召してくださいましたことに感謝します。彼を通して完全な福音が地上に回復されたのです。

中央幹部としての経験を通して、わたしの心は、世界中の聖徒の信仰と善良さへの感謝でいっぱいになりました。フィリピンでは2年間奉仕しました。1961年4月、当時十二使徒補助だったピンクレー大管長はマニラに最初の宣教師を派遣しました。当時フィリピン人の神権者はフィリピン諸島に一人しかいませんでしたが、今では60万人に近い会員がいます。生活は楽ではなく、物質的にはあまり恵まれていませんが、救い主を愛しています。福音には、彼らの生活を向上させるうえで計り知れない力があります。彼らとともに働けたことは大きな祝福でした。

太平洋諸島でも3年間奉仕しました。世界中の全ポリネシア人のうち実に約4分の1が教会員であるというのは驚くべきことです。彼らの信仰と霊性はよく知られて

います。クック姉妹とトンガ諸島のババウにいたときのことで。ステーキ大会の一般部会で預言者に従うことについて話しました。大会後の食事会で、気品のある高齢の祝福師の隣に座りました。彼は預言者が教えていることを聞いてとても感謝している、と告げ、次のような話を聞かせてくれました。ババウは比較的小さな島で、通常、十分な雨が降りますが、周期的に深刻な干ばつに見舞われます。島には長い入り江があり、険しい丘の下まで海が迫ってきていました。干ばつで村に水がなくなると、真水を手に入れて生き長らえる方法は一つしかありませんでした。何百年もの間、村人たちは山の切り立った岩場を降りて、海中に数か所ある、水のわき出る場所から真水をくんで来たのでした。

トンガの男性たちは小舟で年輩の賢者とともに出発します。賢者は舟の端に立って、水のわき出る場所を探します。舟にいる屈強な若者たちは、海中深く潜るた

めに、ふた付きの容器を持って待機します。舟が水のわき出る場所にたどり着くと、賢者が両手を天に挙げます。それが合図です。すると、若者たちはできるかぎり深く潜って容器に新鮮なわき水をくんで来るのです。年老いた祝福師は、この命を救う伝統をイエス・キリストの福音という命の水に、そして賢者を地上の神の預言者にたとえました。祝福師はこう言いました。「その水は清く、新鮮で、干ばつときには命綱となりますが、見つけるのは難しく、訓練を積んだ目が必要です。」この祝福師は預言者の教えを余すところなく知りたいと望んでいました。

今は危険な時代です。世界は、泉からわき出る清らかな水、すなわちイエス・キリストの福音をぜひとも必要としています。預言者に真剣に耳を傾けて選択する必要があります。わたしが記録したノートによれば、ヒンクレー大管長は、主イエス・キリストへの信仰を繰り返し強調しています。その次に強調しているのが、家族を強めること、そして家庭において宗教的な習慣を実践することです。預言者は「もし一つの原則に従うならば、その原則が真実であるという証を得、それによって信仰が増すのです」と、繰り返し教えています。

皆さんの多くが、この難しい時代に子供を育て、子供の信仰を強めることに不安を感じていることをわたしは承知しています。妻とわたしがサンフランシスコの湾岸地区で家庭を築き始めたころ、同じような不安を感じました。そんなとき、わたしの所属するステーキの会員は、当時十二使徒だったハロルド・B・リー長老から、以下を行えば子供を義にかなって育てられると教わりました。

1. 預言者に従う。
2. 自分の心と家庭の中に福音の真の精神を築く。
3. とともに暮らす人たちの中で光となる。
4. 神殿で教えられる儀式と原則に集中して生活する。(教義と聖約115:5;ハロルド・B・リー, "Your Light to Be a Standard unto the Nations," *Ensign*, 1973年8月号, 3-4参照)



この勧告に従うことで、信仰が増し、恐れが和らぎました。家庭の中で宗教的な原則を教えるならば、世界のどこにあって、子供を義にかなって育てることができると信じています。

伝道活動も、恐れではなく、信仰によって歩むことのできる事柄です。今年8月1日に七十人会長会に召されるまでの6年間、わたしは宣教師管理部で働きました。最近の3年間は、宣教師管理評議会の議長であるM・ラッセル・バラード長老の下で、宣教師管理部の管理ディレクターとして働きました。

何人かの伝道部会長が、「多くの素晴らしい会員が、隣人や職場の同僚に自分が会員だということを隠している」と言いました。自分が何者であるか、または何を信

じているかについて、人に知られないようにしているのです。もっともっと多くの会員が回復のメッセージを分かち合う必要があります。ローマ人への手紙第10章14節にはこうあります。

「信じたことのない者〔つまり救い主〕を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。」

15節にはイザヤ書にもあるすばらしいメッセージが載っています。

「……ああ、美しいかな、良きおとずれを告げる者の足は……。」(イザヤ52:7も参照)

この祝福を得たいと望む会員たちは、実際に行動し、声を上げなければなりません。

伝道活動のガイドである『わたしの福音を宣べ伝えなさい』が初めて紹介されたのは2004年10月でした。このガイドを導入するに当たり、ヒンクレー大管長は、宣教師は教義を学び、御霊によって福音の原則を教える必要があると言いました。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の作成に当たっては、大管長会と十二使徒定員会の全員が非常に熱心に取り組みました。バラード長老とわたしは、この偉大な資料の作成の過程で、天の窓が開かれ、主の靈感が注がれるのを感じました。会員たちの手もとに届けられたこのガイドは150万部を超えています。これはすばらしい土台であり、宣教師は力強く霊的な教師です。会員たちもまた、ヒンクレー大管長の要請にこたえるために、恐れることなく信仰をもって生活し、友人や周りの人々に福音を伝える必要があります。

召しを果たす際も、恐れず信仰を持たねばなりません。

娘のキャスリンは、ソルトレーク・シティのワードで初等協会会長をしています。先週、彼女のワードの聖餐会で行われた初等協会の発表を妻と見に行きました。「信仰もって主に従おう」というテーマで子供たちが聖句や物語を紹介し、キリストへの信仰に焦点を当てた歌を歌う姿に感動しました。

きょう 今日できることを 明日に延ばさない

七十人会長会
クラウディオ・R・M・コスタ長老

今こそ、家族について神から与えられた務めを果たす時です。

集会の後で召しについて娘と話しました。実は責任を受けたばかりのころは問題が山積みで、毎週とても大変だったそうです。そこで会長会で話し合い、愛、信仰、祈りの3つに重点を置くことにしました。するとすぐに霊的な導きを受け、ある子供や家族のことが頭に浮かんだそうです。摩擦が消え、愛の精神が満ちるようになりました。御霊のささやきに従って行動した結果、初等協会に敬虔さと平安が生まれ、福音の真の学習が始まったと娘は話していました。

人生の分かれ道で必要なのはイエスキリストを信じる信仰です。それは福音の第一の原則です。キリストを信じる信仰がなければ、どんなに努力しても、分かれ道でタイヤが空回りし、貴重な時間を費やすばかりで、結局どこにもたどり着くことができません。わたしに従い、重荷を預け、わたしのくびきを負いなさいと言っておられるのはキリスト御自身です。「[主の]くびきは負いやすく、[主の]荷は軽いから」です(マタイ11:30)。

イエスのほかに、人に救いを与えることのできる名は天下に与えられていません(使徒4:12参照)。わたしたちは主の御名を受け、主の面影を顔に受けなければなりません。主の現れられるときわたしたちが主に似た者となるためです(1ヨハネ3:2;アルマ5:14参照)。恐れからほかの道を選ぶことなく、信仰をもってキリストに従うという道を選ぶとき、わたしたちは自らの選択に見合った結果をもって祝福されるでしょう(教義と聖約6:34-36参照)。

わたしたち一人一人が日々享受している生命というかけがえない賜物と、主が毎日与えてくださる息をすべての人が感謝することができますように。人生の分かれ道に立ったとき、確信をもって、イエスキリストへの信仰を働かせることができますように。恐れではなく信仰によって生きることができますようにお祈りします。天の御父である神と、わたしたちの罪を贖ってくださった御子イエスキリストのことを証します。イエスキリストの御名によって、アーメン。



1995年9月23日に大管長会と十二使徒定員会は、「家族——世界への宣言」と題する文書を教会と世界の人々に発表しました。その中から引用します。「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。」¹ この勧告が実際にきわめて重要となっている時代に、わたしたちは生きています。多くの親は家族のために過ごす時間がないと言います。テンポの速い現代の生活様式と過剰な仕事は、最も大切なこと、すなわち、自分よりも家族のために時間を費やすことから、親の注意をそらしています。

だれでも自分の家族を扶養する義務があると、主は教えておられます。² しかし、

扶養するとは、必要な食物やその他の物を家族に与えるという意味だけではありません。家族を教える時間を取る必要もあるのです。では、何を教えるべきでしょうか。

両親には子供に福音を教える義務があると、天の御父は教えてくれました。³ 預言者リーハイは、子供に教えるという義務をよく理解していました。ニーファイは、自分は「父が学んだすべてのことの中から」⁴ 教えを受けたと明言しています。

主は「世界への宣言」の中で預言者を通して次のように語り、家族を扶養する方法について教えられました。「両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。」⁵

わたしたちは、神が何世紀にもわたって、家族を守り扶養する方法を教えてくれたことを知っています。また、敵対する者が家族を攻撃してきたことも知っていますし、実際に目にしています。今こそ、神のすべての教えを生活に取り入れる時であり、家族について神から与えられた務めを果たす時です。

ジェームズ・E・ファウスト管長は、家族を守り、強めるためにわたしたちにできる3つの重要な事柄を教えてくださいました。

第1は、家族の祈りです。両親は、子供たちが神の子であり、毎日神に祈らなければ



ばならないことを教える必要があります。

第2は、家庭の夕べです。ファウスト管長が教えたように、家庭の夕べはわたしたちが人生のどの時期を迎えているかにかかわらず、わたしたちすべての人のためのものです。月曜日の夜は、家族として集まるのを妨げる可能性のあるほかの活動を一切行わないようにする必要があります。

第3は、個人と家族の聖文研究です。この基本的な習慣を通して、子供たちが信仰と証を強めるのを助ける必要があります。⁶

ファウスト管長の賢明な勧告に従うとき、主イエス・キリストへの家族の信仰と証を強めるとともに、サタン攻撃から家族を守ることができます。

「家族の宣言」は次のようにも教えています。「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家

族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。』⁷

家庭においてこそ、家族は福音の原則を学び、応用することができます。家族を教え導くには、大きな愛が必要です。愛に満ちた父親と母親は、神を礼拝するよう家庭で子供たちに教えます。礼拝するという心構えが家族にでき、礼拝の精神が家庭に満ちると、そのような心構えや精神が家族一人一人の生活に浸透していきます。このようにして、神のみもとへ戻り、家族として永遠に一緒に暮らす資格を得るために必要ないかなる犠牲をもいとわない、と思えるほどに備えていくことができます。

わたしたちは互いに愛し合わなければならず、救い主は言われました。⁸「家

族の宣言」は、そのような愛とはどのようなものを理解する助けとなります。また、主は「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」⁹と言い、この上ない愛の模範を示してくださいました。後に、主はわたしたちのすべての罪を贖い、最後にわたしたち皆のために命を捨てられたのです。

わたしたちは愛する者のために命を捨てることができます。それは、家族のために肉体的に死ぬという意味ではなく、家族のために生きることです。時間を割り、いつも一緒にいられるようにし、家族に奉仕をしながら生きるのです。また、思いやりや愛情、真実の愛を家族に、そして救い主が教えられたようにすべての人に示しながら生きるのです。

明日、わたしたちの身に何が起きるかは分かりません。だからこそ、今日から、伴侶や子供たち、周囲の人々に愛を示しましょう。抱き締めたり、「愛しているよ」と言葉をかけたりなど、ささやかな行いを通してそれができます。

わたしは最近、「今日できることを明日に延ばさない」という習慣をすぐに身に付ける必要があることを訴えかける文章を読みました。今年の7月にブラジル史上最も悲惨な飛行機事故が起きました。乗員乗客、航空会社の社員、事故現場にいた人など、死者は199人に上りました。これから紹介する文章は、事故で亡くなったある客室乗務員の夫が航空会社の伝言版に掲示したものだそうです。それは、ノーマ・コーネット・マレックの詩を基にした「明日が決して来ないなら」と題する次のような文章です。

「もしこれが、きみの寝顔を見る
最後の時になると分かれば、
いつもよりしっかりときみを抱き締め、
きみを守ってくださるように
主に懇願するだろう。
もしこれが、きみが部屋を出て行くのを見る
最後の時になると分かれば、
きみを抱き締め、キスをし、
再び呼び止めて、もう一度抱き締め、
キスすることだろう。」



もしこれが、きみが祈る声を聞く最後の時になると分かれば、きみの仕草、表情、ほほえみ、言葉をすべて録画し、後で毎日聞くことができるようにするだろう。もしこれが最後の時になると分かれば、言わなくても分かるだろうと思わずに、少し時間を取って、『愛しているよ』と言うだろう。もしこれが最後の時間、最後のひとときになると分かるなら、『きっとまた機会があるだろうから、今日はやめておこう』と思わずに、きみのそばにいて、1日とともに過ごすだろう。もちろん、人々には物事を改める日は来るだろう。物事をやり直す機会もあるだろう。もちろん、『愛しているよ』と言える日はまた来るだろう。『何かわたしにできることがありますか』と互いに言える機会は、きっとまたあるだろう。でも、わたしには、そういう日はもう来ない。きみはもうここにはいない。今日が最後のお別れの日なのだ。だから、伝えたい。どんなにきみを愛しているかを。

決してそのことを忘れないでほしい。
ろうじやく
老若を問わず、明日はだれにも約束されていない。今日という日が、愛する人の手を握り、自分の気持ちを伝える最後の機会になるかもしれないのだ。もし、明日にしようと思っているなら、ためらわずに今日しよう。もし、明日が決して来ないなら、一生悔やむことになるからである。少しの時間を割いて、ほほえみ、語り合い、抱き締め、キスをするこもなかったと。忙しすぎて、相手に最後の望みとなるものすら与えられなかったと。今日、愛する友人や家族をしっかりと抱き締め、どんなに愛しているか、そばにいてほしいかを耳にささやこう。時間を取って、こう言おう。『ごめんさない』『お願いします』『救してください』『ありがとう』『どういたしまして』『大丈夫です』そうすれば、明日が決して来なくても、

今日、後悔することはない。過去は戻らないし、未来は来ないかもしれないのだから。』¹⁰

今日、伴侶や子供たち、兄弟姉妹に、愛の気持ちを伝えましょう。神が生きておられることをわたしは知っています。イエスはキリストであられ、わたしたちの救い主、贖い主です。わたしは、ジョセフ・スミスが主の預言者であり、ゴードン・B・ヘンクレー大管長がこの地上における神の生ける預言者であることを知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 『リアホナ』2004年10月号、49
2. 教義と聖約75:28参照
3. 教義と聖約68:25参照
4. 1ニーファイ1:1
5. 『リアホナ』2004年10月号、49
6. 『家族が直面しているチャレンジ』『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、2-3参照
7. 『リアホナ』2004年10月号、49
8. ヨハネ13:34
9. ヨハネ15:13
10. <http://www.heartwhispers.net>参照。許可を得て掲載

真理を知る母親

中央扶助協会会長
ジュリー・B・ベック

母親となることには永続する影響力と力があるのです。



モルモン書には、非常に雄々しく、勇敢で、力強い2,000人の模範的な青年たちについて書かれています。「まことに彼らは神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むように教えられていたので、誠実でまじめな者たちであった。」(アルマ53:21)この忠実な青年たちはその母親をたたえ、「母たち〔は真理〕を知っていた」と語っています(アルマ56:48)。司令官モロナイやモーサヤ、モルモン、またそのほかの偉大な指導者の母親たちも皆、真理を知っていたことでしょう。

今日、母親の課せられた責任を果たすうえで、これほどまでに用心深くあるよう求められたことはありません。人類史上、これほどまでに母親が真理を知る必要に迫られている時代はありません。子供たちは、「血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦い」の

世に生まれて来ます(エペソ6:12)。¹しかし、母親たちは恐れることはありません。自分が何者であるか知り、神を知っていて、神と聖約を交わしていれば、母親たちには子供たちを善へと導く力と影響力が与えられるからです。

真理を知る母親たちは子供を産む

真理を知る母親たちは子供を産みたいと望みます。世の文化の多くでは、子供に対する「価値観が薄れて」²きています。しかし、福音の文化の中では、今でも子供をもうけることを大切だと信じています。この大会で支持された預言者、聖見者、啓示者たちは、次のように宣言しています。「すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。」³ エズラ・タフト・ベンソン大管長は若い夫婦に対して、子供をもうけるのを先送りにすべきではないと教え、次のように言っています。「永遠の観点から見て最も貴い宝は、所有物でも地位でも名声でもありません。子供たちです。」⁴

忠実な神の娘たちは子供を望みます。聖文には、エバ(モーセ4:26参照)、サラ(創世17:16参照)、リベカ(創世24:60参照)、そしてマリヤ(1ニーファイ11:13-20参照)が、子供を授かる前に母親として予任されていたことが記されています。女性の中には、この世で子供を産む責任が与えられない人たちもいます。しかし、子供が授かるように熱心に祈り求めた旧約聖書のハンナのように(サムエル上1:11参照)、この世で母親となることに重きを置く心と、女性たちが身に付けた母親と

しての特質は、復活のときに彼女たちとともによみがえるのです(教義と聖約130:18参照)。現世で子供をもうける祝福を望み、努力する女性たちには、その祝福が永遠に約束されています。永遠は現世よりずっとずっと長い期間です。母親となることには永続する影響力と力があるのです。

真理を知る母親は聖なる儀式と聖約を守る

真理を知る母親は、聖なる儀式と聖約を守ります。世界で最も困窮している地域の一つで聖餐会せいさんに出席したことがありますが、母親たちは、砂ぼこりの道を何キロも歩き、粗末な交通手段を利用しなければならないにもかかわらず、細心の注意を払って日曜の晴れ着に身を包んでいました。娘たちのドレスは清潔で、アイロンがかけられ、髪かみの毛も完璧かんぺきにとかされていきました。息子たちはと言えば、白いシャツにネクタイをして、髪型は宣教師のようでした。この母親たちは、聖約を新たにするために聖餐会せいさんに出席することを知っているのです。また、神殿で聖約を結び、それを尊んでいます。もし子供たちの目を神殿に向けさせていなければ、望まれている永遠の目標かんべきに向かつてはいないことを知っているのです。このような母親には影響力と力があります。

真理を知る母親は養育者である

真理を知る母親は養育者です。これは、幸福の計画きんぷのけい画の下で彼女たちに与えられた特別な責任であり、役割です。養育者とは、養い、世話をし、成長させるという意味です。ですから、真理を知る母親は、家庭を霊的および物質的に成長できる環境に整えます。「養育する」に代わる別の言葉は「家事」です。家事には、料理、洗濯、食器洗い、家庭を整えることなどが含まれます。家庭は、女性がその力と影響力を最も発揮できる場所です。ですから、末日聖徒の女性こそ、世界一の主婦であるべきです。子供と一緒に家事をすれば、子供たちに見習ってもらいたい資質を教え、模範を示す良い機会になります。養育する母親は博識ですが、

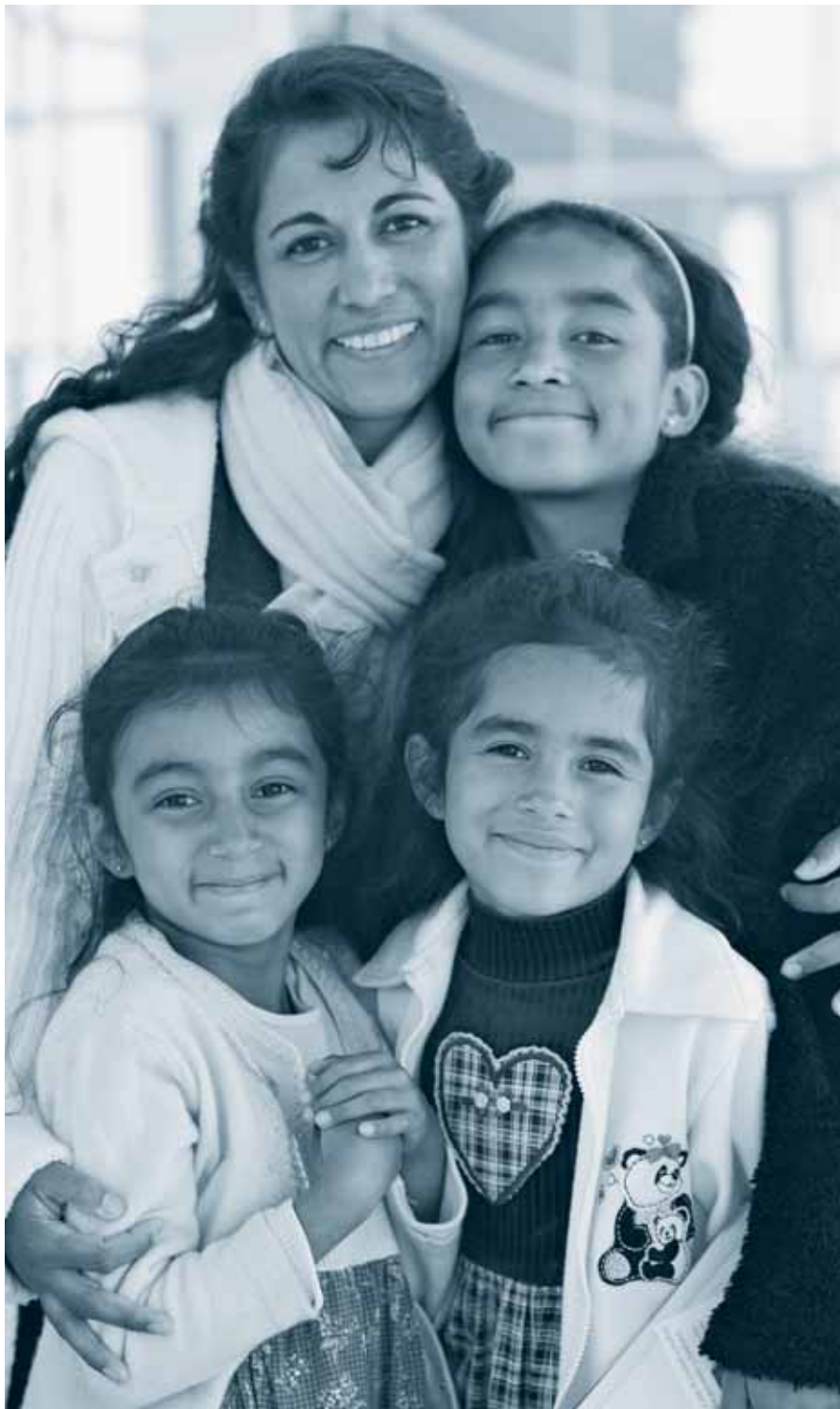
どんなに高い教育があっても、霊的な成長を促す環境を作る家事の能力がなければ何の役にも立ちません。最も成長を促してくれるのは「秩序の家」です。女性は、主の宮(教義と聖約109章参照)に倣^{なら}って家庭を築くべきです。養い育てるためには、まとまりと忍耐と愛と働きが必要です。養い育てることによって成長を助けることは、まさに女性に与えられた力と影響力のある役割なのです。

真理を知る母親は指導者である

真理を知る母親は指導者です。対等なパートナーの夫とともに、偉大な永遠の組織である家族を導くのです。このような母親は、この組織の将来に備えて計画します。伝道や神殿結婚、また教育のために準備をします。また、祈り、聖文研究、そして家庭の夕べを計画します。真理を知る母親は、子供たちが将来良い指導者になれるように教え、自ら指導者のあるべき姿を示す第一の模範となります。社会的な圧力やこの世的な親の在り方に圧倒されて、その計画を投げ出すようなことはしません。このように賢明な、真理を知る母親は、自分がかかわる活動を注意深く選び、自分の影響力をいちばん重要なところで最大限発揮できるように、限りある力を温存します。

真理を知る母親は教師である

真理を知る母親は常に教師となります。ベビーシッターではないので、その仕事に終わりはありません。家庭でよく教えを受けたある友人は、教会で習ったことで、家で教わらなかったものはなかったと話してくれました。彼の両親は家族の聖文研究、祈り、家庭の夕べ、食事の時間やその他の機会を使って教えました。母親たちが家庭を宣教師訓練センターの予備校と見なしたら、将来宣教師たちが発揮する力は、どれほどのものかを想像してみてください。そうすれば、宣教師訓練センターで教えられる福音の教義は復習であって、初めて聞くことではなくなるはずで、それこそ影響力であり、力です。



真理を知る母親は制限する

真理を知る母親は制限します。彼女たちは、永遠の観点から見て善い実を結ばないものを制限します。家庭においてメディアを制限し、子供たちの気を散らすことや、子供たちを家庭から遠ざける活動を減らします。真理を知る母親は、少な

い収入で生活することを進んで選び、この世的な物に対する消費を抑えようとしません。それは、子供たちと一緒にもっと食事をしたり、もっと働いたり、もっと本を読んだり、もっと話したり、もっと笑ったり、もっと歌ったり、もっと模範を示したりする時間を持つためです。このような母親は細

心の注意を払って選び、何もかもしようと
はしません。彼女たちの目標は、イエス・
キリストの福音を全世界に広める、新しい
世代の若者を備えることにあります。また、
次の50年間にわたって主の王国の建設者
となる、将来の父親と母親を備えることを
目標にしているのです。それこそ影響力
であり、力です。

真理を知る母親は、力強く確固として立つ

このような義にかなった息子や娘たち
の世代を備えるのはだれでしょうか。末
日聖徒の女性です。主を知っていて、主
を愛し、主を証する女性です。力強く確
固として、困難な時や失意の時にもあきら
めない女性です。わたしたちは靈感を受
けた神の預言者によって導かれており、預
言者は教会の女性たちに「主の計画から
見て適切かつ正しいことのために力強く
確固として立つ」⁶ よう呼びかけています。
預言者は、「まず自分の家庭」⁷ で、子供
たちに真理の道を教えるように求めています。
末日聖徒の女性は、家族を支え、
養い、守ることに世界一であるべきです。
教会の女性がそれを実行し、
「〔真理を〕知ってい〔る〕」母親として世に
知られるようになることを確信しています
(アルマ56:48)。イエス・キリストの御名
により、アーメン。

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー、「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、21参照
2. ジェームズ・E・ファウスト、「家族が直面しているチャレンジ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、2
3. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49
4. *To the Mothers in Zion* (パンフレット、1987年) 3
5. 「家族——世界への宣言」参照
6. ゴードン・B・ヒンクレー『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、20
7. ゴードン・B・ヒンクレー『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、20

小さな、簡単なこと

七十一人

クリストフェル・ゴールデン・ジュニア長老

日々の祈りに秘められた神聖な力と人に確信をもたらすモルモン書の影響力を
改めて知り、聖餐を取るときに心から主に献身できるよう願っています。



日々イエス・キリストの福音に従って生活し、最後まで堪え忍ぶ人は永遠の命を得ます。これは主の約束です。¹ 本質的に、福音は簡単で理解しやすく、最も弱者の能力に適するものです。² モルモン書の預言者アルマは、次のような的を射た言葉で表現しています。「記録を保存するのはわたしが愚かだからであると、あなたは思うかもしれない。しかし……小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。そして、……ごく小さな手段によって、主は知者を辱め、また多くの人を救われる。」³

つい最近、わたしは恵まれて、スタンという名の兄弟の人生が、このような形で福音の祝福を受ける様子を目の当たりにしました。彼は45年ほど教会から遠ざかっていました。善良な生活を送り、妻と息子が忠実な教会員として活発に集えるよ

うに協力してきましたが、個人的な事情で、自らは教会から遠ざかっていました。それでも彼は、毎月ホームティーチャーを喜んで迎えてくれました。

2006年2月、スタンのホームティーチャーが替わりました。最初の訪問での雰囲気は決して悪くありませんでしたが、福音や、そのほか少しでも霊的なことが話題になると、スタンはつまらなそうな顔をしました。2回目の訪問のとき、スタンは少し打ち解けましたが、ホームティーチャーの受けた印象は、最初の訪問のときとほとんど変わりませんでした。しかし3回目の訪問のとき、スタンの表情や行動に明らかな変化が見られました。大変驚いたことに、ホームティーチャーがメッセージを伝える前に、スタンの方からとても内容のある質問を幾つかしてきたのです。その後の話し合いで、彼は過去1か月の間に経験したことを話してくれました。妻とともにモルモン書を1日に1章読むようになっていたのです。

ブルース・R・マッコンキー長老は、スタンのように霊的な目覚めを再び経験することを次のような力強い言葉で言い表しています。「ここに一人の人がいます。この素晴らしい書物を手に入れ、読み始め、読み続け、……ついには読破し、飢えた魂が命のパンに満たされます。もうこの書物を捨てたり、その教えを無視したりすることはできません。それは、荒れた砂漠であった魂に命の水が流れ込み、それまで自分と神を隔てていた不毛で空虚な思いを癒しているのと同じです。」⁴

ホームティーチャーは、モルモン書の持

つ驚くべき力について、また、この神聖な書物を読むときに受ける主の御霊の影響がまさに事実であることについて改めて実感しました。また、預言者ジョセフ・スミスの次の宣言をいっそう深く理解できるようになりました。「……『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、……人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」⁵

回復された福音を学び、その価値を再び見いだすことを熱烈に望んだスタンはやがて、1日1章を超えるペースでモルモン書を読むようになりました。また、自分の気持ちや願いについて深く考え、熱烈な祈りもささげました。時として、主は自分の祈りをほんとうに聞いてくださるのだろうか、と不安に思う人がいますが、そのような人に救い主はこう諭しておられます。

「あなたがたのうちで、父であるものは、その子がパンを求めるのに、石を与えるだろうか。あるいは、魚を求めるのに、魚の代わりにへびを与えるだろうか。……

このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を通して良い贈り物を下さらないことがあるか。」⁶

わたしたちの愛する預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長も次のように勧めています。「あなた一人ではできません。……主の助けが必要です。素晴らしいことに、あなたには祈る機会が与えられています。しかもその祈りが聞かれ、こたえられるという望みをもって祈ることができるのです。……主はいつでもあなたを助けようと待っておられます。」⁷

2006年8月、スタンは、これまで変わらぬ忠誠を示してくれた妻とともに、思い切ってワードの聖餐会せいさんかいに出席することにしました。45年ぶりでした。聖餐式が始まると、スタンは祈るような謙虚な気持ちで、若い祭司の兄弟たちがささげる簡潔な聖餐の祈りに耳を傾けました。この最も神聖な儀式の奥深さと意義を何かしら感じ取り、自分はふさわしくないと考えた彼は、何週間も聖餐のパンと水を取らず、真剣に、そして痛々しいほどに何かを考え込んで



いました。

何年も前に、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、感情を込めて次のように証あかししました。「わたし個人の意見では、聖餐会せいさんかいは教会のあらゆる集会の中で最も神聖かつ聖きよい集会です。救い主と使徒たちが集まり、救い主が初めて聖餐を執行されたあの記念すべき夜について思い巡らすときに……わたしは驚嘆の念で満たさ

れ、感動を覚えます。あの集まりのことを、わたしは歴史が始まって以来、最も厳粛で素晴らしい集会だと考えています。」⁸

スタンはそれから研究し、祈り、そして教会に出席し続けました。ホームティーチャーも引き続き必要な助言をし、励ましました。そして、ついにその時がやってきました。手を伸ばして尊い聖餐を取る備えができたと感じた喜びの日です。神聖な

聖餐を、ふさわしく、敬虔に、また深く考えながら取る時に、わたしたちはキリストの贖いと聖霊の力によって、「神の性質」にあずかる者となることができます。⁹

スタンは再び教会に熱心に集うようになりました。召しを受け、数か月後には長老に聖任されました。そして2007年7月、主の宮を訪れたスタンは、妻と聖壇を挟んでひざまずき、神の権能と永遠の律法によって、この世においても永遠にわたっても結び固められました。¹⁰

兄弟姉妹の皆さん、日々の祈りに秘められた神聖な力を、そして人に確信をもたらすモルモン書と聖文の影響力をわたしたちが改めて知ることができますように。そして日曜日に聖餐を取るときに、あらゆるものを与えてくださった御方である主に心から献身できるよう願っています。¹¹

わたしたちが不完全ながらも最善の努力を払うとき、主の限りない慈しみのおかげで「小さな、簡単なこと」を通して「大きなことが成し遂げられる」のです。

最後に、これらの神聖な事柄に、わたし個人の証と確信を付け加えます。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 3ニーファイ27:13-18;教義と聖約14:7参照
2. マタイ11:28-30;モルモン書ヤコブ4:14;アルマ37:44;教義と聖約133:57-58参照
3. アルマ37:6-7
4. *A New Witness for the Articles of Faith* (1985年) 414
5. *History of the Church*, 第4巻, 461
6. ルカ11:11, 13. ジョセフ・スミス訳の脚注13a参照
7. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年) 468
8. *Conference Report* 1929年10月号, 60-61で引用
9. 2ペテロ1:4. 3ニーファイ18:1-14も参照
10. マタイ19:3-6;教義と聖約131:1-4参照
11. モロナイ6参照

手が清く、 心のいさぎよい者

十二使徒定員会

デビッド・A・ベドナー長老

わたしたちの霊的な目的は、罪と、罪を犯したいという望みの両方、すなわち、汚れと、罪の支配の両方を克服することなのです。



子供のころの懐かしい思い出に、母がモルモン書の物語を読んで聞かせてくれたことがあります。母の独特な語り口は、わたしの幼い心に聖文の物語をいきいきと浮かび上がらせました。わたしは、この神聖な記録が真実であるという証が母にあることを疑いませんでした。母の話の中で特に覚えているのは、復活された救い主のアメリカ大陸への訪れと、バウンティフルの地にいた民への教えでした。母の誠実で堅実な模範と証は、わたしの心に救い主とその末日の教会を信じる信仰の火を初めてともしました。そしてわたしは、モルモン書がイエス・キリストについてのもう一つの証であり、完全な永遠の福音を載せたものであることを自分で知るようになりました。

た(教義と聖約27:5参照)。

今日、皆さんと一緒に、モルモン書の中でわたしが最も好きな出来事の一つである、新世界に救い主が御姿を現されたことについて学びたいと思います。そして、主が群集に教えられた聖霊の聖めの力について話し合います。わたし自身と皆さんのうえに、御霊の導きがあるよう祈っています。

新世界における救い主の務め

新世界における3日間の主の務めにおいて、主は御自分の教義を教え、弟子たちに神権の儀式を執行する権能を授け、病人を癒し、民のために祈り、子供たちに愛を込めて祝福をお授けになりました。そして、民との交わりの時が終わりに近づく、救い主は福音の基本的な原則を簡潔にまとめて教えられました。

こう教えられました。「さて、戒めは次のとおりである。地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。」(3ニーファイ27:20)

この聖句で主が説かれた基本的な原則は、わたしたちが理解し、生活に応用すべき重要なものです。最初は、「悔い改めて」すなわち「心と志を神に向け、罪を捨て去ること」です(Bible Dictionary,

“Repentance,” 760)。贖い主を信じる信仰という霊的な賜物を、適切な方法で求めて受ける人は、聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みに心を向け、それに頼るようになります(2ニーファイ2:8参照)。悔い改めとは、救い主を信じる信仰が結ぶかぐわしい実であり、神に心を向けて、罪を捨て去ることを伴います。

復活された主は、続いて、キリストのみもとに来ることの大切さについて説明されました。神殿に集まった群衆は、文字どおり「一人ずつ」(3ニーファイ11:15)救い主のみもとに進み出て、主の両手両足にある釘跡に触れ、わきに手を差し入れるよう招かれます。この経験をした人は残らず、自分たちのもとに来られた御方が、「主、[すなわちイエス・キリスト]であられることを、確かに知って証した」とあります(15節)。

救い主はさらに、聖約を通じてみもとに来るよう民に教え、彼らが「聖約の子孫」であることを思い起こさせられます(3ニーファイ20:26)。また、バプテスマの儀式(3ニーファイ11:19-39参照)と聖霊を受けること(3ニーファイ11:35-36, 12:6, 18:36-38参照)の永遠の重要性についても強調されます。同じように、わたしたちも、キリストに心を向け、キリストから学び、回復された主の福音の聖約と儀式を通じてキリストのみもとに来よう勧告されています。それを実践するなら、わたしたちは最終的に、バウンティフルの地にいた民と同様に、「神自身の時に、神自身の方法で、神自身の思いに従って」(教義と聖約88:68)キリストについて知るようになるでしょう(ヨハネ17:3参照)。

悔い改めて、聖約と救いの儀式を通してキリストのみもとに来ることは、聖霊を受けることによって聖められ、終わりの日に神の御前に染みのない状態で立てるようになるための前提条件であり、備えです。では次に、聖霊が生活においてわたしたちを聖める影響力となられることに注目しましょう。

わたしたちの霊的な旅路

バプテスマの門は、細くて狭い道へと



通じ、主なるキリストの贖いにより生まれながらの人を捨てて聖徒となるという目的の地へと導きます(モーサヤ3:19参照)。この世の旅路の目的は、単に地上の景観を眺めるためでも、与えられた時間を身勝手な趣味に費やすためでもありません。むしろ、「新しいのちに生きるため」(ローマ6:4)、心を神に従わせることで聖められるため(ヒラマン3:35参照)、「キリストの思い」を持つため(1コリント2:16)なのです。

わたしたちは、聖霊の聖めの力を通して自らの墮落した性質が変わるような生活を送るよう命じられ、また教えられています。マリオン・G・ロムニー管長はこう教えています。聖霊による火のバプテスマは、「[わたしたち]を肉の存在から霊の存在へと変える。それは人を清め、癒し、汚れのないものとする。……主イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、水によるバプテスマは、すべて準備段階および前提条件であって、その集大成が[火によるバプテスマ]なのである。[この火によるバプテスマ]を受けるといことは、イエ

ス・キリストの贖いの血によって自らの衣が洗い清められるということなのである。』(Learning for the Eternities, ジョージ・J・ロムニー編, [1977年] 133; 3ニーファイ27:19-20も参照)

つまり、わたしたちが再び生まれ、いつも主の御霊を受けられるよう努力するならば、聖霊がまるで火をもってするように、わたしたちの霊を清め、汚れのないものとしてくださるのです(2ニーファイ 31:13-14, 17 参照)。最終的に、わたしたちは神の御前に染みのない状態で立つことになります。

イエス・キリストの福音は、生活の中の罪や悪影響を避けたり、克服したり、清めたりすることだけにとどまらず、善を行い、善良な者となり、より善い人になりたいという思いを必然的に伴います。罪を悔い改め、赦しを求めることは霊的に必要なことであり、常にそうしなければなりません。しかし、罪の赦しだけが、福音の唯一の目的ではないのです。究極の目的でさえありません。聖なる御霊によって心に変化が生じ、ベニヤミン王の民のように「悪

を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように」なることこそ(モーサヤ5:2)、わたしたちが聖約により受け入れた責任です。この大きな変化は、単に、これまで以上に働いたり、自己を鍛錬したりした結果としてもたらされるものではありません。それはむしろ、わたしたちの望みや動機、性質が根本的に変化することで生じるものなのです。これは主なるキリストの贖いにより可能になります。わたしたちの霊的な目的は、罪と、罪を犯したいという望みの両方、すなわち、汚れと、罪の支配の両方を克服することなのです。

預言者たちは、時代を超えて、次の二つの事柄を行うよう強調してきました。(1) 悪を避け、克服すること。(2) 善を行い、より善い者となること。詩篇の作者が問いかける、次の鋭い質問について考えてみましょう。

「主の山に登るべき者はだれか、その聖所に立つべき者はだれか。

手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしい事に望みをかけない者、偽って誓わない者こそ、その人である。」(詩篇24:3-4)

兄弟姉妹の皆さん、手が清くありながら、心は潔くないということもあり得ます。しかし、主の山に登り、主の聖所に立つためには、手が清く、心が潔いことの両方が求められていることに注目してください。

生まれながらの人を捨て、救い主の贖いによって生活の中の罪や邪悪な影響を克服することにより、手は清くなるのではないのでしょうか。そして善を行い、より善い人となるために主の力によって強められることで心の潔い者となるのではないのでしょうか。ふさわしい望みや善い働きは、すべて欠かすことのできないものですが、それ自身が清い手と潔い心を生むことは決してありません。罪を克服できるよう清め、贖う力と、自分自身の力だけに頼っては決して到達できない、より善い者となれるよう聖別し、強める力の両方を与えるのは、イエス・キリストの贖いなのです。無限の贖罪とは、一人一人の中にある罪人の部分と聖徒の部分の両方のため



大会の部会に参加する南アフリカの会員たち。

にあります。

モルモン書には、イエス・キリストの使命と贖いについて、ベニヤミン王のすばらしい説教が残されています。王の簡潔な教義を聞いた群衆は地に伏しました。「主への畏れが彼らに生じたからである。そして彼らは、自分たちがこの世的な状態にあり、大地のちりよりも劣っていると思った。そして彼らは皆、声を合わせて大声で叫んだ。『おお、憐れんでください。わたしたちが罪の赦しを受けて心が清められるように、キリストの贖いの血の効力を及ぼしてください。わたしたちは、天地と万物を創造され、また将来人の子らの中に降^{くだ}って来られる神の御子イエス・キリストを信じています。』」(モーサヤ4:2, 強調付加)

この聖句でも、罪の赦し、つまり手が清いことと、自らの性質が変わること、つまり潔い心を持つことの二つの祝福について語られています。

ベニヤミン王は、その教えのまとめとして、霊的成長の基盤となるこの二つの側面の重要性を改めて強調しています。

「さて、あなたがたに語ってきたこれらのことのために、すなわち、神の御前を罪なく歩めるよう、日々罪の赦しを続けて受けるために、……それぞれ持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい。」(モーサヤ4:26, 強調付加)

わたしたちは、清い手と潔い心の両方を持てるよう真心から願うべきです。つまり、日々罪の赦しを受けることと神の御前に罪なく歩むことの両方です。手が清いだけでは、主の御前に立つには不十分です。主は、その心が潔く、「きずも、しみもない小羊のような」御方であって(1ペテロ1:19)、わたしたちのためにその尊い血を惜しむことなく流されたのです。

教えに教え

この話を聞いたり、読んだりしている人の中には、わたしが今語っている霊的成長などというものは、一生かけても成し遂げることはできないと考える人もいますでしょう。これらの真理は他人には当てはまるが、自分には関係ないと考えるかもしれません。

わたしたちはこの世の生涯で完成の域に達することはありません。しかし、細くて狭い道に沿ってキリストを信じながら力強く前進し、永遠の行く末に向かって着実に進んで行くことはできますし、そうすべきです。人の霊的成長過程において主が取られる方法は、「ここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」いくことです(2ニーファイ28:30)。小さくとも着実に前進を続けていくことにより、主はわたしたちが霊的に成長できるようにして下さいます。神の御前に罪なく歩むための備えは、死すべき生涯の第一の目的の一つであり、生涯にわたって追求すべきことです。それは決して、霊的な活動にひととき集中したからといってできることではないのです。

わたしたちが着実に進歩を続けられるよう、救い主が強め、支えてくださることを証します。モルモン書には、神の御前に清く染みのない者が古代の教会に「大勢おり、非常に多くの数に上った」と記されていますが(アルマ13:12)、これはわたしにとって励みであり、慰めでもあります。この古代の教会の会員たちも、皆さんやわたしと同じように、普通の人だったことでしょう。この人たちは罪を見て忌み嫌うのを禁じることができなかったために、「清められて、主なる神の安息に入りまし

た(12節)。そして、この霊的成長に関する同じ原則、同じ過程が、いつでも同じように、わたしたち一人一人に当てはまるのです。

モロナイの最後の勧告

生まれながらの人を捨てて聖徒となり、悪事を避け、克服して、善を行い、善良な者となり、清い手と潔い心を持つようにという教えは、モルモン書の中で絶えず繰り返されているテーマです。事実、モロナイは、その書の最後に記した勧告の中で、このテーマを要約しています。

「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と意思と力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。……

さらにあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になり、神の力を否定しなければ、神の恵みによりキリストによって聖められる。それはキリストの血が流されたことによるものである。キリストの血が流されたのは、あなたがたの罪の赦しのために御父が聖約されたことによるものであり、それによってあなたがたは染みのない清い者となるのである。」(モロナイ10:32-33, 強調付加)

皆さんもわたしも真心から悔い改めて、真にキリストのみもとに行くことができますように。救い主の贖いによって、わたしたちが清い手と潔い心を持つことができ、それにより、染みのない聖い者となることができるよう祈ります。イエス・キリストが永遠の御父の御子であって、わたしたちの救い主であられることを証します。染みのないその御父は、わたしたちを罪から贖い、善を行いより善い者となるよう強めてくださいます。以上のことをイエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

山から切り出された石

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

主の約束は成就しています。あたかも人手によらずに山から切り出された石のように、福音が地の果てまで転がり進むであろうという約束です。



愛する兄弟姉妹の皆さん。わたしたちはおもしろい慣習の中で生きています。つまり、ソリストは同じ歌を何度も歌い、オーケストラは同じ曲を何度も演奏します。しかし、話をする人は、いつも新しい話題について話すよう期待されているのです。わたしは今朝この慣習を破り、以前、別の折に話したことを、幾分繰り返したいと思います。

この教会は、世界中に広がる一つの大きな家族に発展してきました。現在、176の国々と地域に1,300万人を超える会員がいます。驚くべき、すばらしいことが起きています。ダニエルが示現の中で見たとおりに、主の約束が成就しています。あたかも人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進むように、福音が地の果てまで転がり進むであろうという約束です(ダニエル2:31-45; 教義と聖約65:2参照)。大きな奇跡がわた

したちの目の前で起きているのです。

184年前の1823年に起きたことについてお話ししたいと思います。正確に言うと、それは9月21日の夜から22日にかけての出来事でした。

その晩、少年ジョセフ・スミスは寝る前に祈り、自分の軽薄さを救ってくださるよう主に願いました。すると、不思議なことが起きました。彼はこう述べています。

「わたしはこのように神に呼び求めているとき、室内に光が現れたのに気づいた。その光は次第に明るさを増し、ついにその部屋は真昼の時よりも明るくなった。すると、すぐに一人の方がわたしの寝台の傍らに現れ……

その方はわたしの名を呼び、自分は神の前から遣わされた使者であること、その名はモロナイであること、神がわたしのなすべき業を備えておられること、またわたしの名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること、すなわち、良くも悪くもすべての民の中で語られることをわたしに告げられた。」(ジョセフ・スミス—歴史1:30, 33)

少年は、自分が耳にしたことにさぞや驚いたことでしょう。少年を知っている人々の目には、彼は貧しく無学な農家の少年としか映っていませんでした。実際、何の財産もありませんでした。隣人たちも少年と同様の境遇でした。彼の両親は生活に苦しむ農民でした。住んでいた地域はほとんどだれも知らない田舎でした。一生懸命働いて何とか生計を立てようとしているごく普通の人々でした。

それにもかかわらず、神の天使は、ジョ

セフの「名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられる」と言ったのです。どうしてそんなことがあり得るのでしょうか。それは世界中に広まるという意味なのです。

177年前にさかのぼり、教会が組織された当時を振り返ると、今までに起きた事柄に驚嘆します。教会が組織された1830年には、会員はたった6人しかいませんでした。ほとんど無名の村に住む、わずかばかりの信者こんにちでした。今日、この教会は北アメリカで4番目か5番目に大きな教会となりました。どの主要都市でも集会が開かれています。シオンのステークは合衆国、カナダ、メキシコの各州、そして中央アメリカ、南アメリカ全土に広がっています。

イギリスやヨーロッパでも集会が行われ、毎年、大勢の人が教会に加入しています。この業はバルト海諸国へ及び、ブルガリア、アルバニア、その他の地域に広がっています。ロシアの広大な地域にも到達しています。さらにはモンゴルおよびアジア諸国に達し、太平洋諸国、オーストラリア、ニュージーランド、そしてインド、インドネシアへと広がっています。アフリカ諸国の多くでも御業みわざは進展しています。

教会の総大会は衛星放送などの手段により、92か国語で放送されています。

しかしながら、この業はまだ始まったばかりです。今後も成長と発展を続け、全地に広がるでしょう。モロナイがジョセフにした約束が成就するのなら、そうなるはずです。

この業は、ほかに類のないすばらしいものです。わたしが知っているほかのどの宗教的教義とも、根本的に異なっています。

イエスが地上におられたとき、このように言われました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ17:3)

ジョセフは14歳のとき、栄光に満ちた最初の示現の中で、記録上どのような人も経験したことのない経験をしました。人類史上初めて、永遠の父なる神と、神の愛される御子、復活された主が、ともに地上

に御姿みすがたを現されたのです。

イエスがヨルダン川でヨハネからバプテスマをお受けになったとき、神の声が聞こえましたが、御姿は見えませんでした。変貌へんぼうの山でも、神の声は聞こえましたが、御姿を現されたという記録はありません。ステパノは御父の右に立っておられる主を見ましたが、御二方は彼に語りかけたり、教えを説いたりはなさいませんでした。

イエスは復活後、西半球のニーファイ人に御姿を現されました。全能の神の声が3度聞こえ、復活されたキリストを紹介されましたが、このときも御父は御姿を現されませんでした。

1820年の示現はまことにすばらしいものでした。ジョセフが森の中で祈ると、御父と御子の御二方が彼の前に御姿を現されました。そして、そのうちの御一方がジョセフに語りかけ、彼の名を呼び、別の御方を指して、「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」と言われたのです(ジョセフ・スミス—歴史1:17)。

そのようなことが起きたことは、それまで一度もありませんでした。御父と御子の御二方が御姿を現されることが、なぜそれほど重要だったのかと不思議に思う人もいるでしょう。わたしの考えでは、それは福音の最後の神権時代、すなわちそれ以前のすべての神権時代の要素が一つに集められる「時満ちる神権時代」の到来であったからです。これは、地上の全人類に神がかかわってこられた長い歴史の最終章となるものでした。

主が設立された教会は、救い主がこの世を去られてから、次第に背教の道をたどりました。イザヤの次の言葉が成就したのです。「地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ。」(イザヤ24:5)

神の真の属性を知ることの重要性に気づいた人々は、神を定義する方法を見つけようと奮闘しました。学識ある聖職者たちは互いに論じ合いました。4世紀にコンスタンティヌス帝がキリスト教に改宗したとき、神の真の属性についての理解に到達できるだろうとの望みを抱いて、こう

した学者を大勢集めました。しかし、到達できたのは、様々な見解の妥協にすぎませんでした。その結果、紀元325年にニカイア(ニケーア)信条が発布されました。この信条とその後に追加された信条が、それ以降、大部分のキリスト教が信奉する神の属性に関する教義の宣言書となりました。

わたしはそれらの信条のすべてを何度も読みましたが、理解できませんでした。ほかの人も同じだろうと思います。多くの人が理解できないことを、主もきっと御存じだったのでしょう。そこで1820年に、たぐいまれな示現の中で、少年ジョセフに御父と御子が御姿を現されたのです。少年が聞くことのできる言葉を語られ、少年も御二方に話しました。御二方は見たり、話したり、聞いたりすることがおできになりました。それぞれ別個の御方であり、実在の御方でした。架空の存在ではなく、肉体を持った御方でした。その経験から、神の属性について、わたしたち独自の、真の理解が生まれたのです。

1842年にジョセフが信仰簡条を書いたとき、第1条として、次のように定めたのはもっともなことです。「わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」(信仰簡条1:1)

皆さんがよく御存じのように、ペテロの預言どおり、長い歳月にわたって、まさしく「証人〔の〕雲」が続きました(ヘブル12:1参照)。

まず、モロナイです。彼がもたらした金版からモルモン書が翻訳されました。これは何と比類なきすばらしいことでしょう。金版についてのジョセフの話は驚嘆すべきものです。信じ難い話であり、疑うことは容易です。モルモン書は、彼自身の力で書かれたのでしょうか。兄弟姉妹、それはわたしたちの手もとにあり、だれもが見、触れ、読めるようになっています。その由来について説明するあらゆる試みは、ジョセフが述べたもの以外、失敗に終わりました。彼はほとんど無学でした。にもかかわらず、非常に短い時間でそれを翻訳しました。出版されたページ数は英文で500枚を超えるものでした。



パウロはこう宣言しています。「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。」(2コリント13:1)

何世紀もの間、聖書に並ぶものはほかにありませんでした。聖書は貴重なすばらしい書物です。しかし、キリストの神性を宣言する第二の証が世に出されたのです。モルモン書はかつて出版された書物の中で、次のような約束が書かれた唯一の書物であることを、わたしは知っています。すなわち、祈りの気持ちで読み、それについて祈りを通して尋ねる人に、それが真実であるという知識が聖霊の力によって明らかにされるという約束です(モロナイ10:4参照)。

ニューヨーク州パルマイラにあった片田

舎の印刷所で最初に出版されて以来、1億3,300万冊以上ものモルモン書が出版され、105の言語に翻訳されました。つい先ごろ、モルモン書は、かつて北米で出版された最も影響力のある20冊の本の一つに選ばれました。

最近、初版本が10万5,000ドルで取り引きされました。でも、その言葉とメッセージを愛する読者にとっては、最も安いペーパーバック版も同様に貴重です。

長年、批評家たちはモルモン書についての説明を試みてきました。批判したり、あざ笑ったりしてきました。にもかかわらず、モルモン書はそれらをものともせず読み継がれ、今日、その影響は歴史上かつてないほど大きなものとなっています。

これらの一連の出来事に続いて、神権が回復されました。救い主が地上におられた当時、神権を持っていた人々が復活し、授けたのです。これはジョセフがまだ23歳であった1829年のことでした。

神権が回復された後、1830年4月6日に教会が組織されました。ジョセフはまだ25歳になっていない若者でした。教会の組織も、従来のキリスト教とは異なるユニークなものです。大部分が普通の信徒により運営されています。非常に独特なのは、ボランティアの奉仕が中心だという点です。教会が発展し、海外に広まるにつれ、無数の忠実で有能な人々がその活動を指導してきました。

神から任命された預言者がまだ若く、

個人の啓示—— 預言者たちの 教えと模範

十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

個人の啓示は、わたしたちが生きていくうえで最も大切な真理を自分で知ることのできる方法です。



この歴史的な大会の最後の部会が始まるに当たり、新しい大管長会の顧問としてヘンリー・B・アイリング管長を、十二使徒定員会の会員としてクエンティン・L・クック長老を、七十人会長会の一人としてウォルター・F・ゴンサレス長老を支持する特権にあずかれたことを、皆さんとともに感謝いたします。わたしは二人を愛し、支持するとともに、彼らが「啓示と預言の霊によって」¹ 生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長を通して神から召された人々であることを証します。

この2日間の出来事は、主の業には啓示が必要であり、わたしたち自身の生活にも個人の啓示が必要であることを教え

てくれます。個人の啓示は、わたしたちが生きていくうえで最も大切な真理を自分で知ることのできる方法です。つまり、永遠の父なる神とその御子イエス・キリストが生きておられること、回復された福音が真実であること、そして神はわたしたちに対して目的と方向性を持っておられる、ということです。

個人の啓示について、わたしは古代および現代の預言者の模範から多くを学んできました。今日は、そのような個人の模範について幾つか話します。この話が皆さんを啓発するものとなり、わたしたち一人一人が個人の啓示を生活の中で求めるようになることを願っています。

わたしがまだ若く、地区代表を務めていたころ、マリオン・G・ロムニー長老がステーク会長会を再組織するのを補佐する割り当てを受けました。大会が開かれる会場までの長い道のりを、ロムニー長老とともに車で向かっていたとき、長老は穏やかな会話の中で、自分たちの割り当ての霊的な側面について触れました。ロムニー長老は、主がどのようにして啓示を与えてくださるのか教えてくれました。「ロバート兄弟、主の用向きを受けているときには、主から申しつけられたことは、主が祝福してくださるので、何であろうと果たせるのです。」ロムニー長老は、さらにこう説明しました。「その遠くの町に着くと

ほとんど世の人に知られていないときに、神が彼に啓示された驚くべき事柄の数々に、今わたしは畏敬の念を抱いています。これらの啓示に用いられた表現は、偉大な知識を持つ人さえ、まねのできないものです。

わたしたちと異なる宗教の学者たちは、この独特の教義を受け入れようとはしませんが、世界中の人々の心を動かしている、この業の大きな進展ぶりに首をかしげています。それはすべて、預言者ジョセフのおかげなのです。彼は聖見者、啓示者であり、主イエス・キリストの使徒です。ジョセフは、この神権時代に生まれてきて、全能の神の手に使われる器となるよう、予任されていました。救い主がパレスチナの道を歩いていたときに説かれた事柄を、地上に回復するためです。

わたしは今日、皆さんに、預言者ジョセフの召しと彼の業について、また、彼が永遠の真理に対して、殉教者として自らの血をもって自分の証を確かなものとしたことについて、わたしの証を改めてお伝えします。皆さんのだれもが同じことについて証できることでしょう。皆さんもわたしも、最初の示現とその後起きた出来事が真実だと受け入れるかどうかという単純な問いと正面から向き合わねばなりません。この教会の正当性は、最初の示現の真実性を土台としているのです。もしそれが真実であるなら、そしてわたしはそうだと証しますが、わたしたちが携わっているこの業は地上で最も重要な業であることとなります。

以上、話してきた事柄が真実であるという証を述べ、皆さんのうえに天の祝福がありますようお祈りします。主が約束されたように、天の窓が開かれ、祝福がふり注がれますように。これは主の約束であり、それを成就させる力を主が持つておられることを、決して忘れないでください。わたしの祝福と愛を皆さんに残し、わたしたちの贖い主、主イエス・キリストの聖なる御名により祈ります。アーメン。



わたしたちはひざまずいて祈り、神権者たちと面接し、またひざまずいて祈ります。すると、新しいステーク会長として主が選ばになった人を聖霊が明らかにしてくださいませ。」それは人生で最も素晴らしい霊的な経験の一つとなるでしょう、とロムニー長老はわたしに約束してくれました。実際、そのとおりでした。

わたしたちは皆、永遠の命を受けるにふさわしいことを証明するために天の御父から地上に送られました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエスキリストとを知ることであります。」² 御父と御子を自分で知るにはどうしたらよいでしょうか。個人の啓示によって、知ることができます。個人の啓示こそ、天の御父がわたしたちを助けてくださる方法であり、それによって天の御父と御子を知り、福音を学んで実践し、義にかなった生活をして最後まで堪え忍び、永遠の命を受けるにふさわしい者となり、御父と御子のみもとに戻ることができるのです。

こんな疑問を持つ人がいるかもしれません。「個人の啓示を受けるためにはどうしたらよいのだろう。」パウロは、世の知恵ではなく御霊に頼るようにと聖徒たちに教えています。³ 御霊を得る方法は、祈ることに始まります。ロレンツ・スノー大管長は、教会に入る前に福音を数年間学びました。しかし、初めて証を受けたのは、バプテスマを受けて2、3週間後に独

りになって祈ったときでした。「神の御霊がわたしのうえに降り降りました。何という喜び、何という幸福を感じたことでしょう。……わたしは神が生きておられ、イエスキリストが神の御子であること、そして聖なる神権と完全な福音が回復されたことに関する完全な知識を得たのです。」⁴

祈りが個人の啓示を受けるための堅固な土台を据えることをわたしは学びました。しかし、ほかにも必要なものがあります。これも地区代表だったころのことですが、別の十二使徒、ボイド・K・バックナー長老から学ぶ機会がありました。バックナー長老とわたしは、ステーク会長会を再組織する責任を受けていたため、まずひざまずいて一緒に祈りました。神権指導者たちと面接して祈った後、バックナー長老は建物の周りを歩きましょうとわたしを誘いました。一緒に歩きながら、バックナー長老は個人の啓示を求めるという重要な原則を実際に行って見せてくれたのです。この原則は、主がオリバー・カウドリにお教えになったものです。「見よ、……あなたは心の中でそれをよく思い計[ら]なければならぬ。」⁵ わたしたちは課せられた割り当てについてよく考え、話し合い、御霊の声に耳を傾けました。そして戻って来ると、祈ってさらに検討しました。こうして初めて、わたしたちは啓示を受ける備えができたのです。

啓示は主の御心にかかったときにやって来ます。これは、望む答えをすべて受

けてはいなくとも、信仰をもって前進しなければならないということをししばしば意味します。中央幹部として、エズラ・タフト・ベンソン長老の指示の下でステーク会長会を再組織する責任を受けたこともありました。祈り、面接し、検討し、もう一度祈った後で、新しいステーク会長にはだれがいいか分かりましたか、とベンソン長老に尋ねられました。まだその啓示を受けていません、とわたしは言いました。ベンソン長老はしばらくわたしの方を見た後、自分もまだ受けていない、と話してくれました。しかし、わたしたちは御霊に動かされて、ステーク大会の土曜の夜の集会で話し割り当てを、3人の立派な神権者に与えました。そして3人目の話者が話し始めた途端、「この人こそ新しいステーク会長である」と御霊がわたしにささやきました。ベンソン会長の方を見ると、涙が頬を伝っています。わたしたち双方に啓示が与えられたわけです。信仰をもって前進し、天の御父の御心を求め続けたからこそ、啓示を受けることができたのです。

教会での奉仕を始めてまだ日が浅かったころ、わたしが住んでいた地区で新しいステークを組織するためにハロルド・B・リー長老が来ました。そのときに、次のような教訓を学びました。リー長老はわたしに、新しく支持されたビショップとして、ある記者会見に同席するよう誘ってくれました。記者会見の席では、熱情的な若い記者が、リー長老を困らせようとして

こんな質問をしました。「あなたは御自分のことを預言者だとおっしゃっていますね。啓示を最後に受けたのはいつですか。そして、それは何についての啓示でしたか。」リー長老は一息ついてから、記者を真正面から見詰めて穏やかにこう答えました。「昨日の午後3時ごろです。わたしたちは、新しいステーキの会長としてだれを召したらよいか祈っていました。そして、それがだれかが知らされたのです。」すると、記者の心に変化が生じました。啓示についてリー長老が力強く証したときにその部屋に満ちた御霊の力を、わたしは決して忘れないでしょう。主の御心を行おうと忠実に求める人は、そのような啓示を受けることができるのです。

忠実な子供や青少年、親、教師、指導者として、わたしたちは自分が思っているよりもっと頻繁に個人の啓示を受けることができます。個人の啓示を受けてそれを認識する経験を重ねるにつれ、証は強くなります。ビショップとしてワードの会員に召しを与えるときに啓示を受ける度に、わたしの証は強まりました。その証は、中央幹部や中央役員、地域七十人、ステーキ会長が召されたり、彼らが新しい割り当てを受けたりする度に強められました。最も重要なことは、わたしが神の息子、夫、父親としての役割を果たすときに受ける個人の啓示によって強められるということです。家族のことで導きを求めるときに御霊が導き、道を示してくれることに心から感謝しています。

預言者が啓示を受ける方法は聖文の中で語られていますが、わたしたちが啓示を受ける方法もこれと同じです。アダムとエバは、主の御名を呼び求めて個人的な啓示を受けました。これには救い主に関する知識も含まれます。⁶ エノクやアブラハム、モーセは、民の幸福を求めて祈りました。そして、高価な真珠に記録されている驚くべき啓示を与えられたのです。⁷ エリヤへの個人の啓示は静かな細い声で与えられました。⁸ ダニエルの場合は夢で与えられました。⁹ ペテロは、個人の啓示によってイエスはキリストであられるという証を得ました。¹⁰ リーハイとニーファイは救

い主と救いの計画に関する啓示を受けました。実際、聖書とモルモン書に出てくるすべての預言者が啓示を受けたと言ってよいでしょう。啓示は預言者とその民に警告や教えを与え、彼らを力づけ、慰めてきました。¹¹ 神殿で長い間祈った末に、スペンサー・W・キンボール大管長は神権に関する啓示を受けました。¹² そしてヒンクレイ大管長は、もっと多くの会員が神殿の祝福にあずかれるよう祈った結果、小規模神殿を建設することに関する啓示を受けました。¹³

預言者は、個人の啓示を受けることによって自分が生きるうえでの助けと、教会の地上における諸事を導く助けを得ています。わたしたちの務めは、自分自身のためと主から与えられた責任を果たすために、個人の啓示を祈り求めることです。

これまで何週間にもわたって、ヒンクレイ大管長は、この大会で発表されることになる召しについて啓示を祈り求めてきました。1か月ほど前のことです。大管長会と十二使徒定員会が集う木曜日の神殿での集会で、ヒンクレイ大管長が御霊の導きを求めて簡素で誠実な祈りをささげるのを聞きました。大管長の心からの祈りへの答えが、今こうしてわたしたち全員に明らかにされたのです。

預言者たちが生活の中で啓示を受けていることが分かったのでしょうか。また、啓示を受ける同様の方式は、わたしたちの生活の一部となっているのでしょうか。

啓示を受けるこの方式が、贖罪を土台としていることを、わたしたちは知っています。¹⁴ 罪を悔い改めて戒めを守るとき、わたしたちは贖罪の祝福を受けます。罪を悔い改めて戒めを守るとはバプテスマを受けたときに聖約したことであり、わたしたちはこの聖約を毎週聖餐を取るときに更新します。義になつた生活を続けていれば、ふさわしい者となり、サムエルのように「しもべは聞きます。お話しください」と言えるようになります。¹⁵ すると、主はこうお答えになるでしょう。「あなたがたの目は見ており、耳は聞いているから、幸いである。」¹⁶

預言者のように聖文を研究し、断食し、

祈り、信仰を築くことによって、わたしたちは個人の啓示を受ける備えをします。信仰が鍵です。最初の示現を受ける前にジョセフが準備したことを思い出してください。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、……神に、願い求めるがよい。……」

ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。¹⁷

揺るぎない信仰があれば、「奇跡が行われるのは信仰による」ということが自分で分かるようになります。¹⁸

一般に、紅海を分けたり、死者を生き返らせたり、牢の壁を崩したり、天の使者が現れたりする奇跡は、神の力を物理的に示すものではありません。ほとんどの奇跡は本来、神の力が霊的に現れたものです。つまり奇跡とは、印象を受けたり、考えが浮かんだり、確信が持てるようになったり、問題の糸口が見つかったり、困難に立ち向かう力が得られたり、失望や悲しみに耐えられるよう慰めが与えられたりすることを通して、主の深い憐れみが穏やかに与えられることなのです。

こうした奇跡は、聖文の中で「信仰の試し」¹⁹と呼ばれているものをわたしたちが堪え忍んでいるときに起こります。その試しが、答えを受けるまでにかかる時間であることもあります。デビッド・O・マッケイ大管長は若いころ、牛の世話をしながら、証を祈り求めました。しかし、証が得られたのは、それから何年もたったスコットランドでの伝道中のことでした。マッケイ大管長はこう述べています。「それは、わたしがまだ若く疑い深かったころ、一人ひそかに、丘や牧草地で熱心にささげた祈りに対する答えでした。この経験を通して、心からの祈りは『いつか、どこかで』こたえられるという確信を得ました。」²⁰

「今はその時ではない……辛抱強く待ちなさい」という答えもあるのです。

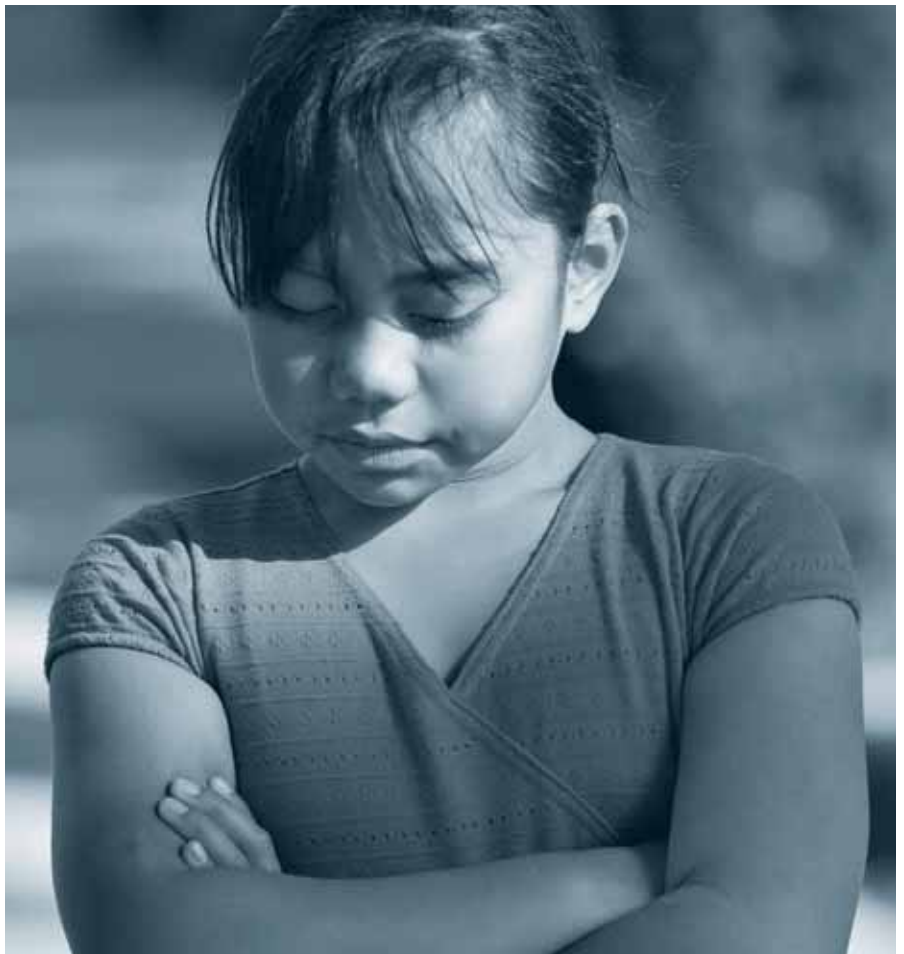
主がわたしたち一人一人に与えてくださる御言葉は必ず成就することを証します。それは、丘や牧草地、森や自分の部屋かもしれません。今すぐにかもしれませんし来るべき永遠の世でかもしれませ

ん。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」²¹ わたしたちはしるしを求めてはならないと戒められていますが、「熱心に最善の賜物を求め……なさい」と命じられています。²² この賜物には、聖霊と個人の啓示も含まれます。その啓示は「教えに教え、訓戒に訓戒を加えて」与えられ、主が言われたように「〔主を〕受け入れる者にさらに多く与え」られるのです。²³

皆さん一人一人をお願いします。この大会を終えて各会場を出て行くとき、神の御霊をさらに祈り求め、さらに豊かに受けることができるように努めてください。救い主は、新大陸にいた弟子たちが御霊を受けられるようにと祈られました。その後、主は弟子たちの中から去って祈りをささげ、御霊を与えてくださることを、全人類の模範として、天の御父に感謝なさいました。²⁴ 救い主の模範に倣って、わたしたちの生活の中にある御霊のすばらしい祝福を感謝しつつ、神の御霊を求めて祈りましょう。

イエス・キリストは生きていて、生ける預言者ゴードン・B・シンクレイ大管長を通して主の教会を導いておられます。このことをわたしは特別に証します。預言者ゴードン・B・シンクレイ大管長がこの教会を啓示によって導いていることを、わたしは確かに知っています。アルマの言葉を借りて申し上げます。「見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのことは、神の聖なる御霊によってわたしに知らされているのである。見よ、わたしは……幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であることを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が……これらのことをわたしに明らかにされたからである。わたしの内にある啓示の霊によって知らされたのである。」²⁵

わたしたち一人一人が御霊を受け、個人の啓示という祝福を受けることができるよう、そしてこれらのことが真実であることを自分自身で知ることができるようイエス・キリストの御名によって心から祈ります。アーメン。



注

1. アルマ8:24
2. ヨハネ17:3
3. 1コリント2:11-16参照
4. エライザ・R・スノー・スミス, *Biography and Family Record of Lorenzo Snow* (1884年), 8で引用
5. 教義と聖約9:8
6. モーセ5:4-11
7. 創世18:23-33; 出エジプト3:1-3:32:31-33; モーセ1:1-2, 24:6:26-37:7:2-4; アブラハム1:1-2, 15-19参照
8. 列王上19:11-12参照
9. ダニエル2:16-20参照
10. マタイ16:15-17参照
11. 1ニーファイ2:16; 11:1-2参照; その他の例としてモーサヤ3:1-4; アルマ43:23; ヒラマン7-8章; ヒラマン10:2-4; 3ニーファイ1:10-13; モルモン8:34-35; エテル3:1-6, 13-14, 25も参照
12. "Letter of the First Presidency

- Regarding Revelation on the Priesthood," Tambuli, 1978年7月号, 31; 「神権に関する啓示と教会役員
の支持」『聖徒の道』1979年2月号, 23
参照
13. 「神殿、改宗者の定着、伝道活動について」『聖徒の道』1998年1月号, 57参照
 14. 使徒9章; モーサヤ27章; アルマ36章参照
 15. サムエル上3:10
 16. マタイ13:16
 17. ヤコブの手紙1:5-6
 18. モロナイ7:37
 19. エテル12:6
 20. フランシス・M・ギボンズ, *David O. McKay: Apostle to the World, Prophet of God* (1986年), 50で引用
 21. マタイ7:7; ルカ11:9; 3ニーファイ14:7も参照
 22. 教義と聖約46:8
 23. 2ニーファイ28:30
 24. 3ニーファイ19:19-23参照
 25. アルマ5:46

真理—— 正しい決断の基

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット長老

真理に関する知識も、正しい決断ができるように役立てなければ無意味です。



真理は賢明な決断を可能にする唯一の堅固な基ですが、何が真理かということはどのようにすれば分かるのでしょうか。情報のあふれかえる世の中で、賢明な判断を下すことがますます難しくなってきたと感じる人が増えています。わたしたちは「こうすれば成功する」「これが正しい」「これを買いなさい」といった声に絶え間なくさらされています。メディアやインターネット、そのほかの手段が複雑に絡み合い、情報の雨を降らせているからです。何か問題があれば、解決策を載せた様々なメッセージが送られてきます。どれも非常に説得力があり、巧みに出来ていますが、その中の二つがまったく正反対のものであることも多いのです。どうしたらよいか分からず、正しい判断を下す自信のない人が

いるのも無理はありません。

さらに事を複雑にしているのは、わたしたちの下す決断が、社会的に受け入れられ、だれの目にも公正なものでなければならぬと思ひ込ませようとする人がいることです。この主張がいかにも間違っているかは、少し考えてみれば分かるでしょう。社会構造や政治体制は国によって大きく違いますし、時代とともに大きく変わります。ですから、こうした方法で物事を決めるのは明らかに愚かなことです。

真理を見いだす方法は二つあります。それぞれの方法の基となっている律法に従うかぎり、どちらも役に立ちます。一つ目は科学的な方法です。これには、一つの理論を検証するためにデータを解析したり、実験を通して法則の妥当性を証明したりする必要がある場合もあります。科学的な方法は真理を探究するうえで有益です。しかしこれには二つの限界があります。まず、多くの場合、真理に近づいてはいくものの、絶対的な真理に到達したかどうかを確認するすべがありません。次に、どんなに努力してこの方法で探求したとしても、間違った答えにたどり着く可能性もあります。

真理を見いだす最良の方法は明快です。すべての真理の源である御方のみもとに行って尋ね、受ける靈感に従って行動すればよいのです。¹ この方法で真理を見つけるには、次の二つの要素が欠かせません。まず、すべての真理の源である御方に対する揺るぎない信仰、もう一つは、

その御方と常に霊的な意思の疎通を図れるよう進んで神の戒めを守りたいという望みです。先ほどロバート・D・ヘイルズ長老は、この個人の啓示とそれを受ける方法について話してくれました。

科学的なアプローチ²

真理を発見するための科学的なアプローチから、わたしたち人類は何を学んできたでしょうか。一つの例を挙げて説明しましょう。聖なる天の御父エロヒムから科学を通して解明することを許された事柄は、広かつ深遠で驚くほど雄大です。どんなに努力しようとも、その片鱗すらわたしはまだ理解できません。地球を離れて宇宙空間に出ることができたとしたら、まずわたしたちは、宇宙飛行士のよう^{へんりん}に地球を見ることができるようでしょう。さらに地球から離れると、太陽とその周りを公転する惑星がはっきりと見えるでしょう。無数の星が輝く壮大な宇宙空間では、太陽とその周りの惑星も複数の物体から成る小さな円にしか見えません。さらに遠くへ旅を続けると、わたしたちの銀河系全体が見えるようになります。その中では、1千億個以上の星が円軌道上を回っています。それらの星の軌道は、銀河系中心部に密集した星の重力によって決められているのです。さらに遠く離れると、おとめ座銀河団と呼ばれる銀河の集まりを見ることができるようでしょう。地球から5000万光年の距離にあると推測されるこの銀河団に、わたしたちの銀河系が属していると考えられる人もいます。さらにその先には、ハッブル宇宙望遠鏡が撮影した銀河の世界が100億光年先まで広がっています。光が1時間に11億キロ進むことを考えると、これは気が遠くなるような距離だということが分かります。これほど非日常的な場所にまでやって来たとしても、父なる神が造られた世界の果てにたどり着くことなどとうていできません。

宇宙の広大さを知ると畏敬の念を抱かずにはいられませんが、天の御父の測り知れない能力を同じように確認できる領域がほかにもあります。今度は外ではなく中へと視点を変え、物質の構造を探



部会の合間に親交を深めるデンマークの会員たち。

てみましょう。すると、らせん構造のDNA分子を間近で見ることができます。これは自己複製する驚くべき分子構造であり、人間の肉体の資質はこれによって決まります。さらに小さな世界へと足を進めると、皆さんも聞いたことのあるプロトン、ニュートロン、そして電子から成る原子の世界に到達します。

創造における最小単位のなぞにさらに迫ろうとすると、現代の知識の限界に突き当たるでしょう。過去70年間にわたって、物質の構造については多くのことが解明されてきました。基本素粒子とその相互作用の標準モデルが作成されるようになりました。基礎となったのは、クォークと名付けられた基本素粒子やそのほかにレプトンと呼ばれる基本素粒子の存在を証明した実験です。このモデルは、物質の中で原子が結合したり分離したりする様子を説明しているのですが、重力の説明がまだ不十分です。また、現在の研究成果を得るために使用されたものよりもより高性能な装置が開発されれば、新たな基本素粒子が発見されるかもしれないと考える人もいます。ですから、科学的な方法でまだ理解できていない天の御父の被造物は、現在もたくさん残っているのです。

才能ある人々に主が靈感をお与えになったために、科学的な手法から広大な知識がもたらされました。彼らは、どなたの手によってこれらのものが創造されたのか、またそこにどのような目的があるの

かを知らないかもしれません。多くの科学者は自分が靈感を受けていることにすら気づいておらず、自分たちの発見が神のおかげなのだと考えることはないのかもしれませんが。しかし、わたしは最近ヘンリー・B・アイリング管長から、才能豊かな彼の父親が優秀な科学者たちの集まりに出席したときの経験を聞いてほっとしました。彼は周囲の受賞者にこう尋ねました。「研究を通して、万物を組織された英知の存在を感じましたか。」すると皆、異口同音にそのような英知を備えた御方の存在を確信していると答えたのです。

わたしたちの理解は限られています。これまで得た御父の被造物に関する知識は、この宇宙がほとんど何もない空間からできていることを示しています。固体であり、硬くて、触ることができると思う物体ですら、非常に大きく拡大した宇宙の視点で眺めたり、または非常に小さな視点で眺めたりしてみれば、そのほとんどが何もない空間なのです。わたしたちの父なる神は、その崇高な目的のためにこれらの被造物を治め、お使いになっているのです。

啓示された真理によるアプローチ

啓示を通して、わたしたちはどのような真理を学んできたでしょうか。

何世紀も前、父なる神は聖なる御霊を通して、何人かの預言者に神が造られた広大な世界をすべてお見せになりました。

また、それらを造った目的を説明されました。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」³ エノクはそのような預言者の一人です。エノクは天の御父が泣かれるのを見ました。サタンの力と影響が大きく、地上の多くの人がそそのかされて悪を行うようになっていたからです。

エノクは言いました。

「『あなたは、永遠から永遠にわたって聖なる御方であるのに、どうして泣くことができになるのですか。』

人が……この地球のような幾百万の地球を数えることができたとしても、それはあなたが創造されたものの数の始めにも至りません。あなたのとばりは今なお広がっています。それでも、……あなたは公正な御方です。とこしえに憐れみ深く、思いやりの深い御方です。

……あなたの御座のある所には、ただ平安と公正と真理だけがあります。憐れみはあなたの前を進み、終わりがありません。どうしてあなたは泣くことができになるのですか。』

主はエノクに言われた。『これらあなたの兄弟たちを見なさい。彼らはわたし自身の手で造られたものである。わたしは……彼らに知識を与えた。また、……人々に選択の自由を与えた。』

わたしはあなたの兄弟たちに……互いに愛し合うように、また父であるわたしを選ぶようにという戒めも与えた。ところが



見よ、彼らは愛情がなく、自分の血族を憎んでいる。」⁴

また、父なる神は、次のような見事な表現を用いてモーセに語られました。

「無数の世界を、わたしは創造した。また、わたし自身に目的があってこれらを創造した。子によって、わたしはこれらを創造した。子とは、わたしの独り子のことである。……

……多くの世界がある。……それらは人にとって数え切れない。しかし、わたしにはすべてのものが数えられている。それらはわたしのものであり、わたしはそれらを知っているからである。」⁵

真理に関する知識も、正しい決断ができるように役立てなければ無意味です。少し考えてみましょう。体重を気にしている人がパン屋のそばに来ました。おいしそうなパンやドーナツが並んでいます。この人の頭の中をのぞいてみましょう。「医者からはこういうものをこれ以上食べてはいけないと言われている。体に良くないぞ。食べたって一時的な食欲を満たすだけだ。食べてしまったら今日はこれからずっとつらいぞ。もうこれ以上は食べないと決めているのだから。」しかしその後で、その人はこう言ってしまいます。「アーモンドツイストパンとチョコレートドーナツを二つずつだけ食べよう。1度ならかまわないさ。これを食べたなら、もう二度と誘惑には負けないぞ。」

信仰と人格

真理を見いだす過程では、途方もない努力、そして御父と栄光ある御子への非常に深い信仰が必要になることがあります

す。皆さんの人格を築くために神がこのような状況をお作りになるのです。人格を磨くことにより、重大な決断をするときに御霊の導きに従順に従う能力が高まります。皆さんは義にかなった人格を築いているのです。磨かれた人格は、皆さんの持っているもの、学んできたこと、達成してきたことよりも大切です。このような人格は、人からの信頼を勝ち取ります。義にかなった人格は霊的な強さの基盤となります。試練や試しに遭っているときでも、きわめて重要で難しい決断を正しく下すことができます。絶対に決められないと思えることですら、正しく決定できるようになるのです。

サタンの方も、またそのほかのいかなる力も、皆さんが伸ばしている人格を損なったり破壊したりすることはできないと証します。人格に傷が付くのは、皆さん自身が不従順になるときだけです。

次の重要な原則を理解して生活の中で実践してください。信仰を働かせることにより人格が磨かれます。人格に磨きがかかると、さらに大きな信仰を働かせるための能力が高まります。そして自分は正しい決断を下すことができるという自信が増していくのです。この過程を繰り返しながら、わたしたちは強められていきます。人格が磨かれるほど、信仰という力を働かせる能力が増し、それがまた人格を磨くのです。

わたしたちの御父と御子

分らないことが多すぎて、すべてを理解することなどとうていできないと感じるなら、人知では測り知ることのできない

能力を持つ神がわたしたちの御父であられることに感謝しましょう。神は深い愛と理解、哀れみと忍耐を持つ、わたしたちの父であられます。御父はわたしたちをその子供として創造されました。神は愛する息子、娘としてわたしたちに接してくださいませ。愛され、誉められ、価値があり、大切な存在であると感じさせてくださいませ。そして憐れみの計画⁶を与え、従順であるという条件の下に、わたしたちが正しい決断をすることができるようにしてくださいませ。神は、わたしたちがその導きと影響の下で永遠にわたって生き、成長し、進歩し、正しい道にとどまるための方法を、聖なる御子を通して用意してくださいませ。

わたしは言葉で言い尽くせないほど天の御父を愛しています。心からへりくだり、厳粛に証します。この比類のない力をお持ちになる創造主は、哀れみに満ちたわたしたちの聖なる御父です。神の御子は死の縄目を解くために父の御心に完全に従って命を捨てられ、わたしたちの主、贖い主、救い主とられました。御父と御子がお持ちになる能力を完全に理解することはできませんが、わたしは御二方が深い愛を表されるときにお使いになる力の幾分かは理解しています。へりくだり、御父と御子が生きてわたしたちを愛しておられることを厳かに証します。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. モルモン書ヤコブ4:8
2. さらに詳しい情報は、McGraw-Hill Concise Encyclopedia of Physics, (2005年); フィリップ・モリソン他, Powers of Ten, (1982年); <http://www.particleadventure.org> および <http://www.atlasoftheuniverse.com> を参照
3. モーセ1:39
4. モーセ7:29-33
5. モーセ1:33, 35
6. アルマ42:31

神の善い言葉で養う

中央日曜学校会長第一顧問
ダニエル・K・ジャッド

わたしたちにとって不可欠なのは、聖文や末日の預言者の言葉の中で強調されている根本的な教義と原則、またそれらを応用することに焦点を当てながら、わたしたちが教え、導く人々を養うことです。



若いころ、わたしはユタ州南部とアリゾナ州北部で、父や兄弟たちと一緒に牛と馬を飼っていました。わたしたちは父から、馬を1頭捕まえて乗りたかったら、穀物を一握りバケツに入れて何秒か振りさえすればいいと教わりました。すると馬は、さくの中にいようが広い牧場にいようが、走って来て穀物を食べるのです。そして、食べている間に静かに滑らせるようにして馬の頭に馬具を装着することができます。こんなにも簡単にできるのかと、わたしはいつも驚いたものです。

時々、穀物をわざわざ納屋まで取りに行きたくないときに、土をバケツに入れて振ったこともありました。穀物が食べられると馬に思い込ませようとしたのです。しかしだまされたと分かったら、数頭を除くすべての馬が走り去ってしまい、捕まえるこ

となどほとんど不可能になってしまいます。信頼を回復するにはしばしば数日かかりました。わたしたちは、時間を取って毎回きちんと穀物を与える方が馬の扱いははるかに楽になるということを学びました。また、その方が馬に栄養を与え、体力をつけてやれるということも分かりました。

牧場で働いていたころから何年もたちましたが、今紹介した経験は、わたしが次のような質問を思い巡らすうえで役に立っています。——教会の教師または指導者として、わたしたちが仕える人々により多くの教義的また霊的な養いを提供するため、わたしたちは何ができるだろうか。

ジェフリー・R・ホランド長老は次のように教えています。「福音の知識を新たに幾つか学んだり、友人に会ったりすることは大切な要素ですが、単にそれだけを目的に教会に来る会員はほとんど存在しません。会員が教会に集うのは、霊的な経験を求め、平安を感じ、信仰を強め、新たに希望を得たいと望んでいるからです。つまり、神の善い言葉で養われ、天の力により強められるよう望んでいるのです。話の責任や、教え、あるいは指導する責任を受ける人は最善を尽くし、教会に集う目的を満たせるようにする義務があります。」¹

救い主とその僕たちは、「神の善い言葉で養われる」ように人を助けることの大切さを教えただけでなく(モロナイ6:4)、教え、指導するという責任を最もよく果たす方法についても靈感あふれる指示をお与えになっています。これに関する勧告は数多くありますが、その一つは教義と聖約

第50章にあります。初期の教会の幾つかの支部で起こっていた問題に言及された救い主は、その解決法について指導者たちに指示をお与えになりました。次のきわめて大切な問いかけから始まります。「それゆえ、主なるわたしはあなたがたにこう尋ねる。……『何のためにあなたがたは聖任されたのか。』」(教義と聖約50:13)よく知られている主の答えは、次の14節に記されています。「御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって、わたしの福音を宣べ伝えるためである。」

1831年に聖徒たちが直面していた問題に対する答えは、今のわたしたちが取り組んでいる課題にも当てはめることができます。つまり、わたしたちもイエス・キリストの福音を聖霊の力によって教えなければならぬのです。

教義と聖約第50章には、わたしたちが教え、導く人々を養うため、ぜひ行わなくてはならない事柄が記されています。その一つ目は、「わたしの福音を宣べ伝え[なさい]」という救い主の教えにあります(教義と聖約50:14、強調付加)。聖文は、わたしたちが宣べ伝えるべき福音は「俗世の知恵」ではなく(モーサヤ24:7)、「キリストの教義」であるとはっきり教えています(2ニーファイ31:21)。イエス・キリストの福音にはあらゆる真理が含まれていますが、すべての真理が同等の価値を持つわけではありません。² 主の福音とは、第1に主の贖いの犠牲を指していることと救い主は明確に教えられました(教義と聖約138:2)。また、主の福音は、キリストを信じる信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊を受けること、そして最後まで忠実に堪え忍ぶことを通して贖いの祝福にあずかるようにと勧められています。³

馬は土の入ったバケツより穀物の方に引かれると若いころに学んだように、わたしは、栄養の点で穀物は干し草に勝り、干し草はわらに勝ることを知りました。つまり馬にえさをやってはいても、栄養は与えていないということが起こり得るのです。教師や指導者にとって不可欠なのは、聖文や末日の預言者の言葉の中で強調されている根本的な教義と原則、またそれ



らを応用することに焦点を当てながら、わたしたちが教え、導く人々を養うことです。重要度の低いそのほかの話題や資料に貴重な時間を費やしてはなりません。

教師として学んだことですが、イエス・キリストの贖罪しょくざいを中心にクラスで議論をする方が、現代の地形における古代の町ゼラヘムラの正確な位置などといった話題について話し合うよりもはるかに重要なのです。また指導者は、単にカレンダーを見ながらスケジュールを調整するよりも、キリストを信じる信仰を築き、家族を強めるという目的をもって参加者全員が力を合わせることを最優先の方が有意義なものとなります。このことをわたしは指導者として学びました。

教義と聖約第50章にある主の御言葉みことばには、主が命じられた方法ではなく「何かほかの方法」によって教えるならば「それは神から出てはいない」という警告が載っています(教義と聖約50:18)。主は、教会

で奉仕するわたしたちに「預言者たちや使徒たちが書き記したこと、信仰の祈りによって慰め主により教えられることのほかは」何も教えるべきでないと論じておられます(教義と聖約52:9)。では、「わたしの福音を宣べ伝えなさい」という救い主の勧めに従うためには、クラスで教え、集会で指導する内容を信仰と悔い改めに限らなくてはならないのでしょうか。

これと似た質問に対して、ヘンリー・B・アイリング管長は次のように答えています。「もちろん、そうではありません。しかし教師と参加する人は常に、主の御霊が同じ部屋にいる会員の心に注ぎ込まれ、それによって皆の心が清められ、信仰と悔い改めへの決心が生じるように望まなくてはなりません。」⁴

わたしたちが教え、導く人々が「神の善い言葉で養われ」る(モロナイ6:4)ためにわたしたちが行うべき二つ目の事柄も、救い主の教えの中に見いだすことができ

ます。それは、「御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって、わたしの福音を宣べ伝え」なさいという教えです(教義と聖約50:14、強調付加)。救い主が指示されているのは、御霊の導きに従って準備し、教えることだけではありません。主は、どのような状況においても御霊こそが最も効果的な教師であるということについてもお教えになっています。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように教えました。「人の霊に語りかける神の御霊は、天界の存在者と接して真理が与えられる場合より、はるかに効果的に分かりやすく真理を伝える力を持っている。」⁵

数か月前、ある訓練集會に出席しました。多くの中央幹部が話した後、デビッド・A・ベドナー長老は、それまでに語られたすばらしい教えについて触れた後、こう尋ねました。「わたしたちは語られた言葉以外のものから何を学んでいます

か。」そして、これまで話した人やこの後に話す人からの勧告を受け入れることに加えて、わたしたちは言葉では語られない、聖霊が与えてくださる気持ちにも注意深く耳をそばだて、それらを記録するべきだと説明しました。

愛する預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉から、御霊によって教えることについてさらに学ぶことができます。「わたしたちは、……教師が書物の言葉からでなく、心の底から語ることによって、主とこの貴い業に対して抱いている愛を伝えるようにさせなければなりません。するとそれは不思議な方法で、生徒の心に届くのです。」⁶

教義と聖約第50章にある主の御言葉の中には、わたしたち一人一人が効果的に教え、導き、学んでいるかどうかを測る靈感に満ちたものさしもあります。22節にはこのように書かれています。「それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたち一人一人が、回復された福音にある命のパンと生ける水をもって、わたしたちが教え、導く人々を強め、大切に養うことができるよう心から祈ります。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 「神からこられた教師」『聖徒の道』1998年7月号、29
2. エズラ・タフト・ベンソン大管長「キリストに対する新しい証人」『聖徒の道』1985年1月号、7参照
3. 教義と聖約33:11-12;39:6;76:40-42;3ニーフアイ27:13-22参照
4. ヘンリー・B・アイリング長老「神権定員会」『リアホナ』2006年11月号、43
5. *Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻(1954-1956年), 第1巻, 47-48
6. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, 1997年, 619-620

神の神殿に 神性の力が現れる

七十人
オクタビオ・テノリオ長老

天の御父と神聖な聖約を交わし(た)すべての人々に、神性の力が……現され(ます)。



愛する兄弟姉妹、わたしが天の御父に最も感謝していることの一つは、メキシコシティの神殿のレコーダーとして15年間働く機会があったことです。すべての神殿と同じように、この聖なる場所で神権の力によって生者と死者のために儀式が行われています。1832年、預言者ジョセフ・スミスは神権について次のような啓示を受けました。

「また、この大神権は福音をつかさどり、王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を持つ。

それゆえ、この神権の儀式によって神性の力が現れる。」(教義と聖約84:19-20)
わたしは神殿の中で、これを立証するすばらしい経験をしました。

1993年、メキシコ・トゥストラ・グティエレ

ス伝道部の会長としての奉仕を終え、家族全員でメキシコ北部に住んでいるわたしの両親に会いに行きました。その途中、主に仕えることや伝道中の3年間に福音を受け入れた人々の変化を見てうれしかったことなどについて話し合いました。バプテスマと確認を受けた人、神権を受けた人、さらには神殿に参入し、家族として永遠に結び固められた人々について話しました。

そのとき末の息子から「お父さんはおじいちゃんとおばあちゃんに結び固められているの?」と聞かれ、わたしはそのことについて深く考えました。「おじいちゃんは長い間教会に来ていないので、まだ神殿でおばあちゃんに結び固めを受けていないんだ」と説明しました。それから父が活発に教会に集えるようにするために、あることを思いつきました。子供たちにも手伝ってもらおうと、その計画を皆に説明しました。父は毎週日曜日には必ず早く起きて、母と妹を車で教会へ連れて行き、家に帰って待ちます。そして集会が終わるころ、また迎えに行くのです。そこでわたしは子供たちにこう言わせることにしました。「おじいちゃん、ちょっとお願いがあるんだけど。」父はきっと「何でもしてあげよう」と言うはずですが、そこで、子供たちは「教会へ一緒に行って、わたしたちが証するのを聞いて」と頼むのです。その日はちょうど第1日曜日でした。父はおそらく行かないための口実を作ることでは



う。そこで、わたしが部屋へ入って行って父を説得するという計画です。

計画実行の時は間もなくやって来ました。娘のスザナが父のところへ行き、お願いをしました。父は予期したとおり、何でもしてあげるよと言いました。すかさず娘は教会へ誘いました。すると父は思ったとおり、「まだシャワーをしてないから、行かれないよ」と言い訳をしました。そこで、ドアの陰に隠れていた妻とわたしは大声で言いました。「シャワーが済むまで待つから!」

それでもまだ決心がつかないのを見た妻とわたしは部屋に入り、子供たちと一緒にせがみました。「シャワー! シャワー!」間もなくわたしたちが望んでいたことが起

こりました。父と一緒に教会へ行くと、集會に出席し、子供たちの証を聞きました。父の心は和らぎ、それ以来、毎週日曜日の集會に欠かさず出席するようになりました。数か月後、父は78歳で母と結び固められ、子供であるわたしたちとも結び固められました。

神殿の儀式に現れた神性の力のおかげで、今やわたしは、たとえ死んでも両親と再会し、永遠に一緒にいられるのです。

多くの場合、わたしたちは、苦難を経験したり、救いの計画を知らなければ耐えられないような悲しすぎる出来事に遭遇したりするまでは、神殿の儀式の意味を完全に理解することはできないものです。

結婚してまだ1年半のころ、最初の子供

の出産を間近に控えていました。妻の生まれ故郷はチワワの町です。わたしたちはそこで出産することにしました。そのころわたしはメキシコシティで働いていたので、妻だけ出産の1か月前に故郷へ戻り、わたしは後から行くことにしていました。

ついに出産の日が来ました。わたしの勤め先に妻の父から電話が入りました。良い知らせでした。「オクタビオ、無事に生まれたよ。とてもかわいい女の子だよ。」わたしは有頂天で、すぐに職場の友人や同僚に知らせました。それを聞いて、彼らは赤ちゃんの誕生を祝って皆にチョコレートを配ってはどうかと提案してくれました。

翌日、わたしは4階建てのオフィス中にチョコレートを配りました。2階まで行ったとき、義父から再び電話がありました。今度の知らせは最初のとは違っていました。「オクタビオ、母親は無事だけど、赤ちゃんは息を引き取ったよ。今日葬儀を行うが、来られないだろう。どうするかね。」妻のローザに電話を代わってもらい、大丈夫かと尋ねました。彼女は「あなたが大丈夫なら、わたしも大丈夫よ」と答えました。そして救いの計画について話し合い、次の聖句を思い出しました。

「わたしはまた、責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちが皆、天の日の栄えの王国に救われるのを見た。」(教義と聖約137:10)

「君はこれを信じてる?」と尋ねると、妻は「ええ、信じてるわ」と答えました。そこでわたしは言いました。「じゃあぼくたちは喜ぶべきだね。愛しているよ。君さえよければ、ぼくは2週間後に休みを取る。そして一緒に休暇を過ごしてからメキシコシティに戻ろう。」

わたしたちは神殿で神権の力によって結び固められたのだから、いつの日か娘と再会できることを理解していました。わたしは電話を切り、オフィスの皆へチョコレートを配り続けました。

これを見た同僚の一人が驚いて、あんな悲しい知らせを聞いた後、どうしてこんなことができるのかと尋ねました。そこでわたしは答えました。「3時間あったら、なぜぼくがそれほど悲しがっていないのか、

死んだ後どうなるのかを教えてあげるよ。」
そのときは時間がありませんでしたが、後に3時間どころか4時間も彼と話をしました。やがて彼は福音を受け入れ、母親と弟と一緒に宣教師の話聞いた後、バプテスマを受けました。

神殿の儀式に現れる神性の力のおかげで、娘に再会できることを知っています。わたしは彼女を胸に抱き締め、そしてわたしたちは今地上にいる3人の子供たちと同じように、永遠に一緒にいることができるのです。

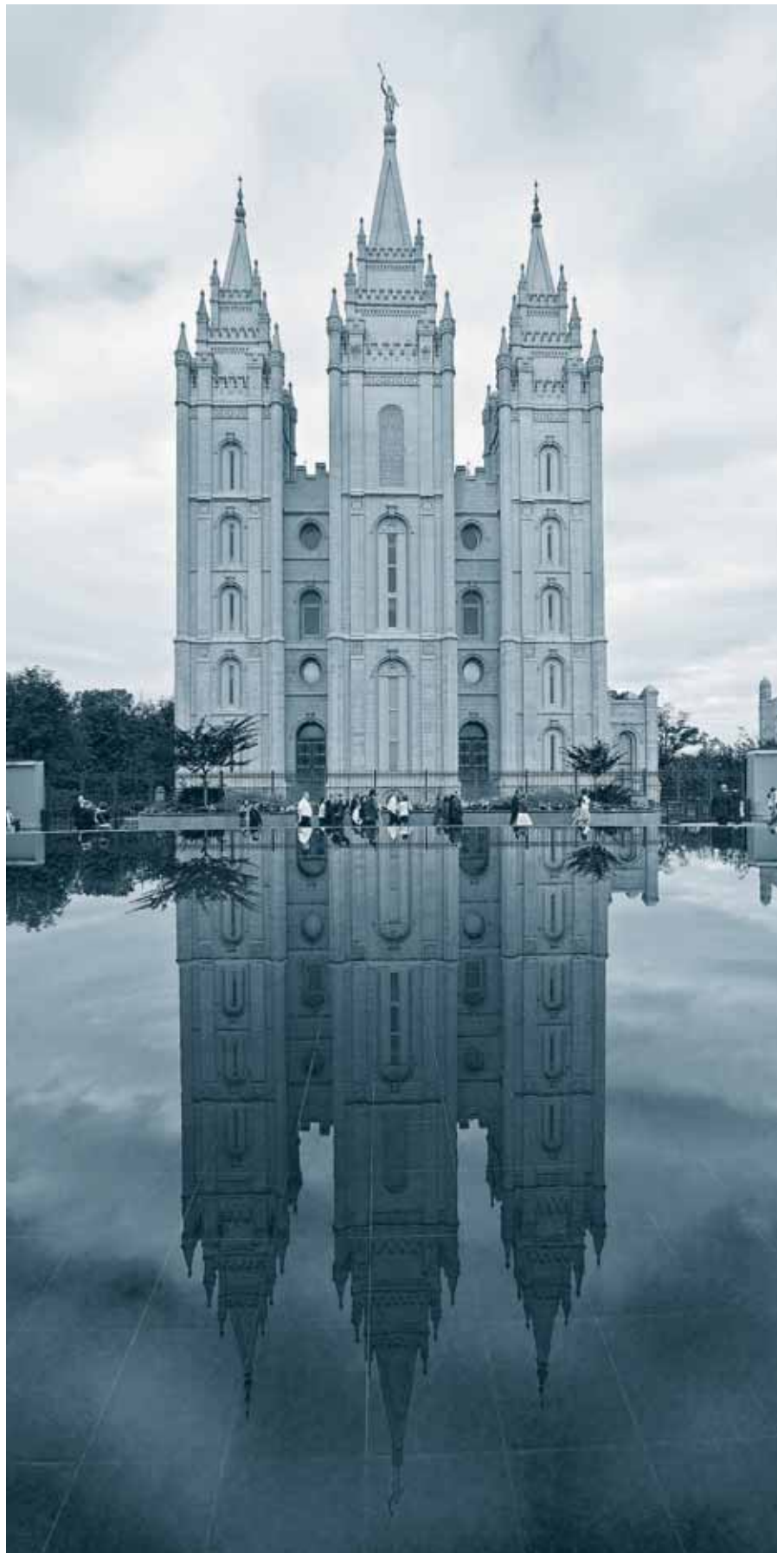
マラキの言葉が好きです。

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。

彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」(マラキ4:5-6)

この神権のおかげで家族は永遠になることができます。ですからわたしは息子として、去年他界した父に心に向け、救い主を通じて父に再会できるという希望を抱きつつ、心安らかにしています。この神権のおかげで、わたしは父親として、生後間もなく他界した二人の子供に心に向けて、心安らかにしています。救い主を通じて、いつかあの子たちに会い、その目を見ながら愛しているよとささやくときに、彼らはわたしがこの世で彼らの父親であったことを知るでしょう。キリストへの信仰を働かせ、罪を悔い改め、熱心に幸福を求め、神殿に参入して天の御父と神聖な聖約を交わし、地上でも天でもつなぐ聖なる儀式を受けるすべての人々に、神性の力がどのように現されるかを、わたしは聖なる神殿の中で、神権を通して理解することができました。

わたしは神殿の業を愛しています。神は生きておられ、イエス・キリストはわたしの救い主であられ、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は真の預言者です。イエス・キリストの御名により、アーメン。



わたしたちが 最善を尽くした後

七十人

クラウディオ・D・シビック長老

イエス・キリストの教会に属するわたしたちは、普通の男性や女性にはならない道を選んだということです。



これまで、総大会で話している最中に亡くなった人はいないと聞いていますが、もしも今日わたしにそのようなことが起こったら、心からお喜びします。

徴兵されアルゼンチンで軍務に就いていたとき、ある本を読みました。著者の名前は覚えていませんが、このように書いていました。「自分で選ぶことができるのなら、わたしは普通の人にはならないことを選ぶ。わたしには普通とは違った特別な人になる権利がある。」

普通とは違った特別な人になるということは、成功した人、たぐいまれな人、傑出した人になるということです。

この言葉はわたしの思いと心に刻まれました。わたしがこれまでも、そして今も

感じているのは、イエス・キリストの教会に属するわたしたちは、普通の男性や女性にはならない道を選んだということです。最初の「自分で選ぶことができるのなら」という言葉を読むと、バプテスマと確認の儀式を受けるだけでは十分ではなく、その記念すべき日に主と交わした約束を果たし、尊ばなければならないという気持ちになります。

リーハイは、息子ヤコブにこのように教えました。「そのため、人は肉においては自由であり、人のために必要なものはすべて与えられる。そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。」(2ニーファイ2:27)

確かに、自由と永遠の命こそが、わたしたちの願い求めるものです。死と悪魔の束縛について考えるだけで、わたしたちは震えおののいてしまいます。

ニーファイは、わたしたちのなすべきことをはっきりと教えてこう言いました。「それは、わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っているからである。」(2ニーファイ25:23)

「最善を尽く[す]」うえて、まず忘れてはならないのが、罪を悔い改めることです。罪の中にとどまっていたら、神から与えられた能力を発揮することは決してできません。

8歳になりバプテスマを受けた日のことを懐かしく思い出します。バプテスマは、南米で最初に教会堂の建てられたリニエルスという支部で執り行われました。バプテスマの後、家族と家に帰る途中で、いちばん上の兄がいつものようにレスリングを仕掛けてきました。わたしは叫びました。「はやくに触らないで、罪を犯したくないから。」しかし時がたつにつれ、罪を犯さずに残りの生涯を送ることは不可能だと分かるようになりました。

振りかかる苦難に耐えるのは難しいことです。しかし、人生の真の苦しみは、自分の至らなさや罪が招いた結果を身に受けることです。

この苦しみから逃れるにはただ一つ、心からの悔い改めという道しかありません。わたしが学んだのは、自分の罪に対して神の御心に添った悲しみを感じ、へりくだり、過ちを悔い改めることによって、打ち砕かれた心と悔いの霊を主に差し出すなら、主は奇跡的な贖いの犠牲によってわたしの罪を消し去り、もはや思い起こすことはなさらないということです。

アルゼンチンの詩人、ホセ・エルナンデスは、有名な著作『マルティン・フィエロ』(Martin Fierro)の中でこう書いています。

「人は多くのものを失っても
また見いだすこともあるだろう
しかし、おまえに伝えなければならない
このことは忘れないでほしい
失ってしまった羞恥心は
二度と取り戻すことができないのだ」

(La Vuelta de Martin Fierro, part 2 of Martin Fierro, [1879年]第32章。2か国語版、C・E・ワード訳[1967年]、493)

悔い改めにおいて自分の罪や不義な行いから生じる神の御心に添った悲しみを味わうことがなければ、傑出した人への道を歩み続けることはできません。

「最善を尽く[す]」うえて覚えておくべきもう一つの大切な原則があります。それは、福音に従った生活がもたらすいろいろな機会を求め、生かすということです。また、持っているものはすべて主が与えてくださったということを認めることも必要です。人生におけるすべての良いことは



主のおかげなのです。

わたしたちの不変の責任とするべきもう一つの事柄は、幸福の福音をすべての人に伝えることにおいて「最善を尽く〔す〕」ことです。

以前、スペインのガリーシア地方に住むラファエル・ベレス・シスネロス兄弟から、自身の改宗談をつづった手紙を受け取りました。その一部は次のように書かれています。

「わたしは、人生の目的や家族が何であるかについて何も知りませんでした。宣教師が我が家を訪問することを不本意ながら承諾したときも、彼らにこう伝えました。『話は聞きましょう。でも言うておきますが、何があってもわたしは宗教を変えるつもりはありません。』ところが、妻と子供たちはこの最初の話に注意深く耳を傾けていました。わたしは一人だけ取り残されたように感じ、不安になりました。気がつくと寝室に足が向いていました。ドアを閉めると、それまでになかったほど必死に、心の底から祈り始めました。『父よ、あの二人の若い男性があなたの弟子であり、わたしたちを助けるために遣わされた

のなら、それがほんとうかどうかをわたしにお知らせください。』その瞬間、わたしは小さな子供のように泣き始めました。涙がとめどなくあふれ、かつて経験したことのない幸福感に包まれました。全身が喜びと幸福に満たされました。わたしは、神が祈りにこたえてくださったことを理解しました。

その後、家族全員がバプテスマを受け、スイス神殿で結び固めを受けるという祝福にあずかりました。わたしは世界で最も幸福な人間です。」

幸福の福音に従った生活を送るとき、わたしたちは喜びという祝福を得ますが、この話は、わたしたちがこの祝福を人に伝えるために「最善を尽くし」たいという望みを起こさせてくれるはずです。

最後に話したいのは、「最善を尽く〔す〕」ことが、この試しの生涯が終わるまで続くということです。わたしたちは、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長をはじめとする多くの人の生きた模範を実際に見ています。彼らは、普通なら第一線を退いて当然と思えるような年齢にあっても忠実に奉仕を続けています。

スペインのビルバオで伝道部会長として奉仕していたとき、そこで出会った会員の皆さんや宣教師の持つ資質に感銘を受けました。彼らは世界中のほかの場所で忠実に奉仕する多くの教会員と同じように、素晴らしい能力と愛をもって御業を押し進めていました。すべての皆さんに、わたしは心からの尊敬と称賛を送ります。

主はこう言われました。「最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。

彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄光は永遠である。』(教義と聖約76:5-6)。

ニーファイの次の言葉を、いつも思いと心にとどめることができますように。

「目覚めよ、わたしの霊よ。もはや罪の中でしおれるな。……

……わたしの神であり、わたしの救いの岩であるあなたを喜びます。」(2ニーファイ4:28, 30)

主から祝福を受け、わたしたちが選んだ「普通とは違った特別な」道にあって最善を尽くせるようへりくだり祈ります。このことが真実であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

わたしたちが 知っている事柄を 認識する

七十人

ダグラス・L・カリストー長老

周りの人の証は、^{あかし}信仰や証を得たいという望みを起こさせ、はぐくむことはできません。しかし最終的には、個々が自分で証を得なければならないのです。



数年前、ある男性が重い罪に問われました。検察側の3人の証人は全員、犯行現場を目撃していました。しかし弁護側の3人の証人は、だれも犯行現場を見ていませんでした。司法経験のない陪審員たちは混乱してしまいました。証人の数を見るかぎり、容疑者が犯人である可能性は五分五分に思えたのです。結局、その男性は無罪となりました。何百万という人が犯行現場を目撃していない、というのは、無論まったく関係のないことでした。証人は一人いれば十分でした。

福音の計画の根幹で、究極的に必要な

のは一人の証人です。しかし、その一人とは、皆さん自身でなければなりません。周りの人の証は、信仰や証を得たいという望みを起こさせ、はぐくむことはできません。しかし最終的には、個々が自分で証を得なければならないのです。だれも、借り物の光でいつまでも耐えることはできません。

回復された福音は、1820年に一人の少年が聖なる森から出て来たときに比べて、今日の方がより真実であるということはありません。真理は、それを受け入れる人の数に左右されることなど決してないのです。ジョセフが森から出て来たとき、父なる神と御子イエス・キリストについての真理を知っていたのは地上でただ一人でした。しかし必要なのは、一人一人が自分の証を得、その燃えるような証を次の世に携えて行くことなのです。

23歳のヒーバー・J・グラントがトゥーエルステーキの会長に任命されたとき、ヒーバーは「福音が真実であることを信じている」と聖徒たちに言いました。すると大管長会顧問のジョセフ・F・スミス管長はこう尋ねました。「ヒーバー、君は福音を信じていると言ったが、福音が真実であることを知っているとは証しなかったね。君はこの福音が真実だとはっきりとは知らないのかね。」

「はっきりとは分かりません」とヒーバー

は答えました。するとジョセフ・F・スミスはジョン・テラー大管長に向かって言いました。「わたしは、今朝の任命を午後には取り消したいと思います。この業の神聖さに対して、完全で不動の知識を持っていない人がステーキを管理すべきではないと思います。」

テラー大管長は答えて言いました。「ジョセフ、ジョセフ、ジョセフよ。[ヒーバーは]あなたと同じように十分知っていますよ。ただ、自分でそのことを知らないだけです。」

何週間もしないうちに、若きヒーバー・J・グラントは証を持っていることを認識し、完全で、変わることはない、確固とした証が人生にもたらされたことに感謝の涙を流しました。¹

自分が知っていることと認識すること、そして自分の証の光が人から借りたものではないことを理解することは偉大なことです。

何年も前、合衆国中西部に本部を置く伝道部を管理していたときです。ある日、数人の宣教師とともに、別のキリスト教会の代表者と話をしました。この紳士は、自分の教会の歴史と教義を話しながら、よく知られた次の言葉を繰り返しました。「あなたがたが救われたのは、恵みによるのです。だれでも救われるには、キリストを信じる信仰を働かせなければなりません。」

その場に新しい宣教師が一人いました。ほかの宗教についてまったく知識がなかったこの宣教師は、こう尋ねました。「キリストへの信仰がどういうものか分かり、キリストを信じられるほど成長する前に死んでしまう小さな赤ん坊はどうなるのですか。」その学識ある男性は頭を垂れ、床を見詰めて言いました。「例外が、何か抜け道があるはずですが、何か方法があるはずですが、でも、何もありません。」

宣教師はわたしに目を向け、涙を浮かべて言いました。「すばらしいです、会長、わたしたちの教会には真理がありますね。」

証に気づく瞬間、自分は知っているのだと認識する瞬間は、穏やかで、崇高な思いに満たされます。その証を養い育てるなら、力となり守りとなるでしょう。光を見るなら、それに包まれるでしょう。理解

の光が心と思いとものです。

ある立派な若者と話をしたことがあります。彼は会員ではありませんでしたが、1年以上も教会の礼拝行事に出席していました。なぜ教会にまだ入らないのかと聞くとこう答えました。「教会が真実かどうか分からないからです。多分真実だとは思いますが。でも、皆さんのように『わたしは実際に真実だと知っています』と立ち上がって証することができません。」

わたしは「モルモン書は読みましたか」と尋ねました。モルモン書は読んだことがあるという答えでした。

モルモン書について祈ったことは、という問いには、「祈りの中でモルモン書について口にすることはあります」と答えました。

わたしはその友人に、もし漫然と読んだり祈ったりしているだけなら、いつまでたっても答えを得ることはできないと伝えました。しかし、断食して熱心に求める時間を取るなら、真理は胸の内に燃えて、自分が真理を知っていることを認識するようになるのです。彼はそれ以上何も言いませんでしたが、翌朝、奥さんに断食をすると告げました。そして次の土曜日にバプテスマを受けました。

自分が知っていることを認識したいのであれば、代価が必要です。その代価を払うのは自分自身です。儀式を死者に代わって受けることはできますが、証は自分で得なければなりません。

アルマは自らの改心を美しい言葉で述べています。「わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日の間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であることを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。」(アルマ5:46)

証があることが分かると、証を持つ人は、それを周りの人に伝えたいという強い気持ちに駆られます。バプテスマを受けたブリガム・ヤングはこう言いました。「主の御霊が下ったので、人々に語るなければ、骨が溶けてしまいそうに感じた。……わたしの最初の説教は1時間を越えた。わたしが口を開くと、主がそれを満たしてく



ださった。」² 炎がなければ火が燃えないように、証は人が述べないかぎり、存在できないのです。

後にブリガム・ヤングはオーソン・ブラットについてこう言いました。「たとえオーソン兄弟の体が細かく切り刻まれても、断片の一つ一つが『モルモンの教えは真実だ』と叫ぶだろう。」³ 父リー・ハイも気高い息子ニーファイをこうたたえています。「彼が口をつぐむことができないほど彼の口を開いて語らせたのは、彼自身ではなく、彼の内にある主の御霊であった。」(2ニーファイ1:27)

証を述べる格好の機会と責任は、第一に家庭の中にあります。わたしたちは、いちばん大切な聞き手である子供たちに、イエスがまことに神の御子であられ、ジョセフが神の預言者であることを証し、子供たちが親の目に輝く光と、親の証する声を心にとどめ、感じたことを記憶できるようにすべきです。証を何度も伝えることにより、子孫はわたしたちが知っている事柄を認識するはずです。

教会初期の指導者たちは、この神権時代を確立するのに大きな代価を払いました。わたしたちは彼らと次の世で会い、彼らの証を聞かかもしれません。もし証をするよう求められたら、何と言うでしょうか。次の世には、霊的に未熟な者も、霊の巨人もいるのです。光なしに生活するには

永遠は長すぎます。わたしたちに光がなかったために周りの人が明かりをつけられず、伴侶や子孫が同じように暗闇ほんりよくらやみにいることになるのであればなおさら長く感じることでしょう。

わたしたちは毎日朝と夜、ひざまずいて祈り、信仰や証や高潔な心をなくさないように主に願う必要があります。必要なのは一人の証人です。しかし、その一人とは、皆さん自身でなければなりません。

わたしには証があります。その証を伝えたいと強く願います。生ける神の力がこの教会にあることを証します。わたしは自分が何を知っているのかよく理解しています。この証は真実です。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ヒーバー・J・グラント、*Gospel Standards*, G・ホーマー・ダラム編(1941年), 191-193参照
2. *Deseret News*, 1870年8月3日号, 306
3. *President Brigham Young's Office Journal*, 1860年10月1日, Brigham Young Office Files, 末日聖徒イエス・キリスト教会, 教会記録保管課, 英文の句読点, 大文字, 小文字等は, 現代の用法に合わせてあります。

奉仕

七十人会長会

スティーブン・E・スノー長老

一見ささやかではあっても、その奉仕の行いによって人の生活を祝福する方法を探みましょう。



デビッド・O・マッケイ大管長はかつて、エブラハム・リンカーンの次の言葉を引用しました。「今ある自分の姿、あるいは将来に望む自分の姿はすべて、天使のような母のおかげです。」¹ この言葉はわたし自身が母に対して抱いている気持ちをよく説明しています。周囲からジーニーの愛称で呼ばれていたピオラ・ジーン・ゴーツ・スノーは1929年に生まれ、1989年、60歳の誕生日を過ぎて間もなく亡くなりました。母はわたしを教え励ましてくれました。志があればどんなことでも成し遂げられることを心から確信させてくれました。母はわたしを鍛えてくれました。わたしの息子たちが自分たちの母親について言った言葉を借りると、「母は子供に過ちを認めさせるのがうまい人でした。」母はすばらしい母親、偉大な模範でした。母について思い出し、恋しくならない日は一日もありません。

亡くなる数年前に、母は癌^{がん}と診断されました。母は非常に勇敢に病と闘いました。わたしたち家族は、意外にも、その癌が愛をはぐくむ病気であることを学びました。癌は人間関係を修繕し、別れと愛を伝える機会をくれます。母が死ぬ数週間前、わたしたちは実家の居間で家族だんらんのひとつきを過ごしていました。母はセンスのよい人で、上品なものが好きでした。また、旅行好きでしたが、家計がつかしかったために旅の夢を果たせずにいました。このことが頭にあったわたしは、母に、やり残したことはないかと尋ねました。わたしはてっきり、母がもっと大きな、もっとすてきな家が欲しかったとこぼしたり、旅行に行けなかったことで悲しみと落胆の表情をしたりするだろう、と予想しました。母は少しの間、質問についてじっくり考えてから、簡潔にこう答えました。「もっと奉仕をしておけばよかったわ。」

わたしは母の答えに衝撃を受けました。母はいつも教会の召しを引き受けてきました。ワード扶助協会会長、日曜学校教師、訪問教師として働き、そして初等協会でも奉仕してきました。子供のころ、わたしたちはいつも近所の人やワードの会員にキャセロールやジャム、果物の瓶詰めなどを届けていました。わたしがこれらのことをことごとく思い出して伝えても、母は納得しませんでした。「もっとできたはずだわ。」彼女はひたすらそう言うだけでした。母は模範的で充実した人生を歩んだ人でした。家族や友人に愛されていました。そして、困難が付きまとう人生の旅路で多くを成し遂げてきたうえ、病気に

よって命が削られました。それにもかかわらず、母の最大の後悔は奉仕が足りなかったことだと言うのです。わたしは地上における母の働きが主に受け入れられたこと、母が主に迎え入れられていることを心から確信しています。とはいえ、亡くなるほんの数日前に母がいちばん考えていたことが奉仕だったのはなぜでしょうか。奉仕とは一体何でしょうか。イエス・キリストの福音においてそれほどまでに奉仕が大切なのはなぜでしょうか。

第1に、人は互いに奉仕するように命じられています。

第一の戒めは神を愛することです。

「第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』」²

人は助け合い、仕え合うときに愛を示します。

ゴードン・B・シンクレイ大管長はこのように語っています。「人に助けの手を差し伸べない、不親切な人は真の末日聖徒になることができません。親切であることは福音の本質です。兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは自分のためだけに生きることができないのです。」³

救い主はマタイによる福音書の中で弟子たちにこの大切な原則を教えられました。

「『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう。『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』」⁴

奉仕は個人的な利得や報いを考えずに、寛大な気持ちでささげられるべきです。都合の良いときではなく、必要とされるときに行うべきです。自分の欲求や必要を気にかけるのが人のさであるために、奉仕の機会に気づかないときもあります。わたしたちはそのような傾向を克服し、奉仕の機会を探し求めなければなりません。病気、愛する者の死、その他の



心痛に苦しむ人々を見舞うとき、単に「わたしにできることがあれば電話してください」と言うだけでは不十分です。一見ささやかではあっても、その奉仕の行いによって人の生活を祝福する方法を探しましょう。何もしないよりはささやかなことであっても行う方がよいのです。

第2に、わたしたちは教会の会員として、地上で神の王国を築くために奉仕の召しを受ける義務を負っています。様々な召しで奉仕するとき、わたしたちは人の生活に祝福をもたらします。伝道活動では、人々がイエス・キリストの福音を学んでそれが真実であると証^{あかし}を受けるときに人生が変わります。神殿の神聖な業においては、わたしたちよりも前にこの世を去った人々に祝福をもたらすことができます。福音における奉仕では、人々を教え、青少年を強め、福音の簡潔な真理を学ぶ幼い子供たちの生活に祝福をもたらすことができます。教会での奉仕を通じて、わたしたちは自分をささげ、人々を助けることを

学ぶのです。

奉仕の偉大な模範を示したスペンサー・W・キンボール大管長はこのように述べています。「神はわたしたちを心に留め、見守っておられます。しかし、神は普通、だれかほかの人を通してわたしたちの必要を満たされます。ですから、王国で互いに仕え合うことがきわめて大切なのです。」⁵ しかし、教会で奉仕する責任があるからといって、家族や隣人に奉仕する責任から免れられるわけではありません。キンボール大管長はさらにこのように警告しています。「わたしたちは皆、教会で受ける割り当てで忙しすぎて、クリスチャンとして隣人に目立たない奉仕をする余裕がなくなるようなことがあってはなりません。」⁶

最後に、わたしたちには、地域社会で奉仕をする責任があります。自分が住む地域、学校、都市、町を改善するために働く必要があります。支持している政党に関係なく、わたしたちの生活を改善する

ために地域、自治体、政府で働いている人々を称賛します。同様に、人の生活に祝福をもたらして世の中をよりよくしようと地域の価値ある活動や慈善活動を支援するために時間や財源を差し出している人々も称賛します。祖父は幼いわたしにこのように教えてくれました。「人がささげる社会奉仕は、地球に払う場所代である。」

奉仕を行うには、無私の心と、分かち合いと与えようとする精神が必要です。妻とわたしはアフリカで奉仕していたときに大切な教訓を学びました。わたしたちはウガンダのジンジャでの地方部大会に出席する割り当てを受けました。土曜日の早朝、集会が始まる前に、その地域で新しく建設された教会堂を見に行くことにしました。建物に到着すると、3、4歳の男の子の歓迎を受けました。その男の子はこれから何が始まるのかと思い、教会の敷地に来たのです。男の子の満面の笑みを見て感動したスノー姉妹は、バッグの中に入れて包み紙にくるまれたバタース

コッチのあめ玉を上げました。男の子は大喜びでした。

数分間教会の中を見学してから外に出ました。すると、十数人の子供たちが笑顔で迎えてくれました。あめをくれる見慣れない女性に会いたかったのです。

フィリスは最後のあめ玉を男の子にあげていたので、心を痛めました。申し訳なさそうに、もうあめはないことを告げる身振りをしました。すると、最初にわたしたちと会った幼い男の子がスノー姉妹にあめを返して、包みを開けてほしいという身振りをしました。フィリスは沈んだ気持ちで言われたとおりにしました。うらやましそうに見詰める友達の前で男の子がバタースコッチのあめを口に放り込むと思ったからです。

ところが驚いたことに、彼は友達一人一人のところへ行き、舌を出して待つ友達においしいバタースコッチを1回ずつなめさせたのです。幼い男の子は自分も時々ひとなめしながら、あめがなくなるまで輪の中を順に回りました。

この分かち合いの行動が衛生的でないと言う人がいるかもしれませんが、幼い男の子が示した模範に異論を唱える人はいないでしょう。無私的心と、分かち合い与えようとする精神は奉仕に不可欠です。この子供はそれをよく知っていました。

わたしたちが皆、さらに奉仕できるように願い、祈ります。奉仕の機会を逃せば、回復された福音のすべての特権と祝福にあずかる機会も逃してしまうのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. *Pathways to Happiness*, ルウェリン・R・マッケイ編(1957年), 183
2. マタイ22:39
3. "Service" *Ensign*, 2007年9月号, 49
4. マタイ25:37-40
5. 『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』82
6. 『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』82

良いこと,より良いこと, 最も良いこと

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス長老

わたしたちは、より良いものや最も良いその他のものを選ぶために、良いことをあきらめる必要があります。なぜなら、より良いものや最も良いものは、主イエス・キリストへの信仰をはぐくみ、家族を強めるからです。



わ たしたちのほとんどは、自分が実際にできること以上のことを行うよう期待されています。稼ぎ手として、親として、教会で責任を果たす者や会員として、時間やその他のものをどう使うか、多くの選択肢に直面します。

「良いこと」だからというだけでは、行うのに十分な理由にならないという現実を認識することから始めましょう。わたしたちにできる良いことの数、それらを達成するのに必要な時間数をはるかに超えています。良いこと以上により良いこともあり、わたしたちはそれらのことに、生活の中で優先的に目を向けるべきなのです。

イエスはマルタの家でこの原則を教え

られました。マルタが「接待のことで忙がしくして心をとりにみだし」ていたとき(ルカ10:40)、妹のマリヤは「主の足もとにすわって、御言葉に聞き入って」いました(39節)。妹が自分だけに接待させているとマルタが不満を口にすると、イエスは彼女の労をねぎらい(41節)、こうお教えになりました。「無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである。」(42節)「多くのことに心を配って思いわずらって[た]」マルタは称賛に値しましたが(41節)、主から福音を学ぶことは「より無くてならぬもの」だったので。聖文には、あることはほかのことより幸いであると教えられている箇所もあります(使徒20:35;アルマ32:14-15参照)。

子供時代の経験から、選択肢の中には、良いものもあれば、より良いものもあることを知るようになりました。わたしは2年間、農場に住んでいました。街に行くことはほとんどありませんでした。クリスマス買い物は、シアーズ・ローバックの通販カタログで済ませました。わたしは何時間もカタログに没頭しました。当時田舎に住む家族にとって、カタログは現代のショッピングモールやインターネットに匹敵したのです。

カタログ商品の表示に関するあることが、心に残っています。品質には「良い」「より良い」「最も良い」の3段階があったの



です。例えば、ある紳士靴には、「良い」(1ドル84セント)、「より良い」(2ドル98セント)「最も良い」(3ドル45セント)と表示されていました。¹

様々な選択肢を考慮するとき、「良い」というだけでは不十分であることを覚えておく必要があります。「より良い」選択肢があれば、「最も良い」選択肢もあるのです。選択肢の中には、他よりも多くの代価を必要とするものもありますが、そのような選択肢ははるかに優れた価値があり、最も良い選択となります。

テレビを見たり、ビデオゲームをしたり、インターネットで様々なサイトを閲覧したり、本や雑誌を読んだりするという選択肢に費やす時間をどのように使っているか考えてみてください。もちろん、健全な娯楽を見たり、興味深い情報を得たりすることは良いことです。しかしそのようなことすべてが、そのために費やす時間に値するわけではありません。それより良いことがあり、最も良いこともあるのです。主がわたしたちに学問を求めるよう命じたとき、「最良の書物から知恵の言葉を探し求め……なさい」と述べられました(教義と聖約88:118, 強調付加)。

II

最も重要な選択肢には家族の活動が含まれます。仕事のために家族との時間がほとんど取れないと心配する人が多くいます。家族と仕事のどちらを優先するかに関して、簡単な公式はありません。しかし、自分の職業人生を振り返り「もっと仕事をしておけばよかった」と言う人をいまだかつて知りません。

家族との時間をどう過ごすか選択するうえで、単に良いことのために利用できる時間を使い切ってしまう、より良いことや最も良いことを行う時間がなくなるないように気をつけなくてはなりません。ある友人が夏の間、まだ子供たちが幼い自分の家族を、史跡巡りを含めたいろいろな旅行に連れて行きました。友人は夏の終わりに、これらの良い夏の活動の中でどれがいちばん楽しかったか10代の息子に尋ねました。父親はその息子の答えから学び、その話を聞いたわたしたちも皆学びました。息子はこう答えたのです。「この夏でいちばん楽しかったことは、お父さんと一緒に芝生の上に寝転んで、星を見ながら話をしたことだよ。」豪華な家族の活動は子供たちにとって良いことではありますが、愛に満ちた親と一対一で接

する時間よりも良いものとは限りません。

親子の時間は、習い事や、スポーツ、その他の学校やクラブ活動に吸い取られてしまうので、これらは注意深く制限する必要があります。そうしなければ、子供たちは予定でいっぱいになり、両親は疲れ切って、いらいらしがちになるでしょう。両親は、家族の祈りや、家族の聖文研究、家庭の夕べ、そのほかの一緒にいる時間や一人一人と一対一で過ごす貴重な時間を確保するよう行動するべきです。それらは家族を結びつけ、子供の価値観を永遠に価値あるものに定着させます。両親は子供たちと一緒にいる事柄を通して、子供に福音を土台とした優先順位を教えるべきです。

「子供の過密スケジュール」に対して家族の専門家は警告しています。昨今の子供たちは以前よりかなり忙しくなり、家族と過ごす時間が極端に減っています。この気がかりな傾向を示す物差しの一つに、習い事としてスポーツをする時間は倍になっているものの、子供の自由時間は週に12時間も減り、子供たちが外で遊ぶ時間は50パーセントも減少したという報告があります。²

「家族全員が一緒に夕食を取る」と答え



る家庭の数は、33パーセント減少しています。これは最も懸念されることです。なぜなら、家族が家庭で一緒に食事を取る時間は、子供の優れた学業成績と心理的な順応性に比例していることを如実に表しているからです。³ また、家族の食事時間は、子供たちを喫煙、飲酒、薬物の使用から守る堅固なとりでであることも示されています。⁴ 両親へのこの忠告には、靈感を受けた知恵が含まれています。「子供がほんとうに夕食で求めているものは、あなたなのです。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう嘆願しました。「わたしたちは親としての責任を、あたかも人生のすべてがそこに懸かっているかのように、果たさなければなりません。実際、人生のすべてがそこに懸かっているのです。」そして続けてこう述べています。「特に男性の皆さん、立ち止まって、自分が夫、父親、家長としての務めをどれほど果たしているかを考えてみてください。導きと助け、指示を祈り求めてください。そしてすべての責任の中で最も重大な務めを果たすに当たって導いてくれる御霊のささやきに従ってください。家庭における皆さんの指導の結果は、永

遠に影響を及ぼし続けるものなのです。」⁵

大管長会は親に「全力を尽くして」、子供たちを福音の原則の中で教えるように求めています。家庭は義になつた生活の基であり、ほかのどのような手段も、神から与えられたこの責任に取って代わることはできません。大管長会はこう宣言しました。「必要とされるその他の事柄や活動がどれほど価値のある適切なものであったとしても、それらは、親と家族だけがまっとうできる天与の義務に取って代えられるものでは決してありません。」⁶

III

教会指導者は、ワードやステークが、数ある教会プログラムの中の、実現可能で良いことをすべて会員に行わせようとすれば、教会の集会和活動が複雑かつ負担になりすぎてしまうことを認識しなくてはなりません。そこにおいても優先順位が必要です。

十二使徒定員会の会員は、教会のプログラムと活動において靈感に基づいた判断をすることの大切さを強調しています。L・トム・ペリー長老は、2003年に行われた第1回世界指導者訓練集会で、この原則に

ついて教えました。リチャード・G・スコット長老は2004年に、この同じ指導者たちに勧告してこう言いました。「活動が地元の状況や資材・人材に見合ったものとなるよう調整してください。……第一に必要とすることが確実に満たされるようにしてください。しかし良いことをあまりにも多く生み出そうとして、第一に必要なことが達成されないようなことはしないでください。……忘れないでください。やることを拡大するのではなく、簡素にするのです。」⁷

昨年の総大会でM・ラッセル・バラード長老は、霊的な支えとならない無益な活動に過度の時間を費やすことから生じる家族関係の荒廃を警告しました。バラード長老は、「多大な時間やお金、労力を消費する不必要な飾りもの」で教会の奉仕を複雑なものにしてしまうことを警告しています。「自分の召しを尊んで大いなるものとするという指示は、尾ひれを付けて物事を複雑にしなさい、という意味ではありません。また、創造力を発揮するという言葉は、必ずしも膨らませるという意味を持つのではなく、往々にして簡素化することを指しています。……教会の責任の最も重要なことは、報告するための統計やミー

ティングではなく、救い主がなされたように、一人一人を教え導くことです。一人一人が高められ、力づけられ、最終的に変わることができたかどうかということです。』⁸

ステーキ会長とビショップリックは権能を使い、ステーキワードの会員に折にふれて課せられている過剰で無益な忙しさを除去する必要があります。教会のプログラムは、家族が「天与の義務」を果たすために必要な時間を過度に侵害することなく、彼らが割り当てられた目的を達成するうえで最も良いもの(最も効果的なもの)に焦点を当てるべきです。

しかし、ここに家族への警告があります。教会指導者が、家族がともに過ごせる時間を増やすために教会の集会や活動に必要な時間を削減したと仮定してください。たとえそうなったとしても、家族の一人一人、特に両親が、家族とともに過ごす時間や一対一で過ごす時間を積極的に増やさないかぎり、その意図された目的を達成することはできません。習い事としてのスポーツやビデオゲーム、インターネットのような科学技術が生んだ玩具は、すでに子供や青少年の時間を奪っています。インターネットで様々なサイトを閲覧することは、主に仕えたり、家族を強めたりすること以上に素晴らしいことではありません。一部の若い男性や女性は、サッカーチームに参加したり、様々な娯楽を追及したりするために、教会の青少年の活動に行かなかったり、家族の時間を削ったりしています。若い人々の中には、死ぬほど、つまり霊的な死に至るほど娯楽にふけている人もいます。

個人と家族の時間の使い方にも、より良いものもあれば、最も良いものもあります。わたしたちは、より良いものや最も良いその他のものを選ぶために、良いことをあきらめる必要があります。なぜなら、より良いものや最も良いものは、主イエス・キリストへの信仰をはぐくみ、家族を強めるからです。

IV

以下は、良い、より良い、最も良い選択に関する別の例です。



天の御父のまことの教会に属し、主の戒めをすべて守り、義務をすべて果たすことは良いことです。しかし、これを「最も良いこと」にするためには、愛をもって、そして傲慢^{ごうまん}さを捨てて行わなければなりません。素晴らしい賛美歌にあるように「わたしたちの善を兄弟愛で飾り」⁹、わたしたちが影響を与えるすべての人に愛と関心を示さなくてはなりません。

何十万人もいるホームティーチャーや訪問教師の皆さんへ、割り当てられた家族を訪問することは良いことですが、教義や原則を教える短い訪問をすることの方がより良いことであり、訪問先の人の生活に影響を及ぼすことは、何よりも最も良いことなのです。同様の課題は、わたしたちが開く多くの集会にも適用されます。集会を開くことは良いことですが、原則を教えることはより良いことであり、集会の結果、実際に生活を改善することができる

なら、それは最も良いことなのです。

2008年が近づき、メルキゼデク神権定員会および扶助協会の来年の教科過程に移りますが、『歴代大管長の教え』のテキストの使い方に関して再び警告します。何年もの靈感に満ちた作業が行われ、2008年度に用いる、この神権時代の最初の預言者『ジョセフ・スミスの教え』が制作されました。これは教会の重要な書籍となります。過去において一部の教師は『歴代大管長の教え』の中の1章だけを簡単に採り上げ、後は自分が選んだレッスンを代わりに行っていました。それは良いレッスンだったかもしれませんが、容認できる慣習ではありません。福音の教師は、与えられている靈感に満ちた教材から指定されたテーマを教えるよう召されています。教師が『ジョセフ・スミスの教え』を用いてできる「最も良いこと」は、クラス一人一人の必要に特に合う原則に関する預言者の

言葉を選んで引用し、それらの原則を生活に当てはめるにはどうしたらよいかをクラスで話し合えるよう指揮することです。

天の御父について証します。わたしたちは御父の子供であり、御父の計画は、わたしたちが「永遠の命……神のあらゆる賜物の中で最も大いなるもの」にふさわしくなるように定められたことを証します（教義と聖約14:7。教義と聖約76:51-59も参照）。また、イエス・キリストの贖い^{あがな}がそのことを可能にすることを証します。わたしたちは、預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長とその顧問によって導かれていることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. Sears, Roebuck and Co. Catalog, 1944-1945年秋冬版, 316E
2. ジェレド・R・アンダーソン, ウィリアム・J・ドーティー, "Democratic Community Initiatives: The Case of Overscheduled Children," *Family Relations*, 第54巻(2005年12月), 655
3. アンダーソン, ドーティー, *Family Relations*, 第54巻, 655
4. ナンシー・ギブズ, "The Magic of the Family Meal," *Time*, 2006年6月12日付, 51-52参照。サラ・ジェーン・ウィーバー, "Family Dinner," *Church News*, 2007年9月8日付, 5
5. 「より善い人になりましょう」『リアホナ』2002年11月号, 100
6. 大管長会からの手紙, 1999年2月11日付, *Church News*, 1999年2月27日付, 3
7. 「補助組織に関する基本的な教義」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 5, 7-8; *Ensign*, 2005年8月号, 62, 67も参照
8. 「おお、賢くありなさい」『リアホナ』2006年11月号, 18-20
9. "America the Beautiful," *Hymns*, 338番

閉会に当たり

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

わたしたちは靈感を受け、このすばらしい福音をさらに深く理解しました。



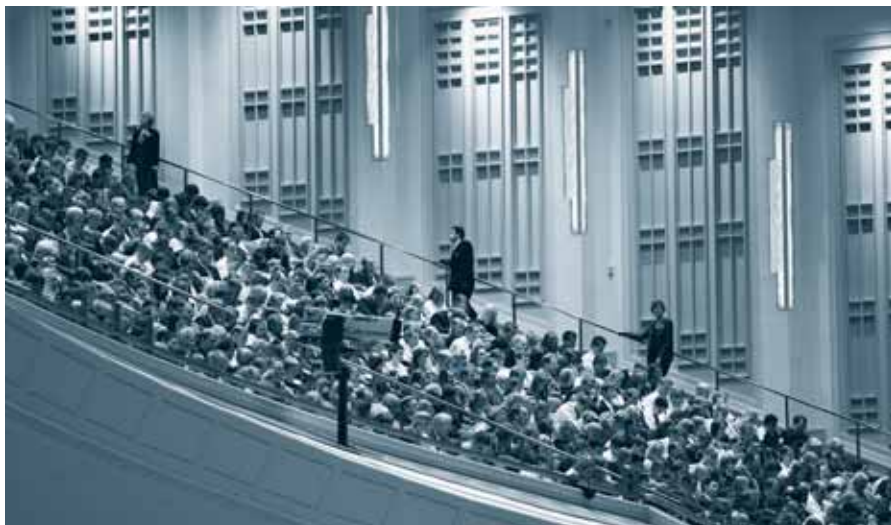
わ たしの愛する兄弟姉妹の皆さん、これで、このすばらしい大会を閉会します。わたしたちは教化され、高められました。わたしたちは靈感を受け、このすばらしい福音をさらに深く理解しました。音楽も、説教も、祈りも、

すべてほんとうにすばらしいものでした。

これから家路に就きます。車の方は、どうぞ注意して運転してください。事故によって、このすばらしい経験が台なしにならないようにしましょう。

この大会の様子はすべて、来月の『エンサイン』(*Ensign*)と『リアホナ』に掲載される予定です。大会の説教を、家庭の夕べで読み返し、家族で話し合うように、皆さんにお勧めします。どの説教も多く^{めいそう}の祈りと瞑想を経てつむぎ出されたものであり、深く考える価値のあるものです。

次の大会は、6か月後に開かれます。来年の4月にお会いすることを楽しみにしています。わたしは97歳ですが、わたしも次回の大会に出席したいと望んでいます。それまでの間、天の祝福が皆さんとともにありますよう、へりくだり、心から、わたしたちの贖い^{あがな}の主、主イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。



末日聖徒の女性が 秀でている事柄—— 力強く確固として立つ

中央扶助協会会長
ジュリー・B・ベック

わたしたちは「信仰」において力強く確固として立ち、「家族」において力強く確固として立ち、「人を助けること(扶助)」において力強く確固として立たなければなりません。



愛する姉妹の皆さん、わたしは心の中で祈りながらこの厳粛な責任に臨んでいます。わたしには回復されたイエス・キリストの福音が真実であるという証あかしがあります。救い主はわたしたちの導き手、模範、岩であり、力、そして弁護者であられます。わたしの人生において、主と主が聖任された預言者を支えるためにできることは、どのようなことであれ祝福です。わたしは扶助協会の姉妹たちをいつも深く愛し尊敬しています。教会の女性は世界で最もすばらしく、有能だと確信しています。この教会に属する特別な女性の皆さんをわたしがど

れほど愛しているかを知ってほしいと思います。

ヒンクレイ大管長は、世界指導者訓練集会でこのように述べました。「この教会の扶助協会に匹敵する組織はどこを探しても見当たらないとわたしは確信しています。そこには全世界で500万人を超える会員がいます。彼らが一つとなり、声の一つにして語るとき、その力は測り知れません。……教会の女性が主の計画から見て適切かつ正しいことのために力強く確固として立つのは、この上なく重要なことです。」¹

この靈感に満ちた務めについて、わたしは深く考え、研究しました。そして、教会の女性がヒンクレイ大管長の勧めに従い、その約束を実現するにはどうしたらよいか、答えを探してきました。適切かつ正しいことのために声の一つにして語り、力強く確固として立つにはどうすればよいでしょうか。主の計画において、末日聖徒の女性が行わなければならない具体的な事柄が幾つもあります。姉妹たちが神の娘であり、「世界[の]歴史上きわめて困難な時期」²と言われる時に地上へ来るように選ばれたからです。

主の計画の下で与えられた役割を果たすために、わたしたちは「信仰」において力強く確固として立ち、「家族」において

力強く確固として立ち、「人を助けること(扶助)」において力強く確固として立たなければなりません。この大切な3つの事柄に優れた者となる必要があります。それにより、主の弟子として際立った存在になるのです。扶助協会を通して、わたしたちはキリストの弟子となることを実践します。主の望まれることを学び、主の望まれることを行い、主の望まれるような人になるのです。このことに重点を置いて集まる時、わたしたちはそれぞれが置かれている状況に関係なく、扶助協会としてふさわしい業を行うことができます。それは18歳でも88歳でも、独身者でも既婚者でも、子供がいてもいなくても、住んでいる場所がユタ州バウンティフルでもインドのバンガロールでも同じです。

「信仰」において力強く確固として立つ

まず、末日聖徒の女性は信仰において力強く確固としていなければなりません。主イエス・キリストと主の回復された福音についての証を生活に生かすこと、また伝えることにおいて優れた者となることができますし、またそうすべきです。そのために、次の事柄を行います。

1. 主と聖約を交わして守る
2. 神殿に入るふさわしさを身に付け、神殿で礼拝する
3. 聖文や預言者の言葉から主の教義を研究する
4. 聖霊を受けるふさわしさを備え、その声を聞き、従う
5. 主の福音を伝え、擁護する
6. 個人や家族で心から祈る
7. 家庭の夕べを行う
8. 自立および賢明な生活の原則を実践する

これらは最も大切な事柄であり、ほかのなくとも済む事柄よりも優先して行わなければなりません。どれもが簡単で、欠かすことのできない事柄です。日常のささいなことから扱われがちですが、これらはキリストの弟子であることのものであり、いつも扶助協会の姉妹たちを支える土台となってきました。代わりに行って

くれる人はいません。これらは個人個人の行動、習慣であり、正しいことのために力強く確固としている者としてわたしたちを際立たせます。

もし末日聖徒の姉妹一人一人が聖約を交わし、その聖約を新たにし、守ることに優れた者となるなら、また神殿推薦状を得るにふさわしくなり、より頻繁に神殿で礼拝するなら、聖文とキリストの教義を研究し、いづどこにおいてもその教義を教え、擁護できるほど精通するなら、この世界、そして教会はどれほど変わることでしょう。すべての姉妹が毎朝毎晩心から祈りをささげ、さらには主が命じられているように絶えず祈るなら、一つに結束したわたしたちの力はどれほど大きいことでしょう。すべての家族が毎日家族の祈りを行い、毎週家庭の夕べを開くなら、わたしたちはさらに強くなります。すべての姉妹が知識や才能、持てるものを惜しみなく与えられるまでに自立するなら、そしてキリストの弟子であることが言葉と服装に表れるなら、わたしたちは正しいことにおいて確固としていられるでしょう。

「家族」において力強く確固として立つ

2番目に、末日聖徒の女性は家族において力強く確固としていなければなりません。わたしたちは、家族を築き支えることにおいて、だれよりも秀でた者となることができますし、そうなるべきです。またキリストの弟子として、家族を支え、養い、守ることに世界で最も秀でた者となることができますし、そうなるべきです。そのために、次の事柄を行います。

1. 女性の神聖な役割を理解し、擁護する
2. 神権の祝福を受ける
3. 永遠の家族を築く
4. 安定した結婚生活を続ける
5. 子供を産み、育てる
6. 家族一人一人への愛を表し、家族を養う
7. 義になかった若者を育てるという責任を受け入れる
8. 家族に関する教義を知り、実践し、擁護する
9. 親族の情報を調べ、神殿の儀式を行う



イエス・キリストの弟子である教会のすべての女性には、家族を支え、養い、守る責任が与えられています。女性には創世の前から与えられた明確な役割があります。皆さんも知っているように、聖約を守る末日聖徒の女性として、家族に関する普遍の原則³を守るために声を上げることは、世界中で家族を強めるために欠かすことができません。

女性の神聖な役割を知り、擁護することは、女性の本質についての偽りのメッセージがあふれている世界にあって、とても重要です。テレビやラジオには、女性問題の権威や女性の代弁者を自称する人が登場します。こうしたメディアの流す情報には真理の一端が含まれていることがあるものの、大部分は個人的満足や自己崇拜という教えにすぎず、女性の本質や優れた価値について、女性を誤った方向へ導くことが多いのです。こうした声もたらすのは見せかけの幸福であり、その結果、多くの女性が悲劇や孤独、混乱に陥るのです。

幸福の計画の中で末日聖徒の女性が果たすべき大切な役割について、彼女たちが学ぶことのできる完全な真理は、この教会と教義の中以外にはありません。前世での大きな戦いで、わたしたちは救い主イエス・キリストの側につきました。それは、永遠の家族の一員となるという可

能性を守るためでした。わたしたちは自分が神の娘であること、そして何をすべきかを知っています。救いの計画の中で果たすべきそれぞれの役割を理解し、喜んで果たすときに、女性は真の幸福を見いだします。教会では、女性が秀でることのできる事柄、また秀でべき事柄を擁護し、それを臆することなく教えています。わたしたちは家族が永遠の存在となれることを信じています。それは結婚が正しいことであると信じるという意味です。増えよ、地に満ちよという戒めは、今なお有効だと知っています。すなわち、わたしたちは子供をもうけることが正しいと信じているのです。主の助けにより、立派に子供を育て、教えることができると信じています。これらのことは幸福の計画の中でとても大切な責任です。女性はこうした役割を受け入れ、心を尽くして責任を果たすときに幸福になれるのです！家族についての真理を知り、擁護することは、この教会に集うすべての姉妹に与えられた特権なのです。

家族は永遠です。ですから、家族の関係に無関心であったり逆に自己満足に浸っていたりする余裕はありません。これまで扶助協会が行ってきた偉大な業のほとんどは、末日聖徒の女性が家族を強められるようにすることを主眼としていました。特に、家事、子育て、親の務め、夫婦関係においてさらに向上するための方法が強調されてきました。家族を築くには努力が伴いますが、それはまた偉大な努力です。わたしたちはこの責任を恐れませんが、扶助協会の姉妹であるわたしたちは、家庭を築き、支えることについて最も秀でた者とならなければなりません。わたしたちは家族を支え、養い、守るのです。

「人を助けること(扶助)」において力強く確固として立つ

3番目に、末日聖徒の女性は、人を助けることにおいて、力強く確固としていなければなりません。わたしたちの組織は扶助協会であり、人を助けることに世界で最も秀でた者となるべきです。助けの手を差し伸べることは、扶助協会の創立当初



家族を強めることの大切さを学ぶブラジル、サンパウロの会員たち。

から特に重視されてきました。「扶助」(relief)という言葉には、「持ち上げる、軽くする」という意味があります。また「引き上げる」という意味もあり、「『窮地にある(人を)救い出す』という考え方につながります。』⁴ わたしたちが行う奉仕と援助は、自分が主の弟子であり、回復された主のまことの教会に属しているというしるしです。「扶助」するという言葉を持つ、この世界的な女性の組織の一員であることは特権です。

ジョセフ・スミスは「貧しい者や、悲しんでいる者、夫を亡くした女性や孤児に手を差し伸べるため、またあらゆる慈善を目的とした行いをするため」⁵ また、「貧しい者を助けるだけでなく、人の霊を救うために」⁶ この教会の女性たちを組織すると述べました。そうした扶助の活動について、ジョン・A・ウイツォー長老はさらに、「貧困、病気、疑い、無知など、女性の喜びと進歩を妨げるすべてのものから解放する」ことであると定義しています。⁷

扶助協会は過去にも重要な扶助活動を行ってきましたが、この教会の女性にとって最も偉大で大切な業はこれからやって来ます。地球は主イエス・キリストを受け

入れる備えをする必要があります。戦争、混乱、天災や増え続ける悪のただ中において、わたしたちはこの備えを後押ししなければなりません。これほどまでに全面的な規模の扶助活動が必要となるのは、世界史上初めてのことです。わたしたちはイエス・キリストの弟子であり、主と聖約を交わしています。その時点で、人を助けるという決意をすでに表しているのです。

皆さん一人一人は特別で貴重な存在です。それぞれ重荷や問題を抱えています。それは助けを求めて主に心を向けるという祝福をもたらします。また、人を助けることにより、わたしたちは主に仕えるという機会にも恵まれます。人を助けることは、寂しさや失望を何よりも早く克服するための解決策であり、御霊を伴侶とする確かな方法です。人を助けたいと思ったときは、ただひざまずいてこう尋ねればよいのです。「わたしの助けを必要としているのはだれでしょうか。」既婚か独身、または年齢を問わず、人を助ける業において、すべての姉妹が必要とされています。わたしたちは、ほかのだれよりも人を助けることに秀でた者となる必要があります。

力強く確固とした指導者

これから、扶助協会会長会で忠実に奉仕しているすばらしい姉妹の皆さんに話します。皆さんは神からの信頼を受けて、胸躍る扶助協会の業を推し進めています。皆さんには、末日聖徒の女性たちが「信仰」、「家族」、「人を助けること(扶助)」において優れた者となれるよう助ける義務があります。教会の姉妹たちが福音に対して抑え難いほど強い関心を持つように、また、家事、子育て、夫婦関係において常に向上し、自分の家庭で福音を十分に実践できるように助けてください。

召しを受けて聖任された扶助協会の指導者の皆さんには、この靈感された責任を果たし、皆さんが仕える人々の必要を十分に満たすために、神から靈感を受ける権利と権限があります。⁸ 最も大切な事柄に焦点を当てるときに、聖なる御霊の助けを受け、必要ではない事柄を切り捨てる勇気を与えられます。

この世において、家族がなんらかの中毒や負債、不誠実や不従順といった嵐のただ中にいることは、指導者のだれもが知っています。救い主はわたしたちの時代を「産みの苦しみの初め」⁹ と呼ばれ、



多くの人が惑わされ、戦争と戦争のうわさ、飢饉、地震、疫病が起こると言われました。こうした事柄はまさに現代の様子をそのまま表しています。この教会の女性は、あらゆる点で備えるという責任を固く守らなければなりません。

扶助協会の指導者は、すべてのワードや支部に集うすべての家庭のすべての姉妹が自立できるよう助けることができます。姉妹たちは、万一の事態に自分と家族を支えられるよう貯蓄や貯蔵を行い、技術を磨くべきです。これから自立を目指そうとする人へのパンフレットなど、教会はとても役立つ資料を用意しています。このような形で姉妹たちを助けることも指導者である皆さんの責任です。

皆さんは神権指導者と力を合わせ、彼らと話し合い、このような嵐を避け、身を守るための対策を練り、皆さんが仕える人々の実情に合わせて助けの手を差し伸べる計画を立てる特権があります。そうした努力の中で生まれる友情や交わりは人

生をさらに豊かにしてくれるでしょう。人を助けることに焦点を当てるなら、きっと良い関係を築くことができますが、良い関係を築くことばかりにとらわれていると、必ずしも人を助けることはできません。

目的は何であれ、貴重な時間と神聖な基金を使って扶助協会の名の下に集まるときは、わたしたちが最も秀でべきことを姉妹たちが行えるように助けなければなりません。日曜日の扶助協会の集会では、開会行事は短く、御霊を招くようなものとすべきです。女性としての責任を最もよく果たせるように、可能な限りの時間を使って、ともに福音を研究する必要があります。扶助協会のすべての大会、活動、集まり、集会は、わたしたちが最も秀でべきことを姉妹たちが行えるようにすることに焦点を当てていなければなりません。ヒンクレー大管長は次のように強く勧めています。

「わたしたちには、自分で認識している以上に大きなチャレンジがあります。……『できる限りのことを行(っ)てくださ

い。』それは持てる力をすべて出し切るという意味です。そのことを強調したいと思います。……わたしたちには、はるかに優れたことを行う力があるのです。……

……ひざまずいて主に助けと力、導きを求めなければなりません。そして自分の足で立って前進しなければなりません。』¹⁰

愛する姉妹の皆さん、わたしが心から支持している預言者はこの世の方法よりも良い方法があると述べ、ともに義のために立つようと教会の姉妹たちに呼びかけました。また、わたしたちが一つとなり、声の一つにして語るとき、その力は測り知れないものになると言いました。わたしは、この教会の女性たちが、イエス・キリストと主の回復された福音を信じる信仰において、また家族を支え、養い、守ること、そして助けの手を差し伸べることに力強く確固として立つことを預言者に伝えました。女性にとって最も大切なこの業に携わるときに、主がわたしたちを祝福してくださるよう祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、20
2. 『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、20
3. 『家族——世界への宣言』『リアホナ』2004年10月号、49参照
4. Online Etymology Dictionary, "relief" および "relieve" の項、<http://www.etymonline.com> 参照
5. *History of the Church*, 第4巻、567
6. *History of the Church*, 第5巻、25
7. G・ホーマー・ダーラム編、*Evidences and Reconciliations*, 第3巻、in 1 (1960年)、308
8. リチャード・G・スコット「補助組織に関する基本的な教義」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、8参照
9. マタイ24:8。マタイ24:3-7; 1テモテ4:1-2; 2テモテ3:1-5も参照
10. 『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、21

「わたしの羊を養いなさい」

中央扶助協会会長会第一顧問
シルビア・H・オールレッド

姉妹たちを毎月訪問することにより、愛、友情、信頼のきずなを結ぶことができます。



皆さんの前に立ち、心に感じている事柄を分かち合う機会を頂き、へりくだる思いです。世の標準で言えば、わたしはごく平凡で、取るに足りない者ですが、非常に^{あわ}憐れみ深い主は、たぐいまれな機会や一つの貴重な^{たま}賜物を絶えずわたしに与えてくださいました。わたしが受けているその賜物とは、主の福音が真実であり、イエス・キリストが^{あがな}実在の御方であり、主の贖いの犠牲が現実のものであるということです。まだ14歳のときに、初めて宣教師の話聞いてモルモン書を読んだときからずっと聖霊の導きと影響を感じてきました。わたしの^{あかし}証は常に心の中で燃えており、わたしの信仰は確固としたものです。このような信仰と証という賜物によって、わたしの人生は大きな祝福を受けてきました。

わたしは^{きょう}今日、世界中で最もすばらしく、最も価値ある女性たちの中に立っ

ています。この瞬間、自分の肩にかかる責任の重さを感じています。この機会に、主がわたしを通して皆さんに告げようとする言葉を語れるように、靈感を求めて祈り、聖文を研究して深く考えてきました。

扶助協会会長会は、扶助協会の歴史と目的について何度も学び、深く考えてきました。このたぐいまれな組織は、教会の女性たちに仕え、祝福するために、神が預言者を通じて組織されたものです。扶助協会は、当時の女性たちの優しい心の望みにこたえて靈感によって生まれました。この組織には、二つの明確な目的があります。すなわち、貧しい人々を援助し、人々を救うということです。¹

ベック姉妹は、教会の女性は上手に人を助けることができるし、そうすべきだと述べました。

ヨハネによる福音書第21章15節から17節で教えられている原則について考えてみましょう。主はペテロにこのようにお尋ねになりました。「わたしを愛するか。」ペテロは答えました。「わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです。」そして主はこのようにおっしゃいました。「わたしの小羊を養いなさい。」主はペテロにもう一度お尋ねになりました。「わたしを愛するか。」ペテロはまたこのように答えました。「わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです。」主はペテロに言われました。「わたしの羊を飼いなさい。」主は3度目に言われました。「わたしを愛するか。」ペテロはこのように答えました。「主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわか

りになっています。」イエスは彼に言われました。「わたしの羊を養いなさい。」

わたしたちもキリストの弟子として、主を愛していると宣言しています。それでは、どのようにして主の羊を養うのでしょうか。

扶助協会の姉妹たちは、家庭訪問を行うことによって主の羊を養うことができます。家庭訪問の目的は、一人一人の姉妹といたわり合う関係を築き、援助し、相手を慰め、友情を築くことです。² この目的を達成するために、訪問教師は次の事柄を行うべきです。

1. 割り当てられた姉妹を定期的に訪問する(可能であれば、毎月、担当の姉妹の家を訪問します)。
2. その姉妹と家族の霊的な必要や物質的な必要を知る。
3. 適切な援助を提供する。
4. 毎月のメッセージを通して霊的な教えを伝える。³

主は女性に、愛、思いやり、親切、慈愛という天与の特質を祝福しておられます。訪問教師としての毎月の訪問の際に、愛と親切の手を差し伸べ、思いやりと慈愛の賜物をささげるときに、一人一人の姉妹を祝福することができます。個人的な状況がどうであれ、わたしたち一人一人に人を教化し、養う機会があるのです。

わたしは中南米の多くの国々やカリブ海、スペインで暮らしたことがあります。家庭訪問のために、遠くまで歩いたり、バス、地下鉄、汽車などで訪問したりする様子を見てきました。コスタリカに住む友人のアンナは、子供が小さかったころも、毎月家庭訪問を行いました。大雨の中を歩いて訪問したことも何度もあります。30年たって孫が生まれた今でも忠実な訪問教師です。彼女は多くの人々の生活を祝福してきました。

姉妹たちを毎月訪問することにより、愛、友情、^{みなたま}信頼のきずなを結ぶことができます。御霊の^{みたま}促しに耳を傾けるなら、人の必要にさらに敏感になることができます。御霊の^{みたま}促しに従って行動するなら、助けの必要な人を祝福することができます。



デンマークの二人の姉妹。彼女たちは、友情と親睦が密接に関連していることをよく理解している。

す。そのためには、わたしたちは持ち物や時間を進んでささげなければなりません。人生の真の価値は、どれほど得たかではなく、どれほど与えたかによって測られるのです。互いの肉体的、霊的、精神的必要に寄り添うとき、家庭訪問は与える機会となります。

ドミニカ共和国に住んでいたころ、わたしは、ある姉妹を訪問しました。彼女は3人目の子供を出産し、退院したばかりでした。上に二人の幼い子供がいるにもかかわらず、とても元気で落ち着いているので驚きました。しばらく言葉を交わした後で、扶助協会の姉妹たちが数日間毎日手伝いに来てくれるので、とても心強く感じているのだと話してくれました。彼女は愛されていると実感していました。

わたしはコスタリカのサンゼにいたときに何度か出産しましたが、生まれたば

かりの赤ん坊を抱いて退院してくる度に、訪問教師がいつもだれよりも早く会いに来て、食事を持って来てくれました。

ボイド・K・パッカー会長は、扶助協会で行われる奉仕は個々の姉妹を尊んで大いなる者として聖別すると語りました。また、どんな社交クラブや同様の団体よりも扶助協会の奉仕を優先するようにと勧告しています。⁴

家庭訪問は会員の定着や最活発化においても大いに力を発揮します。あるヤングシングルアダルトの姉妹はこのように述べています。「『リアホナ』の大管長会メッセージを読んでいたとき、家庭訪問の割り当てについて思い出しました。同僚とは親しかったのですが、予定がなかなか合いませんでした。その朝、わたしは担当の姉妹に電話で訪問の約束を作り、同僚の予定が空いていることを願いました。

残念なことに、同僚の時間は空いていませんでした。一緒に訪問できる人がいないかどうかルームメートに聞いてみましたが、だれも都合がつきません。家庭訪問を一人で行うことは理想的でないので中止にすることも考えましたが、翌月まで待つよりは一人で訪問する方がよいだろうという結論に至りました。

アレハンドラの家に着たわたしは緊張しながらドアに近寄りました。アレハンドラとはほとんど面識がありません。電話ではとても好意的だったので、教会で会ったことがあるのかもしれないと思いました。アレハンドラはわたしを抱きしめ、満面の笑みを見せてくれました。初対面でした。アレハンドラはまた教会に集いたいと思っていたことや、ここ数か月間、だれかが訪問してくれるように願っていたことを話してくれました。訪問教師が訪ねて来たのはこれが初めてだとのことでした。わたしたちは福音の原則について少し話し合い、それからその月の家庭訪問メッセージについて話し合いました。アレハンドラは次の週から教会に来る決意をしました。そして、実際に来てくれました。(しかもボーイフレンドまで連れて来たのです。)

以来、アレハンドラとわたしは良い友人になりました。家庭訪問の担当は変わりましたが、月に2回以上行き来しています。アレハンドラは教会や家庭の夕べに出席し、インスティテュートにも通っています。

今、わたしには、家庭訪問についてかつてないほど強い証があります。聖霊から静かに促され、アレハンドラのような親切で愛ある友人のもとへ導かれたことに感謝しています。二人ともこの経験によって強められました。この経験はわたしたち二人が霊的に進歩するために必要なものでした。⁵

一人の羊飼いが関心を寄せるなら、迷い出た羊の多くを取り戻すことはまだ可能です。彼らは群れに戻る招きに応じてくれるかもしれません。

モロナイ書第6章4節には、バプテスマを受けてキリストの教会に入った人々を覚えて養うようにという勧めがあります。

毎月訪問して福音のメッセージを分か

ち合うことにより、信仰と証が築かれます。福音の原則、聖句、預言者の教えについて話し合いながら、深く理解したことや個人的な経験を述べるときに、伝える方も聞く方も、ともに教化されます。

さらに、家庭訪問の同僚となる二人の姉妹は、親しい友人になり、互いに教化し合えるという祝福もあります。ともに奉仕することにより、互いに学び、愛し合うようになるのです。

わたしたちは意味のある援助をすることができますし、そうするべきです。わたしたちは福音を通して生活を見ることができます。善いことを行うようにと神から促しを受けます。家庭訪問を効果的に行うことを決意しましょう。わたしたちは、物質的、霊的な養いを与えることができます。わたしたちは教義を理解して教えることができますし、またそうするべきです。わたしたちは霊的に飢えている人々を助け、羊を養うことができます。羊を養うとは、新会員や、あまり活発でない会員、あるいは活発な会員でさえも強め、養うことを意味するかもしれません。

わたしたちは、神とその子供たちへの愛で心を満たし、無私の心で、静かに、喜んで奉仕するべきです。群れを飼い、キリストのみもとに招くためには、純粋な心遣いが必要になります。

わたしたちが主体的に、喜んで家庭訪問を行うに際して、愛と思いやりの腕を差し伸べて、互いを祝福し、助け、強めるといふさらに大きな決意をすることができますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. *History of the Church*, 第5巻, 25参照
2. 「扶助協会」『教会指導者手引き 第2部——神権指導者・補助組織指導者』第3章, 206参照
3. 「扶助協会」『教会指導者手引き 第2部——神権指導者・補助組織指導者』第3章, 206-207参照
4. 「姉妹の輪」『聖徒の道』1981年4月号, 213
5. 個人的な書簡

わたしはあなたを強くし、 あなたを助ける

中央扶助協会会長会第二顧問
バーバラ・トンプソン

家族を強めるうえで最も大きな助けになるのが、キリストの教義を知り、それに従(う)ことです。



数 か月前にベック姉妹から、「いろいろな家族との経験を少し交えながら、家族について話してもらえませんか」と頼まれました。わたしは独身で、子供はいません。きっとベック姉妹は、わたしが自分自身の子供のことで失敗したことがないので、家族について話す資格があると思ったのでしょう。自分には失敗した経験がないと言える女性はいないでしょう。

わたしはソーシャルワーカーの仕事を通して、長年にわたり多くの家族と接してきました。ほとんどの家族は、もめ事や難しい問題を抱えていました。肉体的にも情緒的にも子供がひどく傷つけられるような状況を見て、胸が張り裂けそうになったことも何度かあります。親がアルコールや

薬物におぼれて、見捨てられたりほうっておかれたりした子供たちも目にしました。里親の援助を受けて育ち、今は愛にあふれる家族の助けや支援もなく、自立して生活する18歳の人たちにも会いました。

ありがたいことに、教会員であるわたしたちの大半には虐待や育児放棄といった問題はありません。しかしどの家族も、病気や死、不従順、経済問題といった、何らかの困難を経験することになります。

これらの問題を前にすると、次のような真剣に考えるべき疑問が心に浮かびます。家族に何が起きているのか。安定した家族と、不安定な家族の違いは何か。家族を助けられる簡単な事柄として何があるだろうか。だれが家族に助けを与えることができるのか。

今日わたしは、これらの疑問に短く触れて、長年の経験から分かったことを幾つか話したいと思います。それらが皆さんの助けになるようにと願っています。

家族に何が起きているのでしょうか

サタンは家族を攻撃しようと躍起になっています。結婚は重要ではない、子供に父親や母親は要らない、堅固な家庭など重要ではないとささやきます。道徳を重んじる姿勢などというのは時代遅れで、ばかげていると告げます。そして、問題が起きると、サタンはわたしたちに、信仰を捨て去り世の道に倣(なら)うようにとささやくのです。名声や富でそそのかし、どうすれ



ば怠惰に暮らしていけるかを告げます。神への信仰を攻撃し、最も堅固で愛のある家族さえも落胆させようとしています。わたしたちがほんの少しでも屈すると、サタンは喜びます。

安定した家族と不安定な家族の違いは何でしょうか

安定した家族は、自分たちが何者であり、どこに行こうとしているのか、何を達成したいのかをよく理解しています。不安定な家族は、自分たちが何者であるかを理解しておらず、計画やよりどころを持たず、方向性を決める価値観や標準という核もありません。

不安定な家族の親の中には、すぐれた価値観を教えられたにもかかわらず、アルコールや麻薬などの中毒を引き起こすものの摂取によって、適切な判断力や、正しい決断力を失ってしまった人々もいます。一方、安定した家族にあって、愛に満ちた両親は、ただ何かをするように言うだけでなく、模範によって教えます。子供とともにいき、どのように成し遂げるべきかを示すのです。

家族を助けられる簡単な事柄として何が あるでしょうか

子供がいかに貴重な存在かを心に留めてください。彼らは神の霊の子供なのです。

わたしはこれまで、どうやって生き延びられたのか想像を絶するような状況にある子供たちを通して、人の魂の回復力が輝きを放つものを見てきました。

愛する姉妹の皆さん、皆さんの子供たちを愛し、養い育ててください。愛していることを伝えてください。腕に抱き締めてください。体を使って適切に愛を伝えるなら、奇跡が起きるでしょう。優しい言葉をかけてください。どのように働くべきかを模範で示してください。祈るように教えてください。ジェームズ・E・ファウスト管長はこう言いました。「一緒に祈ることにより、家族に対して親近感を抱くことができます。幼い子供は両親や年上のきょうだい

が祈るのを聞いて祈る方法を学びます。……個人と家族の幸福にとって個人の祈りと家族の祈りはなくてはならないものです。」¹

子供たちに聖文を読んで聞かせてあげてください。聖文が生涯にわたって導いてくれることを学べるように助けてください。ともに家庭の夕べを開いてください。家族とともに過ごす時間が皆さんにとってとても大切であることを子供たちに伝えてください。

一般的に子供は両親や、両親の犯す過ちに対して非常に寛容です。大人よりもずっと早く赦し、忘れ、前に進むことができます。後ろめたく思わないでください。

過ちを犯したときは謝りましょう。子供に赦しを請うのです。改めるべき事柄は改め、前に進みましょう。

子供を育てるには、様々な面で忍耐が求められることを忘れないでください。子供はとても貴重な存在である一方で、時には皆さんを怒らせたり、いらいらさせたり、いたずらをしたりすることもあります。そのようなときに、後で後悔するような言動を慎むためには、大変な忍耐と自制心が必要です。深刻な過ちを避けるためには、「一時休止の時間」を取る必要があるでしょう。少しの間部屋を離れるのは、自制心を取り戻すのにとっても役立ちます。

「家族——世界への宣言」²の中で与えられている勧告ほど、素晴らしいアドバイスはありません。ぜひ読んで研究し、家族の標準として取り入れてください。家庭の夕べのレッスンで何度も採り上げ、家族はどのように機能するべきかについて、家族全員がよく理解できるようにしてください。

だれが家族に助けを与えることができる でしょうか

子供を教え、家族を強める第一の責任は、明らかに両親にあります。しかし、ほかにも多くの人が助けることができます。例えば、わたしには素晴らしい両親がいますが、二人だけでわたしを育てたわけではありません。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長が、1995年9月に開かれた中央扶助協会集会において、家族への宣言を最初に発表したとき、わたしはタバナクルにいました。すばらしい集会でした。メッセージの重要性を実感しました。また、そのときこのように考えました。「これは親に対するすばらしい導きであると同時に、大きな責任でもある」と。また、自分は結婚していないし、子供もいないから、自分にあまり関係がないと、一瞬考えました。しかし、すぐに考え直して「でもやはり自分にも関係がある。わたしは家族の一員だ。娘であり、姉であり、おばであり、いとこであり、めいであり、孫娘なのだ。わたしにも責任があり、祝福もある。なぜなら、わたしも家族の一員なのだから。たとえ家族の中で生きているのがわたしだけだとしても、それでも神の家族の一員であり、ほかの家族を強めるのを助ける責任がある」と考えました。

ロバート・D・ヘイルズ長老はこのように言いました。「家族を強めることは、わたしたち両親や子供、親族や指導者、教師、個々の教会員にとって、神聖な義務です。」³

扶助協会の姉妹として、わたしたちは家族を強めるために助け合うことができます。様々な分野で奉仕する機会を得ています。わたしたちが提供できるものをちょうど必要としている子供や若人に、絶えず接する機会があります。年配の姉妹の皆さんは、多くの良いアドバイスや経験談を若い母親たちに伝えられるでしょう。若い女性の指導者や初等協会の教師の言動が、親の教えようとしていることを強調するうえでまさに必要なことであつたりもします。また、友人や隣人に助けの手を差し伸べるのに、特別な召しは必要ありません。

家族を強めるうえで最も大きな助けになるのが、キリストの教義を知り、それに従い、主に頼って助けを求めることです。わたしは問題を抱える家族を助ける中で、彼らが救い主について知っていたら、また彼らが子供たちにイエス・キリストの教義を教えることができたならどんなによいだろうと思ったことが何度もありました。



ブラジル、サンパウロの少年と少女。

「見よ、この御方は数々の試練に耐え、肉体の苦痛や飢え、渇き、疲労に耐えられるが、それは、人にとっては死ぬ以外に耐えようのないものである。」⁴

キリストは、すべてを身に受け、わたしたちの想像を超えた苦しみをお受けになりました。わたしたちの思いを御存じであり、理解してくださっています。そして、助けてくださいます。

聖典は、キリストがこれまでどのように助けてくださり、これからどのように助けてくださるかについて、数々の例で満ちています。わたしの好きな聖句を幾つか分かち合ひましょう。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。」⁵

「神に頼る者はだれであろうと、試練や災難や苦難の中にあつて支えられ、また終わりの日に高く上げられるということをわたしは知っているからである。」⁶

「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」⁷

「〔あなたは〕尋ねる度に、わたしの御霊

からの教えを受けてきたからである。」⁸

「神の戒めを忠実かつ熱心に守りなさい。そうすれば、わたしはあなたをわたしの愛の腕の中に抱くであろう。」⁹

ヒンクレー大管長は次のように言いました。「家族を絶対にないがしろにしないでください。家族ほど大切なものはありません。……結局のところ、後の世に持つて行くことができるのは、この家族関係なのです。」¹⁰

救い主の偉大な愛を覚えてください。主はイザヤ書第41章10節でこう言われました。「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け……る。」そして、再び13節で、「わたしはあなたを助ける」と言われ、そしてもう一度14節で「わたしはあなたを助ける」と繰り返されました。

救い主を信じてください。主はわたしたちを助けてくださいます。主はわたしたちを愛し、わたしたちが幸せであるように願っておられます。

わたしたちの主、救い主は生きておられることを証します。主がわたしたちを助けてくださることを証します。主はわたしを何度も助けてくださいました。そして皆さんを助けてくださいます。このことを知っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 「家族が直面しているチャレンジ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 2
2. 『リアホナ』2004年10月号, 49参照
3. 「家族を強めること——わたしたちに託された神聖な義務」『リアホナ』1999年7月号, 37
4. モーサヤ3:7
5. マタイ11:28
6. アルマ36:3
7. 教義と聖約112:10
8. 教義と聖約6:14
9. 教義と聖約6:20
10. 「仕える特権を喜ぶ」『世界指導者訓練集会』2003年6月21日, 23

あなたを導く3つの目標

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン管長

皆さんの影響力は、皆さん自身や皆さんの家庭をはるかに超えて、世界中に及んでいます。



今 晩、わたしたちの魂は天に届いています。美しい音楽と靈感されたメッセージを聞くことができました。今ここに主の御霊があります。

ジュリー・ベック姉妹、シルビア・オールレッド姉妹、バーバラ・トンプソン姉妹。皆さんの両親、教師、そして青少年時代の指導者たちは、皆さんの可能性に気づいていました。

つまりこういうことです。

一人の少女の偉大さは、今はまだ、だれにも分からないけれど、どんなに偉大な女性でもかつては、みんな一人の少女だった¹

こうして皆さんとともに集えることはすばらしい特権です。カンファレンスセンターにいる姉妹たちだけでなく、衛星放送を通じてこの集会の模様を見聞きしてい

る何千人もの姉妹たちにもごあいさついたします。

男性であるわたしは少数派ですから、口を慎まなければなりません。ある男性が本屋に行き、店員である女性に『女は男に従うもの』という本はありますかと尋ねました。店員は彼の目を真正面から見て、皮肉たっぷりに答えました。「もしあるとしたら、空想小説のコーナーですね。」

教会の女性である皆さんを心から称賛します。ウィリアム・R・ウォレスが述べたように、確かに「揺るかごを揺らす手は世界を支配する」のです。²

1901年、ロレンゾ・スノー大管長はこう述べました。「扶助協会の姉妹たちは……苦しんでいる人々を助け、孤児や、夫を亡くした女性を愛の腕に抱き、自らは世の汚れに染まらずに、身を清く保ってきました。わたしは、世界のどこを探しても、扶助協会の姉妹たち以上に純粋で、神を畏れる女性はいないと証できます。」³

スノー大管長の時代と同様、現代にも、訪問し、愛の言葉をかけ、心の飢えを満たしてあげるべき人々があります。わたしは今日の扶助協会について深く考え、皆さんに話すこの特権にへりくだりつつ、天の御父の導きを求めました。

そして、世界中の扶助協会の姉妹一人一人に、次の3つの達成すべき目標を話すようにとの促しを受けました。

1. 熱心に学ぶ。
2. 真剣に祈る。
3. 喜んで奉仕する。

一つ一つの目標について考えてみましょう。まず、熱心に学ぶです。世の救い主はこう教えられました。「最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」⁴「聖文を調べなさい。あなたがたは、聖文の中に永遠の命があると思っているが、聖文は、わたしについてあかしをするものである。」⁵

聖文の勉強は、わたしたち自身と家族一人一人の証を強めます。今日の子供たちが育つ環境には、「正しい事柄を捨てて、この世の楽しみを追い求めなさい」という声があふれています。イエス・キリストの福音に基づく堅固な土台や、真理への証、義にかなった生活をするという決意がなければ、子供たちはそういった声に影響されてしまいます。子供たちを強め、守るのはわたしたちの責任です。

今日の子供たちは、危機的と言えるほど、インターネットやその他のメディアの影響を受けています。アメリカでは、子供がテレビを見る時間は1日平均4時間で、そのほとんどの番組に暴力やアルコール、麻薬、性の描写があふれています。さらにその4時間のほかに、映画やテレビゲームに時間が費やされるのです。⁶ほかの先進国の統計も、ほぼ同じです。テレビや映画、その他のメディアが流す情報の大半は、わたしたちが子供の心に植え付けたいと願っている価値観とは正反対のものです。健全な精神を宿し、正しい教義に堅くつくように子供を教える責任はわたしたちにあります。しかし、それ以上に、子供が外からの強い影響に対抗して、正しい道にとどまれるように助ける責任が、わたしたちにはあるのです。時間と努力が必要です。そして自分以外の人を助けるには、まず自分自身が、氾濫する悪に立ち向かうための、霊的、道徳的勇気を持たなくてはなりません。

第2ニーファイの第9章に現代が描写されています。

「おお、人の虚栄と意志の弱さと愚かさよ。人は学識があると自分は賢いと思い、神の勧告に聞き従わない。そして自分独りで分かると思って神の勧告を無視す



るので、彼らの知恵は愚かであって役に立たない。そして彼らは滅びるのである。

しかし、神の勧告に聞き従うならば、学識のあるのはよいことである。』⁷

あざけられても、主の標準に堅くつく勇氣が必要です。長年大管長会の一員であったJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は次のように語りました。「信仰があると見なされ〔る〕人々の中にさえ、自分の信仰を全部断言すると信仰のない仲間からばかにされるので、自分の信仰を修正するか、言い逃れるか、あるいは極端に薄めてしまいか、捨て去ったかのように見せかける人が少なからずいます。そのような人は、……偽善者です。』⁸

新約聖書の第2テモテ第1章7節と8節の力強い聖句が心に浮かびます。

「神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。

だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」

霊的な勉強に加えて、この世の学問も

欠かすことができません。将来何が起るか分からないので、不慮の事態に備える必要があります。統計を見ても、夫の病氣や死、あるいは経済的な必要から、皆さんが家計を支えなければならなくなる可能性もあります。皆さんの中にはすでにそのような役割を果たしている人もいます。今教育を受けていない、あるいはこれまで十分に受けてこなかった皆さんは、必要な状況になったときに収入を得られるように、ぜひとも教育を受けてください。

学ぶことによって、皆さんの才能は伸びていきます。家族の勉強をさらに助けあげられるようになります。そして、人生で遭遇するかもしれない出来事に対する備えができていくという安心感を持つことができます。

繰り返します。熱心に学んでください。

第2の目標は、真剣に祈るです。主は言われました。「常に祈りなさい。そうすれば、わたしはあなたに御霊を注ごう。そして、あなたの祝福は大いなるものとなる。』⁹

祈ること、そして家族に祈るように教えることが、今ほど必要な時代はありません。祈りは誘惑に対する防御です。心からの真剣な祈りを通して、必要な祝福と助けを受け、困難やチャレンジの多いこの現世の旅路を進むことができるのです。

祈りの大切さを子供や孫に教えるときには、言葉と模範の両方が必要です。祈りに関して模範の大切さをつづったある母親の手紙を紹介しましょう。「親愛なるモンソン管長、わたしは時々不安になります。子供に良い影響を与えているという自信がないのです。特にわが家は母子家庭で、わたしは二つの仕事を掛け持ちして何とか家族を養っています。仕事から帰宅すると家の中がめちゃくちゃに散らかっていることもあります。希望だけは捨てません。」

手紙はこう続いています。「あるとき、子供たちと一緒に総大会のテレビ中継を見ていると、モンソン管長が祈りについて話をしてられました。すると息子がこう言いました。『このことは、もうお母さんが教えてくれたよね。』わたしが『どういう意味



なの』と聞くと、息子は答えました。『お母さんは、お祈りするようにって教えてくれたし、お祈りの仕方も教えてくれたよ。それに、この前の夜、聞きたいことがあってお母さんの部屋に行ったら、お母さんはひざまずいて神様にお祈りしていたんだ。もしお母さんにとって神様が大切なら、ぼくにとっても大切なんだと思うよ。』彼女の手紙は次の言葉で結ばれています。「子供は、親が自分に教えたことを、親自身がやっているのを見るときに、親から影響を受けるのですね。』

数年前、アトランタで開かれたボーイスカウトアメリカ連盟の年次会議に出席しました。ソルトレークをたつ前に、スカウト連盟の役員に渡すために、青少年向けの教会機関誌『ニューエラ』(New Era)を持って行くことにしました。アトランタのホテルに着いて機関誌の包みを開けてみると、秘書が特に理由もなく、6月号だけ2冊余分にに入れていたことに気づきました。神殿結婚の特集号でした。わたしはその2冊をホテルに残し、それ以外は予定していた人たちに配りました。

会議の最終日、わたしは、予定されていた昼食会に出ないで部屋に戻った方がよいと強く感じました。部屋に入ると、電話

のベルが鳴っています。ある姉妹が、わたしがアトランタに来ていると聞いて電話をかけたのです。彼女は自己紹介をした後、10歳の娘に祝福をしてもらえないだろうかと聞いてきました。わたしが喜んで引き受けると伝えると、その姉妹は、夫と、娘と、息子と一緒に、すぐにホテルに来ると言いました。待っている間、わたしは助けを求めて祈りました。祈り始めると、会議での高揚した気分は鎮まり、平安な気持ちに包まれました。

やがてドアをノックする音が聞こえ、その特別な家族に会う特権にあずかりました。10歳の少女は松葉杖^{まつばづえ}で歩いていました。瘤^{がみ}のために、左足を切断したのです。しかし、少女の顔は明るく輝き、神を固く信頼していました。祝福を施しました。母親と息子はベッドのそばにひざまずきました。父親とわたしは小柄な少女の頭に手を置きました。神の御霊に導かれ、わたしたちはその力に圧倒されました。

涙がわたしの頬^{ほお}を伝い、神の美しい娘の頭の上に置いた手にこぼれ落ちました。わたしは祝福の中で永遠の儀式と家族の昇栄^{しょうえい}について述べました。主から促され、家族で神の聖なる神殿に入ると力強く勧告しました。祝福の後、もう

すでに、家族で神殿の儀式を受けに行く計画があるということを知りました。彼らは神殿について尋ねてきました。そのときわたしは、天の声も聞かず、示現も見ませんでした。『『ニューエラ』を見なさい』というはっきりとした思いが浮かびました。ドレッサーの方に目をやると、神殿特集号の『ニューエラ』が2冊あります。わたしは1冊を少女に、もう1冊を両親に渡して、一緒に読みました。

その家族が帰って行くと、部屋は再び静まり返りました。感謝の祈りが口から自然に出てきました。そして、わたしはもっとよく祈ることについて決意を新たにしました。

愛する姉妹の皆さん、自分の力に見合った務めを祈り求めるのではなく、務めを果たせるだけの力を求めてください。そうすれば、皆さんの働きよりも、皆さん自身が奇跡となるでしょう。

心から祈ってください。

最後の目標は喜んで奉仕するです。皆さんは、善を行う力強い器です。その強さは世界でも最高水準に数えられます。皆さんの影響力は、皆さん自身や皆さんの家庭をはるかに超えて、世界中に及んでいます。通りを越え、町を越え、国や大陸や海を越えて、皆さんの兄弟姉妹に届いています。「愛はいつまでも絶えることがない」という扶助協会のモットーを皆さんは体現しています。

皆さんは、奉仕の機会に囲まれています。時には、奉仕の機会が多すぎて圧倒されることもあるでしょう。どこから始めるべきか、どうすればすべてを行えるか、多くの必要がある中でどのように選択し、どこで、どのように奉仕すべきか、といった具合です。

人を高め、祝福するためには、ほんの小さな奉仕で十分なことがよくあります。相手の家族について聞く、ちょっとした励ましの言葉をかける、心から褒める、短い感謝の手紙、簡単な電話などです。よく観察し、気づき、御霊の促しに従って行動するならば、大いに善を行うことができます。でも時には、さらに多くを行う必要があるのです。

ある母親が、子供がまだ小さかったころに愛ある奉仕を受けたことについて話してくれました。彼女は子供の世話で、母親の皆さんがよく経験するように、真夜中に起きることがよくありました。そのような日の翌日には、向かいに住む友人が来て、こう言ってくれたそうです。「夜中に明かりがついていたから、きっとまた子供の世話で起きていたんだらうと思ったの。うちで子供を預かってあげるから、少し昼寝をしたらいわ。」彼女はその経験を振り返り、感謝しながらこう語りました。「そう言ってもらって、どんなにありがたかったことでしょう。何度かそうしてもらっているうちに、彼女がわたしの家の明かりを見たということは、きっと彼女も子供の世話で起きていて、同じように昼寝が必要なんだということに気づきました。わたしは彼女からすばらしいことを教わりました。以来わたしも、周りに注意を払い、奉仕する機会を探すようにしています。」

扶助協会の訪問教師という大きな組織が、数え切れないほどの奉仕の業を行っています。数年前、二人の訪問教師について聞きました。彼女たちは、わたしのいとこの孫娘のアンジェラが、夫を亡くして嘆き悲しんでいたときに助けてくれたのです。アンジェラの夫は、友人と二人でスノーモービルに乗りに行き、雪崩に遭って命を落としました。二人の妻はどちらも妊娠していました。アンジェラは初めての子供でしたが、もう一人の女性には、おなかの子に加えてよちよち歩きの子供がいました。アンジェラの夫の葬儀で、ビショップはこのように語りました。「事故の知らせを聞いてすぐにアンジェラの家を駆けつけると、間もなく呼び鈴が鳴り、ドアの外にはアンジェラを担当する二人の訪問教師の姉妹が立っていました。二人は愛と慰めの言葉を伝えました。二人の訪問教師とアンジェラはともに涙を流しました。このすばらしい訪問教師が、アンジェラのことを深く心にかけていることは容易に見て取れました。恐らく女性だけにできることだと思いますが、彼女たちは、請われたわけでもないのに、自分たちが具体的にどのように助けようとして



いるのかを穏やかに述べました。アンジェラが必要とするかぎり、この二人がそばにいてくれることは明らかでした。」ビショップは、この二人の姉妹がこれからもアンジェラの心の支えになってくれることを知って、心から感謝していました。

このような愛と憐れみの業が、教会のすばらしい訪問教師によって繰り返されています。毎回このような劇的な状況ではないでしょうが、心を込めて行われていることに変わりありません。

優しい手と思いやりの心で、飢えた人に食物を、裸の人に服を、家のない人に住む場所を与えている皆さんを称賛します。すずめが落ちるのを御存じの主は、そのような奉仕を心に留められます。人を高め、喜んで助け、分け与えたいという気持ちは、愛に満ちた心から湧き上がります。喜んで奉仕してください。

愛する預言者、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、皆さんについて次のように語っています。「神は女性の心に神聖なものを植え付けておられ、それは穏やかな強さ、気品、平安、慈しみ、徳、真理、愛として表れます。」¹⁰

愛する姉妹の皆さん、皆さん一人一人に天の御父の祝福が注がれて、既婚者も独身の方も、家庭の中で、家族の中で、そして人生を通じて、「良い忠実な僕よ、よくやった」¹¹ という世の救い主の栄えある御言葉を聞くことができますように、イエ

ス・キリストの御名により、祈り、皆さんを祝福し、また今夜前列に座っている親愛なるジェームズ・E・ファウスト夫人、彼の最愛の妻、ルース姉妹とご家族を祝福します、アーメン。

注

1. "Nobody Knows What a Boy Is Worth," *Best-Loved Poems of the LDS People*, ed. ジャック・M・リヨン他編に収録(1996年), 19参照
2. "The Hand That Rocks the Cradle Is the Hand That Rules the World," *The World's Best-Loved Poems*, ジェームズ・ギルクリスト・ローソン編に収録(1955年), 242.
3. *The Teachings of Lorenzo Snow*, クライド・J・ウィリアムズ編(1984年), 143
4. 教義と聖約88:118
5. 欽定訳ヨハネ5:39から和訳
6. American Academy of Pediatrics, "Television and the Family," 1, <http://www.aap.org/family/tv1.htm>
7. 2ニーファイ9:28-29
8. 「教育に関する教会の指針」, 9
9. 教義と聖約19:38
10. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 387
11. マタイ25:11

変わる力

ジェームズ・E・ファウスト管長（1920-2007年）

大管長会第二顧問

ファウスト管長は他界する2007年8月10日の数か月前にこの記事準備していました。

変わる力は間違いなく実在します。それは神から授けられる大いなる^{たまもの}霊の賜物なのです。



人は皆、自分の生活を変える力が与えられています。主の大いなる幸福の計画においては、物事を決断する選択の自由を個々に持っているのです。わたしたちはより良い行動を取り、より善い人になると決意することができます。ある意味でわたしたちは皆、変わる必要があります。つまり、ある人は家庭でもっと親切にし、利己心を抑え、よく耳を傾け、思いやりをもって人に接する必要があります。改めるべき習慣のある人がいます。自分にとって、また周囲の人にとって害となる性癖を持っている人がいます。変わるためには、時には心理的ショックが必要な場合もあるかもしれません。

サウロはダマスコに向かっていたとき劇的な変化を遂げました。サウロは「主の弟子たちに対する脅迫、殺害の息をはずませ」ていました(使徒9:1)。ダマスコに向かって歩いていると、天から光がさして、

サウロを巡り照らしました。

「彼は地に倒れたが、その時『サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか』と呼びかける声を聞いた。

そこで彼は『主よ、あなたは、どなたですか』と尋ねた。すると答があった、『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。』(使徒9:4-5)

暴徒がステパノを市外へ引き出し、石を投げつけ、自分たちの上着をサウロの足もとに置いたとき、サウロの心は和らいでいたのかもしれませんが。そしてダマスコへの途上で、「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」という主の声を聞いたときには、サウロには何の疑いもありませんでした。

サウロはおののき、驚いて主に、自分に何をさせようとしておられるのか尋ねました。すると主は言われました。「さあ立って、町には行って行きなさい。そうすれば、そこであなたのなすべき事が告げられるであろう。」(使徒9:6) サウロは立ち上がったときには目が見えなくなっていました。そこで人々に手を引かれてダマスコへ行きました。ダマスコで再び見えるようになったサウロはバプテスマを受けました。サウロは直ちに「諸会堂でイエスのことを宣べ伝え、このイエスこそ神の子であると説きはじめた。」(使徒9:20) 後にパウロと呼ばれるようになったサウロは、あらゆる面で、徹底した変化を遂げ、生涯揺らぐことはありませんでした。

改心によって変わる

皆さんはこのような経験をしたことがな

いでしょうし、わたしもありません。ほとんどの人にとって改心はこれほど劇的なものではありませんが、力強く、意義深いものであるはずで、改心して教会に加わる人は普通、バプテスマのときに霊的な気持ちになります。ある人はそれを次のように説明しています。「心に感じた高まりを忘れることができません。神の子供として清くなり、新しくスタートする。……それは特別な気持ちでした。」¹

まことの改心は生活を変えます。幼いときに不幸な家庭生活を送っていたという若い女性は次のように記しています。「酔った父が、怒りに任せて母や弟や妹に暴力を振るう度に、悲しくて仕方ありませんでした。」彼女は14歳のとき、両親を敬うことも神の戒めであることを教わりました。どうすればこの戒めを守れるかをよくよく考えた彼女は、勉学に励み、学生の本分を果たし、町一番の良い娘になることがその方法だと感じました。

家庭にはほとんど何の変化も起きませんでした。彼女は目標を決して見失いませんでした。そして、18歳のときに、専門的な勉強を始めるために家を出ました。そして3週間後に家に帰ってきたときのことを、こう回想しています。

「母はわたしを見ると泣きだしました。何か大変なことが起きたのかもしれないと思いましたが、母はわたしを抱き締め、こう言いました。『あなたが勉強で家を出てから、お父さんはお酒を一切口にしなくなったのよ。』

……母の話によれば、わたしが家を出た日の晩に、モルモンの宣教師がやって来ました。……

父は幼子^{おきなご}のようになりました。悔い改め、謙虚になっていることが父の目から見て取れました。父は完全に変わっていました。たばことアルコールを同時にやめて、宣教師から教えられた戒めを守ろうと努力していました。わたしを女王のように、母と弟たちや妹たちを王族のように扱いました。

……そして、家族全員がバプテスマを受けました。……父は40歳にして、世界一の父親になったのです。²

福音の力はまことにわたしたちの生活

を変え、悲しみや絶望から連れ出して幸せと喜びを与えてくれます。

悔い改めによって変わる

背きは苦痛と悲しみをもたらします。けれども、「苦汁と罪悪のかせ」から抜け出す方法があります(モーサヤ27:29)。主に心に向けて主の御名を信じるならば、わたしたちは変わることができます。主は、生活を変える力、邪悪な思いと感情を心から追い出す力を与えてくださいます。「最も暗く深い淵」を出て、「神の驚くべき光を見る」ことは可能です(モーサヤ27:29)。赦しを受け、平安を見いだすことは可能なのです。

現在名誉中央幹部であるマリオン・D・ハンクス長老は数年前に、悔い改めて一夜にして生活を変えた人について述べています。

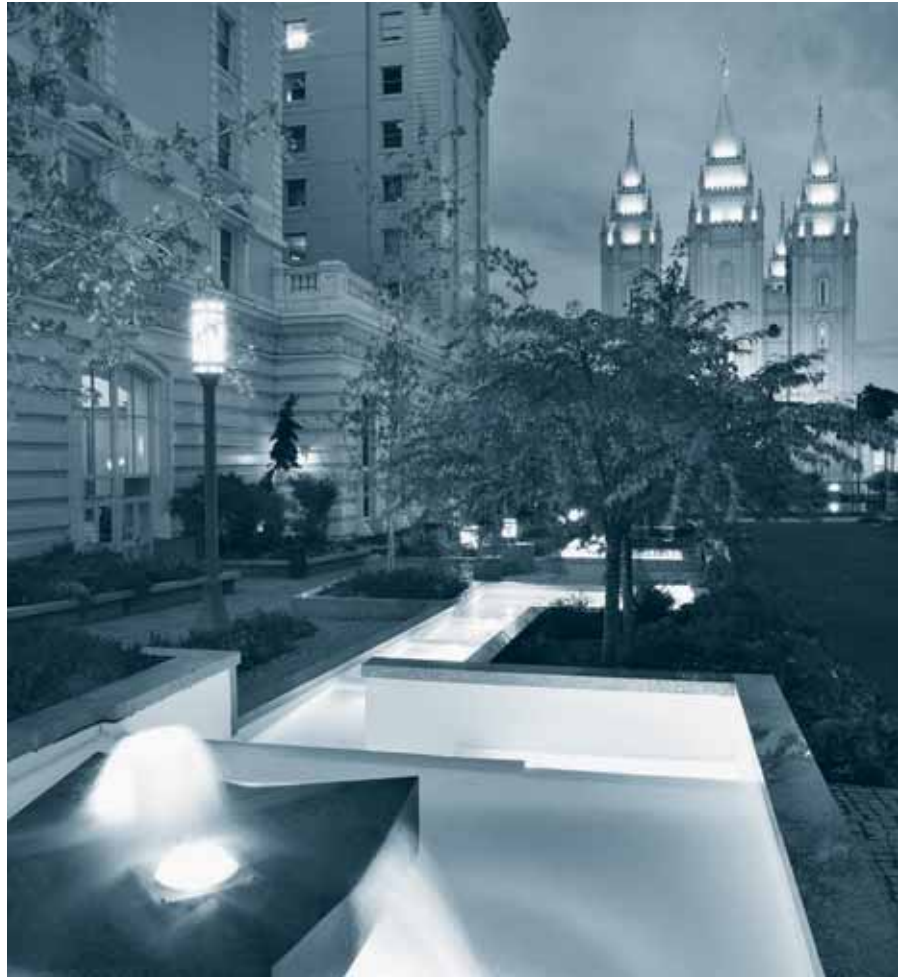
「その人は息子を連れて、ある家族のもとを訪れました。息子が野球のトーナメントに出る間、泊めてもらうことになっていた家族です。しかし息子は、世話になる家庭に父親と一緒に行くことをためらっているようでした。その様子を見た父親は、息子がその家族につらく当たられているのではないかと心配になりました。父親がその家のドアをノックしているとき、息子は後ろでびくびくしながら立っていました。けれども家の中に入ると、少年は家族から温かく迎えられました。息子が彼らを心から愛していることがよく分かりました。

後日、迎えに来た父親は、どうして玄関先でびくびくしていたのか尋ねました。……すると、息子はこう答えました。

『お父さんがうっかりして、あの家で汚い言葉を使うんじゃないかって心配していたの。あの家の人たちは汚い言葉を使わないし、ほんとうに立派な人たちだよ。お互いに優しく話し合うし、よく笑うし、食事のときや朝晩は必ずお祈りするし、ぼくも一緒にお祈りさせてくれたよ。』

父親はこう言いました。『息子はわたしのことを恥じていたのではありません。わたしを心から愛していたので、わたしのことを悪く思われなくなかったのです。』

この父親は、生活の改善を目指すよう手



を差し伸べてくれた同世代の誠実な人々に背を向けていましたが、父を思う幼い息子の優しさに心を打たれたのです。』³

変わる力が非常に強く働いたので、この父親は、再び熱心に教会に集うようになり、さらには、ステーキの指導者になりました。

依存症から立ち直ることによって変わる

もう一つ採り上げたい変化は、囚われとなっている習慣から立ち直ることです。これにはアルコール、薬物、たばこ、食べること、ギャンブル、不適切な性行為、ポルノグラフィーを見ることが含まれます。依存症がいかに人々を弱めるかについて最近出版された書籍から引用します。「合衆国において、避けられたはずの病気や死のおもな原因となっているのが薬物乱用である。薬物の誤用は家庭崩壊を招き、生産力を何十億ドルも下げ、医療制度をひずませ、ひいては生命を奪っている。」⁴それは社会に下されたのろいです。

依存症には様々な形があります。重大

な中毒症状に陥っている人は、思考そのものから変えなければならぬため、抜け出すのが難しい場合があります。依存症に関して最近発表された論文にはこうあります。「中毒症状にある人の脳内では、前頭前野の活動が低下し、それにより、合理的思考によって衝動を抑制する力が弱まっている。」⁵一部の依存症は、神から与えられた選択の自由を取り上げてしまうほど、人を支配する力を持っています。サタンが強力な武器の一つは、わたしたちを支配する方法を見つけることです。ですから、何であろうと、主が人に対して持っておられる目的をくじくものや、永遠の祝福を危機にさらすものから離れなければなりません。わたしたちは、霊によって肉体を支配するためにこの世で生活しているのであり、その逆のためではないのです。

何であれ依存症に陥ると、苦痛と苦悩という高い代償を払わなければなりません。霊にも影響を与えることがあります。



しかし、希望があります。ほとんどの依存症は十分な時間をかければ克服できるのです。変わることができます。しかし、それには困難が伴います。

最初に、変わると決意します。助けが必要なことを認めるには勇気と謙虚さが必要です。けれども自力で立ち直れる人はほとんどいません。教会には依存症を克服するためのプログラムがあります。「無名のアルコール依存症者たちの12のステップ」(Twelve Steps of Alcoholics Anonymous)を、教会の教義と信条を基に改訂したものです。この12段階は『依存症からの立ち直りと治療の手引き』(A Guide to Addiction Recovery and Healing)に載っています。神権指導者と会員はこの手引きを入手することができます〔日本語版は2008年に刊行予定〕。

ライフスタイルを全面的に変える必要があるかもしれません。有害な依存症を克服することを、心と思いと力を尽くして望まなければなりません。習慣性を持つ物質や行動を100パーセント完全に捨てることを決意しなければなりません。

これまでに、大勢の人が薬物依存から立ち直りました。3児の母であるスーザンは自分の問題を子供たちに気づかれないようにするため、薬物を週末にだけ用いていました。しかしやはり子供たちがそれに気づいて、やめるように熱心に頼みました。3年後、子供たち、特に7歳の息子の特別な助けと支えによって、彼女は薬物

を絶ちました。彼女は過去を振り返って、天の御父が彼女を救い出し、福音を学ぶ準備をさせていただき、悟りました。そして次のように述べています。

「福音はわたしの心、外見、態度、気持ちを変えてくれました。そしてわたしは祈ることを覚えました。問題が起きるといつも天のお父様のみもとへ行って、『助けてください』と言います。お父様がずっと見守ってくださっているのです。……今、わたしは顔を上げて歩いています。なぜなら、天のお父様がいつもわたしとともに歩んでくださることを知っているからです。……

今わたしは新しい日を生きています。薬物の世界に浸っていることを望んだために多くのものを失いました。アパートを失い、火災によって息子はもう少しで命を失うところでした。結婚生活が破綻し、幸せは完全にわたしから離れていきました。けれども、幸せが戻って来たのです。天のお父様は再出発するチャンスを与えてくださいました。そして今、わたしはすっかり新しくなりました。隅から隅までまったく新しい自分です。』⁶

夜が明ける度に、その新しい日を、変わるための新しい日とすることができます。わたしたちは、環境を変えることができます。古い習慣を新しい習慣に置き換えることによって生活を変えることができます。いっそう清い思いと気高い行いによって人格と未来を形作ることができます。かつてだれかが述べたように、「変わ

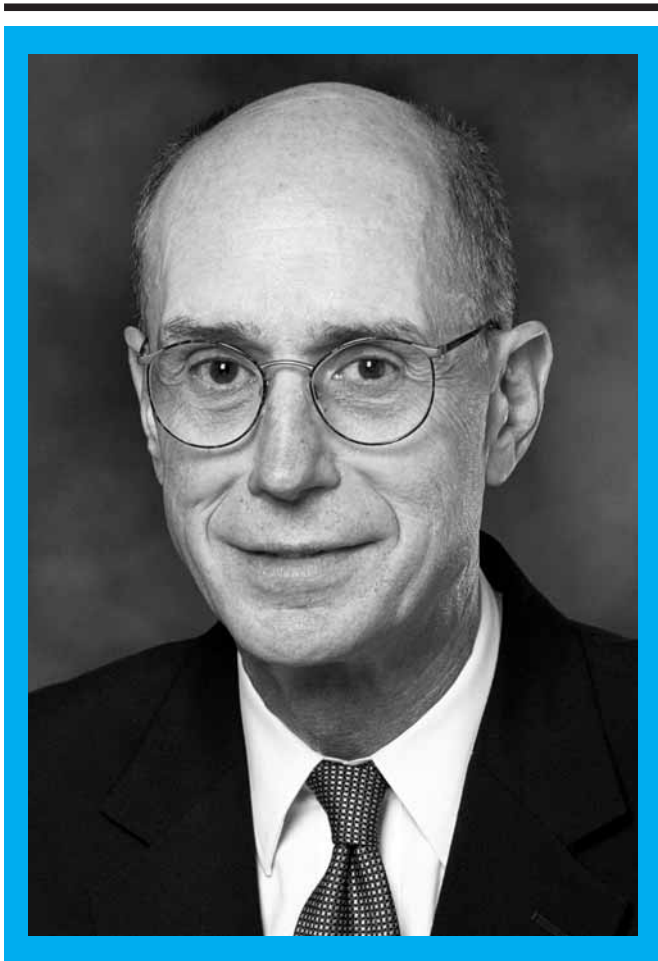
れる可能性はいつもあります。平安、幸福、より良い生き方という目に見えない約束がそこにあります。』⁷

依存症は御霊を退けます。一部の依存症には専門家による治療が必要です。しかし、神権の祝福と祈りによって得られる霊的な助けを見過ごしてはなりません。主はこう約束しておられます。「わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル12:27) 変わる力は間違いなく実在します。忘れないようにしましょう。それは神から授けられる大いなる霊の賜物なのです。

悔い改めとその後に続く義にかなった生活を通して、また主イエス・キリストの力によって、究極的な変化がわたしたちの体にもたらされること、そして主が「万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さる」ことを証します(ピリピ3:21)。

注

1. ビビアン・フォード, "Ask and Ye Shall Receive," *No More Strangers*, 全4巻, ハートマン・レクター・ジュニアおよびコニー・レクター編(1971-1990年), 第3巻, 175
2. エステラ・アヤラ, "The Change in My Father," *Ensign*, 1975年2月号, 42, 43
3. "Fitting into Your Family," *New Era*, 1991年6月号, 8
4. リン・R・ウェブスターおよびベス・ダブ, *Avoiding Opioid Abuse While Managing Pain* (2007年), 11
5. マイケル・D・レモニックおよびアリス・パーク, "The Science of Addiction," *Time*, 2007年7月16日号, 44
6. ラリーン・ガント, "Testimonies from the Inner City," *Ensign*, 1992年4月号, 40
7. ジョセフ・ウォーカー, "The Miracle of Change," *Ensign*, 1992年7月号, 12



ヘンリー・B・アイリング管長

大管長会第二顧問

ヘンリー・ベニオン・アイリング管長は、予想もしない道を進んで来た自身の人生について深く考えながら、次のことに対する知識があることをうれしく思っています。それは、恐れや力不足を感じる事があっても、神は御自身の子供たちの人生に奇跡を起こすことがおできになるということです。

この知識は、「きわめて大切な責任」と自ら表現する大管長会の召しに臨む今も、力を与えてくれます。アイリング管長は、2007年8月10日に亡くなったジェーム

ズ・E・ファウスト管長の後任を務めることになりました。

アイリング管長は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、トーマス・S・モンソン管長のさらに近くで奉仕できる機会を楽しみしながらも、ファウスト管長がいなことを寂しく感じています。

「ファウスト管長の代わりに務めようとは思わないようにしています。それは不可能だからです」とアイリング管長は言います。「ファウスト管長はまさにこの職を果たすために備えられた、非常に有能な大管長会第二顧問でした。

管長は、彼にしかない^{なまもの}賜物を備えていました。」

10月6日、召しの発表を受けて開かれた記者会見で、アイリング管長は1995年4月1日に十二使徒定員会に召されて間もなく、ファウスト管長の執務室に招かれたときのことを回想しながら語りました。励ましの言葉をかけてくれるだろうという期待に反して、ファウスト管長は天を指さし、ほほえみながらこう言いました。「わたしにではなく、御父に話してくださいね。」このことについてアイリング長老は次のように語っています。「ファウスト管長は、わたしの抱えていたいろいろな問題を解決しようとする代わりに、わたしの心を神に向けてくれたのです。ファウスト管長は、人の気持ちを敏感に理解し、親切にするという賜物を持っていました。心から慕う親友であり、最高の助言者でした。」

主から信頼を受けていること、またヒンクレー大管長の信任に感謝を込めて、アイリング管長はこう語ります。「わたしが愛し、預言者、聖見者、啓示者として支持し、また主イエスキリストのまことの使徒として支持する人々とともに奉仕できるのはまたとない……機会です。」

主がその手をもって支えてくださることに感謝しながら、アイリング管長はこう語ります。「ヒンクレー大管長はいつも『物事はきつとうまくいく』と言います。このきわめて大切な責任を前にして、わたしもそのような信仰を持っています。」

ヘンリー・B・アイリング管長は、1933年5月31日、ニュージャージー州プリンストンで、ヘンリー・アイリング、ミルドレッド・ベニオン・アイリング夫妻の間に、3人息子の次男として生まれました。世界的な化学者であった父親は、息子たちに科学の道に進むよう勧めました。アイリング管長は物理学の学士号を取りましたが、合衆国空軍で2年間の軍役に就いた後は、ハーバード大学の経営学大学院に進み、経営管理で修士号および博士号を取得しました。

ハーバード在学中だった1961年の夏、ボストンでサマースクールに通っていたキャスリーン・ジョンソンと出会います。その夏の間デートを重ね、彼女がカリフォルニアの実家に帰ってからも文通を続けた二人は、1962年7月にユタ州ローガン神殿で結婚しました。この年、アイリング管長はスタンフォード大学の経営学大学院で准教授になり、1962年から1971年まで教鞭を執りました。

管長はアイリング姉妹のことを「最善を尽くしたいと常に思わせ



てくれる人」と表現しています。この特質は、1971年のある真夜中の出来事によく表れています。彼女はアイリング管長を起こすと「あなた、自分の人生でほんとうになすべきことをしていると思う?」と聞きました。そして、当時教会教育システム(CES)教育委員長だったニール・A・マックスウェル長老のもとで働くべきなのではないかと言いました。

スタンフォード大学で教え、アイリング姉妹の実家の近くに住み、スタンフォード第1ワードのビショップとして奉仕するなど、アイリング長老は当時の生活に満足していましたが、妻の言葉について祈り始めました。その数日後、アイリング家と面識のなかった教育長のマックスウェル長老から、アイリング管長にソルトレーク・シティーに来てほしいという電話がありました。そこでアイリング管長はBYU(プリガム・ヤング大学)アイダホ校の前身であるリックスカレッジの学長になってほしいとの依頼を受けます。アイリング管長

はこの要請を受け入れ、間もなく家族でアイダホ州のレックスバーグに移りました。その家族も今では、4人の息子と2人の娘、そして孫は25人になりました。

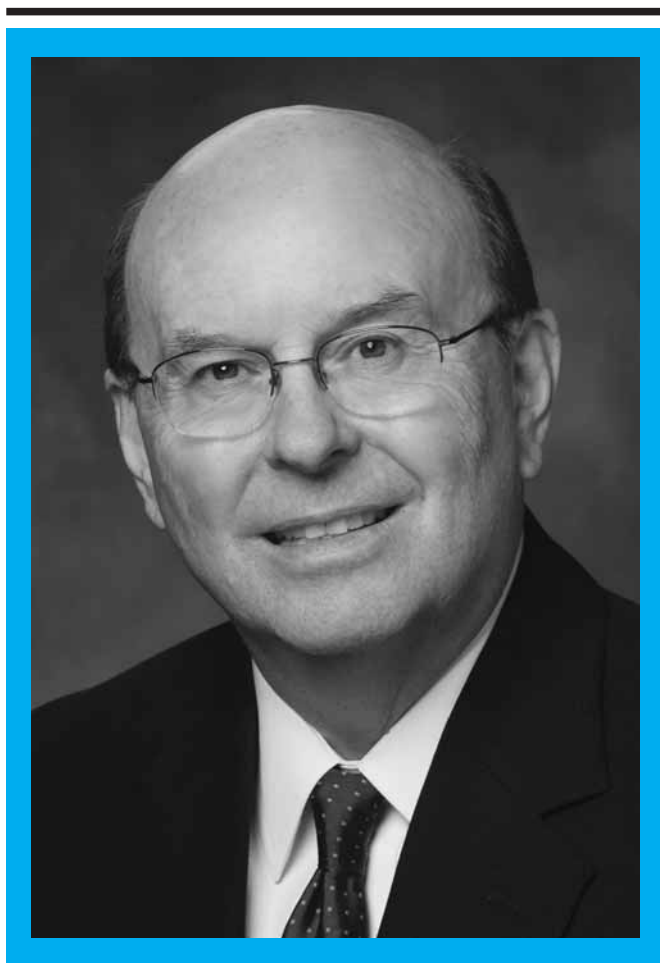
6年後にCES副教育委員長、その3年後にはCES教育委員長となり、1985年4月に管理ビショップリック第一顧問に召されるまでその責任を果たしました。1992年9月、再びCES教育委員長に任命され、その1か月後、教育委員長の仕事を続けながら七十人第一定員会の一員として召されました。

心のコもった説教と深い思いやりで知られるアイリング管長は、十二使徒定員会で奉仕した12年間に、天の御父の子供たちを助けることに関して大切な教訓を学んだと語ります。

「自分の思いや行いを天の御父と救い主の望まれることと一致させることさえできれば、それまでよりもはるかに良い成果を上げることができるという確信が、十二使徒定員会での経験を通して増

し加えられました。神はわたしたちを通して、自分の期待以上に効果的な方法で人々の生活に影響を与えてくださるでしょう。また、想像をはるかに超えるほど、わたしたちの人生を豊かにしてください。」

恐れや力不足を感じようと、天の御父はわたしたちを導いてくださるとアイリング管長は語ります。「信仰をもって前進し、謙虚であるなら、主の御声を聞くこと
でしよう。」◆



クエンティン・L・クック長老

十二使徒定員会

十二使徒定員会会員の召しは想像もしていなかった、と語るクエンティン・ラ・マー・クック長老ですが、若いころから、救い主イエス・キリストの証人として生きることを学んできました。

「これまでの生涯、救い主を愛する人たちから祝福を受けてきました」とクック長老は語ります。

クック長老は、1940年9月8日、ユタ州ローガンで、J・バーン・クック、バーニス・クック夫妻のもとに生まれました。愛に満ち、献身的な会員である両親

への感謝を込めて、長老はこう語ります。「[父母は]救い主を愛し、わたしたちを義にかなって育てるために何でもしてくれました。」

長老は、兄と妹にも感謝しています。15歳のとき、兄のジョーと真剣に話し合い、救い主に対する証が重要な結果を生むことに気づきました。ジョーは伝道に行くために、医学部への入学を延期すべきかどうかという決断を迫られていました。「兄との会話の後、祈りを通して、この教会が真実であり、イエス・キリストが神の御子で



あられるという確信を得ました。そのことは、わたしの人生を大きく決定づける出来事となりました。」

こうして兄は伝道に出ました。後にクック長老も伝道に出て、イギリス伝道部で奉仕しました。そのとき、二人の伝道部会長から大きな影響を受けました。その一人が、当時七十人第一定員会の会員であったマリオン・D・ハンクス長老です。

「救い主への証を持つことと、救い主を愛する人々と交わることはとても重要です」と語るクック長老は、もう一人そのような人を見つけました。メアリー・ギャディーという名の女性と出会ったのです。二人は1962年11月30日にユタ州ローガン神殿で結婚しました。

ユタ州立大学で政治学の学位を取得して卒業した後、二人はカリフォルニアへ移り、クック長老は、スタンフォード大学で法学博士号を取得しました。3人の子供を育てながら、企業弁護士として働き、サンフランシスコ湾岸地帯にある法律事務

所の共同経営者となり、その後、カリフォルニア・ヘルスケア・システムの会長兼最高経営責任者(CEO)となりました。そして、最後にはサター・ヘルス・システムの副会長を務めました。

その間、ビショップ、ステーキ会長、ステーキ会長会顧問、地区代表、地域七十人として奉仕しました。ステーキ会長会の一員として働いたときは、英語だけでなく、スペイン語、トンガ語、サモア語、タガログ語、北京語、広東語など、様々な言語の人々を管理する責任がありました。

「わたしたちは、イエス・キリストの福音に全力を注ぐ多様な会員たちが大好きでした。彼らはわたしの人生にすばらしい影響を与えてくれました。」

しかし、仕事においては、ともに働くほとんどの人が教会員ではありませんでした。そのような中であって、長老は次のことを学びました。「教会外にも救い主を愛する人が非常に大勢います。彼らの多くからも良い影響を受けました。ですから、わたしが善良な人々と付き

合うことについて話すとき、世の中から離れて生活することを意味しているわけではありません。」

1996年4月6日に七十人第二定員会に召され、続いて1998年4月4日に七十人第一定員会に召された後、クック長老は、フィリピン/マイクロネシア地域会長会顧問、太平洋地域会長会会長、北アメリカ北西地域会長会会長を歴任しました。

中央幹部として奉仕する中で、「どこにあっても、救い主を愛する善良な人々を見つけることができる」という確信を強めました。クック長老は、そのような人を見つける方法は、謙虚に、しかし臆することなく福音に従って生きることだと信じています。

「ほとんどの末日聖徒が陥る最大の過ちは、自分が何者であるかを隠してしまうことです」とクック長老は語ります。「多くの会員が友人や知人に、自分が何者で、何を信じているかを伝えず、とても面倒な立場に追い込まれています。自分が末日聖徒であり、どんなことを信じているかをはっきりと伝えては、抱える問題がはるかに少ないのです。」

またクック長老は、そのような人がより良い会員伝道をしていることも知りました。それは、2007年8月に七十人会長会に召される前、宣教師管理部の管理ディレクターとして奉仕していたときに分かったことでした。

2007年10月6日に使徒として召され、初めての大会説教の



中で、クック長老は「自分が会員だということを隠している」会員の問題について触れながら、「恐れることなく信仰をもって」生活するようにと励ましました。

「『見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにいる』人が大勢います」と彼は言います(教義と聖約123:12)。「そして、寛容で親切な態度で、率直に語る時、驚くほど多くの人がそれにこたえてくれるでしょう。」

クック長老は、新しい召しにおいても、人々が同じようにこたえてくれるよう願っています。そして、自分の至らなさを実感しながらも、恐れではなく信仰によって生活し、人々に自分が何者であり、キリストの特別な証人として何を信じているかを知らせなければならない、と感じています。

「わたしは救い主を愛しています」と長老は語ります。「世界中の人にイエス・キリストの証を伝えられる機会を喜んでます。」◆



ウォルター・F・ゴンサレス長老

七十人会長会



ウォルター・ファーミン・ゴンサレス長老は、奉仕は祝福をもたらすという強い証を持っています。ゴンサレス長老は「わたしたちは常に主に恩を受けています。なぜなら、どんな奉仕を行っても、報いの方が常に大きいからです」と語っています。

ゴンサレス長老の奉仕への備えは、教会に入る前の、人生の早い時期に始まりました。9歳になると、母親から英語を習った方がよいと言われました。両親は教会員ではありませんでしたが、長老は、自分が将来受けることになる召しに備えるに当たって、母親が「神の手に使われる者」となったと信じています。

「その9年後にわたしが教会員になるとは、だれも知りませんでしたし、いつの日かわたしが中央幹部に召され、英語を

話さなければならなくなることを知っている人もいませんでした」と長老は語ります。

1952年11月18日、ウルグアイのモンテビデオで、ファーミン・ゴンサレス、ビクトリア・ゴンサレス夫妻の間に生まれたゴンサレス長老は、18歳のときにバプテスマを受けました。そして1975年2月28日にモンテビデオでズルマ・アナイルと結婚し、1979年にワシントンD.C.神殿で結び固めを受けました。4人の子供がおり、近々誕生する初孫を楽しみにしています。

ウルグアイのリパブリカ大学とアルゼンチンのフラテルニダッド大学で学び、インディアナ大学ブルーミントン校で学士号を取得しました。

ゴンサレス長老は、2007年10月6日に七十人会長会の一員として支持されました。これまで、ブラジル北地域と南アメリカ西地域の会長、また南アメリカ北地域とブラジル北地域会長会の顧問として奉仕しました。そのほか、南アメリカ北地域で地域七十人、エクアドルで伝道部会長、ウルグアイでステーク会長、南アメリカ北地域で地域広報ディレクターとして奉仕しています。

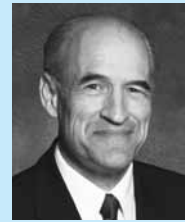
教会教育システムに勤務し、南アメリカ北地域の地域ディレクターとしても働きました。◆

中央補助組織会長会

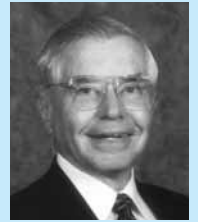
日曜学校



第一顧問
ダニエル・K・ジャッド



会長
A・ロジャー・メリル



第二顧問
ウィリアム・D・オズワルド

扶助協会



第一顧問
シルビア・H・オールレッド



会長
ジュリー・B・ベック



第二顧問
バーバラ・トンブソン

若い男性



第一顧問
ティーン・R・バージェス



会長
チャールズ・W・ダルクウィスト2世



第二顧問
マイケル・A・ナイダー

若い女性



第一顧問
イレイン・S・ダルトン



会長
スーザン・W・ターナー



第二顧問
メアリー・N・クック

初等協会



第一顧問
マーガレット・S・リファース



会長
シェリル・C・ラント



第二顧問
ビッキー・F・松森



わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。各レッスンは、最近の総大会で語られた、一つまたは複数の説教を基に準備します。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。神権指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調するべきです。

第4日曜日の集会の出席者は、最新の教会機関誌の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参する

よう奨励されています。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師はほかの資料を使ってレッスンを準備したくることがあるかもしれません。しかし、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。

クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような真理を教えるのに役立つ説

教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

原則と教義を教えるための大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

- 説教に含まれる原則と教義を探す。
- それらの意味について考える。
- 理解したことや考え、経験、証を分かち合う。
- それらの原則と教義を実生活に応用する。■

月	第4日曜日のレッスン教材
2007年11月— 2008年4月	『リアホナ』2007年11月号掲載の説教*
2008年5月— 2008年10月	『リアホナ』2008年5月号掲載の説教*

*これらの説教は、<http://www.lds.org> から（多くの言語で）アクセスすることができます。（訳注—日本語版の総大会号を閲覧するには、<http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「教会員の方へ」「ライブラリー」「リアホナ」の順にクリックしてください。）

アロン神権者および若い女性用リソースガイド

以下は「アロン神権3」および「若い女性3」のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。本ガイドに掲載された「神への務め」および「成長するわたし」の活動の幾つかは、レッスン中に実施することもできますし、家庭で行うよう定員会の会員またはクラスの生徒に勧めることもできます。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用手引きには、復活祭のための特別なレッスンは掲載されていません。復活祭のための特別なレッスンを教えたい場合は、救い主に焦点を絞った聖句や大会説教、教会機関誌の記事、絵、賛美歌を活用することを検討してください。

インターネットを使用して、英語以外の幾つかの言語でこのリソースガイドを探す場合は、<http://www.lds.org> にアクセスし、「Language」（言語）をクリックした後、言語を選択してください。次に「リアホナ」をクリックし、2007年11月号を選択してください。（訳注—日本語の場合は、<http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「教会員の方へ」「ライブラリー」の順に選択してください。あとは上と同じように「リアホナ」をクリックし、2007年11月号を選択してください。）リソースガイドの英語

版を閲覧する場合は、<http://www.lds.org> を開き、「Gospel Library」（福音図書館）をクリックしてください。開いた画面の右の欄にリソースガイドへのリンクがあります。

『アロン神権3』用リソースガイド

第1課—神会

ゴードン・B・センクレー「御父と御子と聖霊を信じる」『リアホナ』2006年7月号、2。神会を構成する

御三方について話し合いを深めるためにこの記事を用います。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の3;『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の4;『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の10

第2課——救いの計画

L・トム・ベリー「救いの計画」『リアホナ』2006年11月号, 69。「救いの計画は、わたしたちの栄光と昇栄のためにある」の項を教える際、話し合いを深めるためにこの記事を用います。

『神への務め——執事』「定員会活動」の6。

第3課——生ける神の息子たち

ジェフリー・R・ホランド「偉大な神の性質」『リアホナ』2003年11月号, 70。「天父の性格と属性」の項を教える際、話し合いを深めるためにこの記事を用いることができます。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の10

第4課——選択する能力と自由

ロバート・D・ヘイルズ「思いのままに行動する——選択の自由という賜物と祝福」『リアホナ』2006年5月号, 4。「行いの結果に責任を持つ」の項を教える際、話し合いを助けるためにこの記事を用いることができます。

第5課——天より落ちたルシフェル

ダリン・H・オックス「欺かれてはならない」『リアホナ』2004年11月号, 43。「サタンの手段」の項について教える際、話し合いを深めるためにこの記事を用いることを検討します。

第6課——アダムの墮落

ディーター・F・ワークトドルフ「帰還可能点」『リアホナ』2007年5月号, 99。悔い改めについての項を教える際、この説教を補足資料として用いることができます。

第7課——死と地獄に勝利を取めた贖罪

ボイド・K・バック「主なるわたしはもう[あなたの罪]を思い起こさない」『リアホナ』2006年5月号, 25。レッスンの終わりに、バック会長の説教の最終段落を用いることができます。

第8課——復活と裁き

トーマス・S・モンソン「主は生けりと知る」『リアホナ』2007年5月号, 22。レッスンの始めに、モンソン管長が語った家族に関する話を用い

ることについて検討します。

『神への務め——執事』「定員会活動」の6

第9課——正義と憐れみ

リチャード・G・スコット「贖いは、平安と幸福を確固としたものとする」『リアホナ』2006年11月号, 40。レッスンの終わりに、正義と憐れみに関するスコット長老の言葉を用いることを検討します。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の1

第10課——「大きな変化」

デビッド・A・ベドナー「あなたは再び生まれなければならない」『リアホナ』2007年5月号, 19。レッスンの始めにジョセフ・スミスの言葉を述べた後、話を深めるために「大きな変化」の見出しで始まる箇所を用いることを検討します。

『神への務め——執事』「家族の活動」の2

第11課——永遠の命を得る信仰

ヘンリー・B・アイリング「幼子のように」『リアホナ』2006年5月号, 14。「信頼と確信は真実の信仰の条件である」の項を教える際、夜通し折り続けたアイリング長老の経験を分かち合うことができます。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の3;『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の1と10

第12課——悔い改め

リチャード・G・スコット「贖いは、平安と幸福を確固としたものとする」『リアホナ』2006年11月号, 40。イザヤ1:18について話し合った後、スコット長老が述べたロッククライミングのたとえを分かち合います。

『神への務め——教師』「家族の活動」の3;『神への務め——祭司』「家族の活動」の5

第13課——赦す者が赦される

ジェームズ・E・ファウスト「赦しのもたらす癒しの力」『リアホナ』2007年5月号, 67。ハンクス長老の言葉を引用した後、アーミッシュの人々に起きた悲劇についてのファウスト管長の言葉を読みます。

『神への務め——教師』「家族の活動」の3

第14課——聖餐

トーマス・S・モンソン「聖なる神権の義務」『リアホナ』2006年5月号, 54。「会衆を代表して働く祭司」の項の一部として、モンソン管長が

記事の最後で述べた二つの物語を用いることを検討します。

『神への務め——執事』「定員会活動」の7;『神への務め——祭司』「定員会活動」の1

第15課——終わりまで堪え忍ぶ

ヘンリー・B・アイリング「主の力を受けて」『リアホナ』2004年5月号, 16。ベンソン大管長の説教を紹介した後、アイリング長老の4つの簡単な提案を付け加えることを検討します。

第16課——世の命であり、光であられるイエス・キリスト

ジョセフ・B・ワースリン「言い尽くせない賜物」『リアホナ』2003年5月号, 26。レッスンの最初の話合いをする際、キリストの光に関するワースリン長老の説明を用いることを検討します。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の1

第17課——聖霊

ヘンリー・B・アイリング「幼子のように」『リアホナ』2006年5月号, 14。アイリング長老が述べている聖霊に関する説明と例を用いてレッスンを補足することを検討します。

グレン・L・ペイス「あなたは知っていますか」『リアホナ』2007年5月号, 78。「死すべき人間に及ぼす聖霊の影響」の項を教える際、ペイス長老の経験談を用います。

『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の6

第18課——祈り

リチャード・G・スコット「祈りという天与の賜物を用いる」『リアホナ』2007年5月号, 8。必要であればレッスンを補足するためにこの記事の部分的に用いることを検討します。

『神への務め——教師』「家族の活動」の3

第19課——断食

トーマス・S・モンソン「最善を尽くして義務を果たす」『リアホナ』2005年11月号, 56。レッスンの終わりに、執事をウェルフェアスクウェアに連れて行ったビショップの話の分かち合います。

『神への務め——執事』「定員会活動」の2

第20課——什分の——霊的な試し

ダニエル・L・ジョンソン「什分の一の律法」『リアホナ』2006年11月号, 35。レッスン中のクイズをする代わりに、什分の一に関するジョンソン長老の3つの質問をすることを

検討します。

第21課——定員会の役割

L・トム・ベリー「定員会とは何ですか」『リアホナ』2004年11月号, 23。「神権定員会の会員であることにより、どのような恩恵が受けられるでしょうか」の質問に答えるのにベリー長老が挙げた事柄や例を用いることを検討します。

ヘンリー・B・アイリング「神権定員会」『リアホナ』2006年11月号, 43。定員会の大切さを説明する際、アイリング長老の話に述べられている例を用いることができます。

第22課——祭司の義務

ジェームズ・E・ファウスト「神の知識の鍵」『リアホナ』2004年11月号, 52。外形上の儀式を執行する力を持つことの意味について話し合う際、アロン神権の若い男性にどのように権能と責任が与えられているかについての、ファウスト管長の言葉を用いることを検討します。

第23課——メルキゼデク神権に備える

トーマス・S・モンソン「聖なる神権の義務」『リアホナ』2006年5月号, 54。レッスンの導入部で紹介する物語の代わりに、モンソン管長がメルキゼデク神権を受けたときの経験や神権の誓詞と誓約について話を紹介します。

第25課——すべての若人は伝道に与るべきである

M・ラッセル・バラード「もう一人」『リアホナ』2005年5月号, 69。「伝道に備えなければならない」の項を教える際、宣教師が備えておけばよかったと述べた事柄の一覧を確認します。



『若い女性3』用リソースガイド

第1課——父なる神

ゴードン・B・ベンクレー「御父と御子と聖霊を信じる」『リアホナ』2006年7月号, 2。レッスンの「わたしたちは御父の子供であり、相続人である」の項を教える際、「神にかたどって」の見出しで始まる箇所を用いて補足することを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『選択と責任』』の1

第2課——救い主を知る

デビッド・A・ベドナー「あなたがたは再び生まれなければならない」『リアホナ』2007年5月号, 19。レッスンの導入部の代わりに「大きな変化」の見出しで始まる箇所を用いることを検討します。

ロバート・D・ヘイルズ「主イエス・キリストへの信仰を見いだす」『リアホナ』2004年11月号, 70。黒板に書く図の代わりにヘイルズ長老が提案するパターンを書きます。このパターンに従うことから生じる結果について数人の若い女性に話してもらうこともできます。

『成長するわたし』『徳質の体験——『信仰』』の5

第3課——日々福音に従う

ディーター・F・ワークトドルフ「キリストのような属性——翼の揚力となる風」『リアホナ』2005年11月号, 100。レッスンで言葉を書いた紙を使った活動の代わりに、ワークトドルフ長老の飛行機の操縦と福音の原則に従うことの類似点に関する話を用いることを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『選択と責任』』の1と2

第4課——永遠の伴侶となる準備

ジェームズ・E・ファウスト「結婚生活を豊かにする」『リアホナ』2007年4月号, 2。武と香織の話を読んだ後、二人がファウスト管長の6つの質問を活用していれば二人の経験がどのように変わっていたか話し合います。

『成長するわたし』『徳質の体験——『神から受け継いだ特質』』の2

第5課——家庭に霊的な雰囲気を作る

M・ラッセル・バラード「福音を伝える家庭を築く」『リアホナ』2006年5月号, 84。「霊的な家庭環境を作るには、準備と努力が必要である」の項を教える際、バラード長老の話で補足することを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『善い行い』』の4

第6課——女性としての教える責任

M・ラッセル・バラード「親の神聖な責任」『リアホナ』2006年3月号, 10。クロフト長老の話の代わりに「幸福で確固とした家庭を築く」の見出しで始まる箇所を用いることを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『信仰』』の2

第7課——人生の目的

L・トム・ベリー「救いの計画」『リアホナ』2006年11月号, 69。レッスンの導入としてベリー長老が話の冒頭で述べている物語を用いることを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『神から受け継いだ特質』』の1

第8課——永遠の家族

ラッセル・M・ネルソン「結婚のきずなをはぐくむ」『リアホナ』2006年5月号, 36。「今から永遠の家族となる準備をしなければならない」の項を教える際、結婚のきずなを強める方法としてネルソン長老が述べた3つの提案を紹介して補足します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『神から受け継いだ特質』』の3

第9課——家族の一致をはぐくむ

W・ダグラス・シャムウェー「結婚と家族——わたしたちの神聖な責任」『リアホナ』2004年5月号, 94。亜紀子の物語の代わりに、家庭の夕べについてのシャムウェー長老の話を用いることを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『神から受け継いだ特質』』の3

第10課——楽しい家族の活動

L・トム・ベリー「家族の大切さ」『リアホナ』2003年5月号, 40。家族のお楽しみ袋の活動の代わりに、ベリー長老の指針に基づく家族活動として若い女性が提案するものを用います。

『成長するわたし』『徳質の体験——『神から受け継いだ特質』』の3

第11課——親族の輪を広げる

ジェームズ・E・ファウスト「自分という驚くべき存在」『リアホナ』2003年11月号, 53。フェザーストン長老の話の代わりに、ファウスト管長が冒頭で述べている物語を用いることを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『個人の価値』』の5。

第12課——神権の祝福

ダリン・H・オークス「家庭と教会における神権の権能」『リアホナ』2005年11月号, 24。このレッスンで用いる引用や物語をより新しいものにするためにオークス長老の話を用います。

第13課——神権は家族を祝福する

ジェームズ・E・ファウスト「神の知識の鍵」『リアホナ』2004年11月号, 52。神権者がどのように家族を導くべきかについて話し合う際、ファウスト管長の8つの約束を

紹介することを検討します。

第14課——わたしたちには素晴らしい伝統がある

L・トム・ベリー「回復のメッセージ」『リアホナ』2007年5月号, 85。レッスンの第3の項の代わりに福音の回復について説明するベリー長老の言葉を抜粋して用いることを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『信仰』』の黒丸3

第15課——イスラエルの家に与えられる祝福

リチャード・G・ヒンクレー「悔い改め——会員であることの祝福」『リアホナ』2006年5月号, 48。レッスンの導入として、ヒンクレー長老の模範に倣って「末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることは、わたしにとってどのような意味がある〔のか〕」について書き出すよう若い女性に勧めます。

第16課——エンゲウメント

ヘンリー・B・アイリング「結ばれた心」『リアホナ』2005年5月号, 77。「神殿の神聖な目的」の項の話し合いや引用文の代わりにアイリング長老が祖父とした経験について紹介することを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『誠実』』の1

第17課——神殿参入への備え

ジョセフ・B・ワースリン「人生で学んだ教訓」『リアホナ』2007年5月号, 45。レッスンの終わりに、神殿参入の目標を絶えず考えることのとたとえてライバルとのフットボールの試合を紹介します。

『成長するわたし』『徳質のプロジェクト——『誠実』』の黒丸4

『個人の価値』』の3

第18課——神殿結婚

ラッセル・M・ネルソン「結婚のきずなをはぐくむ」『リアホナ』2006年5月号, 36。実物を使ったレッスンの一部として、結婚生活を堅固にすることに關するネルソン長老の提案を用います。

『成長するわたし』『徳質の体験——『選択と責任』』の3

第19課——伝統

ジェフリー・R・ホランド「若い女性の皆さんへ」『リアホナ』2005年11月号, 28。最初の引用文の代わりにホランド長老の話の第4段落を用い、その意味について話し合うこと

を検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『個人の価値』』の5

第20課——宣教師の責任を理解する
デビッド・A・ベドナー「宣教師になる」『リアホナ』2005年11月号, 44。導入の代わりに「頻繁に受ける質問」の項で述べられているベドナー長老の勧告を用いることを検討します。

第21課——福音を分かち合うことを学ぶ

ジェームズ・E・ファウスト「あなたがたの光——もろもろの国民のための旗」『リアホナ』2006年5月号, 111。プロテスタントの牧師についての話の代わりにピッキーの話を用いることを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『善い行い』』の7

第22課——永遠を見通す目

ディーター・F・ワークトドルフ「初めから終わりを知る」『リアホナ』2006年5月号, 42。レッスンの導入として、空軍に入隊したときのワークトドルフ長老の経験を分かち合うことを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『信仰』』の5と6

第23課——障害を乗り越える

リチャード・G・スコット「邪悪がはびこる世界で正しい生活を送る方法」『リアホナ』2004年5月号, 100。スコット長老が述べた物語や勧告をレッスンの各項目に置き換えて用いることを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『選択と責任』』の2

第24課——選択の自由

ロバート・D・ヘイルズ「思いのままに行動する——選択の自由という賜物と祝福」『リアホナ』2006年5月号, 4。レッスンの最後で述べる物語の代わりに、選択の自由を取り戻すことに関するヘイルズ長老の提案を紹介することを検討します。

『成長するわたし』『徳質の体験——『選択と責任』』の3

第25課——従順

ヘンリー・B・アイリング「霊的な備え——早くから始め、絶えず積み重ねる」『リアホナ』2005年11月号, 37。ヒーバー・J・グラントの引用文の後、アイリング長老が述べた「速やかに、たゆまず主に従えるよう訓練する」4つの方法について話し合います。

『成長するわたし』『徳質の体験——『信仰』』の7 ■



索引

実話や物語

メアリー・N・クック姉妹の兄から家族に向けて書かれた手紙、……11
 ステーク大会で何を話すべきかお父さんに教えた6歳の息子、……14
 教会員ではないある女性に向けて語られた、復活に関する総大会の説教、……21
 病弱な妻のつめにマニキュアを塗る男性、……28
 お酒をやめ、福音を受け入れた「フレッドおじさん」、……35
 L・トム・ペリー長老は、高飛びの選手だった息子に、バーを上げるよう励ました、……46
 家族の人気レシピを紹介する宿題を後回しにした少年、……49
 カリブ海で見た、魚を獲るわな、51
 ヘンリー・B・アイリング管長が合衆国の様々な教会の指導者や聖職者に話した、……55
 オリンピック出場を決めるレースの途中で片方の靴が脱げた走者、59
 海中にある新鮮な水を見つけるトンガの人々、……70
 スタンの家を訪問し、活発化を助けたホームティーチャー、……78
 新聞記者がハロルド・B・リー大管長に、いちばん最近啓示を受けたのはいつか訪ねた、……86
 穀物の入ったかごを振って、馬を捕まえる、……93
 おじいちゃんに教会に来るようと頼む孫たち、……95
 オクタ비아・テノリオ長老は、最初の子供を亡くした、……95
 ヒーパー・J・グラント大管長は若いころ、自分に強い証があることに気づ

いていなかった、……100
 「証に気づく瞬間」を経験した宣教師、……100
 死の床で、もっと奉仕したかった語った母親、……102
 一粒の飴玉を友人と分かち合った少年、……102
 この夏いちばんの思い出は、お父さんと一緒に星を眺めたことだと語った息子、……104
 家庭訪問を通して友人を得た姉妹、……113
 トーマス・S・モンソン管長に娘の祝福を求めた女性、……118
 隣の家に住む子供の世話をしあげた女性、……118

テーマ別索引

あ 愛 ……9, 28, 70, 73
 証^{あかし} ……14, 78, 83, 98, 100
 贖い^{あがな} ……40, 80
 哀れみ ……28, 35, 102
 イエス・キリスト ……21, 40, 115
 怒り ……62
 祈り ……55, 59, 86, 118
 教える ……73, 76, 93, 104
か 会員であること ……18
 改宗・改心 ……78, 100
 回復 ……40, 83
 確信 ……55
 家族 ……11, 25, 33, 73, 76, 95, 104, 109, 115
 家庭の夕べ ……108
 家庭訪問 ……113
 感謝 ……31, 66
 義 ……53
 犠牲 ……31
 教育 ……118
 教会機関誌 ……108

教会の発展 ……83
 教義 ……25
 清さ ……51, 80
 聖め ……78
 悔い改め ……31, 49, 80, 98
 啓示 ……86, 90
 決意 ……37
 結婚 ……62
 子供たち ……76, 115
さ 死 ……21
 慈愛 ……28
 実行する ……55
 指導する責任 ……6, 55
 自由 ……98
 従順 ……16
 祝福 ……66
 証人 ……43, 100
 試練 ……9, 53
 神会 ……40
 人格 ……90
 神権 ……14, 55, 59
 信仰 ……16, 25, 59, 70, 109
 神殿 ……11, 14, 37, 95
 信頼 ……93
 真理 ……90
 聖書 ……43
 聖文 ……43, 118
 聖約 ……16
 聖霊 ……37, 55, 66, 93
 総大会 ……108
 備え ……46, 49, 53, 86
た 堪え忍ぶ ……9, 18, 98
 伝道活動 ……33, 35, 46, 70
な 慰め ……95
 日記 ……66
は 母親の務め ……76, 109, 115
 引き延ばし ……49
 標準 ……46
 福音 ……18
 ふさわしさ ……46
 扶助協会 ……109
 復活 ……21
 平等 ……6
 奉仕 ……6, 9, 35, 53, 102, 109, 113, 118
 ボルノグラフィー ……51
ま 模範 ……11, 25
 モルモン書 ……43, 78
や 約束 ……16
 友情 ……113
 優先順位 ……104
 誘惑 ……51
 喜び ……18
ら 離婚 ……62
わ [わたしの福音を宣べ伝えなさい] ……33



話者リスト(50音順)

アイリング、ヘンリー・B、……55, 66
 ウークトドルフ、ディーター・F、……18
 エッジリー、リチャード・C、……9
 オークス、ダリン・H、……104
 オールレッド、シルビア・H、……113
 カリスター、ダグラス・L、……100
 クック、クエンティン・L、……70
 クック、メアリー・N、……11
 クレートン、L・ホイットニー、……51
 ゴールデン、クリストフェル、
 ジュニア、……78
 コスタ、クラウディオ・R・M、……73
 コビシュカ、エリック・W、……33
 コンサレス、ウォルター・F、……53
 コンデイン、スペンサー・J、……16
 シビック、クラウディオ・D、……98
 ジャッド、ダニエル・K、……93
 スコット、リチャード・G、……90
 スノー、ステイブ・E、……102
 テー、マイケル・J、……35
 テノリオ、オクタビオ、……95
 トンプソン、バーバラ、……115
 ネルソン、ラッセル・M、……43
 パッカー、ボイド・K、……6
 バラード、M・ラッセル、……25
 ヒルビッグ、キース・K、……37
 ヒンクレイ、ゴードン・B、
 ……4, 62, 83, 108
 ファラベラ、エンリケ・R、……14
 ヘイルズ、ロバート・D、……86
 ベック、ジュリー・B、……76, 109
 ベドナー、デビッド・A、……80
 ペリー、L・トム、……46
 ポーター、ブルース・D、……31
 ホールストロム、ドナルド・L、……49
 ホランド、ジェフリー・R、……40
 モンソン、トーマス・S、
 ……21, 59, 118
 ワースリン、ジョセフ・B、……28



七十人会長会

(前列左から)アール・C・ティンギー長老, D・トッド・クリストファーツソン長老, ニール・L・アンダーセン長老, ロナルド・A・ラズバンド長老。
(後列左から)クラウディオ・R・M・コスタ長老, ステイブ・E・スノー長老, ウォルター・F・ゴンサレス長老



「この業はまだ始まったばかりです。今後も成長と発展を続け、全地に広がるでしょう。」ゴードン・B・ヒンクレー大管長は第177回半期総大会の話の中でこう語った。今大会では、前進する主の業の一端として新たな大管長会が支持された。(表紙)——ヒンクレー大管長(中央)。第一顧問のトーマス・S・モンソン管長(左)。第二顧問のヘンリー・B・アイリング管長。上——今大会の土曜午前の部会終了後に行われた記者会見に臨むクエンティン・L・クック長老とアイリング管長。クック長老は十二使徒定員会に召された。